HITACHI
Inspire the Next

JP1 Version 10

JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド

手引・操作書

3021-3-009-20

JP1 Version 10

前書き

■ 対象製品

適用 OS のバージョン，JP1/Integrated Management - Manager，および JP1/Integrated Management - View が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については各製品のリリースノートで確認してください。

●JP1/Integrated Management - View（適用 OS：Windows）

P-2W2C-6HA4 JP1/Integrated Management - View 10-50

製品構成一覧および内訳形名

P-242C-6HA4 JP1/Integrated Management - View 10-50(適用 OS:Windows Server 2003, Windows XP Professional)

P-2A2C-6HA4 JP1/Integrated Management - View 10-50(適用 OS:Windows 8.1，Windows 8, Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，Windows Vista)

●JP1/Integrated Management - Manager（適用 OS：Windows）

P-2W2C-8EA4 JP1/Integrated Management - Manager 10-50

製品構成一覧および内訳形名

P-242C-8EA4 JP1/Integrated Management - Manager 10-50(適用 OS:Windows Server 2003)

P-2A2C-8EA4 JP1/Integrated Management - Manager 10-50(適用 OS:Windows Server 2012, Windows Server 2008)

●JP1/Integrated Management - Manager（適用 OS：Solaris）

P-9D2C-8EA1 JP1/Integrated Management - Manager 10-50

●JP1/Integrated Management - Manager（適用 OS：AIX）

P-1M2C-8EA1 JP1/Integrated Management - Manager 10-50

●JP1/Integrated Management - Manager（適用 OS：HP-UX (IPF)）

P-1J2C-8EA1 JP1/Integrated Management - Manager 10-50

●JP1/Integrated Management - Manager（適用 OS：Linux 6.1 (x86)以降，Linux 6.1 (x64)以降，Linux 5.1 (x86)以降，Linux 5.1 (AMD/Intel 64)以降）

P-812C-8EA1 JP1/Integrated Management - Manager 10-50

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Active Directory は，米国 Microsoft Corporation の，米国およびその他の国における登録商標または商標です。

AIX は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AMD は，Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

GIF は，米国 CompuServe Inc.が開発したフォーマットの名称です。

HP-UX は，Hewlett-Packard Development Company, L.P.のオペレーティングシステムの名称です。

Internet Explorer は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は，アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Linux は，Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Hyper-V は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

NetInsight は，株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

Oracle と Java は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

POSIX は，the Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. (IEEE)で制定された標準仕様です。

Red Hat は，米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

RSA および BSAFE は，米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

すべての SPARC 商標は，米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標がついた製品は，米国 Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。

TELstaff は，株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

UNIX は，The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

VMware，VMware vSphere ESX は，米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

Windows は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名，製品名は，それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8EA1」には，Oracle Corporation またはその子会社，関連会社が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8EA1」には，UNIX System Laboratories, Inc.が著作権を有している部分が含まれています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (http://www.modssl.org/).

This product includes software developed by Andy Clark.

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (http://relaxngcc.sf.net/).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (http://java.apache.org/).

本製品は，米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R)ソフトウェアを搭載しています。

HITACHI
Inspire the Next
株式会社 日立製作所

Java COMPATIBLE ENTERPRISE EDITION

Java COMPATIBLE

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Hyper-V		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Hyper-V(R)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Hyper-V(R)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Hyper-V(R)
IE	Microsoft Internet Explorer	Microsoft(R) Internet Explorer(R)
	Windows Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)
IIS	Internet Information Services	Microsoft(R) Internet Information Services 5.01 以降
SCVMM		Microsoft(R) System Center Virtual Machine Manager 2008
		Microsoft(R) System Center Virtual Machine Manager 2012
Windows 2000		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System
		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System
		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
Windows 7		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
Windows 8	Windows 8	Microsoft(R) Windows(R) 8 Enterprise

表記		製品名
		Microsoft(R) Windows(R) 8 Pro
	Windows 8.1	Microsoft(R) Windows(R) 8.1 Enterprise
		Microsoft(R) Windows(R) 8.1 Pro
Windows Server 2003	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
	Windows Server 2003 R2 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
Windows Server 2008	Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
	Windows Server 2008 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard x64
	Windows Server 2008 R2 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard x64
Windows Server 2012	Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard

表記		製品名
	Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
Windows Vista		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
Windows XP Professional		Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，Windows Vista，Windows Server 2003，Windows XP Professional および Windows 2000 を総称して Windows と表記することがあります。

■ 発行

2014 年 9 月　3021-3-009-20

■ 著作権

変更内容

変更内容(3021-3-009-20)　JP1/Integrated Management - Manager　10-50，JP1/Integrated Management - View　10-50

追加・変更内容	変更個所
メール通知機能の追加に伴うバックアップファイルの追加，ホスト名および IP アドレスを変更した場合の注意事項，メールが送信できない場合の障害切り分け方法，および対処方法を追加した。	1.1.1，2.2.1(1)，2.2.2(1)，10.5.1(57)
［重要イベント］ページで，背景色が設定できることを追加した。	5.1.1，5.1.5
［重要イベント］ページで，表示フィルターが利用できることを追加した。	5.1.5，5.7
自動アクションが設定された繰り返しイベントのアクションを，繰り返しイベントの監視抑止を使って抑止する手順に，アクションの実行を抑止する範囲を選択する手順を追加した。また，抑止継続通知を設定する手順を追加した。	5.1.6(1)，5.1.6(2)
大量発生イベントの転送を抑止する手順を追加した。	5.1.7
ログイン時のイベントの取得範囲の設定ができるようになった。	5.1.11
指定期間のイベント表示の詳細は「導入・設計ガイド」を参照することを追加した。	5.1.12
［重要イベント］ページで表示フィルターが利用できるようになったため，［イベント監視］ページのときだけ表示フィルターが適用される記述を削除した。	5.1.13
イベントの重大度を変更する手順に GUI から設定する手順を追加した。 • システム構築時に設定する。 • 運用中に設定する。 • 追加重大度変更定義を重大度変更定義に変更する。	5.3

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Management - View の運用方法，操作方法，トラブルシューティングなどについて説明したものです。なお，このマニュアルでは，JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Management - View を総称して，JP1/Integrated Management または JP1/IM と表記します。

■ 対象読者

オープンプラットフォームのシステムを管理するインフラを，JP1/IM を使って管理，運用，操作される方を対象としています。具体的には次の方を対象としています。

- システムで発生する事象を一元監視したいシステム管理者
- システムを管理するインフラの状態をシステムで発生する事象と関連づけて一元監視したいシステム管理者

■ マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す編から構成されています。

第 1 編　運用編

JP1/Integrated Management のシステムを維持するために必要な作業，およびシステムの評価方法について説明しています。

第 2 編　操作編

JP1/Integrated Management を使った監視業務の操作方法について説明しています。

第 3 編　他製品との連携編

統合管理製品以外の他製品と連携した監視業務の概要，連携機能，監視環境の構築方法，操作方法，連携時の画面，および連携時に使用できるコマンドオプションについて説明しています。

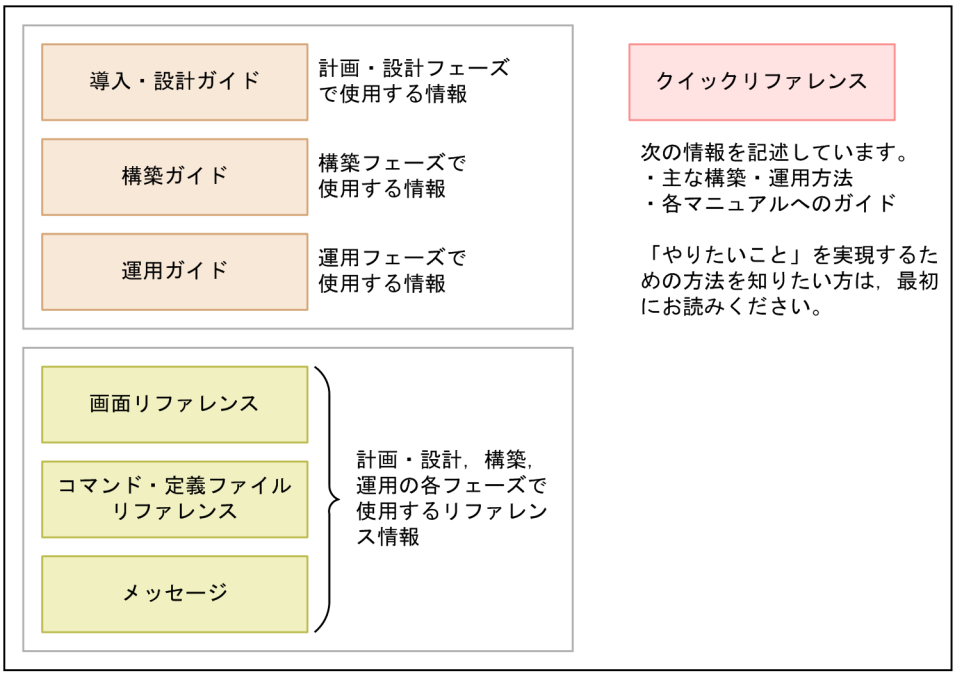
第 4 編　トラブルシューティング編

JP1/Integrated Management でトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

■ マニュアルの体系

JP1/IM のマニュアルでは，システムの設計・構築・運用などのシステムのライフサイクルでの段階ごとに必要な情報を説明しています。目的に合わせて必要なマニュアルをお読みください。

JP1/IM のマニュアルとシステムのライフサイクルの関係を次の図に示します。



■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[ ]	メニュー項目，画面名，ボタン名，およびキーボードのキーなどを示す。 例 メニュー項目：[新規作成] 画面名：[ログイン] 画面 ボタン名：[OK] ボタン キーボードのキー：[Ctrl] キー
[ ] − [ ]	画面のメニューから項目を選択する操作を示す。 例 [ファイル] − [新規作成] を選択する。 上記の例では，メニューバーの [ファイル] を選んで，プルダウンメニューの [新規作成] を選択することを示す。
[ ] + [ ]	キーを同時に押すことを示す。 例 [Ctrl] + [C] キー 上記の例では，[Ctrl] キーと [C] キーを同時に押すことを示す。

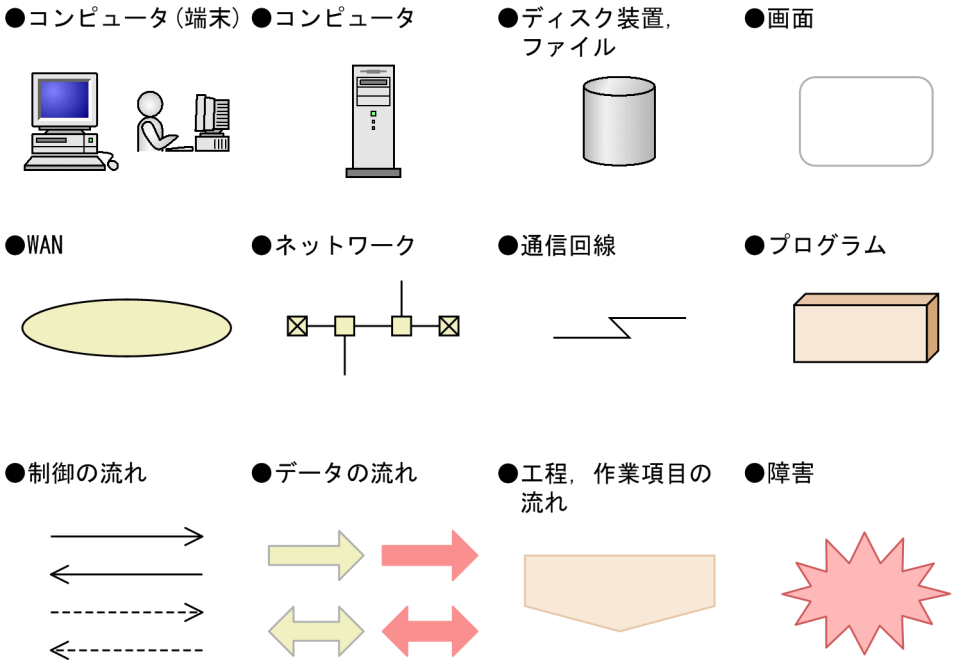
■ コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を，次のように定義します。

記号	意味
| (ストローク)	複数の項目に対し，項目間の区切りを示し，「または」の意味を示す。 例 「A | B | C」は，「A，B または C」を示す。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から，必ず一つの項目を選択する。項目の区切りは|で示す。 例 {A | B | C} は「A，B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[ ]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる（省略してもよい）。 複数の項目が記述されている場合には，すべてを省略するか，どれか一つを選択する。 例 [A]は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。 [B | C]は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示す。
…または…	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個，指定できる。 例 「A，B，…」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを示す。
_ (下線)	括弧内のすべてを省略したときに，システムがとる標準値を示す。標準値がない場合は，指定した項目だけが有効である。 例 [A | B]はこの項目を指定しなかった場合に，A を選択したと見なすことを示す。
△	空白を表す。 $△_0$：0 個以上の空白（空白を省略できる） $△_1$：1 個以上の空白（空白を省略できない）
▲	タブを表す。 例 ▲A とした場合に，A の前にタブがあることを示す。

■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を，次のように定義します。



■ Windows 版 JP1/IM，JP1/Base のインストール先フォルダの表記

このマニュアルでは，Windows 版 JP1/IM，JP1/Base のインストール先フォルダを次のように表記しています。

製品名	インストール先フォルダの表記	デフォルトインストール先フォルダ※
JP1/IM - View	View パス	システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥JP1CoView
JP1/IM - Manager	Manager パス	システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM
	Console パス	システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥JP1Cons
	Scope パス	システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥JP1Scope
JP1/Base	Base パス	システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥JP1Base

注※　各製品をデフォルトのままインストールした場合のインストール先フォルダを表しています。

Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008 および Windows Vista の場合，「システムドライブ:¥Program Files」と表記している部分は，インストール時の OS 環境変数によって決定されるため，環境によって異なる場合があります。

■ このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは，ローカル PC に対する Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば，ローカルユーザー，ドメインユーザーおよび，Active Directory 環境で動作に違いはありません。

■ オンラインマニュアルについて

JP1/IM では，WWW ブラウザーで参照できる HTML マニュアルを提供しています。

オンラインマニュアルの内容は，このマニュアルと同様です。

オンラインマニュアルは，次の操作で目次が表示されます。

- JP1/IM - View：[ヘルプ] − [目次] を選択する。

注意事項

- スタートメニューからオンラインマニュアルを表示させると，OS の設定によってすでに表示されているブラウザーの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

目次

1 JP1/IM システムのメンテナンス

この章では，JP1/IM システムのメンテナンスについて説明します。

システム運用管理の基盤となる JP1/IM を安定して運用するために，定義ファイルのバックアップやデータベースの管理など，定期的にメンテナンス作業を計画してください。

1.1　設定情報の管理

ここでは，JP1 システムのバックアップおよびリカバリーについて説明します。

ディスク障害などが発生してシステムが動作しなくなった場合，JP1/IM で使用する各種のデータが回復できなくなることがあります。このような不測の事態に備えて，定期的に各種のファイルのバックアップを取得しておく必要があります。

ここでの説明を基に，システム全体のバックアップ計画の一環として，JP1 のバックアップ・リカバリーを検討してください。なお，バックアップとリカバリーはサーバ間のファイル移行には使用できません。

バックアップ，リカバリーを実施する際には，バックアップ元とリカバリー先で次のすべてが一致している必要があります。

- ホスト名
- IP アドレス
- PP バージョン（VVRRRZZ の範囲で一致させてください）
- 製品の使用するディレクトリの構成（権限などを含めて一致させてください）

また，OS，ハードウェアに関しては，同一の動作ができることが前提となります。

上記の条件に一致しない場合は，移行となります。

「1.5　設定情報および DB の移行」を参照して実施してください。

なお，OS コマンドやバックアップソフトでシステム全体をフルバックアップすることもできますが，OS コマンドやバックアップソフトの動作に依存するため，JP1/IM - Manager では，JP1/IM - Manager の各機能で提供しているコマンドを使用したバックアップ・リカバリーをお勧めします。OS コマンドやバックアップソフトを使用する場合，次の前提条件となります。

- 事前に IM データベースを含む JP1/IM - Manager のすべてのサービスが停止された状態で取得されている。
- OS に登録している情報を含めて，ファイル，レジストリの情報がすべて整合性の取れた状態でバックアップされている。
- 取得されるバックアップ対象のファイルがスパースファイルとなっていない。

1.1.1　バックアップ（Windows の場合）

JP1/IM の設定情報のバックアップについて説明します。

JP1/IM の設定を変更した場合に，バックアップを取得してください。JP1/IM のバックアップを取得する場合は，必ず JP1/Base のバックアップを同時に取得してください。JP1/Base のユーザーが設定する定義ファイルのバックアップ方法については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

バックアップは，ファイルをコピーするなど，任意の方法で取得してください。バックアップは，できるだけ JP1/IM のサービスを停止した状態で取得してください。しかたなく実行中に取得する場合は，次の点に注意が必要です。

- 実行中に定義ファイルが書き換えられるケースがあります。ファイルの書き換え中にバックアップすると，ファイルが壊れた状態でバックアップされます。

  バックアップ実行直後に，取得したバックアップとバックアップ元のファイルを比較して，内容が一致していることを確認してください。
- バックアップ時には対象ファイルに排他などのロックをしないでください。ロックする場合は，接続しているビューアーをすべてログアウトした状態で対象ファイルを別ファイルにコピーしてください。コピーしたあと，コピーしたファイルとコピー元ファイルを比較して，内容が一致していることを確認してから，コピーしたファイルをバックアップしてください。

バックアップは，次の表に示すすべてのファイルを一度にバックアップしてください。一部のファイルをバックアップした場合，ほかの定義ファイルとの関連に矛盾が生じ正しく動作しない場合があります。

また，クラスタ運用している場合は，物理ホスト，論理ホストの順番で，各環境をバックアップしてください。

JP1/IM のバックアップ対象ファイルを次に示します。なお，論理ホストの場合は表中の「Console パス」を「**共有フォルダ¥JP1Cons**」，「Scope パス」を「**共有フォルダ¥JP1Scope**」，「Manager パス」を「**共有フォルダ¥JP1IMM**」に置き換えてください。

表 1-1　JP1/IM のバックアップ対象ファイル

製品名		ファイル名	内容
各製品共通		マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.2(4)　共通定義情報のコピー」で作成した退避ファイル	共通定義情報退避ファイル※1
JP1/IM - Manager	JP1/IM - Central Console	Console パス¥conf¥jp1co_env.conf	IM 環境定義ファイル
		Console パス¥conf¥jp1co_param.conf	IM パラメーター定義ファイル
		Console パス¥conf¥jp1co_param_V7.conf	IM パラメーター定義ファイル
		Console パス¥conf¥jp1co_service.conf	拡張起動プロセス定義ファイル
		Console パス¥conf¥jp1co_system.conf	IM サーバシステム環境設定ファイル
		Console パス¥conf¥action¥actdef.conf	自動アクション定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥actprofile¥actprofile_JP1 ユーザー名	アクションプロファイル

製品名		ファイル名	内容
		Console パス¥conf¥console¥actprofile¥actprofile2_JP1 ユーザー名	
		Console パス¥conf¥console¥actprofile¥actprofile_0950_JP1 ユーザー名	
		Console パス¥conf¥console¥attribute¥*.conf	イベント拡張属性定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥filter¥*.conf	フィルター定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥filter¥attr_list¥common_exclude_filter_attr_list.conf	共通除外条件表示項目定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥filter¥auto_list¥common_exclude_filter_auto_list.conf	共通除外条件自動入力定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥mapping¥mapping.conf	イベント情報マッピング定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥monitor¥*.conf	モニター画面呼び出し定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥object_type¥*	オブジェクトタイプ定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥profile¥.system	システムプロファイル
		Console パス¥conf¥console¥profile¥defaultUser	JP1/IM - View のユーザープロファイル（デフォルト）
		Console パス¥conf¥console¥profile¥profile_JP1 ユーザー名	JP1/IM - View のユーザープロファイル
		Console パス¥conf¥console¥profile¥systemColor.conf	システムカラー定義ファイル
		Console パス¥www¥console_ja.html※2	WWW ページ版動作定義ファイル
		Console パス¥default¥console.conf※2	通信環境定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥correlation¥view_cor.conf	繰り返しイベントの集約設定ファイル
		Console パス¥conf¥console¥correlation¥view_cor_JP1 ユーザー名.conf	繰り返しイベントの集約設定ファイル
		Console パス¥conf¥console¥rmtcmd¥cmdbtn.conf	コマンドボタン定義ファイル
		Console パス¥conf¥health¥jcohc.conf	ヘルスチェック定義ファイル

製品名		ファイル名	内容
		Console パス¥conf¥hostmap¥user_hostmap.conf	発生元ホストマッピング定義ファイル
		Console パス¥conf¥action¥actnotice.conf	自動アクション通知定義ファイル
		Console パス¥conf¥processupdate¥processupdate.conf	対処状況イベント定義ファイル
		Console パス¥conf¥guide¥jco_guide.txt	イベントガイド情報ファイル
		Console パス¥conf¥system¥event_storm¥*.conf	繰り返しイベント条件定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥event_storm¥attr_list¥event_storm_attr_list.conf	繰り返しイベント条件表示項目定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥event_storm¥auto_list¥event_storm_auto_list.conf	繰り返しイベント条件自動入力定義ファイル
		Console パス¥conf¥console¥incident¥incident.conf	インシデント手動登録定義ファイル
		ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	イベントガイドメッセージファイル
		Console パス¥conf¥evgen¥以下のすべてのファイル	相関イベント発行用定義ファイル
		ユーザー任意のフォルダ¥ファイル名.conf	相関イベント発行定義ファイル
		Console パス¥conf¥action¥attr_list¥attr_list.conf	イベント条件表示項目定義ファイル
		Console パス¥conf¥chsev¥jcochsev.conf	重大度変更定義ファイル
		Console パス¥conf¥mail¥jimmail.conf	メール環境定義ファイル
	JP1/IM - Central Scope	Scope パス¥conf¥jcs_guide*.txt	ガイド情報ファイル
		Scope パス¥conf¥jcs_hosts	ホスト情報ファイル
		Scope パス¥conf¥action_complete_on.conf	対処済み連動設定ファイル
		Scope パス¥conf¥action_complete_off.conf	
		ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	状態変更イベント自動削除設定ファイル
		ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	監視オブジェクト初期化設定ファイル
		Scope パス¥conf¥auto_dbbackup_on.conf	監視オブジェクト DB のバックアップ・リカバリー設定ファイル
		Scope パス¥conf¥auto_dbbackup_off.conf	

製品名		ファイル名	内容
		Scope パス¥conf¥evhist_warn_event_on.conf	状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル
		Scope パス¥conf¥evhist_warn_event_off.conf	
		ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	ガイドメッセージファイル
		Scope パス¥conf¥jcs_atc_cm_host.conf	CM ホスト定義ファイル (JP1/IM - Central Information Master 連携用)
		ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	状態変更条件メモリー常駐機能の設定ファイル
	IM 構成管理	Manager パス¥conf¥imcf¥jp1cf_applyconfig.conf	IM 構成反映方式設定ファイル
		Manager パス¥conf¥imcf¥jp1cf_treedefaultpolicy.csv	デフォルト監視ポリシー定義ファイル
		Manager パス¥data¥imcf¥以下の全ファイル	システムの管理情報
		共有フォルダ¥JP1IMM¥data¥imcf¥以下の全ファイル	
		Manager パス¥conf¥agtless¥targets¥wmi.ini	WMI 認証情報に関する定義ファイル
		共有フォルダ¥JP1IMM¥conf¥agtless¥targets¥wmi.ini	
		Manager パス¥conf¥agtless¥targets¥ssh.ini	SSH 認証情報に関する定義ファイル
		共有フォルダ¥JP1IMM¥conf¥agtless¥targets¥ssh.ini	
JP1/IM - View		View パス¥conf¥webdata¥ja¥*.html	WWW ページ呼び出し定義ファイル
		View パス¥conf¥tuning.conf	IM - View 設定ファイル
		View パス¥default¥view.conf.update	通信環境定義ファイル
		View パス¥default¥tree_view.conf.update	
		View パス¥conf¥sovtoolexec¥ja¥!JP1_CS_APP0.conf	起動プログラム定義ファイル
		View パス¥conf¥sovtoolitem¥ja¥!JP1_CS_FTOOL0.conf	ツールバー定義ファイル
		View パス¥conf¥sovtoolitem¥ja¥!JP1_CS_FTREE0.conf	アイコン動作定義ファイル
		View パス¥conf¥appexecute¥ja¥*.conf	アプリケーション実行定義ファイル
		View パス¥conf¥function¥ja¥*.conf	統合機能メニュー定義ファイル
		ユーザー任意のフォルダ¥ユーザー任意のファイル名	ツリー構成ファイル
		View パス¥image¥icon¥以下のファイル	アイコンファイル

製品名	ファイル名	内容
	View パス¥image¥visual¥以下のファイル	ビジュアルアイコンファイル※3
	View パス¥image¥map¥以下のファイル	背景画像ファイル
	View パス¥conf¥jcfview¥jcfview.conf	IM 構成管理・ビューアー動作定義ファイル
	View パス¥conf¥cmvsystem¥ja¥local.conf	JP1/IM - Central Information Master 連携用の定義ファイル※4
	View パス¥conf¥launch¥ja¥*.conf	link&launch 定義ファイル※4
	View パス¥conf¥jcmlog.properties	クライアントライブラリが使うログ用定義ファイル※4
	View パス¥conf¥jrmview¥jrmview.conf	ルールオペレーション・ビューアー動作定義ファイル※5
	View パス¥default¥jrmview_reg.conf	共通定義設定ファイル※5

注※1　共通定義情報退避ファイルは，クラスタシステムの論理ホストの定義情報を退避したファイルです。この退避ファイルは，クラスタシステムのセットアップ時に作成します。この退避ファイルには，JP1/IM だけでなく，JP1/Base，JP1/AJS，および 06-02 以降の JP1/Power Monitor の定義情報も退避されます。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.1.3(5)　共通定義情報の設定」を参照してください。

注※2　物理ホストにだけ存在するファイルです。

注※3　ユーザーによって追加されたファイルが対象となります。

注※4　JP1/IM - View（JP1/IM - Central Information Master 連携部分）で使用するファイルです。

注※5　JP1/IM - View（JP1/IM - Rule Operation 連携部分）で使用するファイルです。

1.1.2　リカバリー（Windows の場合）

JP1/IM の設定情報のリカバリーについて説明します。

JP1/IM のバックアップ情報をリカバリーする場合は，必ず JP1/Base を先にリカバリーしてください。次の前提条件を確認した上で，バックアップファイルを，元の位置にリカバリーしてください。

前提条件

- JP1/Base がインストール済みであること。
- JP1/IM - Manager がインストール済みであること。
- 論理ホスト環境をリカバリーする場合は，論理ホスト環境の JP1 がセットアップ済みであること。
- JP1/Base と JP1/IM - Manager が停止していること。

クラスタ運用している場合は，物理ホスト，論理ホストの順番で，各環境をリカバリーしてください。

1.1.3 バックアップ（UNIX の場合）

JP1/IM の設定情報のバックアップについて説明します。

JP1/IM の設定を変更した場合に，バックアップを取得してください。JP1/IM のバックアップを取得する場合は，必ず JP1/Base のバックアップを同時に取得してください。JP1/Base のユーザーが設定する定義ファイルのバックアップ方法については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

バックアップの手段にはtar やcpio などのコマンドがあります。また，JP1/OmniBack II などのバックアップツールを使用してバックアップを取得できます。任意の方法でバックアップを取得してください。バックアップは，できるだけ JP1/IM のデーモンを停止した状態で取得してください。しかたなく実行中に取得する場合は，次の点に注意が必要です。

- 実行中に定義ファイルが書き換えられるケースがあります。ファイルの書き換え中にバックアップすると，ファイルが壊れた状態でバックアップされます。

  バックアップ実行直後に，取得したバックアップとバックアップ元のファイルを比較して，内容が一致していることを確認してください。
- バックアップ時には対象ファイルに排他などのロックをしないでください。ロックする場合は，接続しているビューアーをすべてログアウトした状態で対象ファイルを別ファイルにコピーしてください。コピーしたあと，コピーしたファイルとコピー元ファイルを比較して，内容が一致していることを確認してから，コピーしたファイルをバックアップしてください。

バックアップは，次の表に示すすべてのファイルを一度にバックアップしてください。一部のファイルをバックアップした場合，ほかの定義ファイルとの関連に矛盾が生じ正しく動作しない場合があります。

また，クラスタ運用している場合は，物理ホスト，論理ホストの順番で，各環境をバックアップしてください。

JP1/IM のバックアップ対象ファイルを次に示します。なお，論理ホストの場合は表中の「/etc/opt」を「**共有ディレクトリ**」に置き換えてください。

表 1-2 JP1/IM のバックアップ対象ファイル

製品名		ファイル名	内容
各製品共通		マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.3.2(4) 共通定義情報のコピー」で作成した退避ファイル	共通定義情報退避ファイル※1
JP1/IM - Manager	JP1/IM - Central Console	/etc/opt/jp1cons/conf/jp1co_env.conf	IM 環境定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/jp1co_param.conf	IM パラメーター定義ファイル

製品名		ファイル名	内容
		/etc/opt/jp1cons/conf/jp1co_param_V7.conf	IM パラメーター定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/jp1co_service.conf	拡張起動プロセス定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/jp1co_system.conf	IM サーバシステム環境設定ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/action/actdef.conf	自動アクション定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/actprofile/actprofile_JP1 ユーザー名	アクションプロファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/actprofile/actprofile2_JP1 ユーザー名	
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/actprofile/actprofile_0950_JP1 ユーザー名	
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/attribute/*.conf	イベント拡張属性定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/filter/*.conf	フィルター定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/filter/attr_list/common_exclude_filter_attr_list.conf	共通除外条件表示項目定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/filter/auto_list/common_exclude_filter_auto_list.conf	共通除外条件自動入力定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/mapping/mapping.conf	イベント情報マッピング定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/monitor/*.conf	モニター画面呼び出し定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/object_type/*	オブジェクトタイプ定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/profile/.system	システムプロファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/profile/defaultUser	JP1/IM - View のユーザープロファイル（デフォルト）
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/profile/profile_JP1 ユーザー名	JP1/IM - View のユーザープロファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/profile/systemColor.conf	システムカラー定義ファイル
		/opt/jp1cons/www/console_ja.html※2	WWW ページ版動作定義ファイル

製品名		ファイル名	内容
		/etc/opt/jp1cons/default/console.conf※2	通信環境定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/correlation/view_cor.conf	繰り返しイベントの集約設定ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/correlation/view_cor_JP1 ユーザー名.conf	繰り返しイベントの集約設定ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/rmtcmd/cmdbtn.conf	コマンドボタン定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/health/jcohc.conf	ヘルスチェック定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/hostmap/user_hostmap.conf	発生元ホストマッピング定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/action/actnotice.conf	自動アクション通知定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/processupdate/processupdate.conf	対処状況イベント定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/guide/jco_guide.txt	イベントガイド情報ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/incident/incident.conf	インシデント手動登録定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/system/event_storm/*.conf	繰り返しイベント条件定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/event_storm/attr_list/event_storm_attr_list.conf	繰り返しイベント条件表示項目定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/console/event_storm/auto_list/event_storm_auto_list.conf	繰り返しイベント条件自動入力定義ファイル
		ユーザー任意のディレクトリ/ユーザー任意のファイル名	イベントガイドメッセージファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/evgen/以下のすべてのファイル	相関イベント発行用定義ファイル
		ユーザー任意のディレクトリ/ファイル名.conf	相関イベント発行定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/chsev/jcochsev.conf	重大度変更定義ファイル
		/etc/opt/jp1cons/conf/action/attr_list/attr_list.conf	イベント条件表示項目定義ファイル
	JP1/IM - Central Scope	/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_guide_sjis.txt	ガイド情報ファイル
		/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_guide_euc.txt	
		/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_guide_UTF-8.txt	

製品名		ファイル名	内容
		/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_guide.txt	
		/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_hosts	ホスト情報ファイル
		/etc/opt/jp1scope/conf/action_complete_on.conf	対処済み連動設定ファイル
		/etc/opt/jp1scope/conf/action_complete_off.conf	
		ユーザー任意のディレクトリ/ユーザー任意のファイル名	状態変更イベント自動削除設定ファイル
		ユーザー任意のディレクトリ/ユーザー任意のファイル名	監視オブジェクト初期化設定ファイル
		/etc/opt/jp1scope/conf/auto_dbbackup_on.conf	監視オブジェクト DB の上限監視設定ファイル
		/etc/opt/jp1scope/conf/auto_dbbackup_off.conf	
		/etc/opt/jp1scope/conf/evhist_warn_event_on.conf	状態変更イベント件数の上限監視設定ファイル
		/etc/opt/jp1scope/conf/evhist_warn_event_off.conf	
		ユーザー任意のディレクトリ/ユーザー任意のファイル名	ガイドメッセージファイル
		/etc/opt/jp1scope/conf/jcs_atc_cm_host.conf	CM ホスト定義ファイル (JP1/IM - Central Information Master 連携用)
		ユーザー任意のディレクトリ/ユーザー任意のファイル名	状態変更条件メモリー常駐機能の設定ファイル
	IM 構成管理	/etc/opt/jp1imm/conf/imcf/jp1cf_applyconfig.conf	IM 構成反映方式設定ファイル
		/etc/opt/jp1imm/conf/imcf/jp1cf_treedefaultpolicy.csv	デフォルト監視ポリシー定義ファイル
		/var/opt/jp1imm/data/imcf/以下の全ファイル	システムの管理情報
		共有ディレクトリ/jp1imm/data/imcf/以下の全ファイル	
		/etc/opt/jp1imm/conf/agtless/targets/ssh.ini	SSH 認証情報に関する定義ファイル
		共有ディレクトリ/jp1imm/conf/agtless/targets/ssh.ini	

注※1　共通定義情報退避ファイルは，クラスタシステムの論理ホストの定義情報を退避したファイルです。この退避ファイルは，クラスタシステムのセットアップ時に作成します。この退避ファイルには，JP1/IM だけでなく，JP1/Base，JP1/AJS，および 06-02 以降の JP1/Power Monitor の定義情報も退避されます。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.1.3(5)　共通定義情報の設定」を参照してください。

注※2　物理ホストにだけ存在するファイルです。

1.1.4　リカバリー（UNIX の場合）

JP1/IM の設定情報のリカバリーについて説明します。

JP1/IM のバックアップ情報をリカバリーする場合は，必ず JP1/Base を先にリカバリーしてください。次の前提条件を確認した上で，バックアップファイルを，元の位置にリカバリーしてください。

前提条件

- JP1/Base がインストールされ，セットアップコマンドが実行済みであること。
- JP1/IM - Manager がインストールされ，セットアップコマンドが実行済みであること。
- 論理ホスト環境をリカバリーする場合は，論理ホスト環境の JP1 がセットアップ済みであること。
- JP1/Base と JP1/IM - Manager が停止していること。

クラスタ運用している場合は，物理ホスト，論理ホストの順番で，各環境をリカバリーしてください。

1.2　データベースの管理

JP1/IM のシステムで使用するデータベースには次のものがあります。

- コマンド実行履歴
- 監視オブジェクト DB
- ホスト情報 DB
- イベント DB
- 応答待ちイベント滞留ファイル
- IM データベース

監視オブジェクト DB およびホスト情報 DB は，セントラルスコープの機能を使用している場合に使われます。応答待ちイベント滞留ファイルは，応答待ちイベント管理機能を使用している場合に使われます。ここでは，これらのデータベースのバックアップ・リカバリー手順，およびデータベースの再作成手順について説明します。

1.2.1　データベースの再編成

(1)　コマンド実行履歴の再編成

コマンド実行履歴は，再編成する必要はありません。

(2)　監視オブジェクト DB およびホスト情報 DB の再編成

監視オブジェクト DB，およびホスト情報 DB は，再編成する必要はありません。

(3)　イベント DB の再編成

イベント DB は，再編成する必要はありません。

(4)　応答待ちイベント滞留ファイルの再編成

応答待ちイベント滞留ファイルは，再編成する必要はありません。

(5)　IM データベースの再編成

ここでは，IM データベースの再編成手順について説明します。

IM データベースのうち，IM 構成管理 DB ではデータの追加，削除を繰り返すことによって，IM データベースに断片化された空き領域が発生して，ホストやプロファイルの数が上限値に達する前に新規登録ができなくなったり，登録，更新，削除の速度に遅れを感じたりすることがあります。

この現象を回避するために，次の契機で IM データベースを再編成します。

なお，統合監視 DB には，断片化された空き領域は発生しません。そのため，統合監視 DB だけを使用している場合，IM データベースを再編成する必要はありません。

- 定期的なバックアップ作業のため，JP1/IM - Manager を停止したとき
- 年に 1 回程度の頻度で再編成実施計画を立てて実施するとき
- メッセージ「KFPH00212-I」または「KFPH00213-W」が統合トレースログおよび Windows イベントログ（syslog）に出力されたとき

上記のような現象が起こった場合は，次の手順でデータベースの空き容量を解放してください。

1. jimdbreclaim コマンドを使用して，データベースの空き容量を解放する。
2. IM データベースに登録されているホスト情報やプロファイルに不要なものがないかどうかを確認して，不要なものがあれば削除する。

この方法で，現象が解消されない場合は，IM データベースを再編成する必要があります。次に物理ホストでの IM データベースの再編成手順およびクラスタ環境での IM データベースの再編成手順について示します。

(a) 物理ホストでの IM データベースの再編成手順

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。

   JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. jimdbrorg コマンドを使用して，対象データベースを再編成する。

   jimdbrorg コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrorg」（1. コマンド）を参照してください。

3. JP1/IM-Manager サービスを起動する。

   JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

(b) クラスタ環境での IM データベースの再編成手順

クラスタ環境の場合，実行系ホスト上で実行します。また，共有ディレクトリにアクセスできる状態である必要があります。

1. JP1/IM-Manager サービスとクラスタデータベースサービスを停止する。

   JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. jimdbrorg コマンドを使用して，対象データベースを再編成する。

jimdbrorg コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrorg」（1. コマンド）を参照してください。

3. JP1/IM-Manager サービスと手順 1 で停止したクラスタデータベースサービスを起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

1.2.2 データベースのバックアップおよびリカバリー

バックアップ，リカバリーを実施する際には，バックアップ元とリカバリー先で次のすべてが一致している必要があります。

- ホスト名
- IP アドレス
- PP バージョン（VVRRRZZ の範囲で一致させてください）
- 製品の使用するディレクトリの構成（権限などを含めて一致させてください）

また，OS，ハードウェアに関しては，同一の動作ができることが前提となります。

上記の条件に一致しない場合は，移行となります。

「1.5 設定情報および DB の移行」を参照して実施してください。

なお，OS コマンドやバックアップソフトでシステム全体をフルバックアップすることもできますが，OS コマンドやバックアップソフトの動作に依存するため，JP1/IM - Manager では，JP1/IM - Manager の各機能で提供しているコマンドを使用したバックアップ・リカバリーをお勧めします。OS コマンドやバックアップソフトを使用する場合，次の前提条件となります。

- 事前に IM データベースを含む JP1/IM - Manager のすべてのサービスが停止された状態で取得されている。
- OS に登録している情報を含めて，ファイル，レジストリの情報がすべて整合性の取れた状態でバックアップされている。
- 取得されるバックアップ対象のファイルがスパースファイルとなっていない。

一部のデータベースだけのバックアップ・リカバリーはできません。

一部のデータベースだけをバックアップ・リカバリーをした場合，関連づけに矛盾が生じ，不正なデータを参照することがあります。

また，データベースをバックアップ・リカバリーする場合は，定義情報も合わせてバックアップ・リカバリーを実施してください。

データベースだけをバックアップした場合，定義情報と矛盾が生じるときがあります。

(1)　コマンド実行履歴のバックアップ・リカバリー手順

コマンド実行履歴のバックアップ・リカバリー手順について説明します。

(a)　バックアップ手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. 対象ファイルのバックアップを取得する。
   対象ファイルについては，「1.2.2(1)(c)　バックアップ対象ファイル」を参照してください。
4. JP1/Base を起動する。
5. JP1/IM - Manager を起動する。

(b)　リカバリー手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. バックアップしたファイルをそれぞれのディレクトリに配置する。
4. JP1/Base を起動する。
5. JP1/IM - Manager を起動する。

注意事項

リカバリーするとバックアップしてからリカバリーするまでに実行した自動アクション，および［コマンド実行］画面から実行したコマンドの履歴が参照できなくなります。

(c)　バックアップ対象ファイル

バックアップ対象のファイルを次に示します。

Windows の場合

表 1-3　バックアップ対象ファイル（Windows）

情報の種類	対象ファイル
コマンド実行履歴ファイル	Base パス¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル
アクション情報ファイル	Console パス¥log¥action¥actinf.log

情報の種類	対象ファイル
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス¥log¥action¥acttxt{1|2}.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥acttxt{1|2}.log

UNIX の場合

表 1-4　バックアップ対象ファイル（UNIX）

情報の種類	対象ファイル
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル
	共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル
アクション情報ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log

コマンド実行履歴ファイルについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(2)　監視オブジェクト DB のバックアップ・リカバリー手順

監視オブジェクト DB のバックアップ・リカバリー手順について説明します。監視オブジェクト DB は，セントラルスコープの機能を使用している場合に使われます。

(a)　バックアップ手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. 対象ファイルのバックアップを取得する。

   対象ファイルを次の表に示します。

   表 1-5　バックアップ対象ファイル

OS	情報の種類	対象ファイル
Windows	監視オブジェクト DB	Scope パス¥database¥jcsdb¥以下の全ファイル
		共有フォルダ¥jp1scope¥database¥jcsdb¥以下の全ファイル
UNIX	監視オブジェクト DB	/var/opt/jp1scope/database/jcsdb/以下の全ファイル
		共有ディレクトリ/jp1scope/database/jcsdb/以下の全ファイル

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(b) リカバリー手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. バックアップしたファイルをディレクトリに配置する。
3. JP1/IM - Manager を起動する。

(3) ホスト情報 DB のバックアップ・リカバリー手順

ホスト情報 DB のバックアップ・リカバリー手順について説明します。ホスト情報 DB は，セントラルスコープの機能を使用している場合に使われます。

(a) バックアップ手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. 対象ファイルのバックアップを取得する。
   対象ファイルを次の表に示します。

   表 1-6 バックアップ対象ファイル

OS	情報の種類	対象ファイル
Windows	ホスト情報 DB	Scope パス¥database¥jcshosts¥以下の全ファイル
		共有フォルダ¥jp1scope¥database¥jcshosts¥以下の全ファイル
UNIX	ホスト情報 DB	/var/opt/jp1scope/database/jcshosts/以下の全ファイル
		共有ディレクトリ/jp1scope/database/jcshosts/以下の全ファイル

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(b) リカバリー手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. バックアップしたファイルをディレクトリに配置する。
3. JP1/IM - Manager を起動する。

(4) イベント DB のバックアップ・リカバリー手順

イベント DB のバックアップ・リカバリー手順については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のバックアップとリカバリーの説明を参照してください。

なお，JP1/IM - Manager ホストのイベント DB をバックアップ・リカバリーする場合，同時にコマンド実行履歴もバックアップ・リカバリーする必要があります。コマンド実行履歴のバックアップ・リカバリーの手順については，「1.2.2(1)　コマンド実行履歴のバックアップ・リカバリー手順」を参照してください。

注意事項

イベント DB をバックアップ・リカバリーする場合は，必ずコマンド実行履歴も同時にバックアップ・リカバリーしてください。

イベント DB だけをバックアップ・リカバリーすると，イベント DB 内の JP1 イベントと自動アクションの実行結果の関連づけに矛盾が発生します。

イベント DB のリカバリーの前に実行された自動アクションの結果が，イベント DB のリカバリーのあとに登録された JP1 イベントに対する自動アクションの実行結果として表示されてしまうことがあります。

(5)　応答待ちイベント滞留ファイルのバックアップ・リカバリー手順

応答待ちイベント滞留ファイルのバックアップ・リカバリー手順について説明します。応答待ちイベント滞留ファイルは，応答待ちイベント管理機能を使用している場合に使われます。

(a)　バックアップ手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. 対象ファイルのバックアップを取得する。
   対象ファイルを次の表に示します。

   表 1-7　バックアップ対象ファイル

OS	対象ファイル
Windows	Console パス¥log¥response¥resevent.dat
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥response¥resevent.dat
UNIX	/var/opt/jp1cons/log/response/resevent.dat
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/response/resevent.dat

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(b)　リカバリー手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. バックアップしたファイルをディレクトリに配置する。

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(6) IM データベースのバックアップ・リカバリー手順

ここでは，物理ホストでの IM データベースのバックアップ・リカバリー手順，およびクラスタ環境での IM データベースのバックアップ・リカバリー手順について説明します。

注意事項

IM データベースのバックアップ・リカバリーをする場合，同時にイベント DB のバックアップ・リカバリーをする必要があります。イベント DB のバックアップ・リカバリーの手順については，「1.2.2(4) イベント DB のバックアップ・リカバリー手順」を参照してください。

(a) 物理ホストでの IM データベースのバックアップ・リカバリー手順

物理ホストでのバックアップ手順を次に示します。

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。

   JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. `jimdbbackup` コマンドを使用して，対象データベースのバックアップを取得する。

   `jimdbbackup` コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jimdbbackup`」（1. コマンド）を参照してください。

3. 対象ファイルのバックアップを取得する。

   対象ファイルについては，「1.1.1 バックアップ（Windows の場合）」，「1.1.3 バックアップ（UNIX の場合）」を参照してください。

4. JP1/IM-Manager サービスを起動する。

   JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

物理ホストでのリカバリー手順を次に示します。

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。

   JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. `jimdbrecovery` コマンドを使用して，対象データベースをリカバリーする。

   `jimdbrecovery` コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jimdbrecovery`」（1. コマンド）を参照してください。

3. バックアップしたファイルを各ディレクトリに配置する。

IM 構成管理の機能を有効にしている場合，バックアップしたファイルを各ディレクトリに配置してください。

4. JP1/IM-Manager サービスを起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

(b) クラスタ環境での IM データベースのバックアップ・リカバリー手順

クラスタ環境でのバックアップ手順を次に示します。クラスタ環境の場合，実行系ホスト上で実行します。また，共有ディレクトリにアクセスできる状態である必要があります。

1. JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタデータベースサービスを停止する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. jimdbbackup コマンドを使用して，対象データベースのバックアップを取得する。

jimdbbackup コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」（1. コマンド）を参照してください。

3. 対象ファイルのバックアップを取得する。

対象ファイルについては，「1.1.1 バックアップ（Windows の場合）」，「1.1.3 バックアップ（UNIX の場合）」を参照してください。

4. JP1/IM-Manager サービスおよび手順 1 で停止したクラスタデータベースサービスを起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

クラスタ環境でのリカバリー手順を次に示します。クラスタ環境の場合，実行系ホスト上で実行します。また，共有ディレクトリにアクセスできる状態である必要があります。

1. JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタデータベースサービスを停止する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. jimdbrecovery コマンドを使用して，対象データベースをリカバリーする。

jimdbrecovery コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」（1. コマンド）を参照してください。

3. バックアップしたファイルを各ディレクトリに配置する。

IM 構成管理の機能を有効にしている場合，バックアップしたファイルを各ディレクトリに配置してください。

4. JP1/IM-Manager サービスおよび手順 1 で停止したクラスタデータベースサービスを起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

1.2.3 データベースの再作成および設定変更

(1) コマンド実行履歴の再作成手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. 次の表に示すコマンド実行履歴ファイル，アクション情報ファイル，アクションホスト名格納ファイルを削除する。

Windows の場合

表 1-8 削除対象ファイル（Windows）

情報の種類	対象ファイル
コマンド実行履歴ファイル	Base パス¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル
アクション情報ファイル	Console パス¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス¥log¥action¥acttxt{1|2}.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥acttxt{1|2}.log

UNIX の場合

表 1-9 削除対象ファイル（UNIX）

情報の種類	対象ファイル
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル
	共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル
アクション情報ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log

4. JP1/Base を起動する。
5. JP1/IM - Manager を起動する。

JP1/Base，JP1/IM - Manager を再起動し，JP1/IM - View や自動アクションからコマンド実行することでコマンド実行履歴が再作成されます。

(2) 監視オブジェクト DB およびホスト情報 DB の再作成手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. ファイルをバックアップする。
   Scope パス¥database¥フォルダをバックアップしてください。
3. 監視オブジェクト DB を再作成する。
   `jcsdbsetup -f`
   コマンドを実行すると，既存の監視オブジェクト DB を削除したあと，オブジェクト DB が再作成されます。
4. ホスト情報 DB を再作成する。
   まず，Scope パス¥database¥jcshosts¥フォルダ以下のファイルを削除してから次のコマンドを実行してください。
   `jcshostsimport -r` ホスト情報ファイル（jcs_hosts）
5. JP1/IM - Manager を起動する。

(3) イベント DB の再作成手順

イベント DB を再作成する対象ホストにインストールされている JP1/Base のバージョンによって，手順が異なります。

(a) マネージャー（JP1/Base 09-00 以降）の場合

統合監視 DB を使用しない場合と統合監視 DB を使用する場合で手順が異なります。

統合監視 DB を使用しない場合

JP1/Base の`jevdbinit` コマンドを実行してイベント DB を初期化します。

JP1/Base のイベント DB を初期化する手順については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のイベントサービス環境の設定の章，イベント DB の初期化に関する説明を参照してください。

`jevdbinit` コマンドの`-s` オプションを指定してイベント DB 内通し番号を変更した場合は，コマンド実行履歴を再作成する必要があります。

コマンド実行履歴の再作成については，「1.2.3(1) コマンド実行履歴の再作成手順」を参照してください。

統合監視 DB を使用する場合

次の手順に従って，イベント DB を初期化します。

1. JP1/IM - Manager を停止する。

2. JP1/Base のjevdbinit コマンドを-s オプションを指定しないで実行する。

   -s オプションを指定しないと，初期化する前のイベント DB 内通し番号を引き継ぎます。

jevdbinit コマンドの-s オプションを指定してイベント DB 内通し番号を変更した場合は，統合監視 DB の再セットアップ，およびコマンド実行履歴を再作成する必要があります。

統合監視 DB の再セットアップは，最初に，jcodbunsetup コマンドを実行して統合監視 DB をアンセットアップしてください。

コマンド実行履歴の再作成については，「1.2.3(1)　コマンド実行履歴の再作成手順」を参照してください。

jevdbinit コマンドについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドの章を参照してください。

なお，-s オプションを指定してjevdbinit コマンドを実行した場合，セントラルスコープでルートの監視ノードを選択し，ステータスを変更して，状態変更イベント履歴を削除する必要があります。

(b)　エージェント（JP1/Base 07-11 以降）の場合

JP1/Base のjevdbinit コマンドを実行してイベント DB を初期化します。イベント DB の削除および再作成は必要ありません。

JP1/Base のイベント DB を初期化する手順については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のイベントサービス環境の設定の章，イベント DB の初期化に関する説明を参照してください。

(c)　エージェント（JP1/Base 07-10 以前）の場合

イベント DB を再作成すると，次の問題が発生します。

- JP1 イベントの転送先のホストで，JP1 イベントの転送受け付け，登録，および取得の処理性能が劣化する。

これは，再作成によって転送元のイベント DB が初期化され，転送先のイベント DB の管理情報と不整合が発生するためです。

問題発生を防ぐため，次の手順に従ってイベント DB を再作成してください。

1. JP1/Base を停止する。

2. 手順 1 で停止した JP1/Base の転送設定ファイル（forward）に定義されているすべての転送先ホストの JP1/Base を停止する。

   転送先ホストの JP1/Base から，さらにほかのホストへ転送している場合，その転送先も同様に停止します。なお，停止するホストに JP1/IM - Manager をインストールしている場合は，JP1/IM - Manager を事前に停止してください。

   転送設定ファイル（forward）については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のイベントサービス環境の設定の章，JP1 イベントの転送設定の説明を参照してください。

3. 手順 1，2 で停止した JP1/Base のイベント DB を削除する。

イベント DB の内容を参照する必要がある場合，JP1/Base の`jevexport` コマンドで CSV ファイルに出力しておいてください。なお，出力した CSV ファイルを使ってイベント DB を再作成することはできません。

`jevexport` コマンドについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドの章を参照してください。

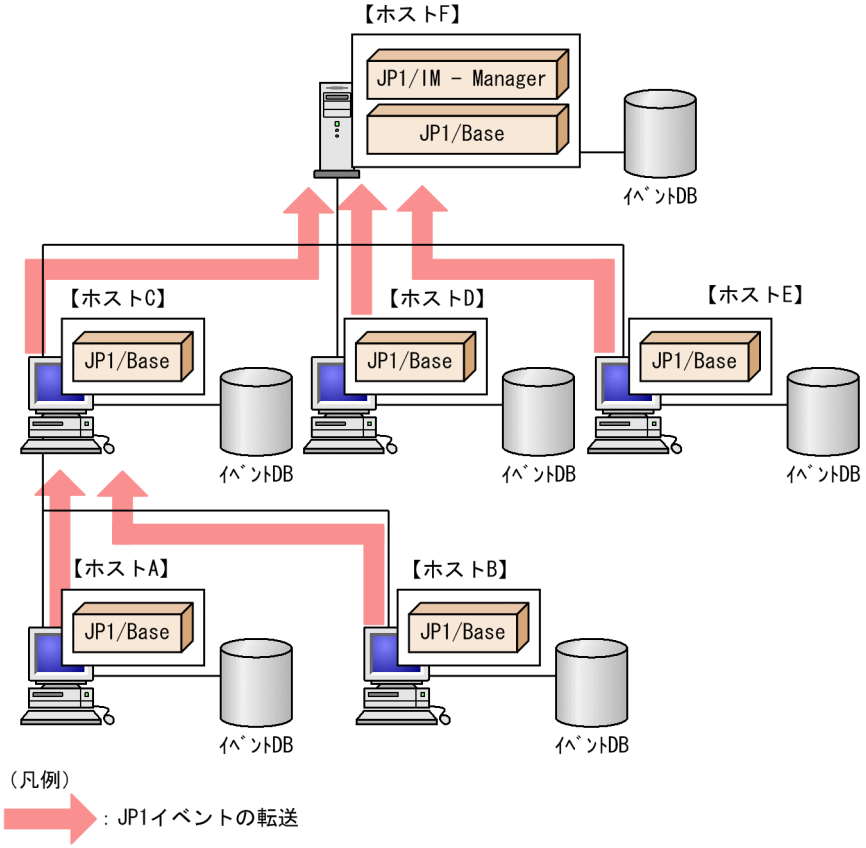
4. 手順 2 で停止した JP1/Base（および JP1/IM - Manager）を起動する。

5. 手順 1 で停止した JP1/Base を起動する。

手順 4，5 で JP1/Base を起動することで，イベント DB が再作成されます。

例えば，次の図に示すようなシステム構成でイベント DB を再作成するとします。

図 1-1　イベント DB を再作成したいホストと転送先ホストの例



ホスト A のイベント DB を再作成（削除）する場合，JP1 イベントの転送先ホストであるホスト C およびホスト F のイベント DB を削除する必要があります。

(4)　応答待ちイベント滞留ファイルの再作成手順

1. JP1/IM - Manager を停止する。

2. 応答待ちイベント滞留ファイルを削除する。

表 1-10　削除対象ファイル

OS	対象ファイル
Windows	Console パス¥log¥response¥resevent.dat
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥response¥resevent.dat
UNIX	/var/opt/jp1cons/log/response/resevent.dat
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/response/resevent.dat

3. JP1/IM - Manager を起動する。

(5)　IM データベースのサイズ拡張手順

ここでは，物理ホストでの IM データベースのサイズ拡張手順，およびクラスタ環境での IM データベースのサイズ拡張手順について説明します。

(a)　物理ホストでの IM データベースのサイズ拡張手順

データベースのサイズ拡張時にセントラルコンソールによるシステムの監視を継続するかどうかで手順が異なります。それぞれの手順を次に示します。

- データベースのサイズ拡張時にセントラルコンソールによるシステムの監視を継続（機能は一部縮退）する場合の手順

1. 統合監視 DB および IM 構成管理 DB を切り離す。

   統合監視 DB および IM 構成管理 DB を切り離し，セントラルコンソールが JP1/Base のイベント DB だけを使用するようにします。

   次のコマンドを実行したあと，JP1/IM - Manager を再起動してください。

   ```
   jcoimdef -db OFF
   ```

   jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

   また，JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. データベースをバックアップする。

   -m EXPAND オプションを指定して，jimdbbackup コマンドを実行します。

   jimdbbackup コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」（1. コマンド）を参照してください。

3. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。

   セットアップしているデータベースだけ，アンセットアップします。

4. セットアップ情報ファイルを編集する。

セットアップ情報ファイルのデータベースサイズ（IMDBSIZE）に指定したサイズを変更します。

5. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。

手順 3 でアンセットアップしたデータベースだけ，セットアップします。

セットアップ時には，バックアップ時より大きなデータベースサイズと，バックアップ時と同じデータベース格納ディレクトリを指定する必要があります。

6. データベースをリカバリーする。

-m EXPAND オプションを指定してjimdbrecovery コマンドを実行します。

jimdbrecovery コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」（1. コマンド）を参照してください。

7. JP1/IM-Manager サービスを再起動する。

次のコマンドを実行したあと，JP1/IM - Manager を再起動してください。

```
jcoimdef -db ON
```

jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

また，JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

- データベースのサイズ拡張時にセントラルコンソールによるシステムの監視を停止する場合の手順

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。

2. データベースをバックアップする。

-m EXPAND オプションを指定して，jimdbbackup コマンドを実行します。

jimdbbackup コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」（1. コマンド）を参照してください。

3. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。

セットアップしているデータベースだけ，アンセットアップします。

4. セットアップ情報ファイルを編集する。

セットアップ情報ファイルのデータベースサイズ（IMDBSIZE）に指定したサイズを変更します。

5. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。

手順 3 でアンセットアップしたデータベースだけ，セットアップします。

セットアップ時には，バックアップ時より大きなデータベースサイズと，バックアップ時と同じデータベース格納ディレクトリを指定する必要があります。

6. データベースをリカバリーする。

-m EXPAND オプションを指定してjimdbrecovery コマンドを実行します。

jimdbrecovery コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」（1. コマンド）を参照してください。

7. JP1/IM-Manager サービスを起動する。

(b) クラスタ環境での IM データベースのサイズ拡張手順

データベースのサイズ拡張時にセントラルコンソールによるシステムの監視を継続するかどうかで手順が異なります。それぞれの手順を次に示します。

- データベースのサイズ拡張時にセントラルコンソールによるシステムの監視を継続（機能は一部縮退）する場合の手順

1. 統合監視 DB および IM 構成管理 DB を切り離す。

   統合監視 DB および IM 構成管理 DB を切り離し，セントラルコンソールが JP1/Base のイベント DB だけを使用するようにします。

   次のコマンドを実行したあと，JP1/IM - Manager を再起動してください。

   jcoimdef -db OFF -h 論理ホスト名

   jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

   また，JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. クラスタデータベースサービスを停止する。

   クラスタソフトに登録したクラスタデータベースサービスを停止します。

3. データベースをバックアップする。

   -m EXPAND オプションを指定して，jimdbbackup コマンドを実行します。

   jimdbbackup コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」（1. コマンド）を参照してください。

4. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。

   セットアップしているデータベースだけ，アンセットアップします。

5. クラスタセットアップ情報ファイルを編集する。

   クラスタセットアップ情報ファイルのデータベースサイズ（IMDBSIZE）に指定したサイズを変更します。

6. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。

   手順４でアンセットアップしたデータベースだけ，セットアップします。

   セットアップ時には，バックアップ時より大きなデータベースサイズと，バックアップ時と同じデータベース格納ディレクトリを指定する必要があります。

7. データベースをリカバリーする。

-m EXPAND オプションを指定してjimdbrecovery コマンドを実行します。

jimdbrecovery コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」（1. コマンド）を参照してください。

8. クラスタデータベースサービスを起動する。

手順 2 で停止したクラスタデータベースサービスを起動します。

9. JP1/IM-Manager サービスを再起動する。

次のコマンドを実行したあと，JP1/IM - Manager を再起動してください。

jcoimdef -db ON -h 論理ホスト名

jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

また，JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

- データベースのサイズ拡張時にセントラルコンソールによるシステムの監視を停止する場合の手順

1. JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタデータベースサービスを停止する。

JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタソフトに登録したクラスタデータベースサービスを停止します。

2. データベースをバックアップする。

-m EXPAND オプションを指定して，jimdbbackup コマンドを実行します。

jimdbbackup コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」（1. コマンド）を参照してください。

3. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。

セットアップしているデータベースだけ，アンセットアップします。

4. クラスタセットアップ情報ファイルを編集する。

クラスタセットアップ情報ファイルのデータベースサイズ（IMDBSIZE）に指定したサイズを変更します。

5. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。

手順 3 でアンセットアップしたデータベースだけ，セットアップします。

セットアップ時には，バックアップ時より大きなデータベースサイズと，バックアップ時と同じデータベース格納ディレクトリを指定する必要があります。

6. データベースをリカバリーする。

-m EXPAND オプションを指定してjimdbrecovery コマンドを実行します。

jimdbrecovery コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」（1. コマンド）を参照してください。

7. JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタデータベースサービスを起動する。

手順 1 で停止した JP1/IM-Manager サービスおよびクラスタデータベースサービスを起動します。

(6) IM データベースのポート変更手順

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. データベースをバックアップする。

-m MAINT オプションを指定して，jimdbbackup コマンドを実行します。

jimdbbackup コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」（1. コマンド）を参照してください。

3. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。

セットアップしているデータベースだけ，アンセットアップします。

4. セットアップ情報ファイルを編集する。

セットアップ情報ファイルに記載されているポート番号を変更します。

5. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。

手順 3 でアンセットアップしたデータベースだけ，セットアップします。

6. データベースをリカバリーする。

-m MAINT オプションを指定してjimdbrecovery コマンドを実行します。

jimdbrecovery コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」（1. コマンド）を参照してください。

7. JP1/IM - Manager を起動する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

(7) IM データベース再構築手順

ここでは，IM データベースの再構築手順について説明します。なお，物理ホストまたは論理ホストのホスト名を変更した場合も，IM データベースを再構築する必要があります。また，論理ホストのホスト名変更の場合は，クラスタソフトに登録する IM データベースのサービスも本手順で作成されたサービスを再登録する必要があります。再構築の手順を次に示します。

1. JP1/IM-Manager サービスを停止する。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも停止してください。

2. データベースをバックアップする。

-m MAINT オプションを指定して，jimdbbackup コマンドを実行します。

jimdbbackup コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbbackup」（1. コマンド）を参照してください。

3. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をアンセットアップする。

セットアップしているデータベースだけ，アンセットアップします。

4. JP1/IM - Manager のインストールされているホストのホスト名を変更する。

ホスト名を変更しない場合，この手順は不要です。

5. 統合監視 DB と IM 構成管理 DB をセットアップする。

手順 3 でアンセットアップしたデータベースだけ，セットアップします。

6. データベースをリカバリーする。

-m MAINT オプションを指定してjimdbrecovery コマンドを実行します。

jimdbrecovery コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jimdbrecovery」（1. コマンド）を参照してください。

7. JP1/IM - Manager を起動する。

変更対象ホストの JP1/IM - Manager を起動します。論理ホストのセットアップ時は，クラスタセットアップ情報ファイルの論理ホスト名の編集が必要です。

JP1/IM - MO を使用している場合は，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスも起動してください。

1.3　ディスク容量の管理

JP1/IM の運用を安定して継続するため，ディスクの空き容量を定期的に確認してください。

1.3.1　IM データベース容量の管理

JP1/IM が使用する統合監視 DB は，運用を継続しても無効領域が増加しないよう設計されています。必要な容量を確保していれば，運用中にデータベースを確認する必要はありません。

データ自体は，セットアップ時に作成されたデータベースに書き込むため，基本的にはセットアップ時に容量を見積もっておけば，容量の増加を考慮する必要はありません。

ログファイル容量の増加については，「1.3.2　ログファイル容量の管理」を参照してください。

統合監視 DB では，JP1 イベントの容量が格納可能な範囲を超えた場合，JP1 イベントが自動で削除されます。そのため，定期的に JP1 イベントの情報を保存出力し，データの消失を防ぐ必要があります。

次に，保存出力を用いてディスク容量を管理する手順を示します。

1. 保存出力に関する情報を確認する。

   ```
   jcoevtreport -showsv
   ```

   コマンドを実行すると，保存出力に関する情報を表示します。情報を参考に，保存出力する周期，保存出力に必要な空き容量を見積もってください。

   表示する項目を次の表に示します。

   表 1-11　表示する項目

表示項目	内容
未出力イベントの割合	統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの割合（統合監視 DB の最大容量との比率）をパーセンテージで表示します。
未出力イベントのサイズ	統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの統合監視 DB 内でのデータサイズを，メガバイト単位で表示します。 表示するサイズは，統合監視 DB 内でのデータサイズです。CSV 出力には，表示された未出力イベントのサイズ×1.2 の容量が必要となります。
削除警告通知設定	削除警告通知位置の設定値を表示します。 削除警告通知が OFF の場合は「-」（半角ハイフン）を表示します。

2. 未出力イベントを保存出力する。

   ```
   jcoevtreport -save
   ```

   コマンドを実行すると，保存出力していない JP1 イベントをすべて CSV 形式で出力します。

jcoevtreport コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoevtreport」（1. コマンド）を参照してください。

JP1 イベントが多く発生してしまい，定期的な保存出力では間に合わなかった場合は，削除警告通知イベントを発行できます。削除警告通知イベントは，保存出力していない JP1 イベントの割合が削除警告通知位置を超えたことを通知します。

次に，削除警告通知の設定手順を示します。

1. 削除警告通知イベントの発行を有効にする。

   ```
   jcoimdef -dbntc ON
   ```

   コマンドを実行すると，統合監視 DB 内の保存出力していない JP1 イベントの割合（統合監視 DB の最大容量との比率）が削除警告通知位置を超えたとき，削除警告通知イベントを発行する機能を有効にします。削除警告通知イベントのデフォルトはOFF です。

2. 削除警告通知位置を指定する。

   ```
   jcoimdef -dbntcpos 70
   ```

   コマンドを実行すると，削除警告通知イベントを発行する JP1 イベントの割合を，70%に指定します。削除警告通知位置は，20～80 の範囲で指定できます。デフォルトは，80 です。

jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

IM 構成管理 DB を使用している場合については，「1.2.1(5) IM データベースの再編成」を参照してください。

1.3.2 ログファイル容量の管理

ディスク容量を圧迫する原因の一つとして，ログファイル容量の増加があります。

JP1/IM，JP1/Base の場合，ログファイルの容量を事前に見積もっておけば，ログファイル容量の増加を考慮する必要はありません。これは JP1/IM，JP1/Base が出力するログファイルは，複数のログファイルを切り替えて使用するなどの方式を採用しているためです。

OS や同ホストのほかの製品については，それぞれの仕様を確認してログファイルの容量が増加しないよう注意してください。

1.3.3 ダンプファイルの管理

JP1/IM，JP1/Base やユーザープログラムなどで問題が発生して異常終了した場合は，ワトソンログ（Windows の場合）や core ダンプ（UNIX の場合）などのダンプファイルが出力される場合があります。

これらのダンプファイルは容量が大きいことが多いため，トラブルが発生した場合は，必要なものを資料として採取してから，削除するようにしてください。

トラブル発生時の資料採取については，「10.　トラブルシューティング」を参照してください。

1.4　履歴レポートの活用

JP1/IM は，運用中に発生した JP1 イベントの情報，JP1/IM の処理情報などの履歴を管理しています。履歴を活用して，JP1/IM のメンテナンスの検討材料としてください。

1.4.1　イベントの CSV 出力

JP1 イベントを CSV 出力する機能を，イベントレポート出力と呼びます。JP1 イベントを CSV 出力する方法には，次の三つがあります。

- イベント情報のスナップショットを CSV 出力する

  スナップショットとは，特定のタイミングで情報を抽出することを意味します。JP1/IM - View に表示されるイベント情報のスナップショットは，運用に合わせてフィルタリングした JP1 イベントを出力できます。例えば，どのホストや製品で問題が発生しているのか，どのような対処をしているかなど，運用しているシステムの障害レポートとして利用できます。

  ［イベントコンソール］画面に表示されているイベント一覧を CSV 出力する方法については，「5.9.1 イベント一覧を CSV 出力する」を参照してください。

- イベント DB の内容を CSV 出力する

  JP1/Base が管理するイベント DB の内容を，`jevexport` コマンドを使用して CSV 出力します。マネージャーへ転送する必要のない JP1 イベント，例えば，JP1/AJS のジョブ正常終了などの JP1 イベントを運用の履歴や統計情報として利用したい場合は，エージェントのイベント DB の内容を`jevexport` コマンドを使用して CSV 出力できます。

  `jevexport` コマンドについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドに関する章を参照してください。

- 統合監視 DB の内容を CSV 出力する

  統合監視 DB に登録されている JP1 イベントを，`jcoevtreport` コマンドを使用して CSV 出力します。統合監視 DB に登録されている JP1 イベント，例えば，先週発生した JP1 イベントの一覧を出力する場合，指定したイベントだけを出力する場合などに利用できます。

  `jcoevtreport` コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「`jcoevtreport`」（1. コマンド）を参照してください。

1.4.2　相関イベントの発行履歴

相関イベント発行履歴ファイルには，相関イベント発行サービスの動作状況や相関イベントの発行処理の内容が出力されます。

相関イベント発行履歴ファイルを参照することで，定義した相関イベント発行条件どおりに相関イベントが発行されているかどうかを確認できます。例えば，特定の発行条件に対して，不成立の履歴が多く出力

されている場合，発行処理の対象としているJP1イベントの組み合わせが適切でない，またはタイムアウト時間が短いおそれがあります。

定期的に発行条件を見直す際には，参考として相関イベント発行履歴ファイルを参照してください。

1.5　設定情報および DB の移行

1.5.1　移行の対象となる設定情報および DB

この項では，JP1/IM の設定情報および DB を移行する場合の，移行の対象について説明します。

なお，JP1/IM の設定情報および DB を移行する必要があるのは，次のうちどれかが異なる別ホストに移行する場合です。

- ホスト名
- IP アドレス
- PP バージョン
- 製品の使用するディレクトリの構成（権限なども含む）

(1)　JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）

別ホストへ移行する場合，移行できる定義は「自動アクション定義ファイル」だけです。

その他の定義については，移行先ホストで再定義する必要があります。

(2)　JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）

`jcsdbexport` コマンド，`jcsdbimport` コマンドによって，監視オブジェクト DB の情報を移行できます。

その他の定義については，移行先ホストで再定義する必要があります。

なお，監視オブジェクト DB の情報を移行する際は，監視オブジェクトの状態変更条件および共通条件に設定している自ホストのホスト名および IP アドレスが合っているかを見直してください。

(3)　JP1/IM - Manager（IM 構成管理）

`jcfexport` コマンド，`jcfimport` コマンドによって，IM 構成管理の管理情報を移行できます。

インポートした IM 構成管理の管理情報をシステムに反映するには，「8.7.3　インポートした IM 構成管理の管理情報をシステムに反映する」を参照してください。

なお，インポートした設定ファイルのプロファイル情報に，移行元のマネージャーホスト名を記載している場合は，プロファイルの設定を見直してください。

(4)　JP1/IM - View

移行先ホストで再定義する必要があります。

(5) IM データベース

IM データベースの移行については，「1.2.3(7) IM データベース再構築手順」を参照してください。

なお，移行先のホストで，IM データベースの格納先は移行元と同じディレクトリ構成にする必要があります。

2 JP1/IM システムの構成変更

この章では，JP1/IM システムの構成変更の際に必要な作業について説明します。

2.1 JP1/IM の設定情報の変更

JP1/IM で監視，操作するホストを増加させる，JP1/IM の動作を変更して JP1/IM の業務（システムの運用監視）の効率化を図るなど，JP1/IM の運用環境を変更する場合は，まず，どのような目的で変更するのかを明確にする必要があります。また，運用環境の変更に伴い，必要な設定作業が何かを洗い出す必要があります。

変更の目的と設定作業については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」およびマニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

2.2 JP1/IM が動作するホストの設定変更

この節では，JP1/IM が動作するホストの設定変更で必要となる作業をそれぞれ説明します。

- JP1/IM が動作しているマシンのホスト名，IP アドレス，およびシステムの日時を変更した場合の影響と，変更時に必要となる作業
- リモート監視構成で，マネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更した場合に必要となる作業
- 監視対象ホストの日時を変更したときに必要となる作業

ネットワーク構成の変更などに対応したい場合，ここで説明する内容を基に作業してください。

2.2.1 ホスト名を変更した場合の影響および必要作業

ホスト名を変更した場合の影響，およびその変更によって必要になる作業について説明します。

(1) ホスト名の変更による影響

(a) フィルター条件で設定したホスト名

［重要イベント定義］画面，［表示フィルター設定］画面，または［ユーザーフィルター詳細設定］画面で定義してある登録ホスト名が変更対象であった場合は，それぞれの設定画面で登録ホスト名の設定を変更する必要があります。

(b) ［アクション設定］画面または自動アクション定義ファイルで設定したホスト名

［アクション設定］画面または自動アクション定義ファイルで定義してある実行ホスト名が変更対象であった場合は，［アクション設定］画面または自動アクション定義ファイルで実行ホスト名の設定を変更する必要があります。

(c) 監視オブジェクトの状態変更条件で設定したホスト名

［状態変更条件設定］画面または［共通条件詳細設定］画面で設定したホスト名が変更対象であった場合は，それぞれの設定画面でホスト名の設定を変更する必要があります。

(d) 相関イベント発行定義ファイルで設定したホスト名

相関イベント発行定義ファイルで，相関イベントの発行条件として定義してあるホスト名が変更対象であった場合は，相関イベント発行定義ファイルでホスト名の設定を変更する必要があります。

(e) 重大度変更定義ファイルで設定したホスト名

重大度変更定義ファイルで，重大度変更条件として定義してあるホスト名が変更対象であった場合は，重大度変更定義ファイルでホスト名の設定を変更する必要があります。

(f)　メール環境定義ファイルで設定したホスト名

メール環境定義ファイルで，SMTP サーバおよび POP3 サーバとして定義してあるホスト名が変更対象であった場合は，メール環境定義ファイルでホスト名の設定を変更する必要があります。

(2)　ホスト名の変更によって必要となる作業

(a)　JP1/IM - Manager および JP1/IM - View で必要な作業

システム構成の再配布が必要になります。手順を次に示します。

1. JP1/IM - Manager に接続しているすべての JP1/IM - View を終了する。
2. JP1/IM - Manager を終了する。
3. `jbsrt_distrib` コマンドを実行し，システム構成の再配布をする。
4. JP1/IM - Manager を起動する。
5. JP1/IM - Manager に接続しているすべての JP1/IM - View を起動する。

システム構成の配布方法の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.9　システムの階層構成の設定（IM 構成管理を使用する場合）」，「1.10　システムの階層構成の設定（IM 構成管理を使用しない場合）」（Windows の場合）または「2.9　システムの階層構成の設定（IM 構成管理を使用しない場合）」（UNIX の場合）を参照してください。

(b)　JP1/Base で必要な作業

JP1/Base をいったん終了してから，再起動する必要があります。

(c)　IM データベースで必要な作業

「1.2.3(7)　IM データベース再構築手順」を参照してください。

(3)　クラスタシステムを運用している場合

クラスタシステムを運用している環境で論理ホスト名を変更した場合は，変更前の論理ホスト名を削除してください。そのあと，変更後の論理ホスト名に対して，クラスタ運用ができるよう再セットアップしてください。

Windows の場合

論理ホストの削除方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.6　IM データベースと論理ホストの削除」を参照してください。セットアップ方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.2　論理ホストのインストール・セットアップ（新規インストール・セットアップの場合）」，または「6.2.3　論理ホストのインストール・セットアップ（バージョンアップインストール・セットアップの場合）」を参照してください。

UNIX の場合

論理ホストの削除方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.3.6　IM データベースと論理ホストの削除」を参照してください。セットアップ方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.3.2　論理ホストのインストール・セットアップ（新規インストール・セットアップの場合）」，または「6.3.3　論理ホストのインストール・セットアップ（バージョンアップインストール・セットアップの場合）」を参照してください。

注意事項

旧ホスト名のときに発行された JP1 イベントについては，ホスト名が変更されたあとは，次のように処理されます。

- JP1/IM - View の「登録ホスト名」には，旧ホスト名が表示されます。
- イベント検索をする場合は，旧ホスト名でマッチされます。
- ［イベント詳細］画面を表示したときに，「指定した JP1 イベントが見つからない」などのエラーが発生することがあります。
- 旧ホスト名のときに発行された JP1 イベントからは，JP1/AJS - View のモニター表示はできません。
- ［アクション結果］画面，［アクション結果詳細］画面，［アクション結果一覧］画面の「ホスト名」には，旧ホスト名が表示されます。

2.2.2　IP アドレスを変更した場合の影響および必要作業

IP アドレスを変更した場合の影響，およびその変更によって必要となる作業について説明します。

(1)　IP アドレスの変更による影響

(a)　監視オブジェクトの状態変更条件で設定した IP アドレス

［状態変更条件設定］画面または［共通条件詳細設定］画面で設定した IP アドレスが変更対象であった場合は，それぞれの設定画面で IP アドレスの設定を変更する必要があります。

また，IM 構成管理機能を使用している場合，IM 構成管理・ビューアーを起動し，ホスト情報を収集してください。

(b)　メール環境定義ファイルで設定した IP アドレス

メール環境定義ファイルで，SMTP サーバおよび POP3 サーバとして定義してある IP アドレスが変更対象であった場合は，メール環境定義ファイルで IP アドレスの設定を変更する必要があります。

(2) IP アドレスの変更によって必要となる作業

(a) JP1/IM - Manager および JP1/IM - View で必要な作業

JP1/IM - Manager および JP1/IM - View の再起動が必要になります。手順を次に示します。

1. JP1/IM - Manager に接続しているすべての JP1/IM - View を終了する。
2. JP1/IM - Manager を終了する。
3. JP1/IM - Manager を起動する。
4. JP1/IM - View を起動する。

(b) JP1/Base で必要な作業

JP1/Base をいったん終了してから，再起動する必要があります。

(c) IM データベースで必要な作業

IM データベースをいったん終了してから，再起動する必要があります。

2.2.3 システムの日時変更時に必要な作業

JP1/IM の運用中にシステムの日時を変更する場合の注意事項および手順について説明します。

サーバのシステム時刻を，NTP（Network Time Protocol）サーバなどを利用した時刻が過去に戻ることがない方式で合わせる場合には，次の手順に従わずに変更できます。その場合，JP1/Base を停止する必要はありません。

(1) システムの日時を過去に戻す場合

システムの日時を変更する際，過去の日時に変更することは通常避けてください。

システム時刻の進みや遅れを補正する場合でも，システム時刻を過去に戻すと自動アクションの実行結果の表示順序や監視ツリーの状態更新日時などの表示が不正になることがあります。このような現象は，システム時刻を過去に戻したことで，JP1/IM - Manager，JP1/Base の管理データに不整合が生じたときに発生します。JP1/IM - View には影響ありません。

また，システム時刻を過去に戻すと，到着時刻を指定してイベント検索したときに，正しくイベント検索ができないことがあります。

テストなどでシステムの時刻を意図的に未来の日時へ変更したような場合に，システム日時を元に戻すときは，次に示す手順で戻してください。

(a) マネージャーのシステム日時を元に戻す手順

1. JP1/IM - Manager を終了する。
2. IM データベースを使用している場合は，IM データベースを終了する。
3. JP1/Base を終了する。
4. システムの時刻を戻す。
5. システムの時刻が時刻を戻す前の時刻に達したら JP1/Base，および JP1/IM - Manager を起動する。
   例えば，手順 4 で時刻を「02:00」から「01:00」に戻した場合，システムの時刻が「02:00」になってから，JP1/Base および JP1/IM - Manager を起動します。
   なお，IM データベースを使用している場合は，JP1/Base，IM データベース，JP1/IM - Manager の順で起動してください。

また，次の方法でも日時を元に戻せます。ただし，この方法では，アクション情報ファイルやアクションホスト名格納ファイルなどの手順 5 に示す情報，および IM データベースのイベント情報やホスト情報を削除する必要があるので注意してください。

1. JP1/IM - Manager を終了する。
2. JP1/Base を終了する。
3. IM データベースを使用している場合は，IM データベースをアンセットアップする。
   Windows の場合は，「JP1/IM-Manager DB Server」サービスを起動しておく必要があります。
   統合監視 DB および IM 構成管理 DB をセットアップしている場合には，両方のアンセットアップが必要です。
4. システムの時刻を戻す。
5. アクション情報ファイル，アクションホスト名格納ファイル，コマンド実行履歴ファイル，イベント DB を削除する。
   削除ファイルの格納場所は次の表のとおりです。

   Windows の場合

   表 2-1　削除対象ファイル（Windows）

ファイル名	格納場所
アクション情報ファイル	Console パス¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス¥log¥action¥acttxt{1|2}.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥acttxt{1|2}.log
コマンド実行履歴ファイル	Base パス¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル

ファイル名	格納場所
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル
イベント DB	Base パス¥sys¥event¥servers¥default¥以下のIMEvent*.*ファイル※
	共有フォルダ¥jp1base¥event¥以下のIMEvent*.*ファイル※

注※　イベントサーバインデックス（index）ファイルで別パスを指定した場合は，指定したパス以下のファイルが対象となります。

UNIX の場合

表 2-2　削除対象ファイル（UNIX）

ファイル名	格納場所
アクション情報ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル
	共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル
イベント DB	/var/opt/jp1base/sys/event/servers/default/以下のIMEvent*.*ファイル※
	共有ディレクトリ/jp1base/event/以下のIMEvent*.*ファイル※

注※　イベントサーバインデックス（index）ファイルで別パスを指定した場合は，指定したパス以下のファイルが対象となります。

6. IM データベースを使用している場合は，IM データベースをセットアップする。

7. JP1/Base を起動する。

8. JP1/IM - Manager を起動する。

以上で，マネージャーのシステム日時を元に戻す作業は完了です。なお，セントラルスコープの機能を使用する場合は，次の手順を続けて作業してください。

1. JP1/IM - View で JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）にログインする。

2. [監視ツリー] 画面で最上位の監視グループを選択し，状態を「初期状態」にする。
   監視ノードをすべて「初期状態」に戻すことで，セントラルスコープの管理するデータの不整合を解消します。

(b)　エージェントのシステム時刻を元に戻す手順

エージェントのシステム時刻を元に戻す場合は，該当ホストの JP1/Base のイベント DB だけでなく，イベント転送先ホストの JP1/Base の時刻も元に戻す必要があります。手順などの詳細については，マニュ

アル「JP1/Base 運用ガイド」の JP1/Base 運用中の設定変更の章，システムの日時変更時に必要な作業の説明を参照してください。

(2)　システムの時刻が遅れているため，時刻を進める場合

システムの時刻を進める場合には，過去に戻す場合と異なり，JP1/IM を停止したり，ファイルを削除したりする必要はありません。

ただし，IM データベースを使用している場合は，IM データベースの起動または停止処理中に時刻を変更しないでください。

2.2.4　リモート監視構成でマネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更したときに必要な作業

リモートの監視対象ホストを管理するマネージャーおよびリモートの監視対象ホストのパスワードを変更した場合には，［リモート監視設定］画面または［システム共通設定］画面の設定を見直す必要があります。

リモートの監視対象ホストのユーザー名およびドメイン名を変更した場合も，［リモート監視設定］画面または［システム共通設定］画面の設定を見直してください。

参考

リモートの監視対象ホストを登録・変更する場合，OS 通信設定の情報をシステム共通設定として保存し，管理できます。この場合，［リモート監視設定］画面ではなく，［システム共通設定］画面で設定してください。

［リモート監視設定］画面または［システム共通設定］画面での設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.4　ホスト情報を変更する」を参照してください。

［リモート監視設定］画面または［システム共通設定］画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」を参照してください。

- 「4.7　［リモート監視設定］画面」
- 「4.20　［システム共通設定］画面」

2.2.5　監視対象ホストの日時を変更したときに必要な作業

監視対象ホストの日時を変更した場合の影響，およびその変更によって必要となる作業について説明します。

(1) エージェント構成の監視対象ホストの日時を変更する場合

エージェント構成の監視対象ホストの日時を変更する場合，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のシステムの日時変更時に必要な作業に従って時刻変更してください。

(2) リモート監視構成の監視対象ホストの日時を過去に戻す場合

テストなどでリモート監視構成の監視対象ホストの時刻を意図的に未来の日時へ変更したような場合に，リモート監視構成の監視対象ホストの日時を元に戻すときは，監視対象ホストで未来の日時のイベントログを削除する必要があります。

次に示す手順で戻してください。なお，リモート監視構成の監視対象ホストの OS が UNIX である場合は，次に示す手順は必要ありません。

1. 日時を戻すリモート監視構成の監視対象ホストで，稼働中のリモート監視イベントログトラップがある場合は，停止する。
2. リモート監視構成の監視対象ホストの日時を変更する。
3. リモート監視構成の監視対象ホストのイベントログに，リモート監視構成の監視対象ホストの現在日時より未来の日時のイベントログが存在しないか確認する。未来の日時のイベントログが存在する場合は，該当するイベントログを削除する。
4. 停止したリモート監視イベントログトラップを再度起動する。

なお，JP1/IM - Manager が動作しているマシンと監視対象ホストの日時が監視間隔以上に異なっている場合，リモート監視イベントログトラップによる監視ができません。監視対象ホストの日時を変更する場合は，JP1/IM - Manager が動作しているマシンの日時も確認してください。

(3) リモート監視構成の監視対象ホストの日時を進める場合

時刻が遅れているなどの理由で，リモート構成の監視対象ホストの日時を進める場合，手順は必要ありません。

2.3 リモート監視構成からエージェント構成に監視構成を変更する場合の注意事項

リモート監視構成のログファイルトラップ（リモート監視ログファイルトラップ）およびイベントログトラップ（リモート監視イベントログトラップ）を，エージェント構成のログファイルトラップおよびイベントログトラップで監視するように構成を変更する場合の注意事項について説明します。

リモートの監視対象ホストの管理の概要については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「6.6　リモートの監視対象ホストの管理」を参照してください。

2.3.1 ログファイルトラップでの注意事項

ログファイルトラップの監視構成を変更する場合は，次の点を注意してください。

- 共通定義情報で拡張正規表現を有効に設定する
- ファイル監視間隔（-t オプション）を指定していない場合，監視間隔が短くなる
- 論理ホストのリモート監視を移行する場合，登録先イベントサーバ名（-s オプション）を指定する

2.3.2 イベントログトラップでの注意事項

イベントログトラップの監視構成を変更する場合は，次の点を注意してください。

- 共通定義情報で拡張正規表現を有効に設定する
- 論理ホストのリモート監視を移行する場合，JP1/Base のイベントログトラップ動作定義ファイルのイベントサーバ名（server）を指定する

  JP1/Base のイベントログトラップ動作定義ファイルについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の定義ファイルの説明をしている章を参照してください。
- trap-interval に 181 以上を指定している場合，180 以下に変更する
- trap-interval を指定していない場合，監視間隔が短くなる
- リモート監視と同様に，イベントログの監視中にイベントログの取得に失敗した際に JP1 イベントを出力したい場合は，jp1event-send に 1（通知設定）を定義する

3 JP1/IM - Manager の起動と終了

この章では，JP1/IM - Manager の起動および終了の手順について説明します。

3.1　JP1/IM - Manager を起動する

ここでは，JP1/IM - Manager の起動手順を説明します。

JP1/IM - Manager を起動する場合は，先に監視で必要な JP1/Base のサービスをすべて起動してください。JP1/Base のサービスを再起動する場合は，必ず JP1/IM - Manager を停止した状態にしてください。停止しなかった場合は，イベントが表示されないなどの現象が発生します。

JP1/Base のサービスの起動については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の起動と終了の章を参照してください。

また，JP1/Base のイベントサービスを再起動する場合は，必ず JP1/IM - Manager を停止した状態にしてください。再起動しなかった場合は，イベントが表示されないなどの現象が発生します。

起動方法は，OS によって異なります。詳細については，「3.1.1　Windows の場合」，「3.1.2　UNIX の場合」を参照してください。

3.1.1　Windows の場合

JP1/IM - Manager を起動するホストの OS が Windows であり，かつ物理ホストである場合の起動方法を説明します。

起動方法は IM データベースを使用するかどうかによって異なります。

IM データベースを使用する場合の起動方法を次に示します。

1. **IM データベースを起動する。**
   JP1/IM-Manager DB Server サービスを起動します。
2. **JP1/IM - Manager を起動する。**
   JP1/IM-Manager サービスを起動します。

IM データベースを使用しない場合の起動方法を次に示します。

1. **JP1/IM - Manager を起動する。**
   JP1/IM-Manager サービスを起動します。

IM データベースおよび JP1/IM - Manager を起動するには，JP1/Base の起動管理機能を使用する方法と，起動管理機能を使わない方法があります。

起動管理機能は，あらかじめ設定した順序に従って，サービスを起動する機能です。起動管理機能が設定してあると，Windows の起動時に，まず，JP1/Base Control Service が起動し，そのあと JP1/Base，JP1/IM - Manager などの各サービスを順に起動します。

システムの起動時に自動で各サービスを起動したい場合は，JP1/Base の起動管理機能を使用してサービスの起動順序を制御してください。

なお，起動管理機能を使用してサービスを起動するには，Windows の［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］を選択し，「サービス」ダイアログボックスで JP1/IM-Manager DB Server サービスおよび JP1/IM-Manager サービスの起動方法を「手動」にしておく必要があります。起動管理機能の詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のサービスの起動順序および終了順序の設定（Windows 限定）の章を参照してください。

IM データベースの起動

IM データベースは，デフォルトでは，JP1/Base の起動管理機能で起動しないように設定されています。

起動管理機能を使わないで起動する場合は，［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］から，JP1/IM-Manager DB Server サービスを起動してください。

起動管理機能を使って起動する場合は，JP1/Base の起動順序定義ファイルで，次の行から「#」を削除してください。また，StopCommand の<JP1/IM - Manager Path>の部分を Manager パスに置き換えてください。

```
#[Jp1IM-Manager DB]
#Name=JP1/IM-Manager DB Server
#ServiceName= HiRDBEmbeddedEdition_JM0
#StopCommand=Manager パス¥bin¥imdb¥jimdbstop.exe
```

起動管理機能の詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のサービスの起動順序および終了順序の設定（Windows 限定）の章を参照してください。

JP1/IM - Manager の起動

JP1/IM - Manager は，デフォルトでは，JP1/Base の起動管理機能で起動するように設定されています。

起動管理機能を使わないで起動する場合は，［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］から，JP1/IM-Manager DB Server サービスおよび JP1/IM-Manager サービスを起動してください。

3.1.2 UNIX の場合

UNIX の場合は，OS の機能によって JP1/IM - Manager を起動します（自動起動スクリプトが設定されている場合）。

IM データベースを使用しているときは，システム起動時に自動起動スクリプトが実行されて，JP1/Base，JP1/IM - Manager，IM データベースが順に起動します。なお，自動起動スクリプトの設定の有効・無効に関係なく，システム起動時にpdprcd プロセスが起動されます。

IM データベースを使用していないときは，システムを起動すると，自動起動スクリプトが実行されて，JP1/Base，JP1/IM - Manager が順に起動します。

自動起動スクリプトの設定については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.18.2　自動起動および自動終了の設定」を参照してください。また，自動起動スクリプトの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_start（UNIX 限定)」(1.　コマンド）を参照してください。

自動起動スクリプトを設定しないで JP1/IM - Manager を起動する場合は，/etc/opt/jp1cons/jco_start.model スクリプト，またはこのスクリプトをコピーしたファイルを実行して起動してください。

なお，JP1/IM - Manager を起動する場合は，先に監視で必要な JP1/Base のサービスをすべて起動してください。また，IM データベースを使用するときは，JP1/IM - Manager の起動時に IM データベースを起動してください。JP1/Base のサービスを再起動する場合は，必ず JP1/IM - Manager を停止した状態にしてください。停止しなかった場合は，イベントが表示されないなどの現象が発生します。

JP1/Base のサービスの起動については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の起動と終了の章を参照してください。

3.1.3　クラスタシステムで運用する場合

プラットフォーム（OS およびクラスタソフトの種類）にかかわらず，クラスタシステムで論理ホストの JP1/IM - Manager を運用する場合は，クラスタソフトの制御によって JP1/IM - Manager を起動します。

クラスタシステムでは，実行系サーバでアプリケーションを実行し，システムダウンなどの障害発生時に待機系サーバへフェールオーバーするために，アプリケーションをクラスタソフトに登録して起動停止を制御しています。JP1/IM - Manager をクラスタ運用する場合も，クラスタソフトが JP1/IM - Manager を制御するように登録して運用します。

なお，クラスタ運用している JP1/IM - Manager は，クラスタソフトの操作によって起動・停止をしてください。コマンドを実行するなど手動で起動・停止した場合は，クラスタソフトの管理する JP1/IM - Manager の動作状態と実際の動作状態が異なってしまい，障害と判定される場合があります。

起動順序については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.4　クラスタソフトへの登録（Windows の場合)」,「6.3.4　クラスタソフトへの登録（UNIX の場合)」を参照してください。

3.2 JP1/IM - Manager を終了する

ここでは，JP1/IM - Manager の終了手順を説明します。

JP1/IM - Manager は，JP1/Base より前に終了してください。IM データベースを使用するときは，JP1/IM - Manager の終了時に，IM データベースを終了する必要があります。

終了方法は，OS によって異なります。

3.2.1 Windows の場合

JP1/Power Monitor をインストールしている場合は，JP1/Base の起動管理機能を使用してサービスを終了できます。起動管理機能を使用した場合は，JP1/Power Monitor を使って電源をオフにするときに，自動的に JP1/IM - Manager，IM データベース，JP1/Base が順に終了します。起動管理機能の設定については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のサービスの起動順序および終了順序の設定（Windows 限定）の章を参照してください。

起動管理機能を使わないで終了させる場合は，［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］から，JP1/IM-Manager サービスを終了してください。

3.2.2 UNIX の場合

IM データベースを使用している場合，自動終了スクリプトが設定されているときは，システムを終了すると，JP1/IM - Manager，IM データベース，JP1/Base が続けて終了します。なお，pdprcd プロセスは，JP1/IM - Manager，および IM データベースが終了しても起動したままとなりますが，停止する必要はありません。

IM データベースを使用していない場合，自動終了スクリプトが設定されているときは，システムを終了すると，JP1/IM - Manager，JP1/Base が続けて終了します。

自動終了スクリプトの設定については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.18.2　自動起動および自動終了の設定」を参照してください。また，自動終了スクリプトの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_stop（UNIX 限定)」(1.　コマンド）を参照してください。

自動終了スクリプトを設定しないで JP1/IM - Manager を終了させる場合は，/etc/opt/jp1cons/jco_stop.model スクリプト，またはこのスクリプトをコピーしたファイルを実行して終了してください。

3.2.3 クラスタシステムで運用する場合

プラットフォーム（OS およびクラスタソフトの種類）にかかわらず，クラスタシステムで論理ホストの JP1/IM - Manager を運用する場合は，クラスタソフトの制御によって JP1/IM - Manager を停止します。

クラスタシステムでは，実行系サーバでアプリケーションを実行し，システムダウンなどの障害発生時に待機系サーバへフェールオーバーするために，アプリケーションをクラスタソフトに登録して起動停止を制御しています。JP1/IM - Manager をクラスタ運用する場合も，クラスタソフトが JP1/IM - Manager を制御するように登録して運用します。

なお，クラスタ運用している JP1/IM - Manager は，クラスタソフトの操作によって起動・停止をしてください。コマンドを実行するなど手動で起動・停止した場合は，クラスタソフトの管理する JP1/IM - Manager の動作状態と実際の動作状態が異なってしまい，障害と判定される場合があります。

3.3 起動と終了に関する注意事項

- JP1/Base のイベントサービスを再起動した場合は，必ず JP1/IM - Manager を再起動してください。また，接続していた JP1/IM - View も再起動してください。再起動を行わない場合，イベントが表示されなくなるなどの現象が発生します。
- 論理ホスト対応の JP1/IM - Manager 全体のサービスを停止しても，プロセスが停止しない場合に，強制的にプロセスを停止したいときには，`jco_killall.cluster` コマンドを実行してください。このコマンドを使った停止は，正規の方法で JP1/IM - Manager のサービスを停止してもプロセスが停止しない場合にだけ使用してください。
- JP1/IM - Manager の起動時にイベントを大量※1 に取得する場合は，イベントの取得量に比例して起動時間※2 が長くなります。そのため，JP1/IM-Manager サービス（Windows の場合）または `jco_start` コマンド（UNIX の場合）がタイムアウト※3 し，エラー値を返してくることがあります。その場合は，JP1/IM - Manager が起動していないように見えますが，しばらくすると起動が完了します。

  注※1

  起動時のイベント取得フィルターの条件やイベント DB にたまっているイベントの量によって変わります。

  注※2

  マシン性能によって変わります。

  注※3

  JP1/IM-Manager サービス（Windows の場合）または`jco_start` コマンド（UNIX の場合）のタイムアウトは 2 分です。
- IM データベースの起動が失敗した場合，IM データベースの状態が再起動中断状態であり，不安定な状態になることがあります（IM データベースの起動が失敗したあと，`jimdbstatus` コマンドを実行して，戻り値が 8 のとき）。

  IM データベースの状態が再起動中断状態であり，不安定な状態になる要因は次のとおりです。

  - ディスク容量不足（IM データベースの容量不足ではない）
  - メモリー容量不足

  IM データベースの状態が再起動中断状態であり，不安定な状態の場合，サービスの停止，またはコマンドの実行による IM データベースの通常停止はできません。この状態を回避するためには，`-f` オプションを指定して`jimdbstop` コマンドを実行し，IM データベースを強制停止する必要があります。
- IM データベースを使用している場合，JP1/Base，IM データベースサービス，JP1/IM - Manager の順に起動してください。
- IM データベースを使用している場合，JP1/IM - Manager，IM データベースサービス，JP1/Base の順に終了してください。

  JP1/IM - MO を使用している場合は，JP1/IM - Manager の終了の前に，接続元の JP1/IM - MO の JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止してください。

4 JP1/IM - Manager へのログインとログアウト

JP1/IM - View は，JP1/IM - Manager へログインして使用します。この章では，JP1/IM - Manager へのログイン・ログアウトの手順について説明します。

なお，JP1/IM - View から JP1/IM - Central Information Master へのログイン・ログアウトについては説明していません。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド」を参照してください。

4.1　JP1/IM - Manager にログインする

JP1/IM - View および IM 構成管理・ビューアーを使用するには，ビューアーから JP1/IM - Manager へのログインが必要です。JP1/IM - Manager にログインする方法には，GUI でログインする方法と，jcoview コマンドまたはjcfview コマンドを使用してログインする方法があります。

なお，jcoview コマンドまたはjcfview コマンドのショートカットを Windows のスタートアップに登録すれば，Windows へのログオンと同時に JP1/IM - View および IM 構成管理・ビューアーを起動できます。また，jcoview コマンドまたはjcfview コマンドのショートカットを Windows の［スタート］ボタンの横に表示される「クイック起動バー（Quick Launch bar)」に登録したり，ホストまたはユーザーごとにjcoview コマンドまたはjcfview コマンドのショートカットを作成したりできます。

4.1.1　JP1/IM - Manager に GUI でログインする

(1)　JP1/IM - View を使用する

JP1/IM - View を使用して JP1/IM - Manager に GUI でログインする方法を次に示します。

1. Windows のスタートメニューから，［プログラム］－［JP1_Integrated Management - View］－［統合ビュー］を選択する。

   ［ログイン］画面が表示されます。

2. ログイン画面で，ユーザー名，パスワード，および接続ホスト名を入力する。

   ユーザー名に指定できる文字数は，1～31 バイトです。半角英数字だけを使用できます。英字は大文字・小文字を区別しません。

   パスワードは，大文字・小文字を区別します。

   接続ホスト名には，ログインする JP1/IM - Manager があるホストの名称を指定します。ビューアーで定義されているホスト名か，IP アドレスを指定してください。

   ログイン画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「1.2.1　セントラルコンソールおよびセントラルスコープの［ログイン］画面」を参照してください。

   セントラルスコープにログインする場合は，事前にセントラルスコープの機能を使用するための設定が必要です。

3. 使用したい機能に合わせてチェックボックスをチェックする。

   片方または両方をチェックできます。

   ［セントラルコンソール］チェックボックスをチェックすると，JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）に接続します。

   ［セントラルスコープ］チェックボックスをチェックすると，JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）に接続します。

4. ［OK］ボタンをクリックする。

JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）に接続した場合は［イベントコンソール］画面，JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）に接続した場合は［監視ツリー］画面が表示されます。

ログインするユーザー名は，事前に登録が必要です。ユーザーの登録については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理機能の設定の章を参照してください。

JP1/IM - Manager にログインする場合，一つのビューアーからは，最大三つの異なるマネージャーにログインできます。

WWW ページ版の JP1/IM - View を使用する場合

WWW ブラウザーを使用してログインする場合は，次のように操作します。

1. WWW ブラウザーを起動し，次の URL を指定する。

   `http://接続ホスト名/JP1IM/console_ja.html`

   ［ログイン］画面が表示されます。

2. ユーザー名とパスワードを入力する。

   接続ホスト名には，URL で指定したホスト名が表示されます。この画面でホストを変更することはできません。

3. ［OK］ボタンをクリックする。

   ［イベントコンソール］画面が表示されます。

WWW ブラウザーを使用してログインする場合は，一つのビューアーからは 1 台のマネージャーにしかログインできません。また，WWW ブラウザーを使用してログインできるのは JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）だけで，JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）は使用できません。

(2) IM 構成管理・ビューアーを使用する

IM 構成管理・ビューアーを使用して JP1/IM - Manager に GUI でログインする方法を次に示します。

1. Windows のスタートメニューから，［プログラム］－［JP1_Integrated Management - View］－［構成管理］を選択する。

   ［ログイン］画面が表示されます。

   Windows のスタートメニューから IM 構成管理・ビューアーを起動するには，事前に`jcovcfsetup` コマンドを実行して，Windows のスタートメニューに［構成管理］を追加しておく必要があります。Windows のスタートメニューに［構成管理］を追加する方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.20.3　IM 構成管理・ビューアーのセットアップおよび動作カスタマイズ」を参照してください。

2. ログイン画面で，ユーザー名，パスワード，および接続ホスト名を入力する。

   ユーザー名には，小文字だけを使用できます。大文字を使用した場合も小文字として認証されます。

   パスワードは，大文字・小文字を区別します。

接続ホスト名には，ログインする JP1/IM - Manager があるホストの名称を指定します。ビューアーで定義されているホスト名か，IP アドレスを指定してください。

3. [OK] ボタンをクリックする。

IM 構成管理に接続し，[IM 構成管理] 画面が表示されます。

ログインするユーザー名は，事前に登録が必要です。ユーザーの登録については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理機能の設定の章を参照してください。

JP1/IM - Manager にログインする場合，一つのビューアーからは，最大三つの異なるマネージャーにログインできます。

4.1.2 JP1/IM - Manager にコマンドでログインする

(1) JP1/IM - View を使用する

JP1/IM - Manager に jcoview コマンドでログインし，JP1/IM - View を使用する方法を次に示します。

次のコマンドを実行します。

- ログイン画面を起動する場合

  jcoview [-c][-s][-h 接続ホスト名][-u ユーザー名]

  引数を指定しなかった場合は，前回ログインしたときの情報が入力された状態でログイン画面が起動します。

  引数を指定した場合は，指定した値が入力された状態で [ログイン] 画面が起動します。

- ログインする場合

  jcoview [-c][-s][-h 接続ホスト名][-u ユーザー名][-p パスワード]

  引数をすべて指定した場合は，JP1/IM - Manager の JP1/IM - Central Console，JP1/IM - Central Scope 両方にログインします。-c だけ指定した場合は JP1/IM - Central Console に，-s だけ指定した場合は JP1/IM - Central Scope にログインします。-c，-s 両方とも省略した場合は JP1/IM - Central Console にログインします。

  ユーザーが認証されると，[ログイン] 画面は表示されません。指定した引数に従って [イベントコンソール] 画面，[監視ツリー] 画面が表示されます。

GUI でログインする方法については，「4.1.1 JP1/IM - Manager に GUI でログインする」を参照してください。また，jcoview コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoview（Windows 限定)」(1. コマンド）を参照してください。

(2) IM 構成管理・ビューアーを使用する

JP1/IM - Manager に jcfview コマンドでログインし，IM 構成管理・ビューアーを使用する方法を次に示します。

次のコマンドを実行します。

- ログイン画面を起動する場合

  jcfview [-h 接続ホスト名][-u ユーザー名]

  引数を指定しなかった場合は，前回ログインしたときの情報が入力された状態でログイン画面が起動します。

  引数を指定した場合は，指定した値が入力された状態で［ログイン］画面が起動します。

- ログインする場合

  jcfview [-h 接続ホスト名][-u ユーザー名][-p パスワード]

  引数をすべて指定した場合は，JP1/IM - Manager の IM 構成管理にログインします。

  ユーザーが認証されると，［ログイン］画面は表示されません。指定した引数に従って［IM 構成管理］画面が表示されます。

GUI でログインする方法については，「4.1.1　JP1/IM - Manager に GUI でログインする」を参照してください。また，jcfview コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcfview（Windows 限定)」(1.　コマンド）を参照してください。

4.2 JP1/IM - Manager からログアウトする

JP1/IM - Manager からログアウトする場合は，次の方法でログアウトしてください。

JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）からログアウトする場合

- ［イベントコンソール］画面で［ファイル］－［終了（ログアウト）］を選択する。
- ［イベントコンソール］画面の右上の×ボタンをクリックする。

JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）からログアウトする場合

- ［監視ツリー］画面で［ファイル］－［終了（ログアウト）］を選択する。
- ［監視ツリー］画面の右上の×ボタンをクリックする。

JP1/IM - Manager（IM 構成管理）からログアウトする場合

- ［IM 構成管理］画面で［ファイル］－［終了（ログアウト）］を選択する。
- ［IM 構成管理］画面の右上の×ボタンをクリックする。

上記方法で起動中の画面が終了します。ただし，統合機能メニューから起動した画面とモニター画面は終了しません。これらの画面は，個別に終了させてください。

WWW ブラウザーを使用してログインしている場合，およびコマンドでログインしている場合も，同じ操作でログアウトします。ログアウトせずに終了した場合，マネージャー上にログイン情報が残った状態になり，最終的にマネージャーのリソース不足になることがあります。必ずログアウト操作で終了してください。

5 セントラルコンソールによるシステムの監視

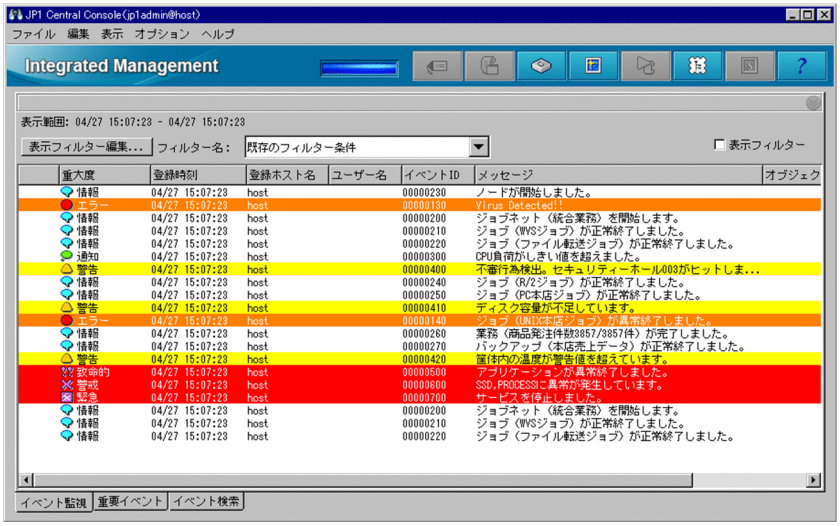
この章では，JP1/IM - View を使用して JP1 イベントを監視する手順について説明します。

5.1　JP1 イベントによりシステムを監視する

受信した JP1 イベントは，［イベントコンソール］画面に表示されます。［イベントコンソール］画面は，JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）にログインすると表示されます。

［イベントコンソール］画面の表示例を次に示します。

図 5-1　［イベントコンソール］画面（［イベント監視］ページ）の表示例



5.1.1　JP1 イベントの見方

［イベントコンソール］画面には，ログインしているマネージャーのイベント DB に登録されている JP1 イベントが表示されます。新しい JP1 イベントはイベント一覧の下に追加されます。到着日時が最も新しい JP1 イベントが，イベント一覧の最も下に表示されます。

(1)　イベント一覧の表示項目

イベント一覧には，JP1 イベントの属性，および対処状況が表示されます。イベントの属性として，基本属性または共通の拡張属性の代わりに固有の拡張属性を表示することもできます。

イベント一覧に表示される項目の列幅は，マウスでドラッグすることによって任意の幅に変更できます。一つのページ（例：［イベント監視］ページ）で列幅を変更すると，ほかの二つのページ（例：［重要イベント］ページおよび［イベント検索］ページ）の列幅も変更されます。

また，［イベント監視］ページ，［重要イベント］ページおよび［イベント検索］ページに表示される特定のイベントに背景色が付くように設定できます。背景色が付く対象となるイベントは，重大度が「緊急（Emergency）」，「警戒（Alert）」，「致命的（Critical）」，「エラー（Error）」および「警告（Warning）」のイベントです。

重大度変更機能を使用して重大度を変更した場合，変更後の重大度でイベントの背景色を設定します。

なお，重大度変更機能は，統合監視 DB を使用する場合に設定できます。

統合監視 DB を設定する方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4.2　統合監視 DB の設定」を参照してください。

重大度変更機能を設定する方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.11　重大度変更機能の設定」を参照してください。

ログアウト時の各表示項目の列幅を保存するかどうか，および特定のイベントに背景色を付けるかどうかは，[ユーザー環境設定] 画面で設定できます。[ユーザー環境設定] 画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.22　[ユーザー環境設定] 画面」を参照してください。

(a)　JP1 イベントの属性

イベント一覧には，各イベントの属性（基本属性または共通の拡張属性）が表示されます。デフォルトでは，重大度，登録時刻，登録ホスト名，ユーザー名，イベント ID，メッセージ，オブジェクトタイプ，およびアクションが表示されています。イベント一覧の表示項目は，[ユーザー環境設定] 画面で変更できます。表示項目の変更方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.22　[ユーザー環境設定] 画面」を参照してください。

イベント一覧に表示できる項目（列）は，イベント属性のうち，次のものです。

表 5-1　イベント一覧の表示項目

属性	説明
対処状況表示項目	JP1 イベントの対処状況を示す情報（対処済，処理中，保留，未処理）が表示されます。集約イベントの対処状況と，繰り返しイベントの対処状況が異なる場合には，「!」が表示されます。
集約状態	繰り返しイベントの監視抑止または繰り返しイベントの集約表示を使用している場合にだけ表示され，集約イベントの繰り返し回数が表示されます。 集約中イベントの場合は，集約中であることを示す「+」が，繰り返し回数の後ろに表示されます。
重大度	JP1 イベントの緊急性を示します。緊急性の高い順に，次の値があります。「緊急（Emergency）」，「警戒（Alert）」，「致命的（Critical）」，「エラー（Error）」，「警告（Warning）」，「通知（Notice）」，「情報（Information）」，「デバッグ（Debug）」 なお，統合監視 DB を使用する場合に，重大度変更機能で重大度を変更したときは，変更したあとの JP1 イベントの緊急性を表します。
登録時刻	イベント発行元ホストのイベント DB に JP1 イベントが登録された時刻です。
登録ホスト名	JP1 イベントを登録したエージェント名（イベントサーバ名）です。
発生元ホスト名	JP1 イベントの発行契機となった事象が発生したホストの名称です。 統合監視 DB を使用し，発生元ホストのマッピングを有効にしたときに表示されます。
ユーザー名	JP1 イベント発行元のユーザー名です。
イベント ID	発行元のプログラムや，発生した事象を表す値です。

属性	説明
メッセージ	JP1 イベントの内容を表すメッセージテキストです。
オブジェクトタイプ	イベント発行の契機となる事象が発生したオブジェクトの種類を表す「JOB」,「JOBNET」などの文字列です。
アクション	自動アクションが設定されていて，イベントがアクション実行の対象となった場合に，アクションマーク  （抑止されなかったアクション），  （抑止されたアクション），または  （一部抑止されたアクション）が表示されます。 また，繰り返しイベントの監視抑止でアクションの実行を抑止している場合にイベントが大量発生したとき，［イベントコンソール］画面に  が表示されます。 繰り返しイベントの監視抑止，または繰り返しイベントの集約表示でイベントを集約して表示している場合，集約イベントのアクション状況と，繰り返しイベントのアクション状況が異なるときには，「!」が表示されます。
プロダクト名	JP1 イベントを発行したプログラムの名称です。
オブジェクト名	イベント発行の契機となる事象が発生したオブジェクト（ジョブ，ジョブネットなど）の名称です。
登録名タイプ	オブジェクトの種別です。通常はオブジェクトタイプと同じですが，ジョブネットとジョブのように階層のある業務の場合は，最上層のオブジェクトの種別が表示されます。
登録名	オブジェクトの名称です。通常はオブジェクト名と同じですが，ジョブネットとジョブのように階層のある業務の場合は，最上層のオブジェクトの名称が表示されます。
到着時刻	接続しているマネージャーのイベント DB に JP1 イベントが到着した時刻です。 ［イベント検索］ページの場合は，検索対象ホストのイベント DB に登録された時刻です。
開始時刻	実行を開始した時刻をビューアーのタイムゾーンで表示します。
終了時刻	実行を終了した時刻をビューアーのタイムゾーンで表示します。
事象種別	オブジェクトに対して起こった事象（実行開始，定義作成など）を表示します。
イベント DB 内通し番号	発行元に関係なくこのイベントサーバに到達した順番です。
発行元プロセス ID	発行元アプリケーションプログラムのプロセス ID です。
発行元ユーザー ID	発行元プロセスのユーザー ID です。Windows からのイベントの場合は-1 となります。
発行元グループ ID	発行元プロセスのグループ ID です。Windows からのイベントの場合は-1 となります。
発行元ユーザー名	発行元プロセスのユーザー名です。
発行元グループ名	発行元プロセスのグループ名です。Windows からのイベントの場合は空白となります。
発行元イベント DB 内通し番号	発行元ホストでのイベント DB 内通し番号です（転送によって値は変化しません）。
種別	JP1 イベントのイベント種別です。 相関成立のアイコン  および相関不成立のアイコン  が表示されます。 繰り返しイベントの監視抑止で，イベントを抑止している場合にイベントが大量発生したとき，［イベントコンソール］画面の各タブにイベントが大量発生したことを表す  が表示されます。
アクション種別	アクションの種別です。

属性	説明
	アクション種別を示すアイコン （コマンド），（ルール）が表示されます。
重大度（変更前）	変更する前の重大度です。 統合監視 DB を使用し，重大度変更機能を有効にしたとき設定できます。
重大度変更	重大度を変更した場合に を表示します。 統合監視 DB を使用し，重大度変更機能を有効にしたとき表示されます。
メモ	JP1 イベントにメモ情報がある場合に を表示します。 統合監視 DB を使用し，メモ情報の設定機能を有効にしたとき設定できます。

(b)　JP1 イベントの固有の拡張属性

イベント一覧の表示項目（基本属性または共通の拡張属性）の欄に，固有の拡張属性の内容を表示できます。例えば，SNMP トラップが JP1 イベントに変換されてイベント一覧に表示される場合に，登録ホストの欄に SNMP トラップ発行元ホスト名を表示できます。

固有の拡張属性が表示されているときは，表示された属性値の先頭に「# 」（シャープ記号と半角の空白）が表示されます。

固有の拡張属性を表示するには，表示項目と固有の拡張属性とをマッピングしておく必要があります。固有の拡張属性のマッピングの詳細については，「5.1.3　JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する（イベント情報のマッピング）」を参照してください。

(c)　JP1 イベントの対処状況

イベント一覧に表示されているすべてのイベントの左端の列に，イベントへの対処状況（「対処済」，「処理中」，および「保留」）を示す対処状況マークを表示できます。対処状況マークを表示する方法については，「5.1.4　JP1 イベントの対処状況を表示する」を参照してください。

なお，繰り返しイベントの監視抑止機能または繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合で，集約イベントの対処状況と，繰り返しイベントの対処状況が異なる場合には，「!」が表示されます。

(2)　画面に表示されるイベント

画面に表示されるイベント

画面に表示されるイベントには，通常の JP1 イベント，集約イベント（集約中イベント，集約完了イベントを含む）および相関イベントがあります。

- 集約イベント

  ［集約状態］に繰り返し回数や，集約中であることを示す「+」が表示されます。

  集約イベントの表示・操作については，「5.1.8　同じ属性のイベントが連続して発生した場合に集約イベントとして表示する」を参照してください。
- 相関イベント

［種別］にアイコン  ，  が表示されます。

相関イベントの表示・操作については，「5.1.10　相関イベントを表示および操作する」を参照してください。

画面に表示できるイベント数

画面に表示できるイベント数は，［ユーザー環境設定］画面の［スクロールバッファー］に指定した値です。表示できる JP1 イベント数の上限は 2,000 件です。

統合監視 DB を使用すると，統合監視 DB に保存されているすべてのイベントを表示できます。［表示開始位置指定］領域にあるスライダーでイベント表示位置を移動する，または時間を指定することで表示できます。統合監視 DB の設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4.2　統合監視 DB の設定」を参照してください。

JP1 イベントの数が，表示できる JP1 イベントの数の上限を超えると次の動作となります。

［イベント監視］ページ

対処状況の状態にかかわらず，最も到着時刻が古い JP1 イベントから消去されます。

［重要イベント］ページ

対処状況が対処済で，最も到着時刻の古い JP1 イベントから消去されます。

対処済の重要イベントがない場合は，対処状況の状態にかかわらず，到着時刻が古い JP1 イベントから消去されます。

画面から消去された JP1 イベントも，イベント DB には登録されています。画面から消去された JP1 イベントを参照する場合は，JP1 イベントを検索してください。JP1 イベントの検索方法については，「5.5 JP1 イベントを検索する」を参照してください。

画面起動時に表示される JP1 イベント

画面を起動したときに表示される JP1 イベントは，次のどちらかの条件に合う最新の JP1 イベントです。

- ログインしているマネージャーの起動後，画面を起動するまでに発生した JP1 イベント
- `jcoimdef` コマンドで設定した「イベント DB からのイベント取得開始位置」から，ログインしているマネージャーの起動時までに発生した JP1 イベント

画面を起動したときに表示される JP1 イベントの件数は，次の値のどちらか小さい方を上限とします。

- ［システム環境設定］画面の［イベントバッファー］に指定した値（イベントバッファー数）
- ［ユーザー環境設定］画面の［スクロールバッファー］に指定した値（スクロールバッファー数）

なお，JP1 イベントの件数には，内部的に使用する連絡用イベント※も含まれます。そのため，初期表示時には，表示される JP1 イベントの件数が上限値に達しない場合もあります。

注※　連絡用イベント

重要イベントの対処状況を変更や削除したとき，および自動アクションを実行したときに内部的に発行されるイベントで，画面には表示されない。

イベント一覧の更新

イベント一覧は，ユーザーが設定した更新間隔で更新され，最新の JP1 イベントが表示されます。ただし，自動更新をしない設定にしている場合は，画面を起動しても，最新の JP1 イベントが表示されません。この場合に，最新の JP1 イベントを表示するには，［表示］－［最新情報に更新］を選択します。

自動更新するかどうか，および自動更新の間隔は，［ユーザー環境設定］画面で設定します。

(3)　フィルターの適用

フィルターを適用することで［イベントコンソール］画面に表示される JP1 イベントを制限できます。

イベント取得フィルターが設定されている場合は，JP1/IM - Manager が JP1/Base から取得する JP1 イベントが制限されます。

ユーザーフィルターが設定されている場合は，ログインしているユーザーによって，表示される JP1 イベントが制限されます。

表示フィルターが設定されている場合は，［フィルター名］リストボックスから適用するフィルターを選択し，［表示フィルター］チェックボックスをチェックすることで，設定されているフィルターの条件に一致する JP1 イベントだけが表示されます。

重要イベントだけを表示するには，［重要イベント］ページに切り替えます。重要イベントを受信すると，画面上部のランプの色が赤に変わります。［重要イベント］ページで，すべての重要イベントを対処済にする，削除する，または重要イベントを解除すると，ランプの色が青に戻ります。［重要イベント］ページについては，「5.1.5　重要イベントだけを表示する」を参照してください。

［イベントコンソール］画面で選択中のページ（［イベント監視］ページ，［重要イベント］ページ）の表示フィルター，および［表示フィルター］チェックボックスの適用状態の保存を設定すると，JP1/IM - View のログアウト時に保存し，ログイン時に復元して表示されます。

5.1.2　JP1 イベントの詳細情報を表示する

イベント一覧に表示されている JP1 イベントの詳細な属性情報を表示できます。

詳細情報を表示するには，［イベントコンソール］画面のイベント一覧で，属性を表示したい JP1 イベントをダブルクリックします。［イベント詳細］画面が表示されます。

［イベント詳細］画面には，イベント属性，メッセージ，イベントガイド情報およびメモが表示されます。

［イベント属性］には，その JP1 イベントに登録されているイベント属性名と属性値が表示されます。登録されている属性は，その JP1 イベントによって異なります。

イベント一覧上で前後に並んでいる JP1 イベントの詳細情報を表示したい場合は，［前イベント］または［次イベント］のボタンをクリックします。

次のどれかの方法でも，JP1 イベントの詳細を表示できます。

- ［イベントコンソール］画面で JP1 イベントを選択し，［表示］－［イベント詳細表示］を選択する。
- ［イベントコンソール］画面で JP1 イベントを選択し，ポップアップメニューから［イベント詳細表示］を選択する。
- ［イベントコンソール］画面で JP1 イベントを選択し，ツールバーからイベント詳細表示ボタンをクリックする。

詳細情報として表示される項目を次に示します。

表 5-2　JP1 イベントの詳細情報

表示名	内容
イベント DB 内通し番号	発行元に関係なくこのイベントサーバに到達した順番。
イベント ID	発行アプリケーションプログラムや事象の内容を表す値。
発行元プロセス ID	発行元アプリケーションプログラムのプロセス ID。
登録時刻	発行元イベントサーバでの登録時刻。
到着時刻	自イベントサーバでの登録時刻。
発行元ユーザー ID	発行元プロセスのユーザー ID。Windows からのイベントの場合は-1 となる。
発行元グループ ID	発行元プロセスのグループ ID。Windows からのイベントの場合は-1 となる。
発行元ユーザー名	発行元プロセスのユーザー名。
発行元グループ名	発行元プロセスのグループ名。Windows からのイベントの場合は空白となる。
発行元イベントサーバ名	発行元のイベントサーバ名（イベント一覧では，「登録ホスト名」と表示される）。イベントが，JP1/Base(エージェント)→JP1/IM - Manager(拠点マネージャー)→JP1/IM - Manager(統合マネージャー)のように転送された場合でも，最初の JP1/Base のイベントサーバ名が入る。
発行元 IP アドレス	発行元イベントサーバに対応する IP アドレス。
発行元イベント DB 内通し番号	発行元ホストでのイベント DB 内通し番号（転送によって値は変化しない）。
メッセージ	イベントの内容を表した文字列。
重大度	JP1 イベントの緊急性を表す。緊急性の高い順に，次の値がある。 「緊急（Emergency）」，「警戒（Alert）」，「致命的（Critical）」，「エラー（Error）」，「警告（Warning）」，「通知（Notice）」，「情報（Information）」，「デバッグ（Debug）」 なお，統合監視 DB を使用する場合に，重大度変更機能で重大度を変更したときは，変更したあとの JP1 イベントの緊急性を表す。

表示名	内容
ユーザー名	業務を実行しているユーザー名。
プロダクト名	JP1 イベントを発行したプログラム名。
オブジェクトタイプ	イベント発行の契機となったオブジェクトの種類を表す名称。
オブジェクト名	イベント発行の契機となったオブジェクト（ジョブ，ジョブネットなど）の名称。
登録名タイプ	オブジェクトの種別。通常はオブジェクトタイプと同じだが，ジョブネットなど階層のあるオブジェクトの場合，最上層のオブジェクトの種別となる。値の範囲はオブジェクトタイプと同じ。
登録名	ユーザーの操作時に実行を指示する単位になる名称。通常はオブジェクト名と同じだが，ジョブネットなど階層のあるオブジェクトの場合，最上層のオブジェクトの名称になる。
オブジェクト ID	アクションの契機となったイベントのイベント DB 内通し番号。
事象種別	オブジェクト名に示したオブジェクトに対して起こった事象。
開始時刻	実行開始または再実行開始の時刻。
終了時刻	実行終了の時刻。
終了コード	コマンドの実行結果。
ガイド	JP1 イベントに対応したイベントガイド情報。 イベントガイド表示を有効にしている場合に表示される。なお，JP1 イベントに対応するイベントガイド情報がない場合は「KAVB1588-I」のメッセージが表示される。
関連イベント DB 内通し番号	相関元イベントのイベント DB 内通し番号を半角スペースで区切ったもの。次の形式で表示される。 **イベント DB 内通し番号△イベント DB 内通し番号△イベント DB 内通し番号・・・**
相関イベント発行条件名	成立した相関イベント発行条件名。
重大度（変更前）	統合監視 DB を使用する場合に，重大度変更機能で重大度を変更したとき，変更する前の JP1 イベントの緊急性を表す。緊急性の高い順に，次の値がある。 「緊急（Emergency）」，「警戒（Alert）」，「致命的（Critical）」，「エラー（Error）」，「警告（Warning）」，「通知（Notice）」，「情報（Information）」，「デバッグ（Debug）」
発生元ホスト名	JP1 イベントの発行契機となった事象が発生したホストの名称。 統合監視 DB を使用し，発生元ホストのマッピングを有効にしたときに表示される。
メモ	統合監視 DB を使用し，メモ情報の設定機能を有効にしたとき，メモ情報を表示する。
監視抑止 ID	発生件数がしきい値以上になった繰り返しイベントのイベント DB 内通し番号。繰り返しイベントの監視抑止機能を使用している場合に，文字列形式で表示される。
繰り返しイベント条件名	繰り返しイベントと判断した繰り返しイベントの条件名。繰り返しイベントの監視抑止機能を使用している場合に，文字列形式で表示される。

なお，重大度以降の項目は，イベントによって表示されない場合があります。

5.1.3 JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する（イベント情報のマッピング）

イベント一覧の表示項目（基本属性または共通の拡張属性）の欄に，固有の拡張属性の内容を表示できます。

例を次に示します。

マッピング定義の設定

次に示すマッピング定義が設定されています。

イベント情報マッピング定義 1

固有の拡張属性「LOGHOST」を「登録ホスト名」にマッピング

マッピング対象のイベント ID：12E0

イベント情報マッピング定義 2

固有の拡張属性「LOGTIME」を「到着時刻」にマッピング

マッピング対象のイベント ID：12E0

発行されたイベント

次の内容のイベントが発行されました。

表 5-3　イベント発行内容

項番	属性	内容
1	重大度	エラー
2	登録時刻	2001/10/30 17:47:31
3	到着時刻	2001/10/30 17:47:39
4	登録ホスト名	host_A
5	ユーザー名	jp1nps
6	イベント ID	000012E0
7	メッセージ	KAJC391-E …
8	LOGHOST	loghost_1
9	LOGTIME	1003976997※

注※　時刻形式では，2001/10/25 11:29:57 になります。

［イベントコンソール］画面での表示

通常，［イベントコンソール］画面のイベント一覧では，上記の表の項番 1～項番 7 の内容が表示されますが，項番 8 を項番 4 に，項番 9 を項番 3 にマッピングしているため，次のように表示されます。

表 5-4　［イベントコンソール］画面での表示

重大度	登録時刻	到着時刻	登録ホスト名	ユーザー名	イベント ID	メッセージ
エラー	10/25 17:47:31	# 10/25 11:29:57	# loghost_1	jp1nps	000012E0	KAJC391-E …

固有の拡張属性を表示するには，［イベント情報マッピング定義］画面で表示項目と固有の拡張属性とをマッピングします。［イベント情報マッピング定義］画面を起動するには，JP1_Console_Admin 権限が必要です。また，業務グループの参照・操作制限を設定している場合，JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2)　JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

参考

イベント情報マッピングと発生元ホストのマッピングの違いについて

イベント情報マッピングは，JP1 イベントの拡張属性の属性値をイベント一覧の表示項目の属性にマッピングして表示する機能です。イベント一覧の「登録ホスト名」に，別の属性値を表示できます。ただし，この機能は，イベント一覧上の表示の変更に限るため，アクションやイベント相関などのイベント条件には利用できません。

これに対し，発生元ホストのマッピングは，JP1/IM - Manager が取得した JP1 イベントのホスト名と発生元ホスト名を登録し，JP1 イベントを監視・管理するための機能です。イベント一覧の「発生元ホスト名」に表示でき，アクションやイベント相関などのイベント条件にも利用できます。ただし，統合監視 DB を使用し，発生元ホストのマッピングを有効にする必要があります。

固有の拡張属性をマッピングする手順は次のとおりです。

1. **［イベントコンソール］画面で［オプション］－［イベント情報マッピング定義］を選択する。**
   ［イベント情報マッピング定義］画面が表示されます。
   ［定義一覧］には，現在設定されているマッピング定義情報の一覧が表示されています。
   最大で 16 個のマッピング定義ができます。

2. **イベント情報マッピングを有効にするために，［マッピング］の［する］を選択する。**

3. **新規にマッピングを定義するには，［追加］ボタンをクリックする。定義済みのマッピング情報を変更するには，［定義一覧］リストの項目を選択してから［編集］ボタンをクリックするか，［定義一覧］リストの項目をダブルクリックする。**
   ［イベント情報マッピング詳細定義］画面が表示されます。

4. **［表示項目］から，イベント一覧のどの表示項目に固有の拡張属性をマッピングするかを選択する。**
   選択できる項目は，［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページ，［重要イベント］ページ，および［イベント検索］ページのイベント一覧に表示できる次の項目です。
   発行元プロセス ID，到着時刻，発行元ユーザー ID，発行元グループ ID，発行元ユーザー名，発行元グループ名，登録ホスト名，発行元イベント DB 内通し番号，重大度，ユーザー名，プロダクト名，オブジェクトタイプ，オブジェクト名，登録名タイプ，登録名，事象種別，開始時刻，終了時刻
   - 指定例：登録ホスト名

5. [固有の拡張属性名] に，マッピングする固有の拡張属性の名前を指定する。

指定できる文字は，32 文字までの，半角英大文字，半角数字，および半角のアンダーバーです。拡張属性を表す「E」は不要です。

一つの表示項目には，一つだけの固有の拡張属性をマッピングできます。

到着時刻，開始時刻，および終了時刻に固有の拡張属性をマッピングするときは，属性値が数値（UTC 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの秒数 0～2,147,483,647）である属性名を指定します。数値以外，または範囲外の数値を持つ属性を指定した場合は，元の属性が表示されます。

- 指定例：LOGHOST

6. [イベント ID] に，マッピングする JP1 イベントのイベント ID を指定する。

指定できる文字は，1,000 文字までの，A～F または a～f の半角英字，半角数字，および半角のコンマです。16 進数で指定します。指定できる範囲は，00000000～7FFFFFFF です。

複数のイベント ID を指定する場合は，コンマで区切って 100 個まで指定できます。

- 指定例 1：3FFF
- 指定例 2：12345B,7FFFFFFF

7. [OK] ボタンをクリックする。

［イベント情報マッピング詳細定義］画面が閉じ，設定した内容が［イベント情報マッピング定義］画面に反映されます。

8. [イベント情報マッピング定義] 画面で［適用］ボタンをクリックする。

［適用］ボタンがクリックされたあとに到着したイベントから，このマッピング定義に沿って固有の拡張属性が表示されます。

表示フィルター，重要イベントフィルター，ユーザーフィルターを使用するときは，マッピングした固有の拡張属性を指定して JP1 イベントをフィルタリングできます。

固有の拡張属性が表示されているときは，表示された属性値の先頭に「# 」（シャープ記号と半角の空白）が表示されます。

表示されている固有の拡張属性をフィルター条件として指定する場合は，「# 」を入力する必要はありません。

また，［ユーザー環境設定］画面の［カラーリング］で［有効］チェックボックスをチェックしていた場合，イベントの重大度に基づいてイベントの行に背景色がつきます。

［イベント情報マッピング定義］画面で設定内容を変更した場合は，その変更内容が，同じ JP1/IM - Manager に接続されているすべての JP1/IM - View のイベント一覧に反映されます。

マッピングされる前の情報を参照するには，マッピングされたイベントを選択してから［イベント詳細］画面を表示します。［イベント詳細］画面に，マッピングされる前の情報が表示されます。なお，イベント拡張属性定義ファイルを使用すれば，［イベント詳細］画面に，固有の拡張属性を表示できます。詳細については，次の説明を参照してください。

イベント拡張属性定義ファイルを使った固有の拡張属性の表示について

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.11　ユーザー独自のイベント属性の表示」

イベント拡張属性定義ファイルについて

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「イベント拡張属性定義ファイル」（2.　定義ファイル）

なお，固有の拡張属性をマッピングする場合には，次の点に注意してください。

- イベント検索では，統合監視 DB またはイベントサービスのイベント DB に対して検索がかけられるため，マッピングされる前のイベントに対して検索が行われます。したがって，検索結果には，マッピング情報は反映されません。マッピング対象のイベントを検索する場合は，［イベント検索条件設定］画面の［固有の拡張属性］欄を使用して，マッピングする固有の拡張属性の情報を指定します。
- ［関連イベント一覧］画面に表示される関連イベントは，イベント検索の結果であるため，マッピング情報が反映されません。
- 固有の拡張属性がマッピングされたイベントを選択してから［イベント検索条件設定］画面などで［選択イベント条件入力］ボタンをクリックした場合は，マッピング先の表示項目の属性および固有の拡張属性の値は，条件一覧に入力されません。

5.1.4　JP1 イベントの対処状況を表示する

［イベントコンソール］画面のイベント一覧に表示されているすべてのイベントについて，左端の列にイベントへの対処状況を示す対処状況マークを表示できます。

対処状況の種類と，その対処状況を示す対処状況マークを次に示します。

表 5-5　対処状況の種類と対処状況マーク

対処状況	対処状況マーク
対処済	
処理中	
保留	
未対処	（無印）
異なる対処状況※	!

注※

繰り返しイベントの監視抑止機能または繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合で，集約イベントの対処状況と，繰り返しイベントの対処状況が異なる状況を指します。

繰り返しイベントの監視抑止機能を使用している場合，1 件目（最も古い繰り返しイベント）から 100 件目までの繰り返しイベントの対処状況が異なるときに「!」が表示されます。1 件目（最も古い繰り返しイベント）から 100 件目までの繰り返しイ

ベントの対処状況が同じ場合，「!」は表示されません。101 件以上集約している場合，101 件目以降の繰り返しイベントの対処状況が異なっていても，「!」は表示されません。
繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合，繰り返しイベントの対処状況が異なると「!」が表示されます。

イベントに対処状況を設定するには，［イベント監視］ページのイベント一覧でイベントを選択してから，次のどちらかの操作をします。検索ホストが，ログインしているマネージャーの場合，［重要イベント］ページおよび［イベント検索］ページからも対処状況を変更できます。

選択したイベントがどの対処状況であっても，設定の操作ができます。なお，これらの操作には，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

- メニューバーから［表示］を選択し，サブメニューの中から設定したい対処状況を選ぶ。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから，設定したい対処状況を選ぶ。

［イベント監視］ページで設定した重要イベントの対処状況を示す情報（対処済，処理中，保留，未対処）は，［重要イベント］ページに表示されている同一イベントにも反映されます。なお，［イベント監視］ページ，［重要イベント］ページで設定したイベントの対処状況を示す情報は，［イベント検索］ページに表示されている同一イベントには反映されません。別の JP1/IM - View で設定したイベントの対処状況を示す情報も，［イベント検索］ページに表示されている同一イベントには反映されません。

イベントへの対処状況を示す情報（対処済，処理中，保留，未対処）は，ログインしているマネージャーの統合監視 DB またはイベント DB に記録されます。そのため，対処状況を変更すると，同じマネージャーにログインしているほかの JP1/IM - View の［イベント監視］ページの表示も変更されます（重要イベントの場合は，［重要イベント］ページの表示も変更されます）。ほかのホストから転送されてきたイベントの場合，転送元ホストの統合監視 DB またはイベント DB の情報は変更されません。

5.1.5　重要イベントだけを表示する

画面に重要イベントだけを表示するには，［イベントコンソール］画面の［重要イベント］ページを選択します。［重要イベント］ページのイベント一覧には，［イベント監視］ページに表示されている JP1 イベントのうち，重要イベントだけが表示されます。

［重要イベント］ページのイベント一覧では，左端の列に重要イベントへの対処状況を示す対処状況マークが表示されます。

繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合には，自動的に JP1 イベントの対処状況マークが表示されます。

対処状況の種類と，その対処状況を示す対処状況マークを次に示します。

表 5-6　対処状況の種類と対処状況マーク

対処状況	対処状況マーク
対処済	

対処状況	対処状況マーク
処理中	
保留	
未対処	（無印）
異なる対処状況※	！

注※

繰り返しイベントの監視抑止機能または繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合で，集約イベントの対処状況と，繰り返しイベントの対処状況が異なる状況を指します。

繰り返しイベントの監視抑止機能を使用している場合，1 件目（最も古い繰り返しイベント）から 100 件目までの繰り返しイベントの対処状況が異なるときに「!」が表示されます。1 件目（最も古い繰り返しイベント）から 100 件目までの繰り返しイベントの対処状況が同じ場合，「!」は表示されません。101 件以上集約している場合，101 件目以降の繰り返しイベントの対処状況が異なっていても，「!」は表示されません。

繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合，繰り返しイベントの対処状況が異なると「!」が表示されます。

どのようなときにそれぞれのマークを使うかは，運用に合わせて決めてください。

どの JP1 イベントを重要イベントとするかは，管理者が定義できます。デフォルトでは，重大度が「緊急(Emergency)」，「警戒（Alert)」，「致命的（Critical)」，「エラー（Error)」の JP1 イベントが重要イベントとなっています。

[重要イベント］ページに表示されている重要イベントの数が，画面に表示できるイベント数の最大値を超えると，古い重要イベントから消去されます。このとき，最初に消去されるのは対処済の重要イベントです。対処済の重要イベントがない場合は，未対処，保留，処理中の重要イベントのうち最も古いイベントが削除されます。この場合は，状態にかかわらず，古い重要イベントから削除されます。なお，統合監視 DB を有効にすると，統合監視 DB に格納されているすべてのイベントを表示できます。イベントは，スライダーでイベント表示位置を移動して表示します。統合監視 DB の設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4.2　統合監視 DB の設定」を参照してください。

また，繰り返しイベントの監視抑止機能を使用している場合，イベント一覧から集約イベントを削除すると，1 件目（最も古い繰り返しイベント）から 100 件目までの繰り返しイベントのうち，削除されていない繰り返しイベントを削除します。101 件目以降の繰り返しイベントは，削除されません。また，繰り返しイベントを削除しても，集約件数は減少しません。

表示フィルターが設定されている場合は，表示する JP1 イベントをさらに絞り込むことができます。[フィルター名］リストボックスから適用するフィルターを選択し，［表示フィルター］チェックボックスをチェックします。それによって，設定されているフィルターの条件に一致する JP1 イベントだけが表示されます。

[ユーザー環境設定］画面の［カラーリング］で［有効］チェックボックスをチェックしていた場合，イベントの重大度に基づいてイベントの行に背景色がつきます。

5.1.6　繰り返しイベント条件を設定して大量発生したイベントの監視を抑止する

繰り返しイベントの監視抑止を使用する場合，指定した条件に一致する JP1 イベントを集約して，［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページに表示できます。繰り返しイベントの監視抑止は，［繰り返しイベント条件設定］画面で設定できます。

繰り返しイベントの監視抑止の概要については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.4　繰り返しイベントの表示抑止」，「3.5　大量発生イベントの監視抑止」を参照してください。

また，繰り返しイベントの監視抑止を有効にする手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.3　繰り返しイベントの監視抑止の設定」を参照してください。

(1)　自動アクションが設定された繰り返しイベントのアクションを繰り返しイベントの監視抑止を使って抑止する

繰り返しイベントの監視を抑止するには，［繰り返しイベント条件設定］画面で，繰り返しイベントの条件を設定します。システム構築時にあらかじめ繰り返しイベント条件を設定することで，システム運用中に発生した繰り返しイベントを抑止できます。また，繰り返しイベントに自動アクションが設定されていた場合，不要なアクションを抑止するように設定できます。

1. ［イベントコンソール］画面のメニューから［オプション］－［繰り返しイベント条件設定］を選択する。
   ［繰り返しイベント条件一覧］画面が表示されます。

2. ［追加］ボタンをクリックする。
   ［繰り返しイベント条件設定］画面が表示されます。

3. ［繰り返しイベント条件設定］画面の［基本設定］ページで繰り返しイベント条件を設定する。
   このとき条件に設定できる属性名は，繰り返しイベント条件表示項目定義ファイル（event_storm_attr_list.conf）で定義できます。繰り返しイベント条件表示項目定義ファイルについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「繰り返しイベント条件表示項目定義ファイル（event_storm_attr_list.conf）」（2.　定義ファイル）を参照してください。繰り返しイベント条件の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.17　［繰り返しイベント条件設定］画面」を参照してください。

4. ［繰り返しイベント条件設定］画面の［基本設定］ページで抑止項目を設定する。
   抑止項目には，［繰り返しイベントのイベント一覧表示を抑止する］と［次のイベントをアクション対象外にする］があります。繰り返しイベントの自動アクションの実行を抑止する場合は，［次のイベントをアクション対象外にする］チェックボックスをチェックしたあと，アクション対象外にするイベン

トの範囲を指定してください。アクション対象外にするイベントの範囲は，［すべての繰り返しイベント］と［繰り返し開始イベント以外の繰り返しイベント］のどちらかから選択します。

［すべての繰り返しイベント］を選択した場合：

編集中の繰り返しイベント条件に一致するすべての抑止対象のイベントをアクション対象外にします。

［繰り返し開始イベント以外の繰り返しイベント］を選択した場合：

編集中の繰り返しイベント条件に一致する抑止対象のイベントのうち，抑止を開始する契機となったイベント（繰り返し開始イベント）以外をアクション対象外にします。

アクション対象外になる抑止対象のイベントについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.5.8　大量発生イベントの自動アクションの実行抑止」を参照してください。

新規で条件を追加する場合は，［繰り返しイベントのイベント一覧表示を抑止する］だけチェックされています。

5. ［OK］ボタンをクリックする。

繰り返しイベント条件が［繰り返しイベント条件一覧］画面に反映されます。繰り返しイベント条件は，［繰り返しイベント条件一覧］画面で確認できます。

6. ［繰り返しイベント条件一覧］画面の［適用］ボタンをクリックする。

7. 設定を反映してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［はい］ボタンをクリックする。

追加した繰り返しイベント条件が有効になります。

(2)　繰り返しイベントの監視抑止が継続されているか判定して処理する

時間（秒），または件数ごとに繰り返しイベントの監視抑止が継続されているかを判定して，継続されている場合に JP1 イベントを発行して通知したり，抑止を打ち切ったりできます。抑止が継続されているかを判定する契機，および抑止が継続していた場合の処理を指定する手順を示します。

1. ［イベントコンソール］画面のメニューから［オプション］－［繰り返しイベント条件設定］を選択する。

［繰り返しイベント条件一覧］画面が表示されます。

2. 次のどちらかの方法で［繰り返しイベント条件設定］画面を表示する。

- ［繰り返しイベント条件一覧］画面の［追加］ボタンをクリックする。
- ［繰り返しイベント条件一覧］画面に表示されている繰り返しイベント条件を選択して［編集］ボタンをクリックする。

3. ［繰り返しイベント条件設定］画面の［オプション］ページで，［抑止継続判定］の［有効］チェックボックスをチェックする。

4. 抑止が継続されているかを判定する契機を指定する。

［時間］と［件数］のどちらかを選択します。それぞれの違いについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.4.7　繰り返しイベントの表示抑止が継続されている場合の通知」を参照してください。

5. 抑止が継続されている場合の処理を選択する。

［抑止継続通知イベントを発行する］と［抑止を打ち切る］のどちらかを選択します。

［抑止を打ち切る］を選択した場合は，［抑止打ち切り通知イベントを発行する］をチェックすることで，抑止を打ち切ったことを通知する JP1 イベントを発行できます。

6. ［OK］ボタンをクリックする。

繰り返しイベント条件が［繰り返しイベント条件一覧］画面に反映されます。

7. ［繰り返しイベント条件一覧］画面の［適用］ボタンをクリックする。

8. 設定を反映してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［はい］ボタンをクリックする。

繰り返しイベント条件が有効になります。

(3)　運用中に発生した繰り返しイベントを使って繰り返しイベントの監視抑止を設定する

システム運用中に発生した繰り返しイベントを使って［繰り返しイベント条件設定］画面で繰り返しイベントの監視を抑止します。このとき設定した条件を追加繰り返しイベント条件といいます。

1. ［イベントコンソール］画面のイベント一覧で，監視を抑止したい JP1 イベントを選択する。

2. ［イベントコンソール］画面のメニューから［表示］－［繰り返しイベント条件で抑止］を選択するか，右クリックして表示されるメニューから［繰り返しイベント条件で抑止］を選択して，［繰り返しイベント条件設定］画面を表示する。

手順 1 で選択した JP1 イベントの属性が繰り返しイベント条件に自動的に設定された状態で，［繰り返しイベント条件設定］画面が表示されます。

自動的に設定される項目は，繰り返しイベント条件自動入力定義ファイル（event_storm_auto_list.conf）で変更できます。繰り返しイベント条件自動入力定義ファイル（event_storm_auto_list.conf）については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「繰り返しイベント条件自動入力定義ファイル（event_storm_auto_list.conf）」（2.　定義ファイル）を参照してください。

3. 必要な項目を［繰り返しイベント条件設定］画面で編集する。

4. ［OK］ボタンをクリックする。

追加繰り返しイベント条件が［繰り返しイベント条件一覧］画面に反映されます。運用中に追加した追加繰り返しイベント条件には，種別に 📎 アイコンが表示されます。

備考

繰り返しイベントの監視抑止は，条件に一致した JP1 イベントの発生件数がしきい値以上になった場合に集約表示を開始します。しきい値に到達していないイベントは，繰り返しイベントの監視抑止の対象とはなりません。繰り返しイベント条件に一致する JP1 イベントの発生件数が一定期間しきい値を下回った場合，イベントの集約が完了します。また，1 件のイベントに集約できるイベントは最大 1,000,000 件です。

(4) 追加繰り返しイベント条件を繰り返しイベント条件に変更する

システム運用中に追加した追加繰り返しイベント条件は，繰り返しイベント条件に変更できます。

1. [イベントコンソール] 画面のメニューから［オプション］－［繰り返しイベント条件設定］を選択して［繰り返しイベント条件一覧］画面を表示する。
2. [繰り返しイベント条件一覧] 画面の［繰り返しイベント条件一覧］で繰り返しイベント条件に変更したい追加繰り返しイベント条件（種別に アイコンが付いている条件）を選択する。
3. [種別変更] ボタンをクリックする。
4. 種別を変更してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［はい］ボタンをクリックする。

   選択した追加繰り返しイベント条件が，繰り返しイベント条件に変更されます。
5. [繰り返しイベント条件一覧] 画面の［適用］ボタンをクリックする。
6. 設定を反映してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［はい］ボタンをクリックする。

   追加した繰り返しイベント条件が有効になります。

5.1.7 大量発生イベントの転送を抑止する

イベントが大量に発生したときの対処として，エージェントからマネージャーへのイベント転送を抑止する手順について説明します。

各手順の概要については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.5.9 大量発生イベントの転送抑止」を参照してください。

また，各手順の検討項目については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「11.1.7 大量発生イベントの転送抑止の検討」を参照してください。

(1) イベントが大量発生しているエージェントからのイベント転送をマネージャーから抑止する

エージェントでイベントが大量に発生した場合の対処として，エージェントからのイベント転送をマネージャーから抑止します。

次に示す手順では，［イベントコンソール］画面からマネージャーホストに対し，コマンドの実行指示を出し，マネージャーホスト上でコマンドを実行します。コマンド実行に必要な条件を次に示します。

- JP1/IM - View からコマンドを実行する JP1 ユーザーが認証サーバに登録されている。
- JP1/IM - View からコマンドを実行する JP1 ユーザーに，次のどちらかの JP1 権限レベルが与えられている。
  - JP1_Console_Admin
  - JP1_Console_Operator
- JP1/Base の構成管理を使ったシステム構成の定義が済んでいる。
- マネージャーホストで JP1 ユーザーと OS ユーザーのマッピングが済んでいる。
- マネージャーホストで JP1 ユーザーとマッピングする OS ユーザーが，jevagtfw コマンドの実行権限を所有している。
  jevagtfw コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドの章を参照してください。

なお，次に示す手順では，［イベント詳細］画面の［コマンド］ボタンが有効に設定されていることを前提とします。［コマンド］ボタンを有効にする手順については，Windows の場合，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.16　コマンド実行環境の設定」，UNIX の場合，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.15　コマンド実行環境の設定」を参照してください。

また，発生元ホストのマッピングが有効に設定されていることを前提とします。発生元ホストのマッピングを有効にする手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.12　発生元ホストのマッピングの設定」を参照してください。

手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面のイベント一覧で，特定のエージェントから JP1 イベントが大量に出力されているのを確認する。
2. 該当の JP1 イベントの［イベント詳細］画面を表示する。
3. ［イベント詳細］画面のイベント属性に，発生元ホスト名が表示されているのを確認する。
4. ［イベント詳細］画面で，［コマンド実行］ボタンを選択する。
   ［コマンド実行］画面が表示されます。

5. [コマンド実行] 画面の [実行コマンド] に，jevagtfw コマンドを指定する。引数には，発生元ホスト名の変数を指定する。

   コマンド指定例

   ```
   jevagtfw -s $EV"JP1_SOURCEHOST"
   ```

   また，[コマンド実行] 画面の各設定項目が，次のとおり設定されていることを確認してください。

   - コマンド種別に [管理対象ホストのコマンド] が選択されている。
   - 引き継ぎ情報の [情報を引き継ぐ] が有効である。
   - 実行ホストにマネージャーのホスト名が設定されている。

6. [コマンド実行] 画面の [実行] ボタンをクリックする。

   [コマンド実行内容プレビュー] 画面が表示されます。

   実行されるコマンドの内容を確認してください。

7. [コマンド実行内容プレビュー] 画面の [実行] ボタンをクリックして，jevagtfw コマンドを実行する。

   指定したエージェントからのイベント転送が抑止されます。

   コマンド実行結果は，[コマンド実行] 画面の [実行結果] で確認できます。

8. イベントが大量に発生している原因を特定して問題を解決する。

   イベント転送を抑止している間に，イベント発生元のエージェントを調査して問題を解決してください。

> **参考**
>
> コマンドの実行方法には，[コマンド実行] 画面に [コマンド] ボタンを登録しておき，ボタン操作で実行する方法もあります。あらかじめ [コマンド] ボタンにjevagtfw コマンドを登録しておくことで，イベント転送の抑止をボタン操作で実行できるようになります。[コマンド] ボタンの登録方法については，「7.1.2 [コマンド] ボタンでコマンドを実行する」を参照してください。

(2) イベントを大量に発行しているログファイルトラップをマネージャーから停止する

ログファイルトラップでイベントが大量に発行された場合の対処として，IM 構成管理を使用して，マネージャーから特定のログファイルトラップを停止する手順を次に示します。

なお，次に示す手順では，IM 構成管理を使用して，エージェントのプロファイルを管理していることを前提とします。IM 構成管理のプロファイル管理の概要については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「6.5 プロファイルの管理」を参照してください。IM 構成管理のプロファイルの設定については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5 プロファイルの設定」を参照してください。

また，発生元ホストのマッピングが有効に設定されていることを前提とします。発生元ホストのマッピングを有効にする手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.12　発生元ホストのマッピングの設定」を参照してください。

1. ［イベントコンソール］画面のイベント一覧で，ログファイルトラップが発行した JP1 イベントが大量に出力されているのを確認する。
2. 該当の JP1 イベントの［イベント詳細］画面を表示する。
3. ［イベント詳細］画面のイベント属性に，発生元ホスト名および監視名※が表示されているのを確認する。

   注※

   ［イベント詳細］画面のイベント属性にログファイルトラップの監視名を表示するには，JP1/IM - Manager のバージョンが 10-50 以降，かつエージェントの JP1/Base のバージョンが 10-50 以降である必要があります。
4. IM 構成管理・ビューアー（IM 構成管理）にログインして，［IM 構成管理］画面を表示する。
5. ［IM 構成］タブをクリックして，［IM 構成］ページを表示する。
6. ツリー表示領域でログファイトラップの発生元ホスト名を選択して，［表示］メニューから［プロファイル表示］を選択する。

   該当ホストの［プロファイル表示/編集］画面が表示されます。
7. ツリー表示領域の［JP1/Base］を選択して，［編集］メニューから［排他編集設定］を選択する。

   プロファイルの排他編集権を獲得します。
8. ツリー表示領域の［ログファイルトラップ情報］から抑止対象のログファイルトラップの監視名を選択して，［操作］メニューから［プロセス停止］を選択する。

   ログファイルトラップを停止するかどうかを確認するメッセージが出力されます。
9. ［はい］ボタンをクリックする。

   ログファイルトラップが停止します。
10. ログが大量に発生している原因を特定して，問題を解決する。

    ログファイルトラップが停止している間に，ログの出力元のアプリケーションを調査して問題を解決してください。

(3)　しきい値を設定してエージェントからのイベント転送を自動的に抑止する

エージェントでイベントが大量に発生した場合に備えて，しきい値を設定してイベント転送を自動的に抑止する手順を次に示します。

1. イベント転送を自動的に抑止したいエージェントの転送設定ファイルを編集する。

大量発生イベントのしきい値に相当するイベント転送抑止条件を，エージェントの JP1/Base の転送設定ファイルに設定します。

イベント転送抑止条件の形式

```
suppress 識別子 単位時間 しきい値 確認回数［宛先（省略可能）］
イベントフィルター
end-suppress
```

イベント転送抑止条件の詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の転送設定ファイル（forward）の説明を参照してください。

2. 転送設定ファイルの変更内容を有効にする。

転送設定ファイルをリロードするか，イベントサービスを再起動すると，変更内容が有効になります。

イベントの発生状況が設定したイベント転送抑止条件に一致した場合，イベント転送が抑止されます。

イベント転送を抑止している間に，イベント発生元のエージェントを調査して問題を解決してください。

問題が解決し，イベントの発生状況が転送抑止の解除条件に一致した場合，イベント転送が自動的に再開されます。

5.1.8 同じ属性のイベントが連続して発生した場合に集約イベントとして表示する

繰り返しイベントの集約表示機能を使用する場合，短時間に連続して発生する同一内容の JP1 イベントを一つに集約して，［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページに表示できます。繰り返しイベントの集約表示機能は，［ユーザー環境設定］画面で設定できます。

繰り返しイベントの集約表示の概要については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.4.10　繰り返しイベントの集約表示機能で表示抑止する場合について」を参照してください。

連続して発生していない JP1 イベントを集約したい場合，イベント条件や集約して表示する契機を指定したい場合などは，繰り返しイベントの集約表示ではなく，繰り返しイベントの監視抑止を設定してください。繰り返しイベントの監視抑止の設定方法については，「5.1.6　繰り返しイベント条件を設定して大量発生したイベントの監視を抑止する」を参照してください。

1. ［イベントコンソール］画面のメニューから［オプション］－［ユーザー環境設定］を選択する。

［ユーザー環境設定］画面が表示されます。

2. ［イベント表示項目］ページの［集約表示］の［有効］をチェックする。

［タイムアウト時間］が活性となります。

3. ［タイムアウト時間］を指定する。

指定できる時間は 1～3,600 秒，デフォルトは 60 秒です。

4. ［OK］ボタンをクリックする。

設定した内容が反映されます。

一つに集約したイベントは集約イベントとして，［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページに表示されます。集約されたイベントを確認する手順については，「5.1.9　繰り返しイベントおよび集約イベントを確認し対処状況を変更する」を参照してください。

備考

繰り返しイベントの集約表示は，設定が反映されたあと受信したイベントから適用されます。設定が反映される前に受信したイベントは，繰り返しイベントの集約表示の対象とはなりません。集約開始イベントと受信イベントの到着時刻の差が指定した時間を過ぎた場合，イベントの集約が完了します。また，1 件のイベントに集約できるイベントは最大 100 件です。

5.1.9　繰り返しイベントおよび集約イベントを確認し対処状況を変更する

繰り返しイベントおよび集約イベントは，詳細情報を確認できます。また，繰り返しイベントを監視していない場合と同様に対処状況を変更できます。なお，対処状況を変更するには，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

(1)　繰り返しイベントの詳細情報を確認し対処状況を変更する

1. **繰り返しイベントを集約する。**

   繰り返しイベントの監視抑止を設定して繰り返しイベントを集約する場合は，「5.1.6　繰り返しイベント条件を設定して大量発生したイベントの監視を抑止する」を参照してください。

   繰り返しイベントの集約表示を設定して繰り返しイベントを集約する場合は，「5.1.8　同じ属性のイベントが連続して発生した場合に集約イベントとして表示する」を参照してください。

2. **［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページで集約イベントを一つ選択する。**

3. **［イベントコンソール］画面のメニューから［表示］－［関連イベント一覧表示］を選択する。※**

   ［関連イベント一覧（集約）］画面が表示されます。

4. **［関連イベント一覧］で繰り返しイベントを一つ選択し，右クリックして表示されるポップアップメニューから［イベント詳細表示］を選択する。**

   ［イベント詳細］画面が表示されます。必要に応じて，繰り返しイベントの内容を確認します。

   繰り返しイベントの監視抑止を設定している場合，101 件目以降の繰り返しイベントは，［関連イベント一覧（集約）］画面に表示されません。［関連イベント一覧（集約）］画面の［集約できないイベント］に，101 件目の繰り返しイベントの到着時刻および最後に到着した繰り返しイベントの到着時刻が表示されます。

   101 件目以降の繰り返しイベントを参照したい場合は，［表示できないイベント］に表示されている繰り返しイベントの到着時刻を検索条件に指定して検索してください。イベントの検索方法については，「5.5　JP1 イベントを検索する」を参照してください。

5. 対処状況を変更する場合，［関連イベント一覧（集約）］画面の［関連イベント一覧］で繰り返しイベントを一つ選択し，右クリックして表示されるポップアップメニューから設定したい対処状況を選択する。

繰り返しイベントの対処状況が変更されます。

繰り返しイベントが集約されている集約イベントの対処状況は変更されません。集約イベントの中に対処状況が異なる繰り返しイベントが存在することとなるため，対処状況表示に「!」が表示されます。

対処状況の種類と対処状況マークについては，「5.1.4　JP1 イベントの対処状況を表示する」を参照してください。

注※

次の場合には，メニュー項目を選択できません。

- ［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページで，イベントを複数選択している場合
- 非集約イベントを選択している場合

(2)　集約イベントの詳細情報を確認し対処状況を変更する

1. 繰り返しイベントを集約する。

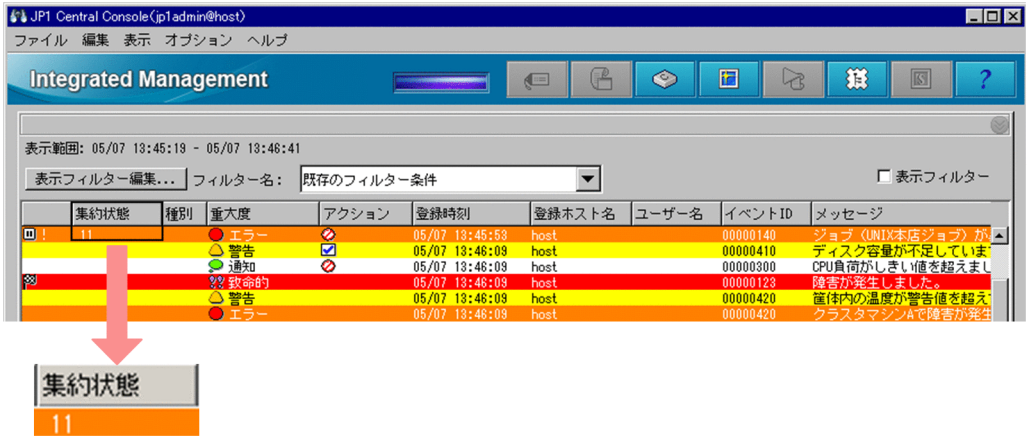
繰り返しイベントの監視抑止を設定して繰り返しイベントを集約する場合は，「5.1.6　繰り返しイベント条件を設定して大量発生したイベントの監視を抑止する」を参照してください。

繰り返しイベントの集約表示を設定して繰り返しイベントを集約する場合は，「5.1.8　同じ属性のイベントが連続して発生した場合に集約イベントとして表示する」を参照してください。

2. ［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページで集約イベントを確認する。

イベントが集約されていると，次のように集約イベントが表示されます。

図 5-2　集約イベントの集約表示例



［集約状態］

［集約状態］に繰り返し回数が表示されます。繰り返し回数とは，集約イベント数と繰り返しイベントの総数のことです。非集約イベントの場合は，何も表示されません。

- 集約完了イベントの場合

繰り返し回数が表示されます。

繰り返しイベントの監視抑止を設定している場合，表示される繰り返し回数は，1～1,000,000 です。

繰り返しイベントの集約表示を設定している場合，表示される繰り返し回数は，1～100 です。

- 集約中イベントの場合

  繰り返し回数および集約中であることを示す「+」が表示されます。

  繰り返し回数が 1 回（集約開始イベントだけ）の場合は「1+」，繰り返し回数が 2 回（集約開始イベントと繰り返しイベント 1 件）の場合は「2+」のように表示されます。なお，［重要イベント］ページでは，集約開始イベントが削除済み状態で，繰り返しイベントがない場合，「0+」と表示されます。

また，［関連イベント一覧（集約）］画面を表示したり，集約イベントを削除したりすると，次のように表示されます。

- 集約開始イベントを削除した場合

  ［イベントコンソール］画面の［重要イベント］ページで，集約開始イベントを削除した場合，そのイベントは削除済み状態となり，繰り返し回数の右横に「削除」が表示されます。

  そのあと，イベントの集約が完了して，削除済み状態の非集約イベントになった場合，［イベントコンソール］画面の［重要イベント］ページに表示されなくなります。

- 繰り返しイベントを削除した場合

  繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合は，［関連イベント一覧（集約）］画面の［関連イベント一覧］で，繰り返しイベントを削除した場合，集約イベントの繰り返し回数が，削除した数だけ減ります。

  集約完了イベントの繰り返し回数が，繰り返しイベントを削除したことによって 1 回になった場合，そのイベントは非集約イベントとなります。また，その非集約イベントが削除済み状態であった場合，［イベントコンソール］画面の［重要イベント］ページに表示されなくなります。

  繰り返しイベントの監視抑止機能を使用している場合は，繰り返しイベントを削除しても集約イベントの繰り返し回数は減少しません。

対処状態表示

左端の列に JP1 イベントへの対処状況を示す対処状況マークが表示されます。

対処状況マークの種類および内容は，［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページおよび［重要イベント］ページに表示される対処状況マークと同じです。

集約イベントと繰り返しイベントの対処状況が異なる場合，対処状況表示に「!」が表示されます。

繰り返しイベントの監視抑止機能を使用している場合，1 件目（最も古い繰り返しイベント）から 100 件目までの繰り返しイベントの対処状況が異なるときに「!」が表示されます。1 件目（最も古い繰り返しイベント）から 100 件目までの繰り返しイベントの対処状況が同じ場合，「!」は表示さ

れません。101 件以上集約している場合，101 件目以降の繰り返しイベントの対処状況が異なっていても，「!」は表示されません。

繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合，繰り返しイベントの対処状況が異なると「!」が表示されます。

[アクション]

自動アクションの抑止機能を使用している場合，［イベントコンソール］画面にアクション抑止の状態を示すマークが表示されます。

表 5-7　アクション抑止の状態

アクション抑止の状態	説明
	抑止されなかったアクション
	抑止されたアクション
	一部抑止されたアクション

また，繰り返しイベントの監視抑止でアクションの実行を抑止している場合にイベントが大量発生したとき，［イベントコンソール］画面に  が表示されます。

集約イベントと繰り返しイベントのアクション状況が異なる場合，アクション表示に「!」が表示されます。

[種別]

繰り返しイベントの監視抑止でイベントを抑止している場合にイベントが大量発生したとき，［イベントコンソール］画面にイベントが大量発生したことを表す  が表示されます。

［イベントコンソール］画面の各タブ

繰り返しイベントの監視抑止でイベントを抑止している場合にイベントが大量発生したとき，［イベントコンソール］画面の各タブにイベントが大量発生したことを表す  が表示されます。

3. ［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページで集約イベントを一つ選択する。

4. ［イベントコンソール］画面のメニューから［表示］－［イベント詳細表示］を選択する。※

［イベント詳細］画面が表示されます。必要に応じて集約イベントの内容を確認します。

5. 対処状況を変更する場合，［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページで集約イベントを一つ選択し，次のどちらかの方法で対処状況を変更する。

- メニューの［表示］を選択し，サブメニューの中から設定したい対処状況を選択する。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから，設定したい対処状況を選択する。

集約イベントの対処状況が変更されます。また，対処状況を変更した時点までに受信した繰り返しイベントの対処状況もすべて同じ対処状況に変更されます。ただし，繰り返しイベントの監視抑止機能を使用している，かつ，101 件以上集約している場合は，101 件目以降の繰り返しイベントの対処状況は変更されません。

対処状況を変更したあとに受信した繰り返しイベントの対処状況は，変更されません。集約イベントの中に対処状況が異なる繰り返しイベントが存在することとなるため，対処状況表示に「!」が表示されます。

注※

次の場合には，メニュー項目を選択できません。

- ［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページで，イベントを複数選択している場合
- 非集約イベントを選択している場合

5.1.10　相関イベントを表示および操作する

ここでは，相関イベントの表示および操作について説明します。

相関イベントの表示

相関イベントは［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページ，［重要イベント］ページおよび［イベント検索］ページに表示されます。

相関イベントは［種別］にアイコンが表示されます。

アイコンは，相関成立 と相関不成立 の 2 種類があります。

なお，［種別］はデフォルトで表示されている項目ではありません。表示するには［ユーザー環境設定］画面で［種別］を表示項目に指定します。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.22　［ユーザー環境設定］画面」を参照してください。

相関イベントの操作

相関イベントは通常の JP1 イベントと同様の操作ができます。例えば，イベントの詳細表示や，対処状況の変更などができます。

相関成立イベントの場合，相関イベントからは発行の契機となった相関元イベントの表示ができます。相関イベントを発行したホストが，JP1/IM - View でログインしているホストと別ホストだった場合は，相関イベントを発行したホストから相関元イベントが取得されます。

相関不成立イベントの場合，相関不成立となった時までにイベントの相関条件に従って関連づけられた相関元イベントを表示できます。

相関成立イベント，相関不成立イベントの相関元イベントを表示する手順は次のとおりです。

1. **［イベントコンソール］画面の次のページから，相関イベントを一つ選択する。**
   ・［イベント監視］ページ
   ・［重要イベント］ページ
   ・［イベント検索］ページ

2. メニューの［表示］－［関連イベント一覧表示］を選択する，またはポップアップメニューから［関連イベント一覧表示］を選択する。

［関連イベント一覧（相関成立）］または［関連イベント一覧（相関不成立）］画面が表示され，相関元イベントの一覧が表示されます。

なお，繰り返しイベントの監視抑止機能または繰り返しイベントの集約表示機能を使用していた場合，相関イベントが次に示すように集約して表示されることがあります。

表 5-8　相関イベントが集約して表示される例

表示例	説明
	相関イベントが集約完了した場合
	相関イベントが集約中の場合
	集約が完了した相関イベントを削除した場合
	相関イベントの集約開始イベントと繰り返しイベントの対処状況が異なる場合

この場合，相関元イベントを表示するには，［関連イベント一覧（集約）］画面を表示してから［関連イベント一覧（相関成立）］または［関連イベント一覧（相関不成立）］画面を表示します。

手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページまたは［重要イベント］ページで，集約状態の相関イベントを一つ選択する。
2. メニューの［表示］－［関連イベント一覧表示］を選択する，またはポップアップメニューから［関連イベント一覧表示］を選択する。

   ［関連イベント一覧（集約）］画面が表示され，相関イベントの一覧が表示されます。
3. ［関連イベント一覧（集約）］画面の［関連イベント一覧］から相関イベントを一つ選択する。
4. ポップアップメニューから［関連イベント一覧表示］を選択する。

   ［関連イベント一覧（相関成立）］または［関連イベント一覧（相関不成立）］画面が表示され，相関元イベントの一覧が表示されます。

なお，集約して表示されているイベントの見方などの詳細については，「5.1.8　同じ属性のイベントが連続して発生した場合に集約イベントとして表示する」を参照してください。

なお，相関イベントまたは相関元イベントの対処状況を「削除」に変更する場合，［重要イベント］ページを起点として，［関連イベント一覧（相関成立）］または［関連イベント一覧（相関不成立）］画面を表示している必要があります。画面表示が次のどちらかであることを確認してください。

- 重要イベント
- 重要イベント - 関連イベント一覧（集約）

また，［関連イベント一覧（相関成立）］または［関連イベント一覧（相関不成立）］画面で，表示対象の相関イベントの対処状況を変更しても，一覧表示されている相関元イベントの対処状況は変更されません。同様に一覧表示されている相関元イベントの対処状況を変更しても，表示対象の相関イベントの対処状況は変更されません。これは，相関元イベントと相関イベントが別の事象を表すイベントであるためです。

5.1.11　ログイン時のイベント取得範囲を指定してイベントを表示する

ログイン時のイベント取得範囲に，重要イベントの対処までに必要な日数を設定すると，JP1/IM にログインするだけで，対処済み以外の重要イベント，および最新のイベントを表示できます。指定方法は，日数指定または時間指定のどちらかです。

日数指定または時間指定によって，イベント取得開始位置の指定方法が異なります。設定した日数とログイン時のセントラルコンソールが稼働するホストの時刻，および基準時刻を使用して指定します。

指定する手順を次に示します。

1. **［イベントコンソール］画面のメニューから［オプション］-［システム環境設定］を選択する。**
   ［システム環境設定］画面が表示されます。

2. **［表示］-［［イベント監視］ページで有効にする］，または［［重要イベント］ページで有効にする］のチェックボックスをチェックする。**
   ［イベント取得の範囲］が活性となります。

3. **［基準時刻］および［日分］，または［時間分］を指定する。**
   ［基準時刻］は，1 日の区切りとする時刻を 00:00～23:59 の範囲で指定できます。デフォルトは，09:00 です。

   参考

   ログイン時にセントラルコンソールが稼働しているホストの基準時刻と現在時刻の大小関係によって，イベントの表示範囲が変わります。それぞれの場合の JP1 イベントの表示範囲について次に示します。

   - ログイン時にセントラルコンソールが稼働しているホストの現在時刻が現在日の基準時刻より大きい場合
     （現在日-（設定した日数-1））の日付の基準時刻を，イベント取得開始位置とする。
   - ログイン時にセントラルコンソールが稼働しているホストの現在時刻が現在日の基準時刻より小さい場合
     （現在日-設定した日数）の基準時刻をイベント取得開始位置とする。

   ログイン時に，イベント取得開始位置から最新のイベントが表示されます。その後は，イベントが発生するごとに表示されます。

例えば，取得範囲を「2 日分」，基準時刻に「09:30」を指定した場合，6 月 23 日「09:15」にログインすると 6 月 21 日の「09:30」から最新までの JP1 イベントの一覧を表示されます。

［日分］は，過去何日分の JP1 イベントを表示するか 1～31 日の範囲で指定できます。デフォルトは，1 日です。

［時間分］は，ログイン時に最新のイベントから何時間分のイベントを取得するか 1～744 の範囲で指定できます。デフォルトは 1 です。

4. ［OK］をクリックする。

設定した内容（ログイン時のイベント取得範囲）が有効となり，［システム環境設定］画面が閉じます。次回ログイン時から［イベントコンソール］画面に，指定した期間の JP1 イベントが表示されます。

ログイン時にセントラルコンソールが稼働しているホストの現在時刻が現在日の基準時刻より大きい場合など，1 日分で指定した範囲が，24 時間分とならない場合があります。基準時刻をまたいで引き継ぎを行う場合，前任者の監視範囲も引き継ぎ対象とするには，監視範囲を+1 日するか，スライダーを使用してイベントを表示してください。

ログイン時のイベント取得範囲の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.14　ログイン時のイベント取得範囲」を参照してください。

5.1.12　期間を指定してイベントを表示する

指定期間のイベント表示を有効にすると，指定期間の JP1 イベントの一覧を表示できます。指定期間のイベント表示機能は，WWW ページ版でも使用できます。

指定期間のイベント表示が使用できる画面を次に示します。

- ［イベント監視］ページ
- ［重要イベント］ページ

指定期間のイベント表示は，すべてのフィルター（イベント取得フィルター，ユーザーフィルター，重要イベントフィルター，表示フィルター）を通過し，繰り返しイベントの集約処理をしたあとの JP1 イベントを対象とします。

ここでは，指定期間のイベント表示機能を有効にし，期間を指定する手順について説明します。

なお，指定期間内の JP1 イベントかどうかは，JP1/IM - Manager に JP1 イベントが到着した時刻と JP1/IM - View が稼働しているホストの現在時刻を比較して判定します。そのため，JP1/IM - Manager と JP1/IM - View の時刻が異なっていた場合，指定期間外の JP1 イベントが表示されることがあります。事前に JP1/IM - Manager と JP1/IM - View の時刻を合わせておくことをお勧めします。

1. ［イベントコンソール］画面のメニューから［オプション］－［ユーザー環境設定］を選択する。

［ユーザー環境設定］画面が表示されます。

2. ［イベント表示項目］－［指定期間のイベント表示］の［有効］をチェックする。

［基準時刻］および［表示期間］が活性となります。

3. **［基準時刻］および［表示期間］を指定する。**

［基準時刻］は，1 日の区切りとする時刻を 00:00～23:59 の範囲で指定できます。デフォルトは，09:00 です。

基準時刻と現在時刻の大小関係により，イベントの表示範囲が変わります。それぞれの場合の JP1 イベントの表示範囲について次に示します。

- JP1/IM - View が稼働しているホストの現在時刻が基準時刻より大きい場合
  （表示期間-1）日前の基準時刻から，明日の基準時刻までの範囲。
- JP1/IM - View が稼働しているホストの現在時刻が基準時刻より小さい場合
  表示期間前の基準時刻から，今日の基準時刻までの範囲。

終端の基準時刻は，範囲に含まれません。

例えば，現在時刻が「09:15」の時に表示期間を「2 日分」，基準時刻に「09:30」を指定した場合，「2 日前」の「09:30」から「今日」の「09:29」までの JP1 イベントの一覧を表示します。

［表示期間］は，過去何日分の JP1 イベントを表示するか 1～31 日の範囲で指定できます。デフォルトは，1 日です。

4. **［OK］をクリックする。**

設定した内容（指定期間のイベント表示）が有効となり，［ユーザー環境設定］画面が閉じます。［イベントコンソール］画面に，指定した期間の JP1 イベントが表示されます。

指定期間のイベント表示機能が有効な場合，［イベントコンソール］画面の［指定期間のイベント表示］チェックボックス，または［イベントコンソール］画面のメニューから［表示］－［指定期間のイベント表示］を選択することで，指摘期間のイベント表示の適用と未適用を切り替えられえます。

再ログインした場合に［ユーザー環境設定］画面の指定期間のイベント表示機能が有効だったときは，［指定期間のイベント表示］チェックボックスと［指定期間のイベント表示］メニューのチェックを付け，指定期間のイベント表示を適用して各ページのイベント一覧を表示します。無効だった場合は，［指定期間のイベント表示］チェックボックスと［指定期間のイベント表示］メニューを非表示にし，指定期間のイベント表示を適用しないで各ページのイベント一覧を表示します。

指定期間のイベント表示の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.15　指定期間のイベント表示」を参照してください。

5.1.13　時刻を指定してイベントを表示する

短期間に大量の JP1 イベントが発生し，［イベント監視］ページの最大表示件数を超えた場合，古いイベントが見えなくなってしまうことがあります。表示開始位置を指定することで，この見えなくなってしまったイベントを，［イベント監視］ページに表示できます。表示開始位置を指定する場合は，事前に統合監視 DB を有効にする必要があります。統合監視 DB の設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4.2　統合監視 DB の設定」を参照してください。

表示開始位置の指定が使用できる画面を次に示します。

- ［イベント監視］ページ
- ［重要イベント］ページ

ここでは，表示開始位置を指定して，見えなくなった JP1 イベントを表示する手順について説明します。

1. ［イベントコンソール］画面の［開閉］ボタンをクリックして，［表示開始位置指定］領域を開く。

   ［表示開始位置指定］領域は，ログインしたときは表示されません。

   ［表示開始位置指定］領域の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.2　［イベント監視］ページ」の「図 2-4　［イベント監視］ページ（［表示開始位置指定］領域を表示した場合)」を参照してください。

2. スライダーをイベントの表示を開始したい個所に移動する。

   指定した表示開始位置より，現在適用しているユーザーフィルターと表示フィルターに一致するイベントを統合監視 DB から取得し，表示します。最大表示件数（スクロールバッファー）のデフォルトは 500 件です。なお，表示開始位置からのイベント一覧の取得は，新たな表示開始位置を指定するか，［表示キャンセル］ボタンをクリックすることで中断できます。

   また，表示開始位置を正確に指定したい場合，［表示開始位置］テキストボックスを用いて指定できます。なお，［表示開始位置］テキストボックスのデフォルトの値は，JP1/IM - Manager にログインする時刻によって異なります。JP1/IM - Manager にログインした時刻が基準時刻より遅かった場合，ログインした日の基準時刻がデフォルトで表示されます。

   （例）基準時刻が 09:00 の場合に，2008/07/08 10:00 にログインしたとき

   ［表示開始位置］テキストボックスに表示されるデフォルトの値は，2008/07/08 09:00 です。

   JP1/IM - Manager にログインした時刻が基準時刻より早かった場合，ログインした前の日の基準時刻がデフォルトで表示されます。

   （例）基準時刻が 09:00 の場合に，2008/07/08 08:00 にログインしたとき

   ［表示開始位置］テキストボックスに表示されるデフォルトの値は，2008/07/07 09:00 です。

［最新イベント表示］ボタンをクリックすると，表示開始位置を設定する前の状態に戻ります。自動スクロール機能が有効な場合，新しいイベントを受信すると最新のイベントを表示します。新しいイベントを受信しても［表示開始位置指定］領域で指定した位置のイベントを表示するように設定したい場合は，自動スクロール機能を無効にしてください。

5.1.14　追加共通除外条件を設定して監視しない JP1 イベントを除外する

共通除外条件が拡張モードの場合，［イベントコンソール］画面で監視したくない JP1 イベントを選択し，右クリックして表示されるポップアップメニューから［共通除外条件で除外］を選択すると，共通除外条件として登録できます。

登録した共通除外条件は，追加共通除外条件として，［システム環境設定］画面に表示されます。

(1) 発生した JP1 イベントを使って追加共通除外条件を設定する

1. 共通除外条件が基本モードの場合は，拡張モードに変更する。

   変更する手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.2.4(3)(a) 共通除外条件の基本モードと拡張モードの切り替え」を参照してください。

2. [イベントコンソール] 画面のイベント一覧で，除外したい JP1 イベント選択する。

3. [イベントコンソール] 画面の［表示］－［共通除外条件で除外］を選択するか，右クリックして表示されるメニューから［共通除外条件で除外］を選択して，［共通除外条件設定(拡張)］画面を表示する。

   手順 2 で選択した JP1 イベントの属性がイベント条件に自動的に設定された状態で，［共通除外条件設定(拡張)］画面が表示されます。

   自動的に設定される項目は共通除外条件自動入力定義ファイル（common_exclude_filter_auto_list.conf）で変更できます。共通除外条件自動入力定義ファイル（common_exclude_filter_auto_list.conf）については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「共通除外条件自動入力定義ファイル（common_exclude_filter_auto_list.conf)」(2. 定義ファイル）を参照してください。

   ［共通除外条件設定(拡張)］画面の［共通除外条件群 ID］には何も表示されません。また，設定もできません。追加共通除外条件群の共通除外条件群 ID は登録するときに割り当てられます。

4. 必要な項目を［共通除外条件設定(拡張)］画面で編集する。

5. [OK] ボタンをクリックする。

6. 設定内容を反映してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［はい］ボタンをクリックする。

   ［イベントコンソール］画面に追加共通除外条件が設定されたことを表す JP1 イベントが表示され，イベント取得フィルターに適用されます。

(2) 追加共通除外条件を共通除外条件に変更する

追加共通除外条件は，追加共通除外条件から共通除外条件へ変更できます。

1. [システム環境設定] 画面で［一覧編集］ボタンをクリックして［イベント取得条件一覧］画面を表示する。

2. [イベント取得条件一覧] 画面の［共通除外条件群］で共通除外条件に変更したい追加共通除外条件（種別に アイコンが付いている条件）を選択する。

3. [種別変更] ボタンをクリックする。

4. 種別を変更してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［OK］ボタンをクリックする。

5. [システム環境設定] 画面で［適用］ボタンをクリックする。

選択した追加共通除外条件が，共通除外条件に変更されます。

このとき，共通除外条件群 ID が変更されます。変更後の共通除外条件群 ID は，すでに定義されている共通除外条件群 ID の中で最も大きい ID の値に 1 を加えた値です。変更後の共通除外条件群 ID が最大値を超えた場合は，0 から順に使用していない ID を割り当てます。

注意事項

追加共通除外条件から共通除外条件へ誤って種別を変更してしまった場合は，［適用］ボタンをクリックする前に［システム環境設定］画面で［閉じる］ボタンをクリックして変更内容をキャンセルしてください。

5.1.15　JP1 イベントをインシデントとして JP1/IM - Service Support に登録する（JP1/IM - Service Support 連携）

JP1/IM - Service Support 連携用の設定をしておくことで，JP1/IM - View に表示された JP1 イベントをインシデントとして JP1/IM - Service Support に登録できます。設定手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「8.1.1　JP1/IM - Service Support 画面呼び出し設定」を参照してください。

次の画面から，JP1/IM - Service Support の［登録先プロセスワークボード選択］画面を表示し，JP1/IM - Service Support にインシデントを登録します。

- ［イベントコンソール］画面の各ページ
- ［関連イベント一覧］画面
- ［イベント詳細］画面

次に，各画面から JP1/IM - Service Support の［登録先プロセスワークボード選択］画面を表示するまでの手順を示します。JP1/IM - Service Support の［登録先プロセスワークボード選択］画面から JP1/IM - Service Support にインシデントを登録する手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Service Support 操作ガイド」を参照してください。

なお，JP1 イベントをインシデントとして登録するには，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

(1)　［イベントコンソール］画面の各ページから表示する

表示する手順を次に示します。［イベント検索］ページには，マネージャー以外のイベント DB に登録された JP1 イベントを表示できますが，これらの JP1 イベントはインシデントとして登録できません。マネージャー上に登録された JP1 イベントだけ，インシデントとして登録できます。

表示する手順を次に示します。

1. [イベントコンソール] 画面のイベント一覧に表示される JP1 イベントの中からインシデントとして登録する JP1 イベントを一つ選択する。

2. 右クリックして［インシデント登録］，またはメニューから［表示］－［インシデント登録］を選択する。
   WWW ブラウザー（IE）が起動して，JP1/IM - Service Support の［登録先プロセスワークボード選択］画面が表示されます。

(2) ［関連イベント一覧］画面から表示する

表示する手順を次に示します。

1. [関連イベント一覧] 画面に表示される JP1 イベントの中からインシデントとして登録する JP1 イベントを一つ選択する。

2. 右クリックして［インシデント登録］を選択する。
   WWW ブラウザー（IE）が起動して，JP1/IM - Service Support の［登録先プロセスワークボード選択］画面が表示されます。

(3) ［イベント詳細］画面から表示する

表示する手順を次に示します。

1. [イベント詳細] 画面の［インシデント登録］ボタンをクリックする。
   WWW ブラウザー（IE）が起動して，JP1/IM - Service Support の［登録先プロセスワークボード選択］画面が表示されます。

5.1.16 JP1 イベントに対応する運用手順を表示する（JP1/IM - Navigation Platform 連携）

JP1/IM - Navigation Platform 連携用の設定をしておくことで，JP1/IM - View に表示された JP1 イベントから，JP1/IM - Navigation Platform の業務コンテンツ（運用手順）にシングルサインオンでアクセスできます。設定手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「8.2　JP1/IM - Navigation Platform と連携する」を参照してください。

［イベント詳細］画面から，シングルサインオンで JP1/IM - Navigation Platform の［業務実行］画面を表示する手順を次に示します。

1. [イベント詳細] 画面の［ガイド］表示領域のリンクをクリックする。
   WWW ブラウザー（IE）が起動して，選択した JP1 イベントに対応する業務コンテンツ（運用手順）が，JP1/IM - Navigation Platform の［業務実行］画面に表示されます。

5.1.17　ルール起動要求の状況を確認し，ルール起動要求の操作をする（JP1/IM - Rule Operation 連携）

ここでは，JP1/IM が JP1/IM - Rule Operation と連携する場合に，ルール起動要求が JP1/IM - Rule Operation に正しく通知されたかどうか，また JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面を表示する手順について説明します。

(1)　ルール起動要求が JP1/IM - Rule Operation に通知されたかどうかを確認する

ルール起動要求は，自動アクションの状態監視機能を使って，状態監視および遅延監視ができます。これらを設定しておくことで，次のようなトラブルが発生した場合でも早期に検知できます。

- ルール起動要求の通知が想定した時間内に終了しなかった，または，長時間掛かって終了した。
- ルール起動要求の通知に失敗した（状態が「実行不可」「実行失敗」または「実行失敗（キャンセル失敗）」に遷移した）。

また，トラブルを検知した場合，JP1 イベント（イベント ID=2010 または 2011）を発行したり，通知コマンドを実行したりできます。

設定については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.5.3　自動アクションの実行状況監視の設定」を参照してください。

操作手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面でルール起動対象イベントを監視する。

   ［アクション種別］に  が表示されている JP1 イベントが，ルール起動対象イベントです。

2. ［アクション結果］画面や［アクション結果一覧］画面を開き，ルール起動要求の実行結果を確認する。

   ルール起動要求の実行状況を確認します。

3. 必要に応じてルール起動要求をキャンセル，または再実行する。

   ルール起動要求が「実行中」のまま遷移しなかったり，「実行失敗」になっていたりすると，JP1/IM - Rule Operation にルール起動要求を通知できません。必要に応じてルール起動要求をキャンセルしたり，再実行したりしてください。

ルール起動要求に自動アクションの状態監視機能を設定している場合

遅延監視機能，状態監視機能による通知は，それぞれ一度実行されると，ユーザーが通知抑止を解除するまで通知が抑止されます。遅延監視機能，状態監視機能によって，ルール起動要求の異常を検知した場合，ルール起動要求の再実行やキャンセルの対処が完了したあと，次の手順を実施してください。

1. ［イベントコンソール］画面のメニューから［オプション］－［機能状態通知復帰］－［アクション遅延監視］および［アクション状態監視］を表示し，活性している機能名を選択する。

抑止状態になっている機能は，表示（文字）が活性しています。活性している機能名を選択すると，通知抑止を解除するかどうかを問い合わせるダイアログボックスが表示されます。

2. **問い合わせダイアログボックスで［はい］ボタンをクリックする。**
   通知抑止が解除され，監視が再度有効になります。

> **参考**
>
> ルール起動要求が JP1/IM - Rule Operation 側でルールの起動条件に合致したかどうかは，次に示す三つの画面に表示される［終了コード］で確認できます。
>
> - ［アクション結果］画面
> - ［アクション結果一覧］画面
> - ［アクション結果詳細］画面

［アクション結果］画面，［アクション結果一覧］画面，および［アクション結果詳細］画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「1. 画面遷移と［ログイン］画面」を参照してください。

また，自動アクションの状態確認，再実行などの操作について，「7.2.2 自動アクションの実行結果を確認する」もあわせて参照してください。

(2) JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面を表示する

ルール起動要求が JP1/IM - Rule Operation に通知され，JP1/IM - Rule Operation のルール起動条件に合致した場合，次に示す三つの画面から JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面を表示できます。

- ［アクション結果］画面
- ［アクション結果一覧］画面
- ［アクション結果詳細］画面

次にそれぞれの手順について説明します。

- **［アクション結果］画面から JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面を表示する**

操作手順を次に示します。

1. **［イベントコンソール］画面のイベント一覧で，ルール起動対象イベントを 1 件選択する。**
2. **次に示すどれかの方法で［アクション結果］画面を表示する。**
   - メニューバーから［表示］－［自動アクション実行結果表示］を選択する。
   - ポップアップメニューから［自動アクション実行結果表示］を選択する。

- ［自動アクション実行結果表示］ボタンをクリックする。

［アクション結果］画面が表示されます。

3. ルール起動要求の実行結果を 1 件選択する。

ルール起動要求は［種別］に が表示されています。また，［実行結果一覧］の［終了コード］が「0」になっていることを確認してください。

4. ［ルール結果詳細］ボタンをクリックする。

JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面が表示されます。

- ［アクション結果一覧］画面から JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面を表示する

操作手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面で［表示］－［自動アクション結果一覧表示］を選択する。

［アクション結果一覧］画面が表示されます。この画面には，ルール起動要求だけでなく，自動アクションの結果も一覧として表示されます。

2. ルール起動要求の実行結果を 1 件選択する。

ルール起動要求は［種別］に が表示されています。また，［実行結果一覧］の［終了コード］が「0」になっていることを確認してください。

3. ［ルール結果詳細］ボタンをクリックする。

JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面が表示されます。

- ［アクション結果詳細］画面から JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面を表示する

これまでに説明した［アクション結果］画面，［アクション結果一覧］画面から表示できる［アクション結果詳細］画面からも，JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面を表示できます。

操作手順を次に示します。

1. ［アクション結果］画面，［アクション結果一覧］画面の［実行結果一覧］でルール起動要求を 1 件選択し，［詳細］ボタンをクリックする。

［アクション結果詳細］画面が表示されます。

［実行結果］の終了コード（属性名）が「0」になっていることを確認してください。

2. ［ルール結果詳細］ボタンをクリックする。

JP1/IM - Rule Operation の［ルール結果詳細］画面が表示されます。

［アクション結果］画面，［アクション結果一覧］画面，および［アクション結果詳細］画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「1. 画面遷移と［ログイン］画面」を参照してください。

［ルール結果詳細］画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Rule Operation 画面リファレンス」を参照してください。

5.2 重要イベントの対処状況を設定する

重要イベントの対処状況を設定する手順，および重要イベントを削除する手順を次に示します。なお，これらの操作には，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

重要イベントの対処状況を設定する

重要イベントへの実際の対処状況に合わせて，重要イベントに対処状況を設定するには，［重要イベント］ページのイベント一覧で重要イベントを選択してから，次のどれかの操作をします。選択した重要イベントがどの対処状況であっても，設定の操作ができます。

- ［重要イベント］ページ上のボタンから，設定したい対処状況のボタンをクリックする。
- メニューバーから［表示］を選択し，サブメニューの中から設定したい対処状況を選ぶ。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから，設定したい対処状況を選ぶ。

重要イベントを削除する

［重要イベント］ページに表示されている重要イベントを画面から削除するには，削除したい重要イベントを選択してから，次のどちらかの操作をします。選択した重要イベントがどの対処状況であっても，削除の操作ができます。

- メニューバーから［表示］－［削除］を選択する。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから［削除］を選択する。
- ［重要イベント］ページ上のボタンから，削除のボタンをクリックする。

ここでの「削除」は画面から削除するだけで，イベント DB または統合監視 DB からは削除されません。

［重要イベント］ページで設定した重要イベントの対処状況を示す情報（「対処済」，「処理中」，「保留」，「未対処」）は，［イベント監視］ページに表示されている同一イベントにも反映されます。「削除」情報は反映されません。

重要イベントの対処状況を示す情報（「対処済」，「処理中」，「保留」，「未対処」，「削除」）は，ログインしているマネージャーのイベント DB に記録されます。そのため，対処状況を変更すると，同じマネージャーにログインしているほかの JP1/IM - View の［重要イベント］ページの表示も変更されます（「削除」以外の情報については，［イベント監視］ページの表示も変更されます）。ほかのホストから転送されてきた重要イベントの場合，転送元ホストのイベント DB または統合監視 DB の情報は変更されません。

重要イベントの対処状況は，jcochstat コマンドを使用しても設定できます。jcochstat コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcochstat」（1. コマンド）を参照してください。

5.3　イベントの重大度を変更する

統合監視 DB を使用する場合，重大度変更機能を設定すると，イベントの重大度を変更できます。

統合監視 DB の設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4.2　統合監視 DB の設定」を参照してください。

また，重大度変更機能を設定する方法は，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.11　重大度変更機能の設定」を参照してください。

ここでは，イベントの重大度を変更する手順を次に示します。

5.3.1　システム構築時に設定する

重大度変更定義を設定する方法には，GUI で設定する方法と，重大度変更定義ファイルで定義し，jco_spmd_reload コマンドを実行して設定を反映する方法があります。

注意事項

ただし，GUI からの設定と定義ファイルからの設定を同時にしないでください。GUI からの定義を更新中にユーザーがテキストエディターなどでファイルを更新した場合に，定義ファイルとメモリに持っているデータが不一致になることがあります。

(1)　［重大度変更定義設定］画面から設定する

［重大度変更定義設定］画面から重大度変更定義を設定する手順を次に示します。

1. イベントの重大度変更機能が有効になっていることを確認する。

   jcoimdef コマンドを実行し，-chsev オプションを確認してください。無効になっている場合は，jcoimdef コマンドを使用し，イベントの重大度変更機能を有効にしてください。デフォルトは無効です。重大度変更機能を有効にした場合は，JP1/IM - Manager を再起動してください。jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

2. ［イベントコンソール］画面から［オプション］－［重大度変更定義］を選択する。

   ［重大度変更定義一覧］画面が表示されます。

3. 設定する内容に合わせて，［追加］ボタン・［編集］ボタン・［複製］ボタン・［削除］ボタンをクリックする。

   ［追加］ボタンをクリックした場合

   ［重大度変更定義設定］画面が表示され，新しい重大度変更定義を設定できます。

［編集］ボタンをクリックした場合

［重大度変更定義設定］画面が表示され，選択した重大度変更定義の設定を編集できます。

［複製］ボタンをクリックした場合

選択した重大度変更定義が複製され，［重大度変更定義一覧］画面に追加されます。複製された重大度変更定義は，名称の先頭に「コピー 」が追加されます。

［削除］ボタンをクリックした場合

選択した重大度変更定義が削除されます。

削除の場合，手順 4 は実施しません。

4. ［重大度変更定義設定］画面で，重大度の設定をする。

重大度を変更するイベント条件の設定をします。そのあと，［変更後の重大度］から変更後の重大度を選択して，［OK］ボタンをクリックします。

5. ［重大度変更定義一覧］画面で，［適用］ボタンをクリックして有効にする。

［重大度変更定義設定］画面で，設定した重大度変更定義を［重大度変更定義一覧］画面から選択して，［適用］チェックボックスをチェックして有効にします。複数のイベントを設定したい場合は，手順 3～5 を繰り返します。

6. 設定を反映してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［はい］ボタンをクリックする。

設定した重大度変更定義が有効になります。

(2) 重大度変更定義ファイルから設定する

重大度変更定義ファイルから重大度変更定義を設定する手順を次に示します。

1. イベントの重大度変更機能が有効になっていることを確認する。

jcoimdef コマンドを実行し，-chsev オプションを確認してください。無効になっている場合は，jcoimdef コマンドを使用し，イベントの重大度変更機能を有効にしてください。デフォルトは無効です。重大度変更機能を有効にした場合は，JP1/IM - Manager を再起動してください。jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

2. 重大度変更定義ファイルに，イベントの重大度変更の定義を記述する。

重大度変更はシステム単位で定義します。重大度は，「緊急（Emergency)」，「警戒（Alert)」，「致命的(Critical)」，「エラー（Error)」，「警告（Warning)」，「通知（Notice)」，「情報（Information)」，「デバッグ（Debug)」の範囲で変更できます。

重大度変更定義ファイルの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「重大度変更定義ファイル（jcochsev.conf)」（2. 定義ファイル）を参照してください。

重大度変更定義ファイルに設定する内容の例

```
DESC_VERSION=2
def 重大度変更1
cmt コメント
define enable
cnd
B.ID IN 100 200
E.SEVERITY IN Warning
B.SOURCESERVER IN hostA hostB hostC
end-cnd
sev Emergency
end-def
```

3. JP1/IM - Manager を再起動または jco_spmd_reload コマンドを実行する。

   ただし，手順 1 で重大度変更機能を無効から有効に変更した場合は，JP1/IM - Manager を再起動する必要があります。

   jco_spmd_reload コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_spmd_reload」（1. コマンド）を参照してください。

変更後の JP1 イベントの重大度は，イベント一覧の［重大度］に表示します。変更前の JP1 イベントの重大度は，イベント一覧の［重大度（変更前）］に表示します。また，重大度を変更した JP1 イベントは，イベント一覧の［重大度変更］にアイコンを表示します。

イベント基盤サービスは，マネージャー上のイベントサービスから受信した JP1 イベントの重大度を変更し，統合監視 DB に登録します。その際，イベントサービスのイベント DB の内容は変更されません。

また，マッピング定義を重大度の変更に使用することがあります。マッピング定義を使用すると，イベント一覧の［重大度］に，別の属性を表示できます。

5.3.2 運用中に設定する

システム運用中に変更したいイベントを選択して［追加重大度変更定義設定］画面から重大度変更定義の条件を追加できます。

イベントを選択して定義を追加した場合は，追加した定義を最優先にするために［重大度変更定義一覧］画面に表示される定義の先頭に登録されます。

［追加重大度変更定義設定］画面から設定する手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面で，重大度を変更したいイベントを選択し，右クリックして表示されるポップアップメニューから［重大度変更定義を設定］を選択する。

［追加重大度変更定義設定］画面が表示されます。

2. ［追加重大度変更定義設定］画面で，重大度を変更する。

   重大度を変更するイベント条件の設定をして，［変更後の重大度］から，変更後の重大度を選択して，編集します。

3. ［OK］ボタンをクリックする。

   追加重大度変更定義が［重大度変更定義一覧］画面に反映されます。運用中に追加した重大度変更定義には，種別にアイコンが表示されます。

5.3.3 追加重大度変更定義を重大度変更定義に変更する

システム運用中に追加した追加重大度変更定義は，重大度変更定義に変更できます。

1. ［イベントコンソール］画面のメニューから［オプション］-［重大度変更定義］を選択して［重大度変更定義一覧］画面を表示する。

2. ［重大度変更定義一覧］画面の［重大度変更定義一覧］で重大度変更定義に変更したい追加重大度変更定義（種別にアイコンが付いている定義）を選択する。

3. ［種別変更］ボタンをクリックする。

4. 種別を変更してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［はい］ボタンをクリックする。

   選択した追加重大度変更定義が，重大度変更定義に変更されます。

5. ［重大度変更定義一覧］画面の［適用］ボタンをクリックする。

6. 設定を反映してもよいかを確認するメッセージが表示されるため，問題なければ［はい］ボタンをクリックする。

   追加した重大度変更定義が有効になります。

5.4　メモ情報を編集する

統合監視 DB を使用する場合，メモ情報の設定機能を有効にすると，統合監視 DB に保存されている JP1 イベントにメモ情報を追加できます。

統合監視 DB の設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4.2　統合監視 DB の設定」を参照してください。

また，メモ情報の設定機能を有効にする方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.7　メモ情報の設定」を参照してください。

ここでは，メモ情報を編集し，統合監視 DB の JP1 イベントに反映する手順について説明します。なお，これらの操作には，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

1. **［イベント詳細（編集）］画面を表示する。**
   ［イベント詳細（編集）］画面は，［イベント詳細］画面の［編集］ボタンをクリックするか，イベント一覧でイベントを 1 件選択し，［イベント詳細（編集）］メニューを選択することで表示できます。

2. **［イベント情報（編集）］画面にメモ情報を記述する。**

3. **［イベント詳細（編集）］画面の［適用］ボタンをクリックする。**
   イベント一覧の表示項目である「メモ」および［イベント詳細］画面にメモが表示されます。また，メモ情報があるイベントにメモのアイコン  が表示されます。

5.5　JP1 イベントを検索する

さまざまな条件で JP1 イベントを検索し，検索条件に合った JP1 イベントを画面に表示できます。

ここでは，検索方法および検索結果の表示について説明します。

検索の機能詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.6　イベント検索」を，イベント検索で使用する画面の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.23　［イベント検索条件設定］画面」を参照してください。

5.5.1　検索の方法

次に JP1 イベントの検索方法について説明します。

統合監視 DB を有効にすると，検索対象がイベント DB と統合監視 DB から選択できるようになります。統合監視 DB の設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.4.2　統合監視 DB の設定」を参照してください。

(1)　検索手順

JP1 イベントを検索する手順は次のとおりです。

1. **イベント一覧に表示されている JP1 イベントの属性値を検索条件として利用する場合は，［イベントコンソール］画面のイベント一覧から JP1 イベントを選択する。**

2. **［イベントコンソール］画面で［表示］－［イベント検索］を選択する。または［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページで［イベント検索］ボタンをクリックする。**
   ［イベント検索条件設定］画面が表示されます。

3. **［イベント検索条件設定］画面で検索条件を設定する。**
   ［イベント検索条件設定］画面では次の項目を設定します。
   - 検索対象の設定
     統合監視 DB を使用する場合，［イベント検索条件設定］画面に［検索対象］が表示され，統合監視 DB またはイベント DB のどちらかを選択できます。統合監視 DB を使用しない場合，［検索対象］の項目は表示されません。イベント DB にある JP1 イベントを検索します。
   - 検索ホスト名の入力
     ［検索ホスト名］に検索対象のホスト名（イベントサーバ名）を入力します。
     接続しているホスト名がデフォルトで指定されます。
     なお，統合監視 DB を使用する場合に［検索対象］で統合監視 DB を選択したときは，［検索ホスト名］の項目が非活性になります。

指定したホスト名は，マネージャーでアドレス解決します。マネージャー上で解決できるホスト名を指定してください。

特に，ファイアウォール環境で，ファイアウォールの外側のビューアーからイベントを検索する場合は，注意が必要です。ファイアウォール環境では，ファイアウォールの外側からと内側からでは，同じホストの IP アドレスが異なって見える場合があります。そのため，ファイアウォールの外側のビューアーから IP アドレスを指定してイベントを検索する場合は，マネージャー上で解決できる IP アドレスを指定してください。

また，複数の LAN に接続したエージェントに対して代表ホスト以外の NIC 経由で接続する場合も，IP アドレスを指定してください。

- 検索方向の指定

  統合監視 DB またはイベント DB を検索する方向を指定します。

  イベントの検索方向が，［過去方向］，［未来方向］のどちらか指定します。なお，［過去方向］がデフォルトで指定されます。

  詳細については，「5.5.1(2)　イベントの検索方向」を参照してください。

- 条件群の設定

  イベント検索の条件を区別するために，条件群に名前を付けます。

  条件群は複数設定でき，条件群同士の関係は OR 条件となります。

  なお，条件群の設定は［一覧表示］ボタンをクリックして［一覧］を表示状態にしておく必要があります。

  条件群の追加：［追加］ボタンをクリックすると，定義していない名称「条件群 n」（n は数字）が追加されます。

  条件群の複製：条件群を選択し，［複製］ボタンをクリックすると，「コピー **選択した条件群名**」が追加されます。

  条件群の削除：条件群を選択し，［削除］ボタンをクリックすると，選択した条件群が削除されます。

  条件群のリネーム：条件群を選択すると，選択した条件群の名前が［条件群名］に表示されます。これを編集し，フォーカスを移動すると，条件群の名前が変更されます。

- 条件の設定（各条件群の詳細設定）

  検索したい JP1 イベントの通過条件または除外条件を設定します。

  条件は，複数の条件を組み合わせて設定でき，条件同士の関係は AND 条件となります。

  設定できる項目は，発生元ホスト名，登録ホスト名，重大度，オブジェクトタイプ，オブジェクト名，登録名タイプ，登録名，事象種別，ユーザー名，メッセージ，プロダクト名，イベント ID，開始時刻，終了時刻，登録時刻，到着時刻，対処状況の状態（対処済，未対処，対処中，保留），アクションの状態（実行あり，実行なし），メモ，繰り返しイベントおよび固有の拡張属性です。

  なお，発生元ホストのマッピングが無効な場合，発生元ホスト名を設定できません。また，メモ機能が無効な場合は，メモの項目が設定できません。また，繰り返しイベントの監視抑止が無効な場合は，繰り返しイベントの項目が設定できません。

  検索対象が統合監視 DB の場合に重大度変更機能を使用していたとき，重大度の項目は，変更後の重大度を設定できます。また，重大度（変更前），重大度変更の項目が設定できるようになります。

重大度（変更前）の項目では，重大度を変更する前の重大度が設定できます。重大度変更の項目では，重大度を変更したかどうかが設定できます。

［イベントコンソール］画面で選択した JP1 イベントの属性値を条件一覧に反映させたいときは，［選択イベント条件入力］ボタンをクリックします。

なお，発生元ホスト名，登録ホスト名，オブジェクトタイプ，オブジェクト名，登録名タイプ，登録名，事象種別，ユーザー名，メッセージ，プロダクト名，および固有の拡張属性については，正規表現でも指定できます。正規表現での指定方法については，「5.5.1(3)　正規表現での指定方法」を参照してください。

4. ［OK］ボタンをクリックする。

［イベント検索］ページが表示され，検索が開始するとページのタブに（検索中）が表示されます。検索結果は，［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページに検索条件と一致したイベントが順次，表示されます。

イベント検索をキャンセルする場合は，［検索キャンセル］ボタンをクリックします。間違った検索条件でイベント検索を実行してしまった場合や，取得したいイベントを見つけた時点でイベント検索を中断できます。

(2)　イベントの検索方向

条件の設定に従った範囲を，検索方向を指定して検索できます。1 回の検索で取得できる件数は，［ユーザー環境設定］画面で変更できます（デフォルト 20 件）。1 回の検索で取得できなかったイベントは［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページで［次イベント検索］ボタンをクリックすることで取得，表示できます。

イベントの検索方向に［過去方向］を指定すると，統合監視 DB またはイベント DB に登録された JP1 イベントの最後尾から（新しいイベントから古いイベント方向に）検索します。［過去方向］を指定してイベントを検索した場合，新しいイベントから順に取得，表示します。［次イベント検索］ボタンをクリックすると，表示しているイベントの上に［次イベント検索］ボタンで選択したイベントを表示します。なお，表示は，古い順（取得したイベントのうち，古いイベントが上に，新しいイベントが下に表示される）となるため，注意してください。

イベントの検索方向に［未来方向］を指定すると，統合監視 DB またはイベント DB に登録された JP1 イベントの先頭から（古いイベントから新しいイベント方向に）検索します。［未来方向］を指定してイベントを検索した場合，古いイベントから順に取得します。［次イベント検索］ボタンをクリックすると，表示しているイベントの下に［次イベント検索］ボタンで選択したイベントを表示します。

「5.5.2　検索結果の表示」の例を参考にして，イベント検索の動作を確認してください。

(3)　正規表現での指定方法

［イベント検索条件設定］画面で設定する検索条件として，正規表現を指定できます。正規表現を指定できるのは，登録ホスト名，オブジェクトタイプ，オブジェクト名，登録名タイプ，登録名，事象種別，ユーザー名，メッセージ，プロダクト名，および固有の拡張属性です。

［イベント検索条件設定］画面で検索条件として正規表現を指定するには，［条件一覧］のテキストボックスに正規表現で検索条件を指定し，右側のリストボックスから「正規表現」を選択します。なお，固有の拡張属性に対して正規表現を指定するには，［固有の拡張属性条件詳細設定］画面を使用します。

なお，使用できる正規表現の種類は検索先ホストの JP1/Base の設定に準じます。詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のセットアップの章，正規表現の説明を参照してください。

5.5.2　検索結果の表示

イベントの検索結果は，［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページに表示されます。

1 回のイベント検索で取得できるイベントの件数は，［ユーザー環境設定］画面で設定できます。［ユーザー環境設定］画面でイベント取得件数を設定する方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.22　［ユーザー環境設定］画面」を参照してください。

［イベント検索］ページのイベント一覧では，左端の列にイベントへの対処状況を示す対処状況マークが表示されます。

対処状況の種類と，その対処状況を示す対処状況マークを次に示します。

表 5-9　対処状況の種類と対処状況マーク

対処状況	対処状況マーク
対処済	
処理中	
保留	
未対処	（無印）

イベント検索時に，1 回で取得されなかったイベントを表示するには，［次イベント検索］ボタンをクリックします。表示される内容は，検索方向，および各条件で設定した範囲によって異なります。

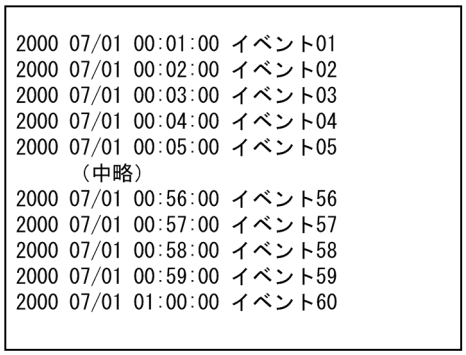
イベント検索結果の表示例を次に示します。

（前提条件）

・1 回のイベント検索で取得できるイベントは 20 件。

・イベント DB には次に示すイベントだけが格納されている。

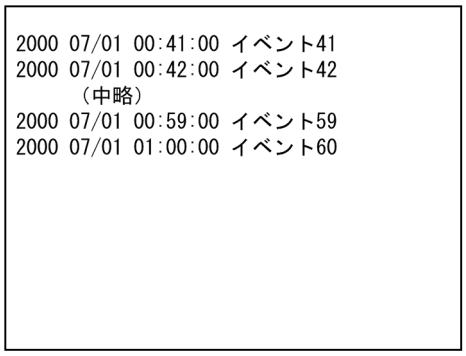
図 5-3　イベント DB に格納されているイベント



(例 1)

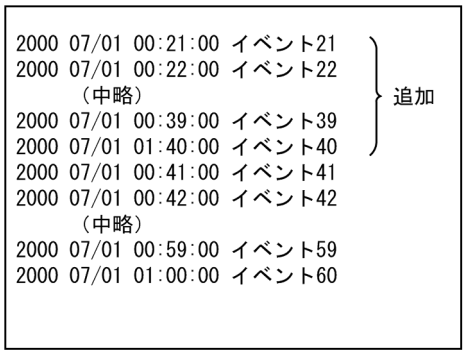
[イベント検索条件設定] 画面の [検索方向] で [過去方向] を指定すると，イベント一覧には，イベント DB に登録された JP1 イベントの最後尾から 20 件までの JP1 イベントが表示されます。

図 5-4　イベントの最後尾から 20 件表示



[次イベント検索] ボタンをクリックすると，次の 20 件のイベントがすでに表示されているイベントの上に追加して表示されます。

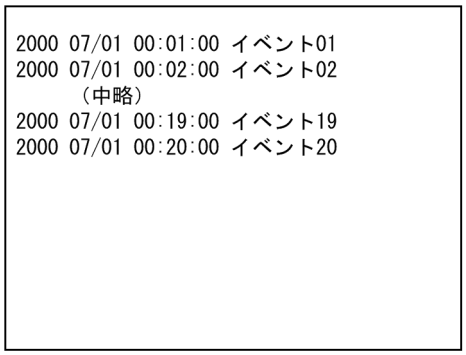
図 5-5　[次イベント検索] ボタンクリック後の表示



(例 2)

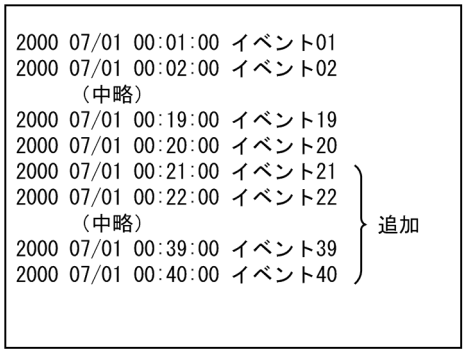
[イベント検索条件設定] 画面の [検索方向] で [未来方向] を指定すると，イベント一覧には，イベント DB に登録された JP1 イベントの先頭から 20 件までの JP1 イベントが表示されます。

図 5-6　イベントの先頭から 20 件表示



［次イベント検索］ボタンをクリックすると，次の 20 件のイベントがすでに表示されているイベントの下に追加して表示されます。

図 5-7　［次イベント検索］ボタンクリック後の表示



5.5.3　イベント検索で対処状況を設定する

［イベント検索］ページでは，検索結果であるイベントを表示している状態で，イベントの実際の対処状況に合わせ，対処状況を設定できます。なお，対処状況を設定するには，次の条件があります。

- ログインしているマネージャーからの検索結果である。
- JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限がある。

［イベント検索］ページで対処状況を設定する

「対処済」「処理中」「保留」および「未対処」の四つの対処状況を設定できます。

対処状況を設定するには，［イベント検索］ページの設定対象とするイベントを選択してから，次のどちらかの操作をします。

- メニューバーから［表示］を選択し，サブメニューの中から設定したい対処状況を選ぶ。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから，設定したい対処状況を選ぶ。

［イベント検索］ページで設定したイベントの対処状況を示す情報（「対処済」，「処理中」，「保留」，「未対処」）は，［イベント監視］ページ，［重要イベント］ページに表示されている同一イベントにも反映されます。

［イベント検索］ページでは検索した時点のイベント内容を表示しているため，ほかのページで変更されてもこのページでの表示は変わりません。最新データを表示する場合は，再度検索を実行してください。

検索ホストにマネージャーホストを指定する場合は，マネージャーホストのホスト名または IPv4 アドレスを指定してください。

5.6　JP1 イベントを発行したアプリケーションをモニター起動する

受信した JP1 イベントに関連するプログラムのモニター画面を表示し，情報の参照や操作ができます。この機能は，WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。

［イベントコンソール］画面からモニター画面を起動するには，次のように操作します。

1. ［イベントコンソール］画面のイベント一覧で JP1 イベントを選択し，［表示］－［モニター起動］を選択する。または，ツールバーの  をクリックするか，ポップアップメニューの［モニター起動］を選択する。
   対応するプログラムのモニター画面（WWW ページまたはアプリケーションプログラム）が起動します。

また，［イベント詳細］画面の［モニター起動］ボタンをクリックして，モニター画面を起動することもできます。

なお，選択した JP1 イベントに対応するプログラムがない，またはモニター画面を起動するための設定がされていない場合は，メニューおよびボタンは選択できません。モニター画面を起動するための設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.14　連携製品のモニター起動の設定」を参照してください。

5.6.1　対応するプログラム

モニター画面を起動できるプログラムを次の表に示します。

プログラム名	画面種別	モニター起動定義ファイル名	対応 OS
JP1/NETM/Asset Information Manager	WWW ページ	hitachi_jp1_aim_mon.conf	Windows 7 および Windows Vista 以外の Windows
JP1/PFM	WWW ページ	hitachi_jp1_pfmmgr_mon.conf	制限なし
JP1/IM - Rule Operation	アプリケーションプログラム	hitachi_jp1_im_rm_mon.conf	制限なし
JP1/IM - Event Gateway for Network Node Manager i	WWW ページ	hitachi_jp1_im_egn_mon.conf	制限なし
JP1/Base (SNMP トラップ)	WWW ページ	hitachi_jp1_imevtgw_mon.conf	制限なし

プログラム名	画面種別	モニター起動定義ファイル名	対応 OS
JP1/AJS2 - Scenario Operation	アプリケーションプログラム	hitachi_jp1_ajs2so_mon.conf	制限なし
JP1/AJS3（バージョン 9 以降）または JP1/AJS2（バージョン 8 以前）	アプリケーションプログラム	hitachi_jp1_ajs2_mon.conf	制限なし
JP1/AJS2 メインフレーム	アプリケーションプログラム	hitachi_jp1_ajs2_mainframe_mon.conf	制限なし
Cosminexus Application Server	アプリケーションプログラム	hitachi_cosminexus_manager_mon.conf	制限なし

5.7　表示フィルターを有効にする

［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページおよび［重要イベント］に表示される JP1 イベントに対し，表示フィルターを有効にするには次の操作をします。

1. **［フィルター名］リストボックスから，有効にしたい表示フィルターを選択する。**
2. **［表示フィルター］チェックボックスをチェックする，またはメニューから［表示］－［表示フィルターの適用］を選択する。**

   フィルターで設定した条件に一致する JP1 イベントが，［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページおよび［重要イベント］に表示されます。

表示フィルターを有効にするには，フィルター設定を済ませておく必要があります。

表示フィルターの設定について

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.2.1　表示フィルターを設定する」

5.8　イベント取得フィルターを切り替える

JP1/IM が JP1/Base から JP1 イベントを取得するときのフィルター条件を，複数保存してあるイベント取得フィルターから一つ選択して，切り替えられます。

また，イベント取得フィルターで一時的に特定の JP1 イベントの取得を対象外にしたい場合に定義する共通除外条件の有効・無効を切り替えられます。

共通除外条件の切り替えは，メンテナンス作業を実施するホストを JP1/IM の監視対象外として，メンテナンス作業を実施するホストから発行される JP1 イベントを一時的に取得しないようフィルタリングする場合に実施します。

イベント取得フィルター，および共通除外条件の切り替え方法には，次の 2 種類があります。

- JP1/IM - View の［システム環境設定］画面または［イベント取得条件一覧］画面から切り替える
- `jcochfilter` コマンドを使用して切り替える

ただし，イベント取得フィルターが互換用で動作している場合は，イベント取得フィルターの切り替えはできません。

イベント取得フィルターを切り替えた場合に発行されるイベントについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.2.2　イベント取得フィルター」を参照してください。

5.8.1　JP1/IM - View の［システム環境設定］画面または［イベント取得条件一覧］画面から切り替える

JP1/IM - View の［システム環境設定］画面または［イベント取得条件一覧］画面でイベント取得フィルター，および共通除外条件の有効・無効を切り替えられます。

なお，［システム環境設定］画面および［イベント取得条件一覧］画面を起動するには，JP1_Console_Admin 権限が必要です。また，業務グループの参照・操作制限を設定している場合，JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2)　JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

(1)　［システム環境設定］画面から切り替える

(a)　イベント取得フィルターを切り替える

切り替えるイベント取得フィルター名が明確な場合，［システム環境設定］画面からイベント取得フィルターを選択して，切り替えを実施します。

設定手順は，次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で［オプション］－［システム環境設定］を選択する。
   ［システム環境設定］画面が表示されます。

2. [適用中のフィルター] のドロップダウンリストから，イベント取得フィルターを選択する。

3. [適用] ボタンをクリックする。
   設定した内容が有効になります。

(b) 共通除外条件の有効・無効を切り替える

設定手順は，次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で［オプション］－［システム環境設定］を選択する。
   ［システム環境設定］画面が表示されます。

2. [共通除外条件群一覧] から，適用したい条件群をチェックする。

3. [適用] ボタンをクリックする。
   設定した内容が有効になります。

(2) ［イベント取得条件一覧］画面から切り替える

(a) イベント取得フィルターを切り替える

［システム環境設定］画面からでは切り替えるイベント取得フィルター名が特定できない場合，［イベント取得条件一覧］画面でイベント取得フィルターの設定内容などを確認して，切り替えを実施します。

設定手順は，次のとおりです。

1. [イベントコンソール] 画面で［オプション］－［システム環境設定］を選択する。
   ［システム環境設定］画面が表示されます。

2. [イベント取得条件] の［一覧編集］ボタンをクリックする。
   ［イベント取得条件一覧］画面が表示されます。

3. [フィルター一覧] から，イベント取得フィルターを選択する。
   フィルター ID やフィルター名からイベント取得フィルターを特定します。内容を確認したい場合は，イベント取得フィルターを一つ選択し，［編集］ボタンをクリックすると，［イベント取得条件設定］画面が表示され，選択したフィルターの内容が確認できます。

4. [OK] ボタンをクリックする。
   ［システム環境設定］画面に戻ります。

5. [適用] ボタンをクリックする。
   設定した内容が有効になります。

なお，［イベント取得条件一覧］画面では，フィルター条件の追加・編集・複製・削除ができます。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.2.4　イベント取得フィルターを設定する」を参照してください。

(b)　共通除外条件の有効・無効を切り替える

設定手順は，次のとおりです。

1. ［イベントコンソール］画面で［オプション］－［システム環境設定］を選択する。
   ［システム環境設定］画面が表示されます。
2. ［イベント取得条件］の［一覧編集］ボタンをクリックする。
   ［イベント取得条件一覧］画面が表示されます。
3. ［共通除外条件群一覧］から，適用したい条件群をチェックする。
   内容を確認したい場合は，共通除外条件を一つ選択し，［編集］ボタンをクリックすると，［共通除外条件設定］画面が表示され，選択した共通除外条件の内容が確認できます。
4. ［OK］ボタンをクリックする。
   ［システム環境設定］画面に戻ります。
5. ［適用］ボタンをクリックする。
   設定した内容が有効になります。

5.8.2　jcochfilter コマンドを使用して切り替える

jcochfilter コマンドを使用して，イベント取得フィルター，および共通除外条件の有効・無効を切り替えられます。

jcochfilter コマンドでイベント取得フィルター，および共通除外条件の有効・無効を切り替える場合，JP1/AJS のジョブスケジューラー機能を使用して，所定の時刻にjcochfilter コマンドを実行し，保守業務を開始するジョブネットを作成することで，保守業務と監視状態の変更を自動的化できます。

(1)　イベント取得フィルターを切り替える

イベント取得フィルターには，固有のフィルター ID が設定されています。このフィルター ID を利用して，jcochfilter コマンドでイベント取得フィルターを切り替えます。

jcochfilter コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcochfilter」（1.　コマンド）を参照してください。

設定手順は，次のとおりです。

1. jcochfilter コマンドを入力して，イベント取得条件一覧をリスト表示する。

物理ホストと論理ホストで，イベント取得条件一覧を表示する場合の例を次に示します。

- 物理ホスト上のイベント取得条件一覧を表示する場合
  次のようにコマンドを入力します。
  ```
  jcochfilter
  ```
- 論理ホスト hostA 上のイベント取得条件一覧を表示する場合
  次のようにコマンドを入力します。
  ```
  jcochfilter -h hostA
  ```

論理ホスト hostA 上のイベント取得条件一覧の表示例を次に示します。

図 5-8　jcochfilter コマンドによるイベント取得条件一覧の表示例

```
> jcochfilter
KAVB1005-I コマンド（jcochfilter）を開始しました
KAVB0856-I イベント取得フィルター一覧を表示します。ホスト名：hostA
KAVB0857-I JP1/IM - Managerに接続しました
現在適用しているフィルターID：3
                フィルター名：通常運用フィルター
現在適用している共通除外条件群ID：0
                共通除外条件群名：APサーバーメンテナンス
現在適用している共通除外条件群ID：2
                共通除外条件群名：DBサーバーメンテナンス

定義されているフィルター一覧：
ID    フィルター名
0     既存のフィルター条件
3     通常運用フィルター
定義されている共通除外条件群一覧：
ID    条件群名
0     APサーバーメンテナンス
1     Webサーバーメンテナンス
2     DBサーバーメンテナンス
KAVB1002-I コマンド（jcochfilter）が正常終了しました
```

指定したホスト上の JP1/IM - Manager が起動されていない場合，コマンドによるイベント取得フィルターの切り替えは実行できません。

2. フィルター ID やフィルター名からイベント取得フィルターを特定する。

3. jcochfilter -i コマンドを入力して，イベント取得フィルターを切り替える。

物理ホストと論理ホストで，イベント取得フィルターを切り替える場合の例を次に示します。

- 物理ホスト上のイベント取得フィルターをフィルター ID が 3 のフィルターに切り替える場合
  次のようにコマンドを入力します。
  ```
  jcochfilter -i 3
  ```
- 論理ホスト hostA 上のイベント取得フィルターをフィルター ID が 3 のフィルターに切り替える場合
  次のようにコマンドを入力します。
  ```
  jcochfilter -i 3 -h hostA
  ```

(2) 共通除外条件の有効・無効を切り替える

共通除外条件には，固有の共通除外条件群 ID が設定されています。この共通除外条件群 ID を利用して，jcochfilter コマンドで共通除外条件の有効・無効を切り替えます。

jcochfilter コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcochfilter」（1. コマンド）を参照してください。

設定手順は，次のとおりです。

1. jcochfilter コマンドを入力して，イベント取得条件一覧をリスト表示する。

   物理ホストと論理ホストで，イベント取得条件一覧を表示する場合の例を次に示します。

   - 物理ホスト上のイベント取得条件一覧を表示する場合

     次のようにコマンドを入力します。

     ```
     jcochfilter
     ```

   - 論理ホスト hostA 上のイベント取得条件一覧を表示する場合

     次のようにコマンドを入力します。

     ```
     jcochfilter -h hostA
     ```

   指定したホスト上の JP1/IM - Manager が起動されていない場合，コマンドによるイベント取得フィルターの切り替えは実行できません。

2. 共通除外条件群 ID や共通除外条件群名から共通除外条件群を特定する。

3. 共通除外条件群の有効・無効を切り替える。

   次のどちらかのオプションで共通除外条件群の有効・無効を切り替えます。

   - -e オプション

     有効にしたい共通除外条件群 ID を指定します。

     指定しなかった共通除外条件群は無効となります。

   - -on または-off オプション

     有効にしたい共通除外条件群 ID を指定します。

     指定しなかった共通除外条件群の有効・無効は変更されません。

     共通除外条件の動作モードが拡張モードの場合に使用できます。

   物理ホストと論理ホストで，共通除外条件の有効・無効を切り替える場合の例を次に示します。

   - 物理ホスト上の共通除外条件群 ID が 3 の共通除外条件を有効にして，共通除外条件群 ID が 1，2 の共通除外条件を無効にした場合（指定した共通除外条件群だけが変更されます。）

     この指定は，共通除外条件の動作モードが拡張モードの場合に使用できます。

     ```
     jcochfilter -on 3 -off 1,2
     ```

   - 物理ホスト上の共通除外条件群 ID が 3 の共通除外条件を有効にして，それ以外を無効にする場合

     ```
     jcochfilter -e 3
     ```

- 論理ホスト hostA 上の共通除外条件群 ID が 3 の共通除外条件を有効にして，それ以外を無効にする場合

  ```
  jcochfilter -e 3 -h hostA
  ```

5.9　JP1/IM - View の表示情報を CSV 出力する

JP1/IM - View に表示されている情報について，次の三つの方法で CSV 出力できます。

- JP1/IM - View に表示されている JP1 イベントの一覧情報をファイルに保存する。
- 統合監視 DB に登録している JP1 イベントを`jcoevtreport` コマンドを使用して CSV 出力する。
- JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などで，選択した部分をクリップボードにコピーする。

ここでは，それぞれの方法で CSV 出力する手順について説明します。

5.9.1　イベント一覧を CSV 出力する

JP1/IM - View に表示されているイベント一覧のスナップショット※を，CSV ファイルに保存できます。この機能は，WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。

注※　スナップショットとは，特定のタイミングで情報を抽出することを意味します。

CSV 出力できる画面を次に示します。

- ［イベントコンソール］画面の［イベント監視］ページ
- ［イベントコンソール］画面の［重要イベント］ページ
- ［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページ

CSV 出力する手順は次のとおりです。

1. **［イベントコンソール］画面で CSV 出力するページを表示する。**
   ［イベントコンソール］画面のタブで切り替えてください。
   CSV 出力されるのは，表示したページのイベント一覧に表示されている情報です。イベント一覧に表示されていない JP1 イベントや項目は出力されません。
   ［イベント監視］ページに表示されている JP1 イベントを絞り込みたい場合は，表示フィルターを適用してから次に進んでください。
   ［イベント検索］ページの場合，イベント検索を実行し，CSV 出力したい JP1 イベントを表示してから次に進んでください。
2. **［イベントコンソール］画面で［ファイル］－［表示イベントを保存］を選択する。**
   ［表示イベントを保存］画面が表示されます。
3. **任意のフォルダに任意のファイル名で保存する。**
   任意のフォルダ名，任意のファイル名を指定して，保存してください。

5.9.2　統合監視 DB の内容を CSV 出力する

ここでは統合監視 DB の内容を CSV 出力する手順について説明します。CSV 形式で出力できる情報や，CSV の出力形式については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.12.2　統合監視 DB のイベント情報を保管（イベントレポート出力）」を参照してください。

CSV 出力する手順は次のとおりです。

1. jcoevtreport コマンドに CSV 出力する JP1 イベントの属性を指定する。

   - 出力範囲

     jcoevtreport コマンドに出力対象始点日オプション（-s）と出力対象終点日オプション（-e）を指定することで，出力範囲の指定ができます。

     また，jcoevtreport コマンドにフィルタリングオプション（-f）を指定することで，システム管理者が指定した条件に一致する JP1 イベントだけを CSV 形式にして出力できます。

     さらに，jcoevtreport コマンドに保存出力オプション（-save）を指定することで，統合監視 DB に登録している JP1 イベントの情報を保存出力できます。システム管理者は，定期的に保存出力することで，すべての JP1 イベントの情報を保存できます。

   - 出力内容

     jcoevtreport コマンドに出力項目オプション（-k）を指定することで，CSV 形式にして出力する JP1 イベントの固有情報を絞り込むことができます。

     また，jcoevtreport コマンドに保守情報出力オプション（-sys）を指定することで，統合監視 DB に登録している JP1 イベントの保守情報を CSV 形式にして出力できます。保守情報出力は，統合監視 DB で障害が発生した場合の資料採取が目的であるため，出力項目の指定やフィルタリングができません。

   - 出力先

     jcoevtreport コマンドは，アプリケーションで扱いやすいようにファイルを分割しながら JP1 イベントの情報を CSV 形式にして出力します。jcoevtreport コマンドの-o オプションを指定することで，出力先ファイルの名称を変更できます。出力先ファイルの名称は，「出力ファイル名_通し番号.csv」です。

   jcoevtreport コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoevtreport」（1. コマンド）を参照してください。

2. jcoevtreport コマンドを実行して，統合監視 DB に登録している JP1 イベントの情報を，CSV 出力する。

5.9.3 JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などをクリップボードにコピーする

JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などについて，選択した部分の情報を CSV 形式でクリップボードにコピーできます。この機能は，WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。

CSV 形式でクリップボードにコピーできる情報や，機能を使用できる画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.12.3　JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などをクリップボードにコピー」を参照してください。

CSV 形式でクリップボードにコピーする手順は次のとおりです。

1. クリップボードにコピーしたい情報がある画面を表示する。
2. コピーしたい情報を選択する。
3. ショートカットキーの［Ctrl］＋［C］キーを押す。
   選択した情報がクリップボードにコピーされます。［イベントコンソール］画面では，ショートカットキーの［Ctrl］＋［C］キーを押す代わりに［編集］－［コピー］も選択できます。

6 セントラルスコープによるシステムの監視

この章では，JP1/IM - View を使用して監視オブジェクトを監視する手順について説明します。

6.1　［監視ツリー］画面で監視する

監視オブジェクトの状態は，［監視ツリー］画面で監視できます。また，［監視ツリー］画面に表示される監視ノード（監視グループ・監視オブジェクト）に対して，状態の変更や監視状態の変更など，各種操作ができます。

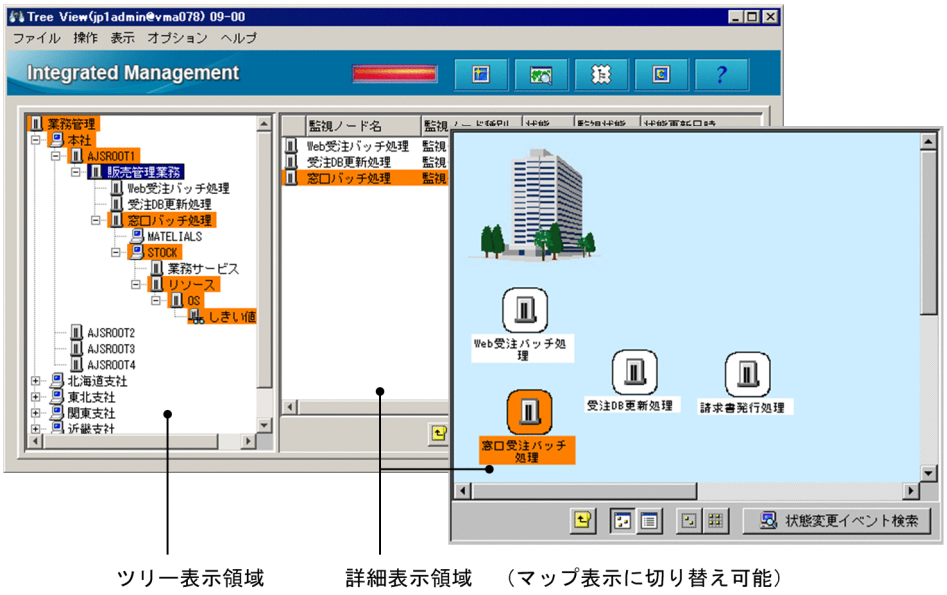
監視ツリーの監視範囲設定を有効にしている場合，監視ツリーには，ログインしている JP1 ユーザーと同じ JP1 資源グループが設定されている監視ノードだけが表示されます。このとき，仮想ルートノードが最上位ノードとして表示されます。表示できる監視ノードが一つもない場合は，仮想ルートノードだけが表示されます。ただし，JP1 資源グループが JP1_Console で，JP1_Console_Admin 権限を持つ JP1 ユーザーでログインしている場合は，すべての監視ノードが表示されます。

［監視ツリー］画面は，次に示す三つのうち，どれかの方法で表示できます。

- JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）にログインする。
- ［イベントコンソール］画面の［セントラルスコープ起動］ボタンをクリックする。
- ［イベントコンソール］画面のメニューバーから［ファイル］－［セントラルスコープ起動］を選択する。

［監視ツリー］画面の表示例を次に示します。

図 6-1　［監視ツリー］画面の表示例



6.1.1　監視ノードの状態を変更する

［監視ツリー］画面に表示された監視ノードの状態を変更する手順について説明します。なお，変更できる状態，変更時の動作は，監視ノードの種別（監視グループ，監視オブジェクト）によって異なります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.2 監視ノードの状態」を参照してください。

監視ノードの状態を変更するには，JP1_Console_Operator 以上の権限が必要です。監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合は，表示されている監視ノードのうち，JP1_Console_Operator 以上の権限でアクセスできる監視ノードだけ状態を変更できます。

監視ノードの状態を変更する手順を次に示します。

1. ツリー表示領域または詳細表示領域に表示された監視ノードを選択する。
2. 次に示すどちらかの方法で監視ノードの状態を変更する。
   - メニューバーから［操作］－［状態変更］を選択し，ユーザーが意図する状態に変更する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［状態変更］を選択し，ユーザーが意図する状態に変更する。

   確認ダイアログボックスが表示されます。
3. 確認ダイアログボックスで［はい］ボタンをクリックする。

6.1.2　監視ノードの監視状態を変更する

監視ノードの監視状態を変更する手順について説明します。なお，変更時の動作は，監視ノードの種別（監視グループ，監視オブジェクト）によって異なります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.2　監視ノードの状態」を参照してください。

監視ノードの監視状態を変更するには，JP1_Console_Operator 以上の権限が必要です。監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合は，表示されている監視ノードのうち，JP1_Console_Operator 以上の権限でアクセスできる監視ノードだけ状態を変更できます。

監視ノードの監視状態を変更する手順を次に示します。

1. ツリー表示領域または詳細表示領域に表示された監視ノードを選択する。
2. 次に示すどれかの方法で監視ノードの状態を変更する。
   - メニューバーから［操作］－［監視状態変更］を選択し，ユーザーが意図する監視状態に変更する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［監視状態変更］を選択し，ユーザーが意図する監視状態に変更する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［プロパティ］を選択し，［全般］ページの「監視」「非監視」ボックスのどちらかを選択し，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックする。
   - 選択した監視ノードをダブルクリックして，［プロパティ］画面を表示し，［全般］ページの「監視」「非監視」ボックスのどちらかを選択し，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックする（監視オブジェクト限定）。

注意事項

- 上位監視グループの監視状態が「非監視」の場合，下位監視ノードだけを「監視」にすることはできません。
- 監視ノードの監視状態を「非監視」にすると，状態は「初期状態」に戻ります。

6.1.3　監視ノードを検索する

監視ノードを検索する手順について説明します。監視ツリーの監視範囲設定が有効になっている場合，仮想ルートノードを基点に検索できません。また，仮想ルートノードは検索対象になりません。

監視ノードを検索する手順を次に示します。

1. ツリー表示領域または詳細表示領域に表示された監視グループを選択する。
   検索できる監視ノードは，選択した監視グループおよびその監視グループ下の監視ノードに限定できます。
2. 次に示すどちらかの方法で［検索］画面を表示する。
   - メニューバーから［表示］－［検索］を選択する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［検索］を選択する。
3. ［検索］画面で条件を入力し，［検索］ボタンをクリックする。
   検索条件に一致する監視ノードが一覧表示されます。

一覧表示された監視ノードに対して次の操作ができます。

- 監視ノードの状態，監視状態を変更する。
  監視ノードの状態，監視状態を変更する場合は，右クリックしてポップアップメニューを表示してください。
- 目的とする監視ノードを選択した状態で［監視ツリー］画面を表示する。
  この場合は，ダブルクリックしてください。

6.1.4　状態変更イベントを検索する

状態変更イベントを検索する手順を次に示します。

1. 状態が変わった監視ノードを選択する。
2. 次に示すどれかの方法で状態変更イベント検索を実行する。
   - メニューバーから［表示］－［状態変更イベント検索］を選択する。

- 右クリックして表示されるポップアップメニューから［状態変更イベント検索］を選択する。
- 詳細表示領域下にある［状態変更イベント検索］ボタンをクリックする。

監視オブジェクトに対し，状態変更イベント検索を実行した場合，その監視オブジェクトの，状態変更条件に合致した JP1 イベントが，発生の古い順に 100 件まで［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページに表示されます（101 件以降は表示されません）。このため，検索結果として表示される JP1 イベントが増えてきたら，適宜，監視オブジェクトの状態を手動で変更することをお勧めします。

なお，監視オブジェクトの状態変更条件に合致した JP1 イベントが 100 件を超えた場合には，警告の JP1 イベント（イベント ID ＝ 00003FB1）が発行されます。この JP1 イベントが発行された場合には，状態変更条件に合致した JP1 イベントへの対処を確認し，監視オブジェクトの状態を手動で変更してください。

監視グループに対し，状態変更イベント検索を実行した場合，その監視グループ配下の各監視オブジェクトの，状態変更条件に合致した JP1 イベントが，発生の古い順に 100 件まで［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページに表示されます（101 件以降は表示されません）。ただし，監視グループの状態変更条件を定義している場合には，下位の監視ノードの状態を変更したイベントがあっても，対策の必要がある状態変更イベントだけ，発生の古い順に 100 件まで表示されます。

注意事項

- 監視ノードの状態を手動で変更すると，状態変更イベントの履歴がクリアされるため，それまでに発生していた状態変更イベントを検索（表示）できなくなります。監視ノードの状態を手動で変更する前に，状態変更条件に合致した JP1 イベントへの対処を確認してください。
- 状態変更イベント検索で検索できる JP1 イベントは，ユーザーフィルターによって制限された JP1 イベントとなります（ユーザーフィルターによる制限の対象となるユーザーの場合）。
- 状態変更イベントの検索をする場合は，前もって［イベントコンソール］画面を起動しておくことをお勧めします。
- 監視オブジェクトの状態変更条件に合致する JP1 イベントが 100 件を超えた場合には，対処済み連動機能は無効になります。このため，検索結果として表示される JP1 イベントが増えてきたら，適宜，監視オブジェクトの状態を手動で変更することをお勧めします。

6.1.5　監視ノードの属性を表示する

監視ノードの属性を表示する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択する。
2. 次に示すどれかの方法で［プロパティ］画面を表示する。
   - メニューバーから［表示］－［プロパティ］を選択する。
   - メニューバーから［オプション］－［基本情報］を選択する。

- メニューバーから［オプション］－［状態変更条件］を選択する。
- メニューバーから［オプション］－［イベント発行条件］を選択する。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから［プロパティ］を選択する。
- ダブルクリックする（監視オブジェクト限定）。

なお，［プロパティ］画面に表示される属性のうち幾つかは，JP1_Console_Operator 以上の操作権限を持つ JP1 ユーザーであれば変更できます。監視ノードの属性を変更する場合は，JP1_Console_Operator 以上の操作権限を持つ JP1 ユーザーでログインしてください。

6.1.6 ガイド情報を表示する

ガイド情報を表示する手順を次に示します。

1. 監視オブジェクトを選択する。
2. 次に示すどちらかの方法で［ガイド］画面を表示する。
   - メニューバーから［表示］－［ガイド］を選択する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［ガイド］を選択する。

なお，状況に応じたガイド情報を表示するための条件や，ガイド情報の内容は，あらかじめガイド情報ファイルに定義する必要があります。

ガイド情報の機能，設定，および定義ファイルについて

- ガイド情報について設定する内容，ガイド機能について
  参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.8　ガイド機能」
- ガイド情報ファイルの編集について
  参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「5.6　ガイド情報の編集」
- ガイド情報ファイルの書式について
  参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「ガイド情報ファイル（jcs_guide_XXX.txt）」（2.　定義ファイル）

6.1.7 ［ビジュアル監視］画面を表示する

［ビジュアル監視］画面を表示する手順を次に示します。

1. 次に示すどちらかの方法で［ビジュアル監視画面を開く］画面を表示する。
   - メニューバーから［表示］－［ビジュアル監視］を選択する。

- ツールバーの  をクリックする。

2. [ビジュアル監視画面を開く]画面で表示したい[ビジュアル監視]画面名を選択し，[OK]ボタンをクリックする。

6.1.8 ログインユーザーの一覧を表示する

JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）にログインしている JP1 ユーザーの一覧を表示する手順を次に示します。

1. メニューバーの[オプション]－[ログインユーザー一覧]を選択する。

6.1.9 [監視ツリー]画面の情報をローカルホストに保存する

ローカルホストに保存する手順を次に示します。

1. メニューバーから[ファイル]－[監視ツリーの状態を保存]を選択する。
   ファイル選択画面が開きます。

2. ローカルホストの任意のフォルダに任意の名称を付けて保存する。
   監視ツリーの情報が CSV 形式のファイルで保存されます。

監視ツリーの監視範囲設定が有効になっている場合，[監視ツリー]画面の情報はローカルホストに保存できません。保存したい場合は，[監視ツリー(編集中)]画面からローカルホストに保存してください。

6.2　［ビジュアル監視］画面で監視する

監視オブジェクトの状態は，［ビジュアル監視］画面で監視できます。

監視ツリーの監視範囲設定を有効にしている場合，［ビジュアル監視］画面には，ログインしている JP1 ユーザーと同じ JP1 資源グループが設定されている監視ノードだけが表示されます。ただし，JP1 資源グループが JP1_Console で，JP1_Console_Admin 権限の JP1 ユーザーでログインしている場合は，すべての監視ノードが表示されます。

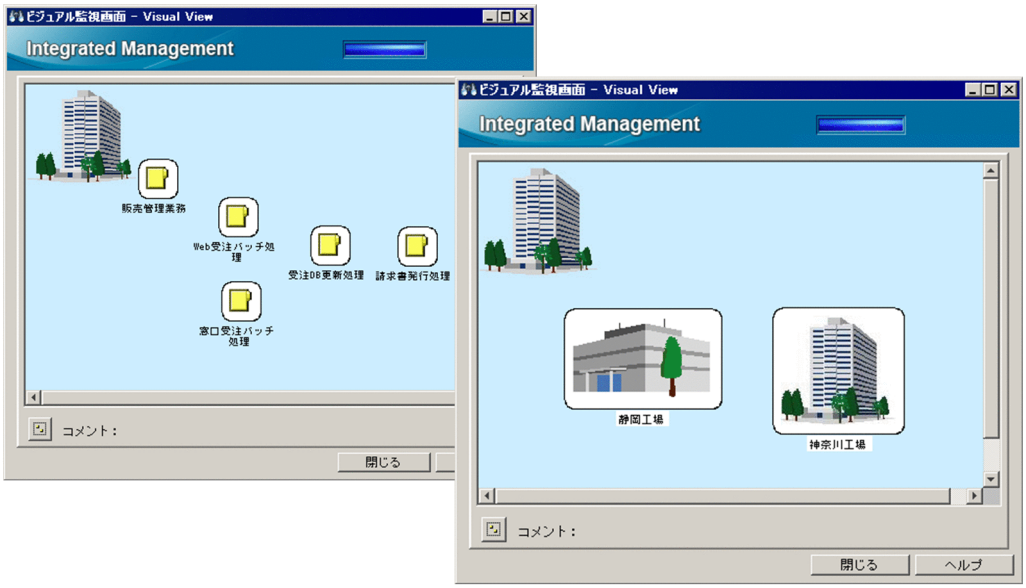
［ビジュアル監視］画面は，次に示す手順で表示できます。

1. 次に示すどちらかの方法で［ビジュアル監視画面を開く］画面を表示する。
   - ［監視ツリー］画面のメニューバーから［表示］－［ビジュアル監視］を選択する。
   - ［監視ツリー］画面のツールバーの  をクリックする。
2. ［ビジュアル監視画面を開く］画面で表示したい［ビジュアル監視］画面名を選択し，［OK］ボタンをクリックする。

   監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合，表示できる監視ノードが一つもないビジュアル監視画面は，［ビジュアル監視画面を開く］画面の一覧に表示されません。

［ビジュアル監視］画面の表示例を次に示します。

図 6-2　［ビジュアル監視］画面の表示例



6.2.1　［ビジュアル監視］画面から［監視ツリー］画面を呼び出す

［ビジュアル監視］画面から［監視ツリー］画面を表示する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択し，ダブルクリックする。

   ［ビジュアル監視］画面でダブルクリックした監視ノードを選択した状態で［監視ツリー］画面が表示されます。

6.2.2　監視ノードの状態を変更する

［ビジュアル監視］画面に表示された監視ノードの状態を変更する手順について説明します。なお，変更できる状態，変更時の動作は，監視ノードの種別（監視グループ，監視オブジェクト）によって異なります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.2　監視ノードの状態」を参照してください。

監視ノードの状態を変更するには，JP1_Console_Operator 以上の権限が必要です。監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合は，表示されている監視ノードのうち，JP1_Console_Operator 以上の権限でアクセスできる監視ノードだけ状態を変更できます。

監視ノードの状態を変更する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択する。
2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから［状態変更］を選択し，ユーザーが意図する状態に変更する。

   確認ダイアログボックスが表示されます。
3. 確認ダイアログボックスで［はい］ボタンをクリックする。

6.2.3　監視ノードの監視状態を変更する

監視ノードの監視状態を変更する手順について説明します。なお，変更時の動作は，監視ノードの種別（監視グループ，監視オブジェクト）によって異なります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.2　監視ノードの状態」を参照してください。

監視ノードの監視状態を変更するには，JP1_Console_Operator 以上の権限が必要です。監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合は，表示されている監視ノードのうち，JP1_Console_Operator 以上の権限でアクセスできる監視ノードだけ状態を変更できます。

監視ノードの監視状態を変更する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択する。
2. 次に示すどれかの方法で監視ノードの状態を変更する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［監視状態変更］を選択し，ユーザーが意図する監視状態に変更する。

- 右クリックして表示されるポップアップメニューから［プロパティ］を選択し，［全般］ページの「監視」「非監視」ボックスのどちらかを選択し，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックする。

注意事項

- 上位監視グループの監視状態が「非監視」の場合，下位監視ノードだけを「監視」にすることはできません。上位監視グループの監視状態は，［監視ツリー］画面で確認してください。
- 監視ノードの監視状態を「非監視」にすると，状態は「初期状態」に戻ります。

6.2.4　監視ノードを検索する

監視ノードを検索する手順を次に示します。

1. 監視グループを選択する。
   検索できる監視ノードは，選択した監視グループおよびその監視グループ下の監視ノードに限定できます。
2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから［検索］を選択する。
3. ［検索］画面で条件を入力し，［検索］ボタンをクリックする。
   検索条件に一致する監視ノードが一覧表示されます。

一覧表示された監視ノードに対して次の操作ができます。

- 監視ノードの状態，監視状態を変更する。
  監視ノードの状態，監視状態を変更する場合は，右クリックしてポップアップメニューを表示してください。
- 目的とする監視ノードを選択した状態で［監視ツリー］画面を表示する。
  この場合は，ダブルクリックしてください。

6.2.5　状態変更イベントを検索する

状態変更イベントを検索する手順を次に示します。

1. 状態が変わった監視ノードを選択する。
2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから［状態変更イベント検索］を選択する。

監視オブジェクトに対し，状態変更イベント検索を実行した場合，その監視オブジェクトの，状態変更条件に合致した JP1 イベントが，発生の古い順に 100 件まで［イベントコンソール］画面の［イベント検

索］ページに表示されます（101 件以降は表示されません）。このため，検索結果として表示される JP1 イベントが増えてきたら，適宜，監視オブジェクトの状態を手動で変更することをお勧めします。

なお，監視オブジェクトの状態変更条件に合致した JP1 イベントが 100 件を超えた場合には，警告の JP1 イベント（イベント ID ＝ 00003FB1）が発行されます。この JP1 イベントが発行された場合には，状態変更条件に合致した JP1 イベントへの対処を確認し，監視オブジェクトの状態を手動で変更してください。

監視グループに対し，状態変更イベント検索を実行した場合，その監視グループ配下の各監視オブジェクトの，状態変更条件に合致した JP1 イベントが，発生の古い順に 100 件まで［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページに表示されます（101 件以降は表示されません）。ただし，監視グループの状態変更条件を定義している場合には，下位の監視ノードの状態を変更したイベントがあっても，対策の必要がある状態変更イベントだけ，発生の古い順に 100 件まで表示されます。

注意事項

- 監視ノードの状態を手動で変更すると，状態変更イベントの履歴がクリアされるため，それまでに発生していた状態変更イベントを検索（表示）できなくなります。手動で変更する前に，状態変更条件に合致した JP1 イベントへの対処を確認してください。
- 状態変更イベント検索で検索できる JP1 イベントは，ユーザーフィルターによって制限された JP1 イベントとなります（ユーザーフィルターによる制限の対象となるユーザーの場合）。
- 状態変更イベントの検索をする場合は，前もって［イベントコンソール］画面を起動しておくことをお勧めします。
- 監視オブジェクトの状態変更条件に合致する JP1 イベントが 100 件を超えた場合には，対処済み連動機能は無効になります。このため，検索結果として表示される JP1 イベントが増えてきたら，適宜，監視オブジェクトの状態を手動で変更することをお勧めします。

6.2.6　監視ノードの属性を表示する

監視ノードの属性を表示する手順を次に示します。

1. 監視ノードを選択する。
2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから［プロパティ］を選択する。
   ［プロパティ］画面が表示されます。

［プロパティ］画面に表示される属性のうち幾つかは，JP1_Console_Operator 以上の操作権限を持つ JP1 ユーザーであれば変更できます。監視ノードの属性を変更する場合は，JP1_Console_Operator 以上の操作権限を持つ JP1 ユーザーでログインしてください。

6.2.7　ガイド情報を表示する

ガイド情報を表示する手順を次に示します。

1. 監視オブジェクトを選択する。

2. 右クリックして表示されるポップアップメニューから［ガイド］を選択する。

なお，状況に応じたガイド情報を表示するための条件や，ガイド情報の内容は，あらかじめガイド情報ファイルに定義する必要があります。

ガイド情報の機能，設定，および定義ファイルについて

- ガイド情報について設定する内容，ガイド機能について

  参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.8　ガイド機能」
- ガイド情報ファイルの編集について

  参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「5.6　ガイド情報の編集」
- ガイド情報ファイルの書式について

  参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「ガイド情報ファイル（jcs_guide_XXX.txt)」(2.　定義ファイル)

7 JP1/IM によるシステムの操作

この章では，JP1/IM - View を使用したシステムの操作について説明します。この章で説明する画面の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.　［イベントコンソール］画面」および「3.　［監視ツリー］画面」を参照してください。

7.1　コマンドを実行する

エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドを実行できます。また，クライアントホスト（ビューアーのホスト）のコマンド（クライアントアプリケーション）も実行できます。この機能は，JP1/IM - View から JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）に接続している場合に使用できます。

なお，コマンド実行中のホストの JP1/Base を終了すると，Windows の場合は`CMD.EXE` と実行中のコマンド，UNIX の場合は shell と実行中のコマンドの状態が実行中のまま残る場合があります。その場合は，手動でコマンドを停止させるか，そのホストを再起動してください。

また，コマンド実行中にそのホストの JP1/Base を終了すると，キューイング中のコマンドは破棄されます。

7.1.1　［実行コマンド］でコマンドを実行する

次の操作には，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

- エージェントホストでコマンドを実行する。
- マネージャーホストでコマンドを実行する。
- クライアントアプリケーションを実行する。

なお，イベント情報を引き継ぐコマンドを実行する場合は，JP1 イベントを選択してから実行してください。

操作方法を次に示します。

1. **［イベントコンソール］画面で，［オプション］－［コマンド実行］を選択する，またはツールバーから**  **をクリックする。**

   ［コマンド実行］画面が表示されます。

2. **［コマンド種別］を選択する。**

   管理対象ホスト（エージェントホストまたはマネージャーホスト）上のコマンドを実行する場合は，［管理対象ホストのコマンド］ラジオボタンを選択します。

   クライアントアプリケーションを実行する場合は，［クライアントアプリケーション］ラジオボタンを選択します。

3. **必要に応じて，［引き継ぎ情報］を指定する。**

   イベント情報を引き継ぐ場合は，［情報を引き継ぐ］チェックボックスをチェックします。

4. **［実行ホスト名］にコマンドを実行するホストを指定する。**

   実行ホスト名には，システム構成定義で管理対象ホストに設定したホスト名を指定します。

   過去に指定したホスト名をリストボックスから選択できます。リストボックスには，過去に指定したホスト名が最大 5 個保存されます。

手順３で［情報を引き継ぐ］チェックボックスをチェックした場合は，イベント情報が引き継がれ，自動で入力されます。

コマンドの実行ホストには，ホストグループ名も指定できます。ホストグループ名を指定すると，ホストグループを構成するすべてのホストでコマンドが実行されます。指定できるホストグループ名は，ログインしているマネージャーで定義されているホストグループ名です。

ホストグループを定義する手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.16　コマンド実行環境の設定」（Windows の場合），「2.15　コマンド実行環境の設定」（UNIX の場合）を参照してください。

また，業務グループまたは監視グループを設定している場合，業務グループまたは監視グループを実行ホスト名に指定できます。実行ホスト名に次のように指定してください。

例：業務グループ「経営システム」を実行ホスト名に指定する場合

/経営システム

指定方法に関する詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(3)　業務グループの指定方法」を参照してください。

5. ［実行コマンド］で実行するコマンドを指定する。必要に応じて，［環境変数ファイル］も指定する。

実行するコマンドラインを［実行コマンド］に入力します。

過去に指定したコマンドをリストボックスから選択することもできます。また，過去に指定したコマンドの履歴を消したい場合は，［履歴のクリア］ボタンをクリックします。

［環境変数ファイル］には，コマンド実行先ホストにある環境変数ファイルを絶対パスで指定します。

実行できるコマンドを次に示します。

コマンドを実行するホストが UNIX の場合

- UNIX のコマンド
- シェルスクリプト

コマンドを実行するホストが Windows の場合

- 実行形式ファイル(`.com`，`.exe`)
- バッチファイル(`.bat`)
- JP1/Script のスクリプトファイル(`.spt`)　（ただし，`.spt` ファイルが実行できるよう関連づけが設定されていること）

ただし，次のようなコマンドは実行できません。

- 対話操作を必要とするコマンド
- 画面を表示するコマンド
- エスケープシーケンスや制御コードを伴うコマンド
- デーモンなどの，終了しないコマンド
- Windows メッセージ機構，DDE など，デスクトップとの対話が必要なコマンド（Windows の場合）

- shutdown や halt など，OS をシャットダウンするコマンド

6. ［実行］ボタンをクリックする。

［引き継ぎ情報］で［情報を引き継ぐ］チェックボックスをチェックしない場合

［コマンド種別］で選択したコマンド種別のコマンドが，［実行ホスト］で指定したホストで実行されます。コマンドが実行されると，［実行結果］に，実行時刻，ホスト名，およびメッセージが表示されます。以降の手順は必要ありません。

［引き継ぎ情報］で［情報を引き継ぐ］チェックボックスをチェックした場合

［コマンド実行内容プレビュー］画面が表示されます。次の手順に進んでください。

7. ［コマンド実行内容プレビュー］画面の内容を確認する。

変数を置き換えたあとの［実行ホスト名］，［実行コマンド］，および［環境変数ファイル］の内容を確認します。

が表示されている項目は，設定に誤りがあります。設定を見直してください。

［コマンド実行内容プレビュー］画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.39　［コマンド実行内容プレビュー］画面」を参照してください。

8. ［実行］ボタンをクリックする。

［コマンド実行内容プレビュー］画面に表示されている内容に問題がなければ，コマンドが実行され，［コマンド実行内容プレビュー］画面が閉じられます。コマンドが実行されると，［コマンド実行］画面の［実行結果］に，実行時刻，ホスト名，およびメッセージが表示されます。

7.1.2　［コマンド］ボタンでコマンドを実行する

［コマンド］ボタンにあらかじめ登録してあるコマンドを実行するには，コマンドを実行するホストに応じて次の 2 とおりがあります。

- エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドを実行する
- 選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドを実行する

コマンドを実行するには，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。カーソルを［コマンド］ボタンの上に合わせると，［コマンド実行］画面に［コマンド］ボタンに設定した内容が表示されます。コマンドを実行する前に，必ずコマンドの内容を確認してください。

なお，イベント情報を引き継ぐコマンドを実行する場合は，JP1 イベントを選択してから実行してください。

［コマンド］ボタンの設定については，次の個所を参照してください。

- Windows の場合

  マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.16　コマンド実行環境の設定」

- UNIX の場合

  マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.15　コマンド実行環境の設定」

(1)　エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドを実行する

エージェントホストまたはマネージャーホストで，即時にコマンドを実行する場合の操作方法を次に示します。

(a)　即時にコマンドを実行する

［コマンド］ボタンをクリック後，即時にコマンドを実行できるように事前に次の内容を設定してください。

コマンド実行時に，イベント情報を引き継がない場合

コマンドボタン定義ファイルのqui パラメーターでtrue を指定してください。指定しておくと，［コマンド］ボタンをクリックしたあと，コマンドを実行してもよいかを確認するメッセージが表示されないで，エージェントホストまたはマネージャーホストですぐにコマンドが実行されます。

コマンド実行時に，イベント情報を引き継ぐ場合

コマンドボタン定義ファイルのpreview パラメーターでfalse を指定してください。指定しておくと，［コマンド］ボタンをクリックしたあと，［コマンド実行内容プレビュー］画面が表示されないで，すぐにコマンドが実行されます。

即時にコマンドを実行する手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面で，［オプション］－［コマンド実行］を選択する，またはツールバーから  をクリックする。

   ［コマンド実行］画面が表示されます。

2. 実行したいコマンドが登録されている［コマンド］ボタンをクリックする。

   コマンドが実行されます。

(b)　コマンドの登録内容を変更してからコマンドを実行する

コマンドの登録内容を変更してからコマンドを実行する場合の操作方法を次に示します。

イベント情報を引き継ぐ設定のコマンドを実行する場合は，コマンドの実行時に［コマンド実行内容プレビュー］画面が表示され，コマンドの内容を変更できます。この操作は，イベントを引き継がない管理対象ホストのコマンドを実行する場合に有効です。

1. ［イベントコンソール］画面で，［オプション］－［コマンド実行］を選択する，またはツールバーから  をクリックする。

   ［コマンド実行］画面が表示されます。

2. 実行したいコマンドが登録されている［コマンド］ボタンを右クリックしてポップアップメニューを表示する。

3. ポップアップメニューの［カスタム実行］をクリックする。

［コマンド実行］画面の［コマンド種別］，［引き継ぎ情報］，［実行ホスト名］，［実行コマンド］，［環境変数ファイル］の項目に［コマンド］ボタンの設定内容が表示され，編集できる状態になります。

［実行ホスト名］，［実行コマンド］，［環境変数ファイル］の各項目を必要に応じて編集します。

4. ［実行］ボタンをクリックする。

エージェントホストまたはマネージャーホストでコマンドが実行されます。

(2) 選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドを実行する

イベントの登録ホストが調査対象ホストや障害対策の対象ホストである場合，実行ホスト名に何も指定しないで［コマンド］ボタンを定義しておくと，［コマンド］ボタンをクリックしたとき，選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドを実行できます。なお，登録ホストに対し，別の JP1 イベントの属性をマッピングしていても，［実行ホスト名］にはマッピング前の登録ホストが設定されます。

選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドを実行する手順を次に示します。

1. ［イベント詳細］画面で，［コマンド実行］ボタンを選択する。

［コマンド実行］画面が表示されます。

2. 実行したいコマンドが登録されている［コマンド］ボタンをクリックする。

コマンド実行時に，イベント情報を引き継がない場合

コマンドを実行してもよいかを確認するメッセージが表示されるので，問題なければ［はい］ボタンをクリックします。

選択したイベントの登録ホストに定義されたコマンドが実行されます。なお，コマンドボタン定義ファイルのqui パラメーターでtrue を指定している場合，メッセージが表示されないで，すぐにコマンドが実行されます。以降の手順は必要ありません。

コマンド実行時に，イベント情報を引き継ぐ場合

コマンドボタン定義ファイルのpreview パラメーターでfalse を設定している場合，［コマンド実行内容プレビュー］画面が表示されないで，すぐにコマンドが実行されます。以降の手順は必要ありません。

true を設定している場合，［コマンド実行内容プレビュー］画面が表示されます。次の手順に進んでください。

3. ［コマンド実行内容プレビュー］画面の内容を確認する。

変数を置き換えたあとの［実行ホスト名］，［実行コマンド］，および［環境変数ファイル］の内容を確認します。

が表示されている項目は，設定に誤りがあります。設定を見直してください。

［コマンド実行内容プレビュー］画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.39　［コマンド実行内容プレビュー］画面」を参照してください。

4. ［実行］ボタンをクリックする。

［コマンド実行内容プレビュー］画面に表示されている内容に問題がなければ，コマンドが実行され，［コマンド実行内容プレビュー］画面が閉じられます。コマンドが実行されると，［コマンド実行］画面の［実行結果］に，実行時刻，ホスト名，およびメッセージが表示されます。

7.1.3　コマンドを実行するユーザー

コマンドは，コマンド実行先ホストのユーザーマッピング定義に従って，JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）にログインした JP1 ユーザーを OS のユーザー名にマッピングして実行されます。ユーザーマッピング定義がされていない，またはログインした JP1 ユーザー名がユーザーマッピング定義に登録されていない場合は，コマンドを実行できません。

UNIX の場合，コマンドはマッピングされた OS ユーザーのシェル環境を使用して実行されます。2 バイト文字を使用したコマンドを実行する場合には，OS ユーザーのシェル環境を 2 バイト文字に対応した環境にしてください。

ユーザーマッピングの定義については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

7.1.4　コマンドの実行状態を確認または削除する

JP1/IM - View の［コマンド実行］画面からコマンドを実行した際に，［実行結果］に実行終了を通知するメッセージ（KAVB2013-I）が表示されない場合，コマンド実行先ホストでトラブルが発生しているおそれがあります。

この場合は次の手順に従ってコマンドの実行状態を確認し，必要であればコマンドを削除してください。

注意事項

ここで示す手順は，コマンド実行先ホストの JP1/Base のバージョンが 07-10 以降の場合にだけ行えます。JP1/Base のバージョンが 07-00 以前の場合には行えません。

1. jcocmdshow コマンドでコマンドの状態を確認する。

コマンドを実行しているホストに対して，`jcocmdshow` コマンドを実行し，返される情報を基にトラブルが発生していないか調査します。調査の結果，コマンドを停止する必要があると判断した場合は次の手順に進んでください。

2. jcocmddel コマンドでコマンドを削除する。

コマンドを実行しているホストに対して，`jcocmddel` コマンドを実行し，コマンドを削除します。

3. jcocmdshow コマンドでコマンドの状態を確認する。

コマンドが正しく削除されたかどうかjcocmdshow コマンドを実行し，確認します。

コマンドの文法について

参照先：マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章

7.2 自動アクションの状況を確認し，自動アクションの操作を行う

特定の JP1 イベントを受信したときに，自動的にアクション（コマンド）を実行できます。この機能を自動アクションと呼びます。アクションは，自動アクションの定義を保存したホストだけでなく，エージェントホストまたはマネージャーホストでも実行できます。

自動アクションの定義方法については，下記参照先を参照してください。

- 自動アクションの設定（GUI で設定する場合）
  参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.30　［アクション設定］画面」
- 自動アクションの設定（定義ファイルで設定する場合）
  参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション定義ファイル（actdef.conf）」（2.　定義ファイル）

自動アクションの状況確認には，次に示す 3 種類があります。

- 自動アクションの実行状況の確認
  自動アクションの実行処理でトラブルが発生していないかどうかを確認します。
- 自動アクションの実行結果の確認と操作（自動アクションのキャンセル，再実行）
  実行した自動アクションの実行結果を確認します。また，必要に応じて詳細情報の確認をしたり，手動による自動アクションの再操作をしたりします。
- 自動アクション機能の稼働状況の確認
  自動アクション機能が稼働しているかどうかを確認します。稼働していない場合，自動アクションは実行されません。

ここでは，これらの確認方法，自動アクションの操作方法について説明します。

7.2.1 自動アクションの実行状況を確認する

自動アクションの実行監視（遅延監視，状態監視）機能を有効にしておくことで，下記トラブルが発生した場合でも早期に検知できます。

- 自動アクションが想定した時間内に終了しなかった。または，長時間掛かって終了した。
- 自動アクションの実行に失敗した（状態が「実行不可」「実行失敗」または「実行失敗（キャンセル失敗）」に遷移した）。

実行監視（遅延監視，状態監視）機能を有効にするかどうかは自動アクション定義時に前もって設定しておく必要があります。また，トラブル検知時に JP1 イベントを発行したり，通知コマンドを実行したりする設定が別途必要です。

設定の詳細については下記参照先を参照してください。

自動アクションの設定（GUI で設定する場合）

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.30　［アクション設定］画面」

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.31.1　［アクション詳細設定］画面」

自動アクションの設定（定義ファイルで設定する場合）

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション定義ファイル（actdef.conf）」（2.　定義ファイル）

JP1 イベントの発行設定，通知コマンドの実行設定

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション通知定義ファイル（actnotice.conf）」（2.　定義ファイル）

確認手順を次に示します。なお，異常検知後に実行監視機能（遅延監視，状態監視）を再度有効にするには，JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。また，業務グループの参照・操作制限を設定している場合，JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2)　JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

1. **［イベントコンソール］画面で自動アクションの実行状況を確認する。または，通知コマンドによって異常が発生したことが通知される。**

   JP1 イベントの発行設定をしていた場合は，イベント一覧にイベント ID 2010 または 2011 の JP1 イベントが表示されます。通知コマンドの実行設定をしていた場合は，通知コマンドによって異常が通知されます。

   JP1 イベント，または通知コマンドによって異常が発生したことがわかった場合には次の手順に進んでください。

2. **［アクション結果］画面や［アクション結果一覧］画面などを使用して，自動アクションの実行結果を確認し，必要に応じて対処する。**

   必要に応じて［アクション結果］画面や［アクション結果一覧］画面などを使用して，詳細確認やアクションのキャンセル，再実行をしてください。詳細については，「7.2.2　自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。

   なお，遅延監視機能，状態監視機能による通知は，それぞれ一度実行されると，ユーザーが通知抑止を解除するまで通知が抑止されます。必要に応じて通知抑止を解除してください。抑止された機能を解除する場合には次の手順に進んでください。

3. **［イベントコンソール］画面のメニューから［オプション］－［機能状態通知復帰］－［アクション遅延監視］および［アクション状態監視］を表示し，活性している機能名を選択する。**

   抑止状態になっている機能は，表示（文字）が活性となります。活性している機能名を選択すると，通知抑止を解除するかどうか問い合わせるダイアログボックスが表示されます。

4. 問い合わせダイアログボックスで［はい］を選択する。

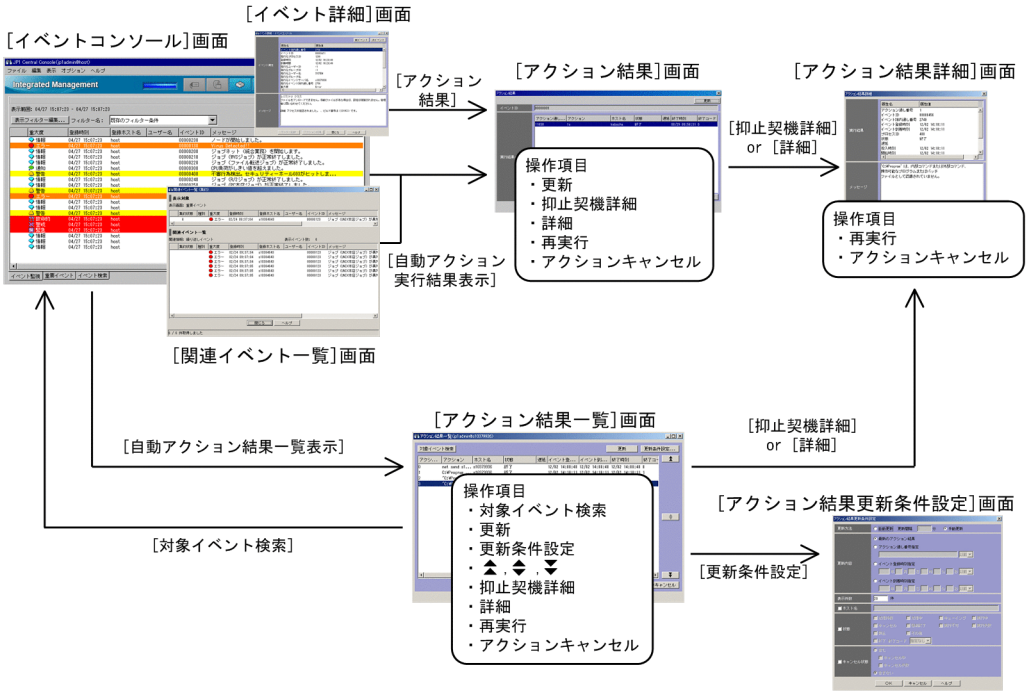
［はい］を選択すると，通知抑止が解除され，監視機能が再度有効になります。

7.2.2　自動アクションの実行結果を確認する

自動アクションの実行結果は，JP1/IM - View の［アクション結果］画面または［アクション結果一覧］画面で確認できます。また，jcashowa コマンドを使用して確認することもできます。

なお，［アクション結果］画面や［アクション結果一覧］画面からは，実行結果の確認だけでなく，アクションの詳細表示やアクションの再実行などの操作も行えます。自動アクションに関する画面遷移と操作項目を次の図に示します。

図 7-1　自動アクションに関する画面遷移と操作項目



操作項目は，アクションの実行結果に対し，詳細情報を表示するための項目と再操作（再実行，キャンセル）するための項目に分かれます。

ここでは，実行結果の確認方法，および再操作（再実行，キャンセル）方法について説明します。

(1)　自動アクションの実行結果を確認する

自動アクションの実行結果は，［アクション結果］画面，［アクション結果一覧］画面，またはjcashowa コマンドで確認できます。

(a) ［アクション結果］画面で実行結果を確認する

［アクション結果］画面には，［イベントコンソール］画面のイベント一覧で選択したイベントに設定されている自動アクションの実行結果を表示できます。

操作手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面のイベント一覧で，［アクション］の欄にアクションマークが表示されているイベントを 1 件選択する。
2. 次に示すどれかの方法で［アクション結果］画面を表示する。
   - メニューバーから［表示］－［自動アクション実行結果表示］を選択する。
   - ポップアップメニューから［自動アクション実行結果表示］を選択する。
   - ［自動アクション実行結果表示］ボタンをクリックする。

   ［アクション結果］画面が表示されます。
   ［アクション結果］画面には，選択したイベント ID とそのイベント ID に設定されている自動アクションの実行結果が表示されます。
3. 各自動アクションの実行結果の詳細を知りたい場合，または状態が「抑止」となったアクションの抑止契機となった自動アクションの詳細を知りたい場合は，次に示す方法で［アクション結果詳細］画面を表示する。
   自動アクションの実行結果の詳細を知りたい場合
   - ［実行結果一覧］から自動アクションを選択し，［詳細］ボタンをクリックする。
   - ［実行結果一覧］に表示されている自動アクションをダブルクリックする。

   抑止契機となった自動アクションを知りたい場合
   - ［実行結果一覧］から状態が「抑止」となった自動アクションを選択し，［抑止契機詳細］ボタンをクリックする。

   ［アクション結果詳細］画面が表示されます。
   実行結果と出力されたメッセージが表示されます。表示される実行結果の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.35　［アクション結果詳細］画面」を参照してください。

［関連イベント一覧］画面を表示している場合は，アクションマークの付いたイベント選択後，ポップアップメニューから［自動アクション実行結果表示］を選択して［アクション結果］画面を表示できます。また，［イベント詳細］画面を表示している場合は，［アクション結果］ボタンをクリックして，［アクション結果］画面を表示できます。

(b) ［アクション結果一覧］画面で実行結果を確認する

［アクション結果一覧］画面には，ログインしているマネージャーで設定した自動アクションの実行結果の一覧を表示できます。なお，表示する自動アクションの条件は，［アクション結果更新条件設定］画面で設定します。

操作手順を次に示します。

1. **［イベントコンソール］画面で［表示］－［自動アクション結果一覧表示］を選択する。**

   ［アクション結果一覧］画面が表示されます。

   ログインしているマネージャーで設定した自動アクションの中で，［アクション結果更新条件設定］画面で設定された条件に合う自動アクションの実行結果の一覧が表示されます。

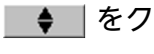
2. **自動アクションの実行結果を表示するための条件を変更したい場合は，［更新条件設定］ボタンをクリックする。**

   ［アクション結果更新条件設定］画面が表示されます。

   更新方法（自動更新，手動更新）やアクション結果の取得範囲，更新時の表示件数や表示条件を指定できます。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.37　［アクション結果更新条件設定］画面」を参照してください。

3. **自動アクションの実行結果の表示内容を更新条件に沿って更新したい場合は，［更新］ボタンをクリックする。**

   表示内容が，［アクション結果更新条件設定］画面で設定された内容で更新されます。

4. **リスト表示されている自動アクション以前に発生した自動アクションの実行結果を表示したい場合は  を，以降に発生した自動アクションの実行結果を表示したい場合は  を，［アクション結果更新条件設定］画面で設定した更新条件に従って再表示したい場合は  をクリックする。**

5. **各自動アクションの実行結果の詳細を知りたい場合，または状態が「抑止」となったアクションの抑止契機となった自動アクションの詳細を知りたい場合は，次に示す方法で［アクション結果詳細］画面を表示する。**

   自動アクションの実行結果の詳細を知りたい場合

   - ［実行結果一覧］から自動アクションを選択し，［詳細］ボタンをクリックする。
   - ［実行結果一覧］に表示されている自動アクションをダブルクリックする。

   抑止契機となった自動アクションを知りたい場合

   - ［実行結果一覧］から状態が「抑止」となった自動アクションを選択し，［抑止契機詳細］ボタンをクリックする。

   ［アクション結果詳細］画面が表示されます。

   実行結果と出力されたメッセージが表示されます。表示される実行結果の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.35　［アクション結果詳細］画面」を参照してください。

6. **自動アクションの実行契機となった JP1 イベントを表示したい場合は［実行結果一覧］から自動アクションを選択し，［対象イベント検索］ボタンをクリックする。**

   イベント検索が行われ［イベントコンソール］画面の［イベント検索］ページに，自動アクションの実行契機となった JP1 イベントが表示されます。

(c) jcashowa コマンドで実行結果を確認する

自動アクションの実行結果を，jcashowa コマンドを使用して表示させることができます。jcashowa コマンドは，JP1/IM - View のない環境や自動アクションの実行結果をファイル出力したいときなどに使用します。

コマンドの実行例を次に示します。7 月 1 日の 16 時から 17 時の間に受信した JP1 イベントに対する自動アクションの実行結果を表示するには，マネージャーで次のように入力します。

```
jcashowa -d 07/01/16:00,07/01/17:00
```

jcashowa コマンドの文法，および実行結果の表示形式については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcashowa」（1. コマンド）を参照してください。

(2) 自動アクションをキャンセルする

自動アクションの状態が次に示す状態のとき，その自動アクションをキャンセルできます。

- 「送信待機」「キューイング」「実行中」
- 「送信中（キャンセル失敗）」「送信待機（キャンセル失敗）」「キューイング（キャンセル失敗）」「実行中（キャンセル失敗）」

キャンセルは，［アクション結果］画面，［アクション結果一覧］画面，［アクション結果詳細］画面，またはjcacancel コマンドでできます。なお，画面を使ってキャンセルする場合には JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。また，業務グループの参照・操作制限を設定している場合，JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2) JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

(a) ［アクション結果］画面，または［アクション結果一覧］画面から自動アクションをキャンセルする

操作手順を次に示します。

1. ［アクション結果］画面，または［アクション結果一覧］画面を表示する。
   画面を表示する方法については，「7.2.2(1) 自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。
2. キャンセルしたい自動アクションを選択する。
3. ［アクションキャンセル］ボタンをクリックする。
   キャンセルするかどうかの確認ダイアログボックスが表示されます。
4. ［OK］ボタンをクリックする。

選択した自動アクションのキャンセル要求の受け付けが完了します。

5. キャンセル後の状態を確認する場合は，［更新］ボタンをクリックする。

(b)　［アクション結果詳細］画面から自動アクションをキャンセルする

操作手順を次に示します。

1. ［アクション結果詳細］画面を表示する。
   画面を表示する方法については，「7.2.2(1)　自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。

2. ［アクションキャンセル］ボタンをクリックする。
   キャンセルするかどうかの確認ダイアログボックスが表示されます。

3. ［OK］ボタンをクリックする。
   選択した自動アクションのキャンセル要求の受け付けが完了します。

4. キャンセル後の状態を確認する場合は，［閉じる］ボタンをクリックして［アクション結果］画面または［アクション結果一覧］画面に戻り，［更新］ボタンをクリックする。

(c)　jcacancel コマンドから自動アクションをキャンセルする

自動アクションを，jcacancel コマンドを使用してキャンセルできます。jcacancel コマンドは，ホスト単位，システム単位で自動アクションの一括キャンセルしたいときなどに使用します。なお，このコマンドを使って自動アクションをキャンセルする場合には，どの自動アクションをキャンセルするのかを確認したあとに実行してください。確認方法については，「7.2.2(1)　自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。

コマンドの実行例を次に示します。host01 で状態がキューイング，実行中となっている自動アクションを一括キャンセルする場合には，マネージャーで次のように入力します。

```
jcacancel -s host01
```

jcacancel コマンドの文法，および実行結果の表示形式については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcacancel」（1.　コマンド）を参照してください。

(3)　自動アクションを再実行する

自動アクションの状態が次に示す状態のとき，その自動アクションを再実行できます。

- 「抑止」「終了」「実行失敗」「キャンセル」「強制終了」
- 「終了（キャンセル失敗）」「実行失敗（キャンセル失敗）」

再実行は，［アクション結果］画面，［アクション結果一覧］画面，または［アクション結果詳細］画面から行えます。なお，これらの画面を使って再実行する場合には JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。また，業務グループの参照・操作制限を設定している場合，JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによっては操作できないことがあります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1.4(2)　JP1 ユーザーに対する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの割り当て」を参照してください。

(a)　［アクション結果］画面，または［アクション結果一覧］画面から自動アクションを再実行する

操作手順を次に示します。

1. ［アクション結果］画面，または［アクション結果一覧］画面を表示する。
   画面を表示する方法については，「7.2.2(1)　自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。
2. 再実行する自動アクションを選択する。
3. ［再実行］ボタンをクリックする。
   再実行要求をするかどうかの確認ダイアログボックスが表示されます。
4. ［OK］ボタンをクリックする。
   選択した自動アクションの再実行要求の受け付けが完了します。
5. 再実行後の状態を確認する場合は，［更新］ボタンをクリックして［アクション結果一覧］画面を更新する。

(b)　［アクション結果詳細］画面から自動アクションを再実行する

操作手順を次に示します。

1. ［アクション結果詳細］画面を表示する。
   画面を表示する方法については，「7.2.2(1)　自動アクションの実行結果を確認する」を参照してください。
2. ［再実行］ボタンをクリックする。
   再実行要求をするかどうかの確認ダイアログボックスが表示されます。
3. ［OK］ボタンをクリックする。
   自動アクションの再実行要求の受け付けが完了します。
4. 再実行後の状態を確認する場合は，［閉じる］ボタンをクリックして［アクション結果］画面または［アクション結果一覧］画面に戻り，［更新］ボタンをクリックする。

7.2.3　自動アクション機能の稼働状況を確認する

自動アクション機能が稼働していないと，自動アクションの実行契機となるイベントがマネージャー上のJP1/Base に登録されても自動アクションが実行されません。自動アクション機能の稼働状況は，jcastatusコマンドを使用して確認できます。

jcastatus コマンドを実行すると，自動アクション機能の稼働状況（稼働，休止，停止）に応じて，それぞれの状態を示す情報（RUNNING，STANDBY，またはSTOP）が標準出力に出力されます。稼働状況が「稼働(RUNNING)」であれば自動アクション機能は稼働しています。「休止（STANDBY)」の場合，自動アクション機能が稼働していないため，自動アクションが実行されません。稼働状態にするにはjcachange コマンドを実行する必要があります。「停止（STOP)」の場合，JP1/IM - Manager が停止しているおそれがあります。この場合には JP1/IM - Manager を再起動する必要があります。

詳細については，下記参照先を参照してください。

jcastatus コマンドの文法，表示形式について

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcastatus」(1.　コマンド)

jcachange コマンドの文法，表示形式について

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcachange」(1.　コマンド)

JP1/IM - Manager の起動・停止について

参照先：「3.　JP1/IM - Manager の起動と終了」

7.3　統合機能メニューで他アプリケーションの画面を表示する

［統合機能メニュー］画面には，JP1/IM と連携するプログラムの機能が一覧表示され，この画面からプログラムを起動できます。起動できるプログラムには次の 2 種類があります。

ビューアー上のアプリケーションプログラム

JP1/IM - View と同じホストにインストールされているアプリケーションプログラムのことです。統合機能メニューからプログラムを選択すると，実行ファイルが起動されます。

WWW ページ

システム上のアプリケーションが WWW ページを提供している場合，その WWW ページを表示できます。統合機能メニューでプログラムを選択すると WWW ブラウザーが起動され，WWW ページが表示されます。

これらの機能を利用するには，WWW ページの URL を，あらかじめ設定しておく必要があります。設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「WWW ページ呼び出し定義ファイル（hitachi_jp1_製品名.html）」（2.　定義ファイル）を参照してください。

また，統合機能メニューを使用して，ほかの製品と連携する場合には，その製品の稼働環境（サポート OS やブラウザーなど）を事前に確認してください。

［統合機能メニュー］画面の例を次に示します。

図 7-2　［統合機能メニュー］画面の例

上図は，ビューアー上に JP1/IM と連携するアプリケーションプログラムを何もインストールしていない状態のときの［統合機能メニュー］画面です。ビューアーにアプリケーションプログラムをインストールした場合は，そのインストールしたアプリケーションプログラムがツリーに追加された状態で表示されます。

連携するアプリケーションプログラムについては，「7.3.2　［統合機能メニュー］画面から操作できる機能」を参照してください。

7.3.1　［統合機能メニュー］画面の操作

［統合機能メニュー］画面には，JP1/IM と連携するプログラムの機能が，ツリー形式で表示されます。フォルダは機能の分類を表します。ツリーの末端をダブルクリックすると，WWW ページやアプリケーションプログラムの画面を表示できます。

操作方法を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面，［監視ツリー］画面から［オプション］－［統合機能メニュー起動］を選択する。または，ツールバーから  をクリックする。

   ［統合機能メニュー］画面が表示されます。

   JP1/IM - View の`tuning.conf` ファイルで「`MENU_AUTO_START=ON`」が指定されている場合は，ログイン時に自動的に［統合機能メニュー］画面が表示されます。JP1/IM - View の`tuning.conf` ファイルの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「IM-View 設定ファイル（`tuning.conf`）」（2.　定義ファイル）を参照してください。

2. 統合機能メニューのツリーを展開して，表示したい項目をダブルクリックする。

   選択した機能の画面が表示されます。

   注意事項

   統合機能メニューからアプリケーションプログラムを呼び出す場合，JP1/IM - View を起動した OS ユーザーに，呼び出すアプリケーションプログラムの実行権限がないとアプリケーションプログラムを起動できません。

   呼び出すアプリケーションプログラムが実行できる権限で JP1/IM - View を起動する必要があります。

次の機能はツールバーのボタンからも呼び出せます。

表 7-1　ツールバーのボタンから呼び出せる機能

機能名	ボタン
ネットワークノードマネージャー	
Windows リモートコントロール	
資産・配布管理	 ※

注※　Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista では，JP1/NETM/DM Manager の WWW ページ版の動作条件を満たさないため，Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista 版の JP1/IM - View では，［資産・配布管理］ボタンは表示されません。

7.3.2 ［統合機能メニュー］画面から操作できる機能

［統合機能メニュー］画面に表示される機能を次の表に示します。

なお，画面種別がアプリケーション画面で，該当するプログラムがビューアーにインストールされていない場合，機能名はメニューに表示されません。

連携製品の対応バージョンの詳細については，各連携製品のマニュアルをご確認ください。

表 7-2 ［統合機能メニュー］画面に表示される機能

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
ネットワーク管理	－	ネットワークノードマネージャー	WWW ページ	JP1/Cm2/NNM	バージョン 8 以前	制限なし
				HP NNM	バージョン 7.5 以前	
	－	インターネットゲートウェイ	アプリケーション画面	JP1/Cm2/Internet Gateway Server	制限なし	制限なし
ジョブ管理	－	ジョブスケジューラー	アプリケーション画面	JP1/AJS - View	制限なし	制限なし
	－	シナリオ運用	アプリケーション画面	JP1/AJS2 - Scenario Operation View	制限なし	制限なし
	－	プリントサービス	アプリケーション画面	JP1/NPS	制限なし	制限なし
	ファイル転送	伝送の登録／実行	アプリケーション画面	JP1/FTP	制限なし	Windows Server 2008，Windows Server 2008 R2，Windows Server 2003，Windows Server 2003 R2
		履歴情報の表示	アプリケーション画面			
		自動プログラムの登録	アプリケーション画面			

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
資産・配布管理	－	統合資産管理	WWW ページ	JP1/NETM/ Asset Information Manager	制限なし	Windows Vista および Windows 7 以外の Windows
	－	資産・配布管理※	WWW ページ	JP1/ NETM/DM Manager	バージョン 7 以前	Windows Vista 以外の OS
	－	設備資産管理	アプリケーション画面	JP1/NetInsight II - Facility Manager	制限なし	制限なし
	－	Windows リモートコントロール	アプリケーション画面	JP1/NETM/ Remote Control Manager	制限なし	制限なし
	－	配布／資産管理	アプリケーション画面	JP1/ NETM/DM Manager	制限なし	制限なし
ストレージ管理	ストレージエリア管理	ストレージシステム稼働管理	WWW ページ	Hitachi Tuning Manager software	バージョン 3 以降	Windows, Solaris(SPARC), Linux
		ストレージハードウェア管理	WWW ページ	Hitachi Device Manager software	バージョン 3 以降	
		ストレージリソース割当管理	WWW ページ	Hitachi Provisioning Manager	バージョン 03-50～06-40	
		ストレージレプリケーション管理	WWW ページ	Hitachi Replication Manager software	バージョン 03-50 以降（バージョン 5 より前の場合は, Replication Monitor）	
		階層ストレージリソース管理	WWW ページ	Hitachi Tiered Storage Manager software	バージョン 4 以降	
		グローバル入出力パス稼働管理	WWW ページ	Hitachi Global Link Manager software	バージョン 05-00～06-60	Windows 7（SP なし）

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
						Windows Server 2008，Windows Server 2008 (x64)（SP なし，SP2） Windows Server 2008 R2 (x64)（SP なし，SP1） Windows Vista （SP なし，SP1，SP2） Windows Server 2003 R2（SP2） Windows XP Professional（SP2 または SP3）
サーバ管理	−	管理コンソール	アプリケーション画面	JP1/Server Conductor	制限なし	制限なし
	−	Web コンソール	WWW ページ			
ハードウェア管理	−	SANRISE2000 Remote Console	アプリケーション画面	SANRISE	制限なし	制限なし
	−	SANRISE H512/H48 Remote Control XP	アプリケーション画面			
統合通報管理	−	通報ルール設定	アプリケーション画面	TELstaff または JP1/IM - TELstaff	バージョン 9	• Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition • Microsoft(R) Windows

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
						Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition • 32 ビット版の Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard • 32 ビット版の Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise • Microsoft(R) Windows

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
						Server(R) 2008 R2 Standard • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise (注) • Windows Server 2003，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003 (x64)，Windows Server 2003 R2 (x64)，32 ビット版の Windows Server 2008，Windows Server 2008，Windows Server 2008 R2 のターミナルサービスには対応しておりませんいません。 • Windows Server 2003，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003 (x64)，Windows Server 2003 R2 (x64)，32 ビット版の Windows Server 2008，Windows Server 2008，Windows Server 2008 R2 のクラスタ機能には対応しておりませんいません。 • 32 ビット版の Windows Server 2008，Windows Server 2008，Windows Server

メニュー項目			起動する機能の内容			
フォルダ名	サブフォルダ名	機能名	画面種別	プログラム名	JP1/IM - Manager と連携できるバージョン	対応 OS
						2008 R2 の Server Core インストール環境には対応しておりませんいません。
メインフレーム連携	－	VOS3 コンソール操作	アプリケーション画面	VOS3 AOMPLUS(AOMPLUSCIF)	制限なし	制限なし
Cosminexus 運用管理	－	Cosminexus 運用管理ポータル	アプリケーション画面	Cosminexus Application Server	制限なし	制限なし

（凡例）

－：なし

注※　Windows Vista 版の JP1/IM - View では，JP1/NETM/DM Manager の WWW ページ版との連携はできないため，［資産・配布管理］メニューは表示されません。

8 IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理

この章では，IM 構成管理を使用してシステムの階層構成（IM 構成）を管理する手順について説明します。この章で説明する画面の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「4.　IM 構成管理の画面」を参照してください。

8.1 ホストを管理する

JP1/IM システムの構成を変更する場合や，管理対象のホスト名や IP アドレスなどのホスト情報を変更する場合には，IM 構成管理 DB に登録されている管理対象ホストに関する情報を見直す必要があります。

IM 構成管理・ビューアーから次の作業を実施して，ホストの情報を管理してください。

ホストを登録する場合

IM 構成管理 DB に新しくホストを登録するには，［IM 構成管理］画面から［ホスト登録］画面を表示して設定します。

登録方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.1 ホストを登録する」を参照してください。

ホストを削除する場合

IM 構成管理 DB に登録されているホストは，［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］ページで削除します。

削除方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.3 ホストを削除する」を参照してください。

ホストから情報を収集する場合

ホスト情報は，［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］ページまたは［IM 構成］ページから収集します。

ホスト情報を収集するタイミングや収集方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.5　ホストから情報を収集する」を参照してください。

ホスト情報を変更する場合

IM 構成管理 DB に登録されているホスト情報は，［IM 構成管理］画面から［ホスト属性編集］画面を表示して変更します。

変更方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.4 ホスト情報を変更する」を参照してください。

なお，システムの階層構成（IM 構成）に登録されているホスト名を編集した場合，システムの階層構成を反映し直す必要があります。反映方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.4(3)　システムの階層構成を IM 構成管理が管理するシステムに反映する」を参照してください。

ホストの一覧を表示する場合

IM 構成管理 DB に登録したホストの一覧は，［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］ページで表示します。

表示方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.1.2 ホスト情報を表示する」を参照してください。

8.2 システムの階層構成を管理する

システムの階層構成（IM 構成）を変更する場合に，IM 構成管理 DB に登録されているシステムの構成定義情報を見直す必要があります。

IM 構成管理・ビューアーから次の作業を実施して，システムの階層構成を管理してください。

システムの階層構成を取得する場合

システムの構成定義情報は，［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］ページまたは［IM 構成］ページから取得します。システムを構成するすべてのホストから情報を取得できます。

取得方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.1 システムの階層構成を取得する」を参照してください。

システムの階層構成を表示する場合

システムの階層構成は，［IM 構成管理］画面の［IM 構成］ページで表示します。

表示方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.2 システムの階層構成を表示する」を参照してください。

システムの階層構成を検証する場合

取得した構成定義情報と，IM 構成管理が保持している構成定義情報の内容が一致しているかどうかを検証できます。構成定義情報は，［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］ページまたは［IM 構成］ページで検証します。

検証方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.3 システムの階層構成を検証する」を参照してください。

システムの階層構成を編集する場合

構成定義情報を編集することで，ホストの追加，移動，削除ができます。構成定義情報は，［IM 構成管理］画面から［エージェント構成編集］画面または［リモート監視構成編集］画面を表示して編集します。

編集方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.4 システムの階層構成を編集する」を参照してください。

システムの階層構成を反映する場合

［エージェント構成編集］画面，［リモート監視構成編集］画面などで編集した構成定義情報を，システムを構成するすべてのホストに反映できます。構成定義情報は，［エージェント構成編集］画面または［リモート監視構成編集］画面で反映します。

反映方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.4(3)　システムの階層構成を IM 構成管理が管理するシステムに反映する」を参照してください。

システムの階層構成の同期を取る場合

統合マネージャーと拠点マネージャーで，それぞれシステムの階層構成を定義した場合には，統合マネージャーと拠点マネージャーの間で，システムの階層構成の同期を取る必要があります。［IM 構成管理］画面の［IM 構成］ページで実施します。

同期を取る方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.5　システムの階層構成の同期を取る」を参照してください。

8.3　仮想化システム構成を管理する

IM 構成管理・ビューアーを操作，またはコマンドを実行して，仮想化ホストを含むシステムの階層構成（仮想化システム構成）を管理する方法について説明します。

なお，仮想化構成を管理するためには，仮想化ソフトウェアおよび仮想化環境管理ソフトウェアが必要です。使用できるソフトウェアについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「6.3　仮想化システム構成の管理」を参照してください。

8.3.1　仮想化システムのホストを登録する

システムの階層構成に新しい仮想ホストを登録するには，［IM 構成管理］画面から［ホスト登録］画面を呼び出して登録します。

登録方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.3.1(2)　仮想化構成情報を設定する」を参照してください。

8.3.2　仮想化システムのホスト情報を表示する

システムの階層構成から，仮想ホストとして登録したホストの情報を表示する手順について説明します。ホストの情報を表示するには，［IM 構成管理］画面から［ホスト一覧］ページを呼び出します。

1. **［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］タブをクリックする。**
   ［ホスト一覧］ページが表示されます。

2. **ツリー表示領域から仮想ホストを選択する。**

3. **次に示すどちらかの方法でホストの情報を収集する。**
   - メニューバーから［操作］－［ホスト情報収集］を選択する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［ホスト情報収集］を選択する。

   ホストの情報を収集するには，仮想ホスト上で，JP1/Base が動作している必要があります。
   なお，VMware ESX および Virtage には JP1/Base をインストールできないので，［ホスト情報収集］を実行するとエラーになります。

4. **［基本情報］ボタン，［製品情報］ボタン，［サービス情報］ボタンのどれかを選択する。**
   選択したボタンによって，ノード情報表示領域にホスト情報が表示されます。［下位ホスト情報］ボタンは選択できません。

8.3.3　セントラルスコープの監視ツリーへ反映する

システムの階層構成に登録した仮想ホストをセントラルスコープで監視するには，IM 構成管理の管理情報をエクスポートし，セントラルスコープの監視ツリー情報へインポートする必要があります。ここでは，その手順について説明します。

1. jcfexport コマンドを実行する。

   IM 構成管理の構成情報をエクスポートします。

2. jcsdbexport コマンドを実行する。

   セントラルスコープの監視ツリー情報をエクスポートします。

3. jcfexport コマンドとjcsdbexport コマンドの出力ファイルを引数にして，jcfmkcsdata コマンドを実行する。

   IM 構成管理の構成情報と監視ツリー情報をマージします。

4. jcsdbimport コマンドを実行する。

   マージされた IM 構成管理の管理情報と監視ツリー情報をインポートします。

セントラルスコープ・ビューアーで，マージした仮想ホストが表示されていることを確認してください。

8.4 業務グループを管理する

監視対象を業務グループ単位で設定している場合，業務グループの構成を見直すタイミングで，業務グループを作成，編集，および削除する必要があります。

業務グループを新しく作成する

手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.4.1(1) (a)　業務グループの作成」を参照してください。

業務グループの登録内容を編集する

手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.4.1(1) (b)　業務グループのプロパティの編集」を参照してください。

不要となった業務グループを削除する

手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.4.1(1) (c)　業務グループの削除」を参照してください。

業務グループを作成，編集，および削除したあとは，監視ツリーに業務グループと監視グループの階層構成の反映が必要です。手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.4.4(2)　セントラルスコープの監視ツリーに業務グループ情報および監視グループ情報を反映する」を参照してください。

8.5 プロファイルを管理する

システムのアップデートやメンテナンスの際にプロファイルの内容を変更したり，プロファイルの内容をほかのホストのプロファイルに適用したりする場合に，IM 構成管理 DB に登録されているプロファイルを見直す必要があります。

IM 構成管理・ビューアーから次の作業を実施して，プロファイルを管理してください。

なお，プロファイルには，有効設定情報と設定ファイルの内容の 2 種類があります。

プロファイルを収集する場合

次のプロファイルを収集します。

- エージェントホストの JP1/Base の有効設定情報
- エージェントホストの JP1/Base の設定ファイル（ログファイルトラップ起動定義ファイル）
- リモートの監視対象ホストの有効設定情報

プロファイルの収集方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(2)　プロファイルを収集する」を参照してください。

プロファイルリストを収集する場合

エージェントホストの JP1/Base で管理するプロファイルリストを収集します。収集した情報が，［プロファイル表示/編集］画面のツリー表示領域に表示されます。

プロファイルリストの収集方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(1)　プロファイルリストを収集する」を参照してください。

プロファイルを表示する場合

エージェントホストの JP1/Base，およびリモートの監視対象ホストのプロファイルを［プロファイル表示/編集］画面に表示します。

表示方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(3)　プロファイルを表示する」を参照してください。

設定ファイルを編集する場合

収集した設定ファイルを，［プロファイル表示/編集］画面で編集します。なお，設定ファイルで編集できるプロファイル種別は，次のとおりです。

- イベント転送設定情報
- ログファイルトラップ情報
- イベントログトラップ情報
- ローカルアクション情報
- リモート監視ログファイルトラップ情報
- リモート監視イベントログトラップ情報

編集方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(5)　設定ファイルを編集する」を参照してください。

設定ファイルの編集内容を反映する場合

編集した設定ファイルの内容を反映します。

反映方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(6)　設定ファイルの編集内容を反映する」を参照してください。

8.6　サービスの稼働状況を管理する

IM 構成管理・ビューアーを操作して，各ホストでのサービスの稼働状況を管理する方法について説明します。

8.6.1　サービスの稼働情報を収集する

エージェント構成の場合に，システムの階層構成から，ホストごとに稼働しているサービスの稼働情報を収集できます。

なお，リモート監視構成の場合は，サービスの稼働情報は収集できません。

サービスの稼働情報は，［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］ページまたは［IM 構成］ページから収集しますが，選択するページによって手順が異なります。

(1)　［ホスト一覧］ページからサービスの稼働情報を収集する

［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］ページからサービスの稼働情報を収集する手順を次に示します。

1. ［IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］タブをクリックする。
   ［ホスト一覧］ページが表示されます。

2. ツリー表示領域からホストを選択する。
   「ホスト一覧」を選択して，サービスの稼働情報は収集できません。また，IM 構成管理が動作しているマネージャーにより，稼働情報を収集できるホストの範囲が異なります。選択できるホストの範囲については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「6.7.2　サービスの稼働情報の収集」を参照してください。

3. ［サービス情報］ボタンをクリックする。
   収集されたサービスの稼働情報が，ノード情報表示領域に表示されます。

4. メニューバーから［表示］－［最新情報に更新］を選択する。
   ホストから最新のサービスの稼働情報が収集されて，ノード情報表示領域の表示が更新されます。

(2)　［IM 構成］ページからサービスの稼働情報を収集する

［IM 構成管理］画面の［IM 構成］ページからサービスの稼働情報を収集する手順を次に示します。

1. ［IM 構成管理］画面の［IM 構成］タブをクリックする。
   ［IM 構成］ページが表示されます。

2. ツリー表示領域からホストを選択する。

IM 構成管理が動作しているマネージャーにより，稼働情報を収集できるホストの範囲が異なります。選択できるホストの範囲については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「6.7.2　サービスの稼働情報の収集」を参照してください。

3. 次に示すどちらかの方法でホスト情報を収集する。
   - メニューバーから［操作］－［ホスト情報収集］を選択する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［ホスト情報収集］を選択する。
4. ［サービス情報］ボタンをクリックする。
   収集されたサービスの稼働情報が，ノード情報表示領域に表示されます。
5. メニューバーから［表示］－［最新情報に更新］を選択する。
   ホストから最新のサービスの稼働情報が収集されて，ノード情報表示領域の表示が更新されます。

8.6.2　サービスの稼働情報を表示する

システムの階層構成（IM 構成）から，ホストごとに稼働しているサービスの稼働情報を表示する手順については，「8.6.1　サービスの稼働情報を収集する」を参照してください。

［IM 構成管理］画面のサービス情報には次の稼働情報が表示されます。

表 8-1　サービスごとに表示される稼働情報

製品名	サービス名	稼働状態
JP1/Base	JP1/Base	サービスの稼働状態が次のステータスで表示される • 稼働中 • 停止中 • 一部稼働中 • 収集失敗
	イベントサービス	
	ログファイルトラップ	
JP1/IM - Manager	JP1/IM-Manager	

［IM 構成管理］画面の詳細情報には，次のとおり，各サービスの状態を収集するコマンドの実行結果が表示されます。

表 8-2　各サービスの状態を収集するコマンド

サービス名	収集コマンド
JP1/Base	`jbs_spmd_status`
イベントサービス	`jevstat`
ログファイルトラップ	`jevlogstat ALL`
JP1/IM-Manager	`jco_spmd_status`
ログファイルトラップ（リモート）	`jcfallogstat`※

サービス名	収集コマンド
イベントログトラップ（リモート）	jcfaleltstat※

注※　収集コマンド相当の情報が出力されます。

8.7　IM 構成管理の管理情報をエクスポート・インポートする

コマンドを実行して，IM 構成管理の管理情報をエクスポート・インポートする方法について説明します。

8.7.1　IM 構成管理の管理情報をエクスポートする

IM 構成管理の管理情報を出力（エクスポート）してから入力（インポート）することで，あるホストから別のホストへコピーすることができます。また，エクスポートされたシステムの構成情報を編集することで，簡単に変更することができます。ここでは，jcfexport コマンドによってエクスポートされる管理情報について説明します。jcfexport コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcfexport」（1.　コマンド）を参照してください。

(1)　ホスト情報

IM 構成管理の管理対象ホストに関する情報がホスト入力情報ファイルとホスト収集情報ファイルにエクスポートされます。

ホスト入力情報ファイルについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「ホスト入力情報ファイル（host_input_data.csv）」（2.　定義ファイル）を参照してください。

ホスト収集情報ファイルについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「ホスト収集情報ファイル（host_collect_data.csv）」（2.　定義ファイル）を参照してください。

(2)　システムの階層構成情報

システムの階層構成の情報がファイルにエクスポートされます。エクスポートされたファイルを編集してインポートできます。

出力される情報は，次に示すシステムの監視方法によって異なります。

- エージェント監視
- リモート監視

(a)　エージェント監視の構成情報

エクスポートされるファイル名は，system_tree_information.txt です。

リモート監視を使用している場合，エージェント監視の構成情報は編集できません。

このファイルに出力されるエージェント監視の構成情報を次の表に示します。

表 8-3　エクスポートされるエージェント監視の構成情報

出力項目	出力値
［管理ホスト］	• JP1/Base のホストを管理する統合マネージャー，拠点マネージャー，または中継マネージャーのどれかを表す。 • 最初に定義された管理ホストが統合マネージャーで，以降に定義された管理ホストが拠点マネージャーまたは中継マネージャーである。 • 次に［　］で括られたホストが出てくるまでを管理対象ホストとする。 • システムの階層構成を分割定義した場合，ホスト名の前にアスタリスクを付与する。
管理対象ホスト	• 管理ホストに管理される JP1/Base のホスト。 • 拠点マネージャーまたは中継マネージャーは，統合マネージャーの管理対象ホストとして定義されている。 • システムの階層構成を分割定義した場合，ホスト名の前にアスタリスクを付与する。

(b)　リモート監視の構成情報

リモート監視の構成情報がファイルにエクスポートされます。リモート監視の構成情報は編集できません。

(3)　プロファイル情報

ホストで動作するプロファイル情報がエクスポートされます。エクスポートの対象となるファイルは，次に示すシステムの監視方法によって異なります。

- エージェント監視
- リモート監視

(a)　エージェント監視のプロファイル情報

ホストで動作する JP1/Base プロファイル情報がファイルにエクスポートされます。ファイルは「definition_files」ディレクトリ以下の 1 階層目のディレクトリ名の「ホスト名」，2 階層目のディレクトリ名の「JP1Base」以下にエクスポートされます。また，ログファイルトラップの動作定義ファイルは 3 階層目のディレクトリ名の「cf_log_file_trap」以下にエクスポートされます。エクスポートの対象となるプロファイル情報を次に示します。

表 8-4　エクスポートされるエージェント監視のプロファイル情報とエクスポートファイル名

プロファイル情報	エクスポートファイル名
イベントの転送設定ファイル	forward
ログファイルトラップ動作定義ファイル	ファイル名は任意
ログファイルトラップ起動定義ファイル	jevlog_start.conf
イベントログトラップ動作定義ファイル	ntevent.conf
ローカルアクション実行定義ファイル	jbslcact.conf

(b) リモート監視のプロファイル情報

JP1/IM - Manager プロファイル情報がファイルにエクスポートされます。リモート監視のプロファイル情報は編集できません。

ファイルは「definition_files」ディレクトリ以下の 1 階層目のディレクトリ名の「ホスト名」，2 階層目のディレクトリ名の「al」以下にエクスポートされます。また，ログファイルトラップの動作定義ファイルは 3 階層目のディレクトリ名の「cf_log_file_trap」以下に，イベントログトラップの動作定義ファイルは 3 階層目のディレクトリ名の「cf_event_log_trap」以下にエクスポートされます。エクスポートの対象となるプロファイル情報を次に示します。

表 8-5　エクスポートされるリモート監視のプロファイル情報とエクスポートファイル名

プロファイル情報	エクスポートファイル名
リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル	ファイル名は任意
リモート監視起動定義ファイル	jevlog_start.conf
リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル	ntevent.conf

(4) リモート認証情報

リモート監視をしている場合に，リモート認証情報がエクスポートされます。リモート認証情報は編集できません。

(5) 業務グループ情報

業務グループを使用している場合に，業務グループの情報がファイルにエクスポートされます。エクスポートされるファイル名は，monitoring_system_data.csv です。monitoring_system_data.csv に出力される業務グループ情報を次の表に示します。

表 8-6　エクスポートされる業務グループ情報

行	出力項目	出力値
1 行目（ヘッダー情報）	製品名	JP1/IM-CF
	ファイルフォーマットバージョン	ファイルフォーマットのバージョン 例えば，JP1/IM - Manager のバージョンが 09-50 の場合は，「095000」と出力されます。
	文字コード	文字コード マネージャーの環境変数 LANG の設定に依存します。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「ホスト入力情報ファイル（host_input_data.csv）」（2. 定義ファイル）の「表 2-67 ファイルの文字コード」を参照してください。
2 行目（ヘッダー情報）	業務グループ名	Monitoring_system_name

行	出力項目	出力値
	割り当て JP1 資源グループ名	JP1_resource_group_name
	コメント	Comment
	ホスト名	Host_name_list
3 行目以降	業務グループ名	業務グループの名称
	割り当て JP1 資源グループ名	業務グループに割り当てた JP1 資源グループの名称
	コメント	コメント
	ホスト名	業務グループに登録されたホストのホスト名（複数ある場合はコンマ（,）で区切り，全体をダブルクォーテーション（"）で囲む）

注　業務グループ情報は，業務グループ名で昇順にソートして出力されます。

業務グループ情報の出力例を次に示します。

```
JP1/IM-CF;095000;UTF-8,,,

Monitoring_system_name,JP1_resource_group_name,Comment,Host_name_list

System1,,This is the empty system,

System2,Resource_A,This is System2,"host21,host22,host23,host24"

System3,Resource_A,This is System3,"host31,host32"
```

(6)　監視グループ情報

業務グループを使用している場合に，IM 構成管理の監視グループ情報がファイルにエクスポートされます。エクスポートされるファイル名は，monitoring_group_data.csv です。monitoring_group_data.csv に出力される監視グループ情報を次の表に示します。

表 8-7　エクスポートされる監視グループ情報

行	出力項目	出力値
1 行目（ヘッダー情報）	製品名	JP1/IM-CF
	ファイルフォーマットバージョン	ファイルフォーマットのバージョン 例えば，JP1/IM - Manager のバージョンが 10-50 の場合は，「101000」と出力されます。
	文字コード	文字コード マネージャーの環境変数 LANG の設定に依存します。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「ホスト入力情報ファイル（host_input_data.csv)」(2. 定義ファイル）の「表 2-67 ファイルの文字コード」を参照してください。

行	出力項目	出力値
2行目（ヘッダー情報）	監視グループパス	Monitoring_group_path
	コメント	Comment
	ホスト名	Host_name_list
3行目以降	監視グループパス	監視グループのパス
	コメント	コメント
	ホスト名	監視グループに登録されたホストのホスト名（複数ある場合はコンマ（,）で区切り，全体をダブルクォーテーション（"）で囲む）

注　監視グループ情報は，監視グループパスで昇順にソートして出力されます。

監視グループ情報の出力例を次に示します。

```
JP1/IM-CF;101000;UTF-8,,

Monitoring_group_path,Comment,Host_name_list

/System1/Group1,This is the empty group,

/System1/Group2,This is Group2,host2

/System2/Group1,This is Group1,"host11,host12,host13,host14"
```

8.7.2　IM 構成管理の管理情報をインポートする

あるホストから出力（エクスポート）された IM 構成管理の管理情報を，必要があれば編集し，別のホストへ入力（インポート）します。インポートは，jcfimport コマンドで実行しますが，ホスト情報の収集情報はインポートできません。

インポートを実行すると IM 構成管理が保持するデータが変更されるため，インポート前にバックアップすることをお勧めします。

ここでは，jcfimport コマンドによってインポートされるシステム構成情報について説明します。jcfimport コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcfimport」（1. コマンド）を参照してください。

(1)　ホスト情報

手動入力情報の場合，エクスポートファイル（host_input_data.csv）の内容がインポートされます。

手動入力情報のエクスポートファイル（host_input_data.csv）からインポートされる項目と，各項目の入力範囲を次に示します。

表 8-8　インポートされるホスト情報（手動入力情報）

項目	入力範囲	必須／任意	デフォルト
ホスト名	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	必須※1	−
IP アドレス	IP アドレスを入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，ピリオド（.），コロン（:）です。	任意	空欄
ホスト名一覧	ホスト名を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄
コメント	最大 80 バイトの文字列を入力できます。	任意	空欄
ホスト種別	physical，logical，virtual，unknown のどれかを入力できます。	任意	physical
実行系ホスト	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄
待機系ホスト	ホスト名を入力できます。ホスト名は 1 個当たり最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄
VMM ホスト	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄
仮想化管理種別	次のどれかを入力できます。大文字，小文字の区別はありません。 仮想化システム管理ホストの場合 ・vCenter ・JP1/SC/CM ・SCVMM ・HCSM VMM ホストの場合 ・ESX※2 ・Hyper-V ・KVM ・Virtage	任意	空欄
ユーザー名	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字です。	任意	空欄

項目	入力範囲	必須／任意	デフォルト
パスワード※3	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字です。	任意	空欄
ドメイン名※4	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字です。	任意	空欄
通信種別※5	http，https，ssh のどれかを入力できます。大文字，小文字の区別はありません。なお，仮想化管理種別の値によって，入力できる通信種別は異なります。 仮想化管理種別がvCenter の場合 http，https を入力できる。 仮想化管理種別がHCSM の場合 http を入力できる。 仮想化管理種別がKVM の場合 ssh を入力できる。	任意	仮想化管理種別がvCenter の場合 https 仮想化管理種別がHCSM の場合 http 仮想化管理種別がKVM の場合 ssh
ポート番号※6	半角数字で1～65535 までの値を入力できます。	任意	仮想化管理種別がHCSM の場合 23015 仮想化管理種別がKVM の場合 22
秘密鍵ファイル名※7	最大 256 バイトの文字列を入力できます。大文字，小文字を区別します。使用できる文字は制御コードを除く半角英数字です。	任意	空欄
仮想化管理元ホスト名	最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄
リモート通信種別	リモート監視の場合に使用できる通信種別です。disable，ssh，wmi のどれかを入力できます。	任意	disable
認証情報の区分※8	リモート監視の場合に使用できる認証情報の区分です。common，host，空白のどれかを入力できます。	任意	空白

（凡例）

－：デフォルト値がない

注　　全角文字は 3 バイトで換算されます。

注※1　必須の項目が設定されていない場合は，エラーとなります。任意の項目が設定されていない場合は，デフォルトの値がインポートされます。

注※2　ESX は，VMware ESX を指します。

注※3　仮想化管理種別がvCenter，SCVMM またはHCSM の場合に入力が必要です。

注※4　仮想化管理種別がSCVMM の場合に入力が必要です。

注※5　仮想化管理種別がvCenter，HCSM またはKVM の場合に入力が必要です。

注※6　仮想化管理種別がHCSMまたはKVMの場合に入力が必要です。

注※7　仮想化管理種別がKVMの場合に入力が必要です。

注※8　認証情報の区分にhostが設定されているホストのホスト名を変更した場合，リモート監視に使用する認証情報が引き継がれません。インポート後にIM構成管理画面でリモート通信設定を再設定してください。

ホスト情報に，文字コード間に互換性のない文字，および機種依存文字を使用していると，インポートしたときに文字化けが発生するおそれがあります。

手動入力情報のエクスポートファイル（host_input_data.csv）の内容が次のどれかの場合は，エラーとなり，インポートされません。

- ホスト名が重複している。
- ホスト名が255バイトより大きい。
- ホスト数がサポート数分（IMデータベースのサイズが，SまたはMの場合は1,024台，Lの場合は10,000台）を超えている。
- 入力範囲外の値が設定されている。
- 入力データの列が少ない（コンマの数が少ない）。
- 実行系ホスト，待機系ホスト，およびVMMホストに記載されているホスト名が，ホスト情報ファイルに存在しない。
- 実行系ホストおよび待機系ホストのホストの種別に，physical，virtual以外が設定されている。
- VMMホストのホストの種別にphysical以外が設定されている。
- ホスト種別にphysical，logical，virtual，unknown以外が設定されている。
- 仮想化管理種別にESX，Hyper-V，KVM，Virtage，vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM以外が設定されている。
- ホスト種別がlogical，unknownのホストに仮想化管理種別が設定されている。
- 仮想化管理元ホストに記載されているホストがホスト情報ファイルに存在しない。
- 仮想化管理元ホストに記載されているホストの種別がphysical，virtual以外が設定されている。
- ドメイン名が設定されているホストの仮想化管理種別にSCVMM以外が設定されている。
- 通信種別が指定されているホストの仮想化管理種別にvCenter，HCSM，KVM以外が設定されている。
- 仮想化管理種別がvCenterであるホストの通信種別にhttp，https以外が設定されている。
- 仮想化管理種別がHCSMであるホストの通信種別にhttp以外が設定されている。
- 仮想化管理種別がKVMであるホストの通信種別にssh以外が設定されている。
- 仮想化システム構成に関する情報が次の表の内容に該当しない。

ホスト種別	仮想化管理種別	入力する仮想化管理種別に関する情報	必須または任意	備考
物理ホスト	－	×	－	－

ホスト種別	仮想化管理種別	入力する仮想化管理種別に関する情報	必須または任意	備考
	vCenter	仮想化管理元ホスト名	任意	仮想化管理元ホスト名は，SCVMM を指定する
		ユーザー名	任意	
		パスワード	任意	
		通信種別	任意	
	JP1/SC/CM	×	－	－
	SCVMM	ユーザー名	任意	－
		パスワード	任意	
		ドメイン名	任意	
	HCSM	ユーザー名	任意	－
		パスワード	任意	
		ポート番号	任意	
		通信種別	任意	
	ESX	仮想化管理元ホスト名	任意	仮想化管理元ホスト名は，vCenter を指定する。
	Hyper-V	仮想化管理元ホスト名	任意	仮想化管理元ホスト名は，SCVMM を指定する。
	KVM	ユーザー名	任意	－
		ポート番号	任意	
		秘密鍵ファイル名	必須	
		通信種別	任意	
	Virtage	仮想化管理元ホスト名	任意	仮想化管理元ホスト名は，JP1/SC/CM またはHCSM を指定する。
仮想ホスト	－	VMM ホスト名	必須	VMM ホスト名は，vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM 以外を指定する。
	vCenter	VMM ホスト名	必須	VMM ホスト名は，vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM 以外を指定する。
		仮想化管理元ホスト名	任意	
		ユーザー名	任意	

ホスト種別	仮想化管理種別	入力する仮想化管理種別に関する情報	必須または任意	備考
		パスワード	任意	仮想化管理元ホスト名は，SCVMM を指定する。
		通信種別	任意	
	JP1/SC/CM	VMM ホスト名	必須	VMM ホスト名は，vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM 以外を指定する。
	SCVMM	VMM ホスト名	必須	VMM ホスト名は，vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM 以外を指定する。
		ユーザー名	任意	
		パスワード	任意	
		ドメイン名	任意	
	HCSM	VMM ホスト名	必須	VMM ホスト名は，vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM 以外を指定する。
		ユーザー名	任意	
		パスワード	任意	
		ポート番号	任意	
		通信種別	任意	
	KVM	VMM ホスト名	必須	VMM ホスト名は，vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM 以外を指定する。
		ユーザー名	任意	
		ポート番号	任意	
		秘密鍵ファイル名	任意	
		通信種別	任意	
論理ホスト	－	×	－	－
不明	－	×	－	－

（凡例）

－：該当なし

×：入力できない（入力した場合はエラーとなる）

- リモート通信種別がdisable，ssh，wmi 以外が設定されている。
- 認証情報の区分がcommon，host，空白以外が設定されている。
- リモート通信種別にssh またはwmi が設定されているとき，認証情報の区分に空白が設定されている。

また，インポート先ホストとホスト名が同じホストは，手動入力情報のエクスポートファイル（host_input_data.csv）がインポートされたあと，IM 構成管理の管理対象ホストとして登録されません。

(2) システムの階層構成情報

システムの階層構成情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。エクスポートファイルは，次に示すシステムの監視方法によって異なります。

- エージェント監視
- リモート監視

(a) エージェント監視の構成情報

エージェント監視の構成情報のエクスポートファイル名は，system_tree_information.txt です。

エージェント監視の構成情報のエクスポートファイルの内容が次のどれかの場合は，エラーとなり，インポートされません。

システムの階層構成情報のエクスポートファイルの内容が次のどれかの場合は，エラーとなり，インポートされません。

- 同一ホストが複数行に存在する（管理対象ホストが複数の上位ホストを持つ）
- ホストの構成がループしている
- 管理ホストに設定される管理ホスト名が[　]で囲まれていない（「]」で閉じられていない）
- 管理ホストにホスト名が設定されていない
- ホスト数が 10,000 台より多く定義されている

ホスト情報（手動入力情報）のエクスポートファイル（host_input_data.csv），またはエージェント監視の構成情報のエクスポートファイルを編集した結果，システムの階層構成情報のエクスポートファイルに設定されたホスト名が，ホスト情報（手動入力情報）のエクスポートファイルに設定されていない場合があります。この場合，システムの階層構成情報のエクスポートファイルがインポートされたあと，インポート警告メッセージが表示されて，未定義のホストが IM 構成管理の管理対象ホストとして自動的に登録されます。

システムの階層構成情報をインポートする場合，指定したディレクトリにシステムの階層構成情報のエクスポートファイルが存在しないときは，エラーメッセージが表示されて，インポートが中止されます。

(b) リモート監視の構成情報

リモート監視をしている場合に，リモート監視の構成情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。リモート監視の構成情報は編集できません。

(3) プロファイル情報

プロファイル情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。インポートの対象となるファイルは，次に示すシステムの監視方法によって異なります。

- エージェント監視

- リモート監視

(a) エージェント監視のプロファイル情報

インポートの対象となるエージェント監視のプロファイル情報のエクスポートファイルを次に示します。

表 8-9 インポートされるエージェント監視のプロファイル情報のエクスポートファイル

プロファイル情報	エクスポートファイル名
イベントの転送設定ファイル	forward
ログファイルトラップ動作定義ファイル	ファイル名は任意
ログファイルトラップ起動定義ファイル	jevlog_start.conf
イベントログトラップ動作定義ファイル	ntevent.conf
ローカルアクション実行定義ファイル	jbslcact.conf

エージェント監視のプロファイル情報のインポートでは，「definition_files」ディレクトリ以下のディレクトリ名を使用してインポート先が決まります。「definition_files」ディレクトリ以下の 1 階層目のディレクトリ名は「ホスト名」，2 階層目のディレクトリ名は「製品名」として読み込まれ，各ディレクトリに格納されたファイルが設定情報として該当するホストに登録されます。このため，ホスト情報（手動入力情報）のエクスポートファイル（host_input_data.csv）でホスト名を変更した場合は，同様にディレクトリ名も変更する必要があります。変更しないと，プロファイル情報はインポートされません。

プロファイル情報のファイルを，エクスポートデータ情報のエクスポートファイル（data_information.txt）のencode に記載されている文字コードとして読み込みます。この文字コードは，エクスポートを実行したサーバの OS の環境変数「LANG」が設定されます。プロファイル情報をインポートする場合には，エクスポートファイル（data_information.txt）に記述されている文字コードとプロファイル情報のファイルの文字コードが一致しているかどうかを確認してください。

ホスト情報に，文字コード間に互換性のない文字，および機種依存文字を使用していると，インポートしたときに文字化けが発生するおそれがあります。

ホスト数が 10,000 台より多く定義されている場合は，エラーとされて，インポートされません。

プロファイル（設定ファイル）のエクスポートファイルの内容に未対応製品や未対応のプロファイルなどがある場合には，その部分を無視して処理を続けます。

(b) リモート監視のプロファイル情報

リモート監視をしている場合に，リモート監視のプロファイル情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。リモート監視のプロファイル情報は編集できません。

インポートの対象となるリモート監視のプロファイル情報のエクスポートファイルを次に示します。

表 8-10　インポートされるリモート監視のプロファイル情報とエクスポートファイル名

プロファイル情報	エクスポートファイル名
リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイル	ファイル名は任意
リモート監視起動定義ファイル	jevlog_start.conf
リモート監視イベントログトラップ動作定義ファイル	ntevent.conf

リモート監視のプロファイル情報のインポートでは，「definition_files」ディレクトリ以下のディレクトリ名を使用してインポート先が決まります。

「definition_files」ディレクトリ以下の 1 階層目のディレクトリ名は「ホスト名」，2 階層目のディレクトリ名は「製品名」として読み込まれ，各ディレクトリに格納されたファイルが設定情報として該当するホストに登録されます。このため，ホスト情報（手動入力情報）のエクスポートファイル（host_input_data.csv）でホスト名を変更した場合は，同様にディレクトリ名も変更する必要があります。変更しないと，プロファイル情報はインポートされません。

プロファイル情報のファイルを，エクスポートデータ情報のエクスポートファイル（data_information.txt）のencode に記載されている文字コードとして読み込みます。この文字コードは，エクスポートを実行したサーバの OS の環境変数「LANG」が設定されます。プロファイル情報をインポートする場合には，エクスポートファイル（data_information.txt）に記述されている文字コードとプロファイル情報のファイルの文字コードが一致しているかどうかを確認してください。ホスト情報に，文字コード間に互換性のない文字，および機種依存文字を使用していると，インポートしたときに文字化けが発生するおそれがあります。

(4)　リモート認証情報

リモート監視をしている場合に，リモート認証情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。リモート認証情報は編集できません。

リモート監視をする場合は，インポート後に IM 構成管理・ビューアーから［システム共通設定］画面を開き，設定を確認後に［OK］ボタンをクリックしてください。

(5)　業務グループ情報

業務グループを使用している場合に，IM 構成管理の監視グループ情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。業務グループ情報のエクスポートファイル（monitoring_system_data.csv）の内容が次のどれかの場合は，エラーとなり，インポートされません。

- 同じ階層に同じ名称の業務グループが存在する
- 入力範囲外
- 入力データの列が少ない（コンマの数が合わない）

インポートの対象となる項目および各項目の入力範囲を次に示します。

表 8-11　インポートされる項目（業務グループ情報）

項目	入力範囲	必須／任意	デフォルト
業務グループ名	最大 2,046 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御文字以外です。大文字・小文字を区別します。	必須	－
割り当て JP1 資源グループ名	最大 64 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，”/ [ ] ; : , | = + ? < > ，タブ，スペースを除く ASCII コードです。	任意	空欄
コメント	最大 80 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御文字以外です。	任意	空欄
ホスト名	複数のホストをコンマで区切って指定できます。一つのホストに対して最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄

（凡例）

－：デフォルト値がない

(6)　監視グループ情報

業務グループを使用している場合に，業務グループ情報のエクスポートファイルの内容がインポートされます。監視グループ情報のエクスポートファイル（monitoring_group_data.csv）の内容が次のどれかの場合は，エラーとなり，インポートされません。

- 同じ階層に同じ名称の監視グループまたはホストが存在する
- 入力範囲外
- 入力データの列が少ない（コンマの数が合わない）
- 上位の監視グループが，下位の監視グループよりも行番号の若い行に定義されていない

インポートの対象となる項目および各項目の入力範囲を次に示します。

表 8-12　インポートされる項目（監視グループ情報）

項目	入力範囲	必須／任意	デフォルト
監視グループパス	最大 2,046 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御文字以外です。大文字・小文字を区別します。	必須	－
コメント	最大 80 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御文字以外です。	任意	空欄
ホスト名	複数のホストをコンマで区切って指定できます。一つのホストに対して最大 255 バイトの文字列を入力できます。使用できる文字は，制御コードを除く半角英数字，半角ハイフン（-），ピリオド（.）です。	任意	空欄

（凡例）

－：デフォルト値がない

8.7.3　インポートした IM 構成管理の管理情報をシステムに反映する

jcfimport コマンドを実行して IM 構成管理の管理情報をインポートしたあとに，次の操作を実行してシステムに反映します。

(1)　ホスト情報の収集

ホスト情報を収集する手順を次に示します。

1. [IM 構成管理］画面の［ホスト一覧］タブまたは［IM 構成］タブをクリックする。

   ［ホスト一覧］ページまたは［IM 構成］ページが表示されます。

2. ツリー表示領域からホストを選択する。

   選択したホストに下位のホストがある場合，［下位ホスト情報］ボタンをクリックして表示される［下位ホスト情報］のリストからも，ホストを選択できます。この場合，複数のホストを同時に選択できます。

3. 次に示すどちらかの方法でホストの情報を収集する。

- メニューバーから［操作］－［ホスト情報収集］を選択する。
- 右クリックして表示されるポップアップメニューから［ホスト情報収集］を選択する。

選択したホストの情報を収集するかどうかを確認するメッセージが出力されるので，「はい」を選択します。選択したホストの情報収集が実行されます。

(2) システムの階層構成情報の反映

システムの階層構成情報を反映する手順を次に示します。

(a) エージェント構成の場合

システムの階層構成情報を反映していない場合，［IM 構成管理］画面の［IM 構成］タブでツリーがグレー表示されます。

次の手順でシステムの階層構成情報を反映してください。

1. **［IM 構成管理］画面のメニューバーから［編集］－［エージェント構成編集］を選択する。**
   ［エージェント構成編集］画面が表示されます。

2. **［更新権取得］チェックボックスをチェックする。**
   JP1/IM システムの構成の編集ができるようになります。

3. **ツリーの最上位ノード（統合マネージャー）を選択して，次のどちらかの方法で，統合マネージャーを変更する。**
   - メニューバーから［操作］－［ホスト交換］を選択する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［ホスト交換］を選択する。

   なお，エクスポートしたホストとインポートしたホストが同じ場合には，この手順は不要です。

4. **［エージェント構成編集］画面のメニューバーから［操作］－［エージェント構成の反映］を選択する。**
   実システムにシステムの階層構成情報が反映されます。

5. **［更新権取得］チェックボックスのチェックを外す。**

なお，現在のシステムの階層構成を取得したい場合には，この操作は不要です。［IM 構成管理］画面のメニューバーから［編集］－［IM 構成取得］を実行して，現在のシステムの階層構成を取得してください。

(b) リモート監視構成の場合

次の手順でシステムの階層構成情報を反映してください。

1. **［IM 構成管理］画面のメニューバーから［編集］－［リモート監視構成編集］を選択する。**
   ［リモート監視構成編集］画面が表示されます。

2. **［更新権取得］チェックボックスをチェックする。**

JP1/IM システムの構成の編集ができるようになります。

3. ツリーの最上位ノード（統合マネージャー）を選択して，次のどちらかの方法で，統合マネージャーを変更する。

   - メニューバーから［操作］－［ホスト交換］を選択する。
   - 右クリックして表示されるポップアップメニューから［ホスト交換］を選択する。

   なお，エクスポートしたホストとインポートしたホストが同じ場合には，この手順は不要です。

4. ［リモート監視構成編集］画面のメニューバーから［操作］－［リモート監視構成の反映］を選択する。
   実システムにシステムの階層構成情報が反映されます。

5. ［更新権取得］チェックボックスのチェックを外す。

なお，現在のシステムの階層構成を取得したい場合には，この操作は不要です。［IM 構成管理］画面のメニューバーから［編集］－［IM 構成取得］を実行して，現在のシステムの階層構成を取得してください。

(3) プロファイル情報の反映

IM 構成管理の管理情報をインポートしただけでは，システムに設定ファイルは反映されません。次の方法で設定ファイルの反映をしてください。

- 設定ファイルを一括で反映する方法
- ホストごとに設定ファイルを反映する方法

設定ファイルの反映方法は，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(6) 設定ファイルの編集内容を反映する」を参照してください。

なお，現在のシステムのプロファイル情報を取得したい場合には，プロファイル情報の反映は不要です。プロファイルを一括で収集してください。プロファイルの収集方法は，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.5.1(1) プロファイルリストを収集する」を参照してください。

9 BJEX または JP1/AS との連携

JP1/IM は，BJEX または JP1/AS が発行する応答要求メッセージを JP1 イベントとして監視し，JP1/IM - View から応答入力する機能を提供しています。この章では，BJEX または JP1/AS と連携するために JP1/IM が提供する機能，BJEX または JP1/AS との連携方法，および BJEX または JP1/AS 連携時に使用するコマンドオプションについて説明します。

9.1　BJEX または JP1/AS との連携の概要

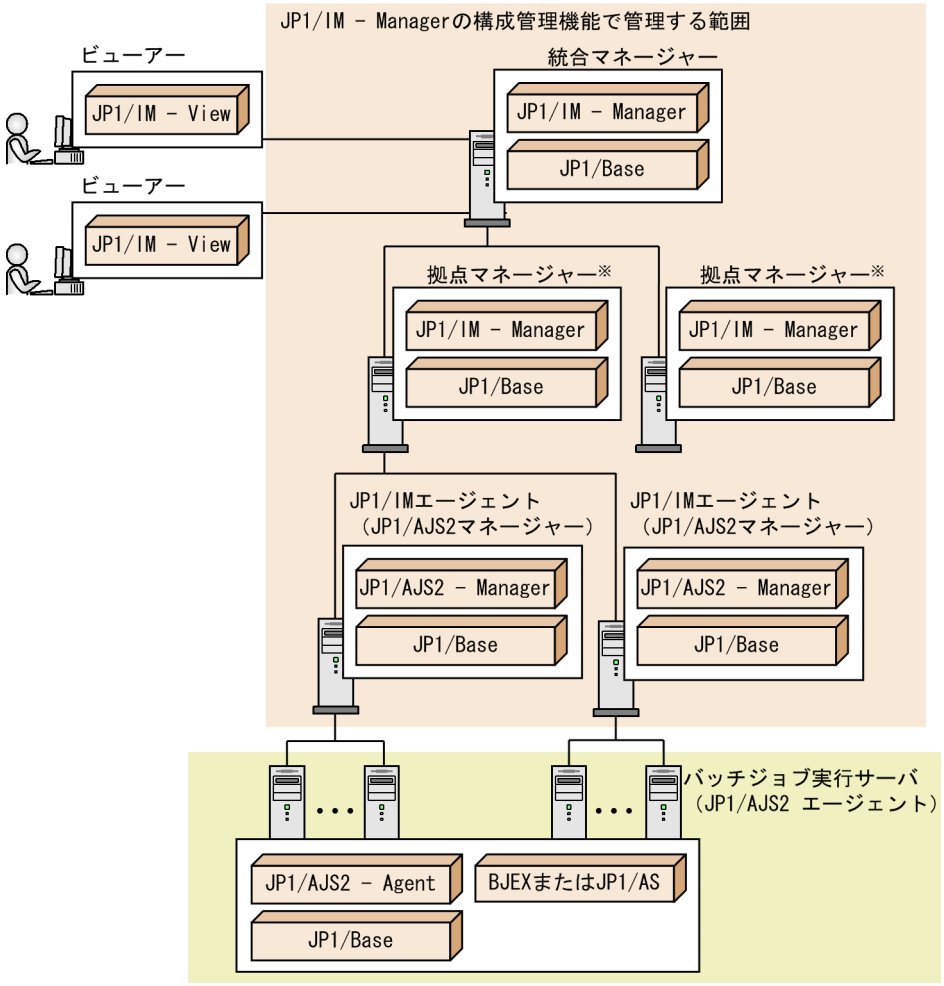
BJEX は，メインフレームと類似のジョブ管理システムを，オープンシステムで実現する製品です。JP1/AS は，バッチジョブのためのシェルスクリプトを作成・実行するための製品です。JP1/AJS と連携して，バッチジョブ（バッチ処理を実行するジョブ）を制御するジョブ管理システムを，**バッチジョブ実行システム**といいます。バッチジョブ実行システムに JP1/IM を導入することで，BJEX または JP1/AS が発行する JP1 イベントを基に，JP1/IM - View からバッチジョブの実行状況の監視，および実行結果の確認ができます。

BJEX または JP1/AS が出力するメッセージには，バッチジョブの実行中にオペレーターに応答入力を促す応答要求メッセージがあります。BJEX または JP1/AS は，応答要求メッセージを JP1 イベントとして発行します。JP1/IM では，この JP1 イベントを監視し，メッセージに対して応答入力できる機能を提供しています。応答要求メッセージに相当する JP1 イベントを**応答待ちイベント**と呼びます。応答待ちイベントを管理し，応答する機能を**応答待ちイベント管理機能**と呼びます。応答待ちイベント管理機能は，BJEX または JP1/AS と連携する場合に使用します。デフォルトでは無効となっているため，BJEX または JP1/AS と連携する場合は有効にしてください。

9.1.1　バッチジョブ実行システムと連携する場合のシステム構成

バッチジョブ実行システムと JP1/IM を連携する場合のシステム構成について説明します。

図 9-1　バッチジョブ実行システムと JP1/IM の構成例



注※　拠点マネージャーまたは中継マネージャーを配置できます。

図の例では，拠点マネージャーがある階層型のシステムで，バッチジョブ実行システムを監視しています。

各サーバの役割，および前提製品について説明します。適用 OS については，各製品のマニュアルを参照してください。また，適用バージョンについては，JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

ビューアー

JP1/IM - View から JP1/IM - Manager に接続して，監視や操作をします。前提製品を次に示します。

- JP1/IM - View※

  注※　WWW ページ版の JP1/IM - View では，通常の JP1 イベントと同様に応答待ちイベントを監視できますが，操作できる機能に制限があります。詳細については，「9.4　応答待ちイベントの操作」を参照してください。

統合マネージャー

システムを統合管理するサーバです。前提製品を次に示します。

- JP1/IM - Manager

- JP1/Base

拠点マネージャーまたは中継マネージャー

大規模なシステムを監視する場合などシステムを階層で管理したい場合に，統合マネージャーの下に配置するサーバです。前提製品を次に示します。

- JP1/IM - Manager
- JP1/Base

JP1/IM エージェント（JP1/AJS マネージャー）

JP1/IM の監視対象のサーバです。図の例では，JP1/AJS のマネージャーでもあります。前提製品を次に示します。

- JP1/AJS - Manager
- JP1/Base

バッチジョブ実行サーバ（JP1/AJS エージェント）

JP1/AJS - Manager から実行依頼を受けたバッチジョブなどの処理を実行するサーバです。バッチジョブ実行サーバは，JP1/IM の構成管理対象に含まれていなくても，JP1/IM と連携できます。JP1/IM - Manager とバッチジョブ実行サーバの BJEX または JP1/AS は 1：n（n は 1 以上の整数）の構成で連携できます。連携する場合の設定方法については，「9.3　BJEX または JP1/AS と連携するための設定」を参照してください。

前提製品を次に示します。

- JP1/AJS - Agent
- JP1/Base
- BJEX または JP1/AS

9.2 BJEX または JP1/AS 連携用の JP1/IM の機能

BJEX または JP1/AS 連携用に JP1/IM が提供している機能について説明します。

9.2.1 応答待ちイベントと JP1/IM の関係

バッチジョブがオペレーターの応答入力待ちの状態になると発行される応答待ちイベントは，次のとおりです。

- BJEX の場合
  イベント ID：00005C21
- JP1/AS の場合
  イベント ID：00007121

応答待ちイベントを JP1/IM で監視するためには，BJEX または JP1/AS 側で，応答待ちイベントを JP1/IM - Manager のホスト（統合マネージャー）に直接発行する必要があります。また，JP1/IM - Manager では，応答待ちイベント管理機能を有効にする必要があります。

応答待ちイベント（イベント ID：00005C21）の詳細については，マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。

応答待ちイベント（イベント ID：00007121）の詳細については，マニュアル「JP1/Advanced Shell」を参照してください。

(1) 応答待ちイベントの発行経路

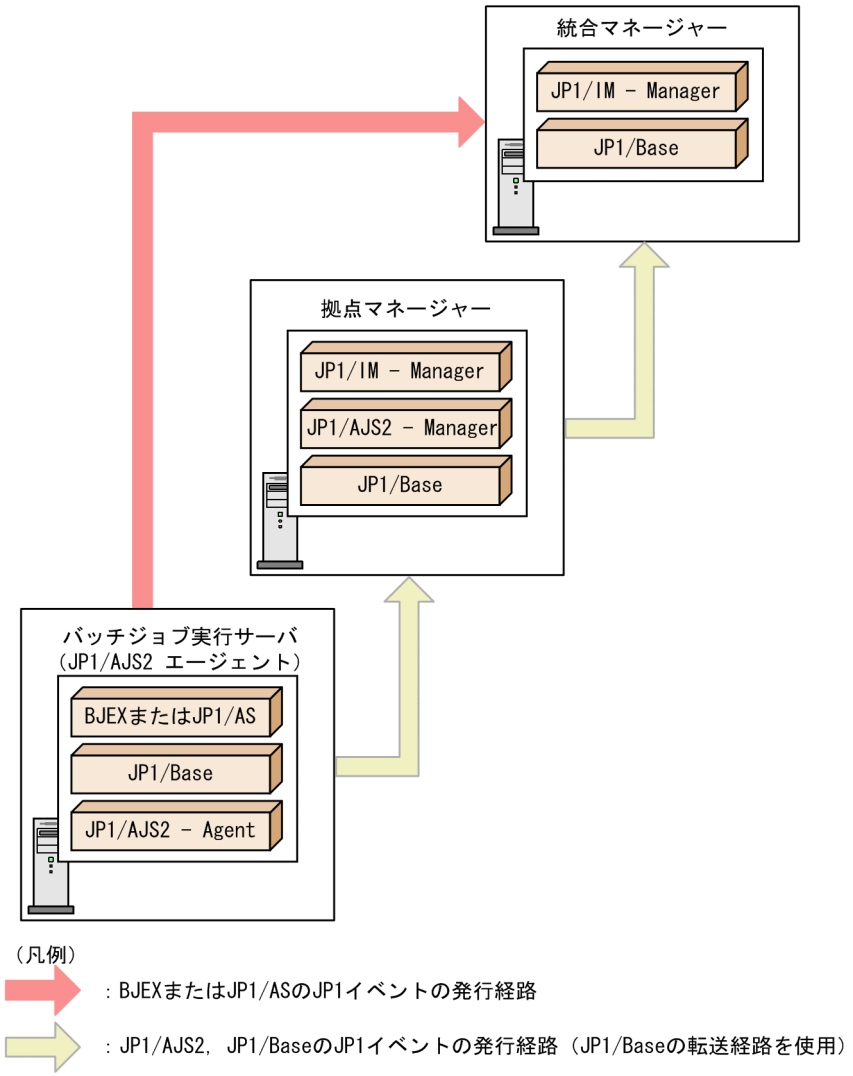
BJEX または JP1/AS が発行する JP1 イベント（応答待ちイベントを含む）は，JP1/Base のイベント転送経路を使わないで，統合マネージャーに対して直接発行します。BJEX が発行するすべての JP1 イベントを統合マネージャーに対して直接発行するには，BJEX の設定ファイル（`bjex.conf`）で JP1/IM - Manager のホスト名を指定します。また，JP1/AS が連携する JP1/IM は，JP1/AS の環境ファイルの `HOSTNAME_JP1IM_MANAGER` パラメーターで指定します。

BJEX または JP1/AS と BJEX または JP1/AS 以外の製品が発行する JP1 イベントの到着順序

JP1/AJS や JP1/Base など，BJEX または JP1/AS ホスト上にある BJEX または JP1/AS 以外の製品が発行する JP1 イベントは，JP1/Base の転送経路を使って，拠点マネージャーを経由して統合マネージャーに転送します。そのため，BJEX または JP1/AS と BJEX または JP1/AS 以外の製品が発行した JP1 イベントが統合マネージャーに到着する順番が入れ替わる場合があります。この場合は，JP1 イベントのメッセージテキスト中に含まれるジョブ ID を参照して，ジョブごとにメッセージを区別してください。

BJEX または JP1/AS ホストから発行される JP1 イベントの発行経路を次の図に示します。

図 9-2　BJEX または JP1/AS ホストから発行される JP1 イベントの発行経路



注意事項

BJEX または JP1/AS が指定したホスト以外の JP1/IM - Manager に応答待ちイベントを転送した場合，転送先のホストでは応答待ちイベントとして扱われません。そのため，転送先のホストでは応答入力できません。

(2)　応答待ちイベント管理機能

応答待ちイベント管理機能を有効にすると，応答待ちイベントに対して，JP1/IM - View から応答入力するための機能が有効になります。応答待ちイベント管理機能は BJEX または JP1/AS と連携する JP1/IM - Manager で設定します。

また，応答待ちイベント管理機能を有効にしたあとに，ユーザーごとに応答入力や操作を可能にするかどうかを，JP1/IM - View の［ユーザー環境設定］画面で設定する必要があります。

設定方法については，「9.3　BJEX または JP1/AS と連携するための設定」を参照してください。

なお，応答待ちイベント管理機能，および応答待ちイベントの応答・操作を有効にしなくても，通常の JP1 イベントとして応答待ちイベントを監視できます。

注意事項

応答待ちイベントとして扱われる JP1 イベントは，応答待ちイベント管理機能を有効にしたあとに JP1/IM - Manager が受信した応答待ちイベントです。

9.2.2　応答待ちイベントの監視

応答待ちイベントは通常の JP1 イベントと同様に扱われます。そのため自動アクションによる通知なども行えます。

ここでは，次の機能について，応答待ちイベントへの対応を説明します。このほかの機能については，通常の JP1 イベントと同じ対応のため説明を省略します。

- ［イベントコンソール］画面での監視
- JP1 イベントのフィルタリング
- 繰り返しイベントの監視
- イベント検索
- JP1/IM - View での表示情報の CSV 出力

(1)　［イベントコンソール］画面での監視

応答待ちイベントは，通常の JP1 イベントと同様に，［イベント監視］ページ，［重要イベント］ページ，および［イベント検索］ページのイベント一覧に表示されます。また，応答待ちイベント管理機能，および応答待ちイベントの応答・操作を有効にした場合だけ表示される［応答待ちイベント］ページには，応答待ちイベントだけが表示されます。ただし，WWW ページ版の JP1/IM - View には［応答待ちイベント］ページは表示されません。

［イベントコンソール］画面のイベント一覧では，通常の JP1 イベントと同様に，応答待ちイベントに対して次の操作・設定ができます。

- 応答待ちイベントの詳細表示
- 連携製品のモニター起動
- 自動アクションの実行結果表示
- JP1 イベントの表示項目の変更
- JP1 イベントの背景色設定
- 応答待ちイベントへの対処状況設定

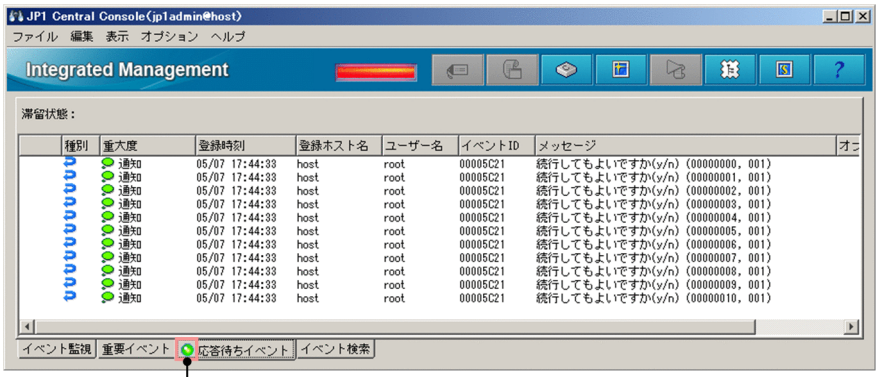
- 指定期間のイベント表示の設定

これらの機能の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「3.1　JP1 イベントによる集中監視」を参照してください。

(a)　［応答待ちイベント］ページでの監視

［応答待ちイベント］ページには，応答していない応答待ちイベントの一覧が表示されます。［応答待ちイベント］ページを次に示します。

図 9-3　［応答待ちイベント］ページ



応答していない応答待ちイベントがあるかどうかは，［応答待ちイベント］ページのタブランプで確認できます。［応答待ちイベント］ページに応答待ちイベントが表示されると，［応答待ちイベント］ページのタブランプが緑色に点灯します。

応答待ちイベントは，イベント DB とは別に，応答待ちイベント滞留ファイルと呼ばれるファイルに保持されます。これを**応答待ちイベントの滞留**といいます。［応答待ちイベント］ページには，応答待ちイベントファイルに滞留している応答待ちイベントの情報が表示されます。

応答待ちイベントは，次の契機で［応答待ちイベント］ページから削除されます。

- 応答待ちイベントに応答したとき
- 応答待ちイベントの滞留が解除されたとき
- 応答待ちイベントがキャンセルされたとき

応答待ちイベントの滞留が解除される契機については，「9.2.3　応答待ちイベントの滞留」を参照してください。

［応答待ちイベント］ページに表示されているすべての応答待ちイベントが［応答待ちイベント］ページから消えると，タブランプの点灯が消えます。

各ページのイベント一覧では，応答待ちイベントであることが判別できるように，［種別］に応答待ちイベントを示すマーク が表示されます。

なお，［応答待ちイベント］ページでは，JP1 イベントの背景色を設定しても背景に色は付きません。

(2) 応答待ちイベントのフィルタリング

次のフィルターで応答待ちイベントをフィルタリングできます。

- ユーザーフィルター
- 重要イベントフィルター
- 表示フィルター

応答待ちイベント管理機能を有効にすると，ユーザーフィルター，および重要イベントフィルターの条件定義画面に，応答待ちイベントを表示対象とするかどうかを選択する項目が表示されます。表示フィルターで応答待ちイベントをフィルタリングする場合は，応答待ちイベント管理機能，および応答待ちイベントの応答・操作を有効にする必要があります。

各フィルターの条件定義画面の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.42.8　フィルターの条件定義画面」を参照してください。

なお，イベント取得フィルターには，応答待ちイベントをフィルタリングする条件指定はありません。イベント取得フィルターは，応答待ちイベントを発行する製品単位で JP1 イベントをフィルタリングするよう設定してください。

(3) 応答待ちイベントの集約表示

ネットワーク障害などが原因で，一つのバッチジョブから同一の応答待ちイベントが連続して発行された場合，集約表示されます。集約表示されるのは，［イベント監視］ページ，および［重要イベント］ページだけです。

何らかの障害によって同一の応答待ちイベントが複数発行されても，すべてに応答する必要はありません。一つの応答待ちイベントに応答することで，ほかの同一の応答待ちイベントは応答不要となります。ただし，応答不要となった応答待ちイベントは［応答待ちイベント］ページに残ったままとなるため，応答待ちイベントの滞留を解除する必要があります。応答待ちイベントの滞留については，「9.2.3　応答待ちイベントの滞留」を参照してください。

(4) 応答待ちイベントの検索

JP1 イベントを検索する際，応答待ちイベントを検索条件として指定できます。応答待ちイベント管理機能，および応答待ちイベントの応答・操作を有効にした場合だけ，［イベント検索条件設定］画面に応答待ちイベントの条件項目が表示されます。

［イベント検索条件設定］画面の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.42.7　［イベント検索条件設定］画面」を参照してください。

なお，ログインしているマネージャーを検索対象にした場合だけ応答待ちイベントに対して応答できます。ログインしているマネージャー以外を検索対象とした場合は，応答待ちイベントであれば表示されますが応答できません。

(5) JP1/IM - View での表示情報の CSV 出力

イベント一覧に表示された応答待ちイベントの情報を CSV 出力できます。CSV 出力する機能には，次の二つがあります。

- イベント一覧情報をファイルに保存する。

  JP1/IM - View に表示されるイベント情報のスナップショットを CSV 出力して保存できます。スナップショットとは，特定のタイミングで情報を抽出することを意味します。
- JP1 イベントの情報やアクションの実行結果などをクリップボードにコピーする。

  クリップボードにコピーする機能を有効にしている場合，応答待ちイベントの情報やアクションの実行結果などについて，選択した部分の情報を CSV 形式でクリップボードにコピーできます。デフォルトでは有効となっています。

応答待ちイベントを CSV 出力して保存，またはクリップボードにコピーできるイベント一覧を次の表に示します。

表 9-1 CSV 出力，またはクリップボードにコピーできるイベント一覧

操作	[イベント監視] ページ	[重要イベント] ページ	[関連イベント一覧] 画面	[応答待ちイベント] ページ	[イベント検索] ページ
CSV 出力	○	○	×	○	○
クリップボードにコピー	○	○	○	○	○

（凡例）

○：できる

×：できない

応答待ちイベントを CSV 出力して保存，またはクリップボードへコピーした場合，アイコンで表示されている「種別」は，「応答待ちイベント」の文字列に変わって出力されます。また，繰り返しイベントのアイコンと応答待ちイベントのアイコンが同時に表示されている場合は，「繰り返しイベント，応答待ちイベント」の文字列に変わって出力されます。[応答待ちイベント] ページの情報を CSV 出力した場合，ヘッダー情報の出力対象画面名には，「応答待ちイベント」が出力されます。

クリップボードにコピーする機能を有効にする手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.20.2 JP1/IM - View（セントラルコンソール・ビューアーおよびセントラルスコープ・ビューアー）の動作カスタマイズ」を参照してください。

9.2.3　応答待ちイベントの滞留

応答待ちイベント管理機能を有効にすると，マネージャーのイベント DB に到着した応答待ちイベントは，イベント DB とは別に，応答待ちイベント滞留ファイルへ 2,000 件まで保持されます。これを**応答待ちイベントの滞留**といいます。

［応答待ちイベント］ページには，応答待ちイベント滞留ファイルに保持されている応答待ちイベントの情報が表示されます。

(1)　応答待ちイベントの滞留が解除される契機

応答待ちイベントは，次の契機で滞留が解除され，応答待ちイベント滞留ファイルから削除されます。

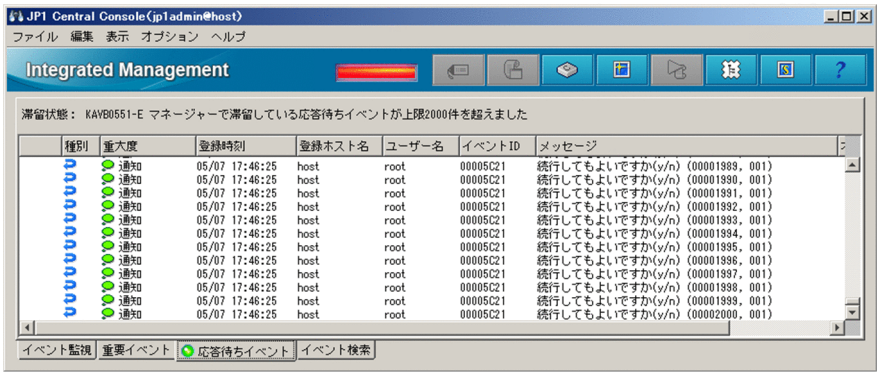
- 応答待ちイベントの応答に成功した場合
- BJEX または JP1/AS から応答待ちイベントをキャンセルした場合
- 応答待ちイベントの滞留を手動で解除した場合
- 応答待ちイベントが 2,000 件を超えて発生した場合
  最も古い応答待ちイベントの滞留が解除されます。
- 応答待ちイベント管理機能を無効にして JP1/IM - Manager を再起動した場合

滞留の解除後，JP1/IM - View でイベント一覧の表示を更新すると，［応答待ちイベント］ページから滞留を解除した応答待ちイベントの表示が削除されます。なお，滞留が解除されて［応答待ちイベント］ページから表示が削除されても，応答待ちイベントがイベント DB に残っている場合は，［イベント検索］ページから検索できます。

(2)　応答待ちイベントが上限の 2,000 件を超えた場合の通知

JP1/IM - Manager は，応答待ちイベントの滞留数を監視し，滞留数が 2,000 件を超えると，上限を超えたことを通知する JP1 イベント（イベント ID：00003F41）を発行します。また，［応答待ちイベント］ページ上には KAVB0551-E のメッセージが表示されます。

図 9-4　応答待ちイベントが 2,000 件を超えた場合の［応答待ちイベント］ページ



滞留している応答待ちイベントの上限超過を通知する JP1 イベントは，一度しか発行されません。また，KAVB0551-E のメッセージは［応答待ちイベント］ページに表示されたままとなります。滞留数が上限を超えた場合は，メッセージに従って対処したあとに，滞留状態の監視を復帰させてください。滞留状態の監視を復帰させると，［応答待ちイベント］ページ上に表示されていた KAVB0551-E のメッセージが消え，再度 2,000 件を超えたときに JP1 イベントで通知します。

滞留状態の監視の復帰方法については，「9.4.4　応答待ちイベントの滞留状態の監視を復帰させる」を参照してください。

滞留が解除された応答待ちイベントに応答したい場合

滞留数が上限を超えて，［応答待ちイベント］ページから削除された応答待ちイベントに対して応答したい場合は，［イベント検索］ページで応答待ちイベントを検索して応答してください。滞留が解除された応答待ちイベントを特定するには，マネージャーの統合トレースログに出力される KAVB1801-E のメッセージで確認してください。

応答待ちイベントがイベント DB からも削除された場合は，発行元のホスト上で，発行元が提供する応答コマンド（`bjexchmsg` または`adshchmsg`）を使用して応答できます。BJEX の応答コマンド（`bjexchmsg`）を使った応答方法については，マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。JP1/AS の応答コマンド（`adshchmsg`）を使った応答方法については，マニュアル「JP1/Advanced Shell」を参照してください。

9.2.4　応答待ちイベントへの応答

応答待ちイベントに対して，JP1/IM - View から応答入力できます。例えば，バッチ処理の続行をオペレーターに確認するメッセージに対して，続行するかどうかを「yes」などのテキスト形式で応答入力できます。応答入力は，応答待ちイベントから表示する［応答入力］画面で設定します。

［応答入力］画面は，次に示すページのイベント一覧から応答したい応答待ちイベントを選択して起動します。

- ［応答待ちイベント］ページ
- ［イベント検索］ページ

  検索先がログインしているマネージャーの場合だけ応答できます。
- ［関連イベント一覧］画面

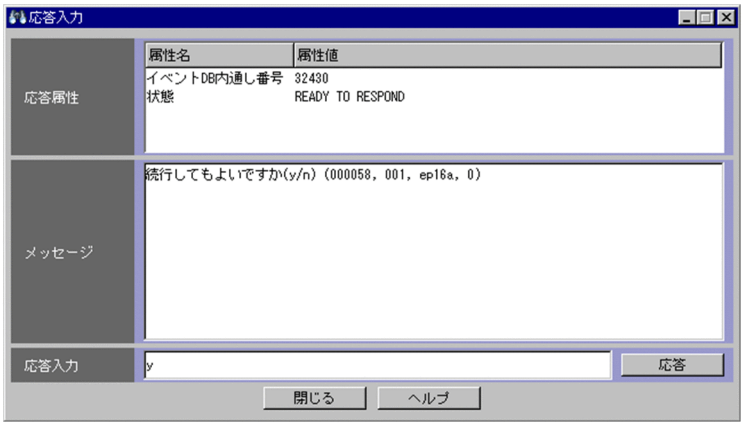
  ［関連イベント一覧］画面が，［応答待ちイベント］ページから派生した場合だけ応答できます。［イベント検索］ページから派生した場合は，検索先がログインしているマネージャーの場合だけ応答できます。

(1)　応答待ちイベントへの応答の仕組み

応答待ちイベントへの応答は，応答待ちイベントの発行元プロセスが存在し，応答できる状態の場合だけ可能です。発行元プロセスの状態は，［応答入力］画面の［応答属性］に表示される［状態］で確認できま

す。発行元プロセスの状態は，［応答入力］画面を表示するタイミングで，JP1/IM - Manager が発行元に対して確認します。発行元と JP1/IM - Manager 間の通信エラーなどで，発行元プロセスの状態が確認できなかった場合は，KAVB0555-E のメッセージが出力され［応答入力］画面を表示できません。

図 9-5　［応答入力］画面



［応答属性］の［状態］に表示される，応答待ちイベントの発行元プロセスの状態を次の表に示します。

表 9-2　応答待ちイベントの発行元プロセスの状態

発行元プロセスの状態	説明	応答入力の可否
READY TO RESPOND	発行元のジョブが応答を待っている状態。	○
NO LONGER MANAGED BY BJEX または NO LONGER MANAGED BY JP1/AS	次のどれかの状態を示す。 • JP1/AJS から発行元のジョブがキャンセルされた状態。 • 発行元のジョブが KILL された状態。 • 応答した応答待ちイベントに対して［応答入力］画面を表示・更新した場合に，対象の応答待ちイベントの状態を BJEX で保持していない。	×
RESPONDED SUCCESSFULLY	［応答入力］画面で応答し，応答に成功した状態（応答した［応答入力］画面にだけ表示される）。	×
ALREADY RESPONDED	すでに応答した状態（応答した応答待ちイベントに対して［応答入力］画面を表示・更新した場合に表示される）。	×

（凡例）

○：応答入力できる

×：応答入力できない

発行元プロセスの状態が「READY TO RESPOND」の場合に，応答入力できます。それ以外の状態の応答待ちイベントは，すでに応答したか，発行元プロセスが存在しないため応答不要です。

応答待ちイベントに応答すると，応答入力した内容が発行元に送信されます。入力した内容が発行元に到達し，応答に成功すると，応答待ちイベントの状態が「対処済」になります。また，応答待ちイベントの滞留が解除され，［応答待ちイベント］ページから削除されます。

JP1/IM - Manager と発行元プロセス間で，応答待ちイベントの発行元プロセスの状態確認や応答入力で通信する際，60 秒を超えて接続に失敗するとタイムアウトします。タイムアウト時間は変更できます。運用後に，応答待ちイベントの発行元サーバやネットワークの負荷が高いことが要因で，頻繁にエラーメッセージ（KAVB0554-E，KAVB0555-E）が出力される場合は，タイムアウト時間を長く設定してください。タイムアウト時間の設定方法については，「9.3.4(1)　接続のタイムアウト時間の設定」を参照してください。

(2)　応答待ちイベントに応答するための条件

応答待ちイベントに応答できる条件を次に示します。

- 応答する JP1 ユーザーが JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限を持っている。
- 応答していない応答待ちイベントである。
  応答待ちイベントに応答できるのは一度だけです。イベント取得フィルターのイベント取得開始位置を変更して再取得しても，応答した応答待ちイベントには応答できません。
- 応答待ちイベント管理機能を有効にした状態で受信した応答待ちイベントである。
  応答待ちイベント管理機能を無効にした状態で受信した応答待ちイベントは，応答入力できません。
- イベント検索をした場合，検索先がログインしているマネージャーである。

なお，WWW ページ版の JP1/IM - View では応答入力できません。

(3)　BJEX または JP1/AS の応答コマンドによる応答

発行元プロセスと JP1/IM - Manager 間の通信エラーなどによって JP1/IM - View からの応答入力に失敗した場合や，応答待ちイベントの滞留が解除されてイベント DB からも削除されてしまった場合など，JP1/IM - View 上から応答できなくなった場合は，発行元のホスト上で，発行元が提供する応答コマンド（`bjexchmsg` または`adshchmsg`）を使用して応答できます。BJEX の応答コマンド（`bjexchmsg`）を使った応答方法については，マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。JP1/AS の応答コマンド（`adshchmsg`）を使った応答方法については，マニュアル「JP1/Advanced Shell」を参照してください。

9.2.5　応答待ちイベントのキャンセル

JP1/AJS から BJEX または JP1/AS のジョブをキャンセルしたり，BJEX または JP1/AS でジョブを削除したりした場合など，発行した応答待ちイベントへの応答が不要になるケースがあります。このような場合，ジョブをキャンセルした時点で，BJEX は JP1/IM - Manager に対してキャンセルイベント（イベント ID：00005C22，00005C23，または 00005C24）を発行します。また，JP1/AS は JP1/IM - Manager に対してキャンセルイベント（イベント ID：00007122，00007123，または 00007124）を発行します。JP1/IM - Manager がキャンセルイベントを受信すると，キャンセル対象の応答待ちイベントの滞留が解除され，［応答待ちイベント］ページから削除されます。また，応答待ちイベントの対処状況が「対処済」となります。

BJEX のキャンセルイベントの詳細については，マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。JP1/AS のキャンセルイベントの詳細については，マニュアル「JP1/Advanced Shell」を参照してください。

また，JP1/IM - View 上から手動で応答待ちイベントをキャンセルすることもできます。不要となった応答待ちイベントをキャンセルするには，JP1/IM - View 上で応答待ちイベントの滞留を解除します。

9.3　BJEX または JP1/AS と連携するための設定

JP1/IM - Manager のセットアップが済んでいることを前提に，BJEX または JP1/AS と連携するための設定について説明します。

なお，JP1/Base と JP1/IM - Manager については次の構成および設定を推奨します。

- マネージャー上の JP1/Base，および JP1/IM - Manager をクラスタ構成にする。
- JP1/Base と JP1/IM - Manager のヘルスチェック機能を有効にする。

9.3.1　JP1/IM - Manager の設定

JP1/IM - Manager で必要な設定について説明します。

(1)　応答待ちイベント管理機能を有効にする

応答待ちイベント管理機能は JP1/IM - Manager で設定します。応答待ちイベント管理機能を有効にすると，次の機能が有効になります。

- 応答待ちイベントの滞留
- 応答待ちイベントのキャンセル
- 応答待ちイベントの応答・操作の設定
  ［ユーザー環境設定］画面に応答待ちイベントの応答・操作を有効にするための設定項目が表示されます。
- 応答待ちイベントのフィルタリング
  ［ユーザーフィルター詳細設定］画面，および［重要イベント定義設定］画面に，応答待ちイベントをフィルタリングするかどうかを選択する項目が表示されます。

応答待ちイベント管理機能を有効にする手順を次に示します。

1. jcoimdef コマンドを実行する。
   `jcoimdef -resevent ON` を実行します。
2. JP1/IM - Manager を再起動する。
   注　`jco_spmd_reload` コマンドによるリロードでは，有効になりません。

`jcoimdef` コマンドの`-resevent` オプションについては，「9.5.1　jcoimdef」を参照してください。

(2)　イベント取得フィルターの設定

イベント取得開始位置を，前回停止したときの状態から処理を続行するように設定してください。

イベント取得フィルターの取得開始位置の設定手順を次に示します。

1. jcoimdef コマンドを実行する。
   jcoimdef -b -1 を実行します。

2. JP1/IM - Manager を再起動，または jco_spmd_reload コマンドを実行する。

jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

jco_spmd_reload コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_spmd_reload」（1. コマンド）を参照してください。

9.3.2 JP1/IM - View の設定

JP1/IM - View で必要な設定について説明します。

(1) 応答待ちイベントの応答および操作を有効にする

応答待ちイベントの応答・操作は，ユーザーごとに JP1/IM - View の［ユーザー環境設定］画面で有効に設定します。この設定を有効にすると，次の機能が有効となります。

- ［応答待ちイベント］の監視
  ［イベントコンソール］画面に［応答待ちイベント］ページが表示されます。
- 応答待ちイベントへの応答
  ［応答入力］画面で応答できます。
- 応答待ちイベントの検索
  ［イベント検索条件設定］画面に，検索条件として応答待ちイベントを指定する項目が表示されます。
- 応答待ちイベントのフィルタリング
  ［表示フィルター設定］画面に，応答待ちイベントを表示対象にするかどうかを選択する項目が表示されます。

応答待ちイベントの応答・操作を有効にする手順を次に示します。

1. ［ユーザー環境設定］画面を表示する。
   ［イベントコンソール］画面で［オプション］－［ユーザー環境設定］を選択します。

2. ［応答待ちイベント］の［有効］チェックボックスをチェックする。

3. ［OK］ボタンをクリックする。

［ユーザー環境設定］画面の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.42.6 ［ユーザー環境設定］画面」を参照してください。

(2) ユーザーフィルターの設定

ユーザーフィルターを使用して，ユーザーごとに監視できる JP1 イベントを制限できます。応答待ちイベントを表示させたくないユーザーには，ユーザーフィルターで応答待ちイベントを表示しないように設定してください。デフォルトでは応答待ちイベントを表示します。

ユーザーフィルターの作成方法，および変更方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.2.2　ユーザーフィルターを設定する」を参照してください。

[ユーザーフィルター詳細定義］画面については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「2.42.8　フィルターの条件定義画面」を参照してください。

9.3.3　JP1/Base の設定

認証サーバの JP1/Base で，応答待ちイベントを操作する JP1 ユーザーに対して操作権限を設定してください。

次の操作をする JP1 ユーザーには，JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限が必要です。

- 応答待ちイベントへの応答入力
- 応答待ちイベントの滞留の手動解除

次の操作をする JP1 ユーザーには，JP1_Console_Admin 権限が必要です。

- 応答待ちイベントの滞留状態監視の復帰

設定方法の詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理機能の設定の章を参照してください。

9.3.4　BJEX または JP1/AS と JP1/IM - Manager 間の通信に関する設定

BJEX または JP1/AS と JP1/IM - Manager 間の通信に関する設定について説明します。

(1) 接続のタイムアウト時間の設定

応答待ちイベントの発行元プロセスの状態確認や応答入力で通信する際の，接続のタイムアウト時間を変更できます。通常は設定を変更する必要はありません。運用後に，応答待ちイベントの発行元サーバやネットワークの負荷が高いことが要因で，頻繁にエラーメッセージ（KAVB0554-E，KAVB0555-E）が出力される場合は，タイムアウト時間を長く設定してください。タイムアウト時間は，JP1/IM - Manager で設定します。

接続のタイムアウト時間を変更する手順を次に示します。

1. マネージャーで任意のファイルを作成し，次のパラメーターを定義する。

   ［論理ホスト名¥JP1CONSOLEMANAGER］

   "RESEV_TIMEOUT_MAX"=dword:16 進数値

   論理ホスト名の部分を，物理ホストの場合はJP1_DEFAULT に，論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

   60～3,600（秒）の 16 進数値で指定します。デフォルトは「dword:0000003c」（60 秒）です。

2. jbssetcnf コマンドを実行する。

   作成した定義ファイルを引数にして，jbssetcnf コマンドを実行します。jbssetcnf コマンドを実行すると，定義ファイルの設定が共通定義情報に反映されます。jbssetcnf コマンドについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

3. jco_spmd_reload コマンドを実行するか，JP1/IM - Manager を再起動する。

   定義した内容が有効になります。

   jco_spmd_reload コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jco_spmd_reload」（1. コマンド）を参照してください。

(2) ファイアウォール環境でのパケット・フィルタリングの設定

ファイアウォール環境で運用する場合は，BJEX または JP1/AS と JP1/IM - Manager 間の通信がファイアウォールを通過できるようにパケット・フィルタリングを設定してください。BJEX または JP1/AS と JP1/IM - Manager 間の通信で使用するポート番号とファイアウォールの通過方向（コネクション確立の方向）を次の表に示します。

表 9-3 BJEX または JP1/AS と JP1/IM - Manager 間の通信で使用するポート番号

サービス名	ポート	通過方向
jp1bsplugin	20306/tcp	JP1/IM - Manager → BJEX または JP1/AS
jp1imevt	20098/tcp	BJEX または JP1/AS → JP1/IM - Manager

（凡例）

→：コネクション確立時の接続方向を示す

このほかに，JP1/IM および JP1/Base が使用するポート番号については次の説明を参照してください。

- JP1/Base のポート番号：マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のポート番号の説明
- JP1/IM のポート番号：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「付録 C　ポート番号」

9.3.5 BJEX または JP1/AS の設定

BJEX または JP1/AS で必要な設定について説明します。

(1) 連携する JP1/IM - Manager の指定

BJEX または JP1/AS が連携できる JP1/IM - Manager は 1 ホストであり，連携する JP1/IM - Manager を指定する必要があります。BJEX が連携する JP1/IM - Manager を指定するためには，BJEX の設定ファイル（bjex.conf）に，連携する JP1/IM - Manager のホスト名を指定します。JP1/AS が連携する JP1/IM - Manager を指定するためには，JP1/AS の環境ファイルに，連携する JP1/IM - Manager のホスト名を指定します。

BJEX の設定ファイル（bjex.conf）の詳細については，マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。JP1/AS の環境ファイルの詳細については，マニュアル「JP1/Advanced Shell」を参照してください。

(2) 応答待ちイベントの発行数の設定

BJEX または JP1/AS が発行する応答待ちイベントの発行数の上限を設定できます。滞留できる応答待ちイベントには 2,000 件の上限があるため，次の計算式の値が 2,000 以下になるように，応答待ちイベント数を見積もってください。

応答待ちイベントを出力する全ホストの USERREPLY_WAIT_MAXCOUNT パラメーター値の総和＋他製品の最大応答待ちイベント出力数の総和

BJEX の応答待ちイベントの発行数の上限数は，BJEX の設定ファイル（bjex.conf）で設定します。JP1/AS の応答待ちイベントの発行数の上限数は，JP1/AS の環境ファイルで設定します。BJEX の応答待ちイベントの発行数の設定の詳細については，マニュアル「uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引」を参照してください。JP1/AS の応答待ちイベントの発行数の設定の詳細については，マニュアル「JP1/Advanced Shell」を参照してください。

9.4　応答待ちイベントの操作

応答待ちイベントに対する操作手順について説明します。

注意事項

WWW ページ版の JP1/IM - View の制限事項

WWW ページ版の JP1/IM - View では，応答入力，滞留の解除，および滞留状態の監視の復帰操作はできません。また，［イベントコンソール］画面に［応答待ちイベント］ページは表示されません。応答待ちイベントの対処状況の変更，およびインシデント手動登録の操作はできます。

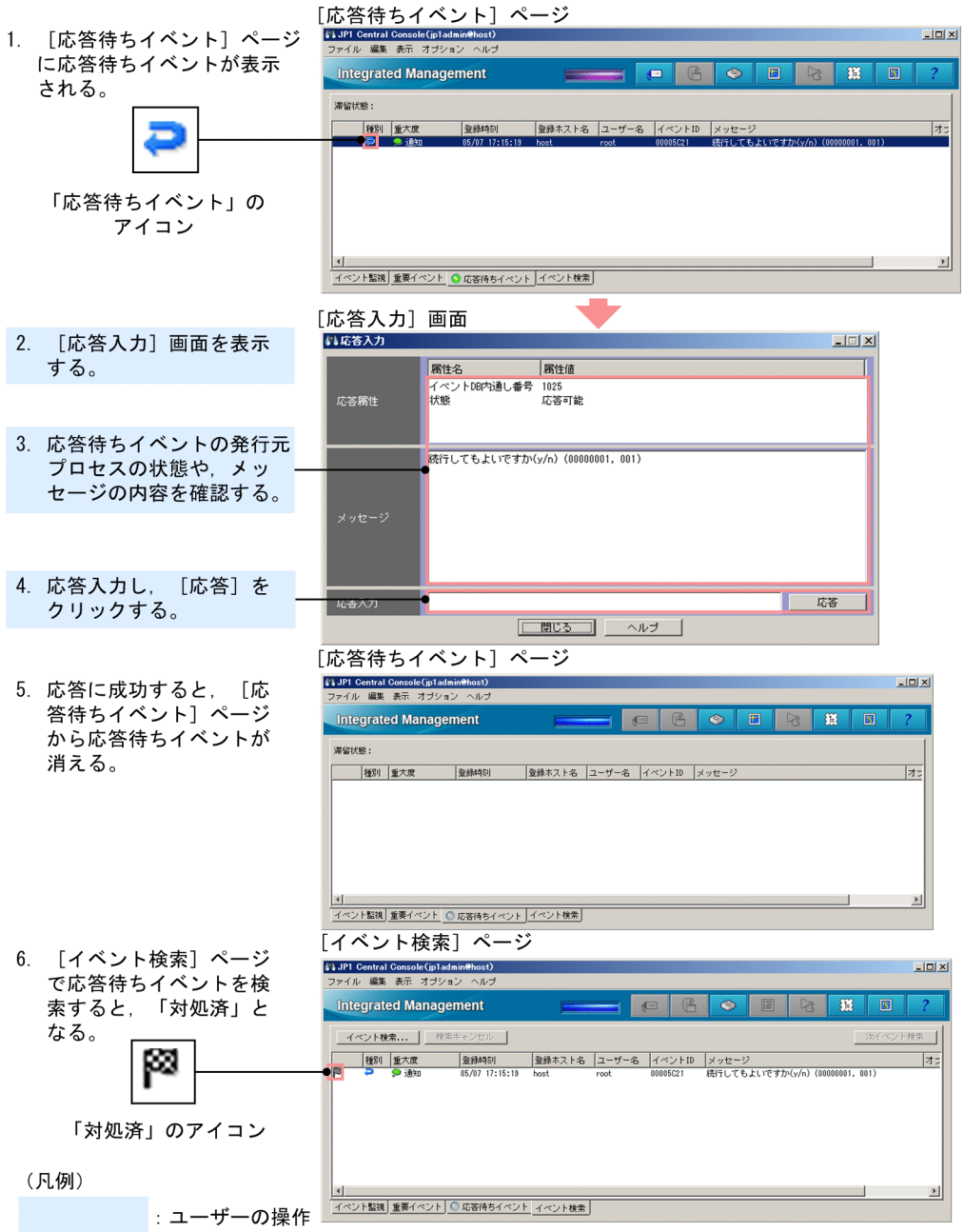
9.4.1　応答待ちイベントに応答する操作の流れ

セントラルコンソール，およびセントラルスコープで応答待ちイベントを監視して，応答する操作の流れについて説明します。

(1)　セントラルコンソールで応答待ちイベントを監視する

セントラルコンソールで応答待ちイベントを監視し，応答する流れを次の図に示します。

図 9-6　セントラルコンソールで応答待ちイベントを監視して応答する流れ



図中の番号に従って説明します。

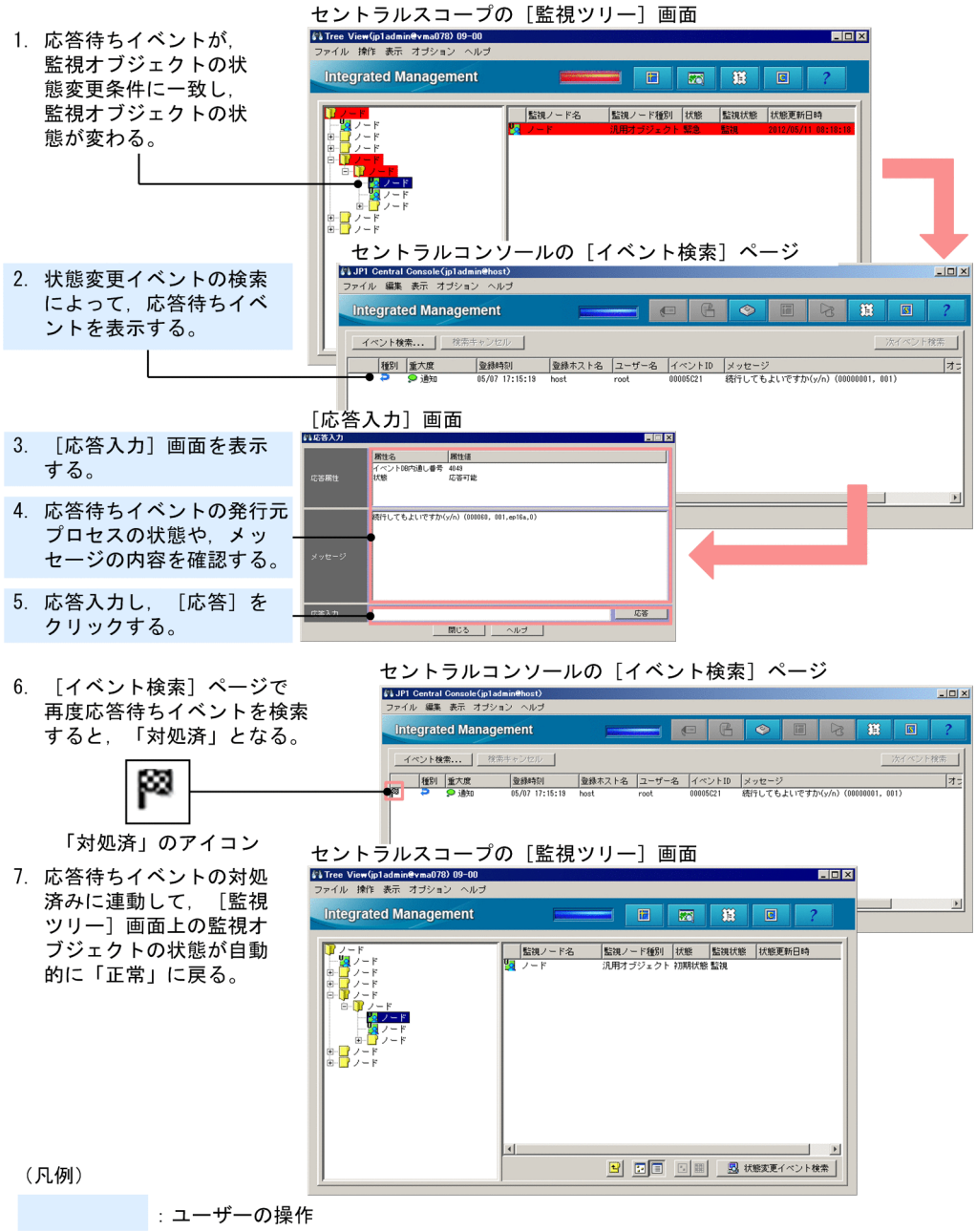
1. 応答待ちイベントを受信すると，［イベントコンソール］画面の［応答待ちイベント］ページに応答待ちイベントが表示されます。
2. 応答待ちイベントから［応答入力］画面を表示します。
3. 応答待ちイベントの発行元プロセスの状態やメッセージの内容を確認します。
   発行元プロセスの状態が「READY TO RESPOND」になっていることを確認します。
4. ［応答入力］欄に応答内容を入力し，［応答］ボタンをクリックします。
5. 応答に成功すると，［応答待ちイベント］ページから応答待ちイベントが削除されます。

6. [イベント検索] ページで応答待ちイベントを検索すると，応答待ちイベントの状態は「対処済」となります。

(2) セントラルスコープで応答待ちイベントを監視する

セントラルスコープで応答待ちイベントを監視して応答する流れを次の図に示します。

図 9-7 セントラルスコープで応答待ちイベントを監視して応答する流れ



図中の番号に従って説明します。

1. 監視オブジェクトの状態変更条件に一致する応答待ちイベントを受信すると，監視オブジェクトの状態が変わります。

2. 監視オブジェクトから状態変更イベントを検索して，［イベント検索］ページに応答待ちイベントを表示します。
3. 応答待ちイベントから［応答入力］画面を表示します。
4. 応答待ちイベントの発行元プロセスの状態やメッセージの内容を確認します。
   発行元プロセスの状態が「READY TO RESPOND」になっていることを確認します。
5. ［応答入力］欄に応答内容を入力し，［応答］ボタンをクリックします。
6. ［イベント検索］ページで再度応答待ちイベントを検索すると，応答に成功した応答待ちイベントの状態は「対処済」となります。
7. 応答待ちイベントの対処済みに連動して，［監視ツリー］画面上の監視オブジェクトの状態が正常に戻ります。

9.4.2　応答待ちイベントに応答する

応答待ちイベントに応答するための条件については，「9.2.4(2)　応答待ちイベントに応答するための条件」を参照してください。なお，この操作には JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限が必要です。

応答待ちイベントに応答する手順を次に示します。

1. **次のどれかの方法で［応答入力］画面を表示する。**
   - ［応答待ちイベント］ページ，または［イベント検索］ページで応答待ちイベントを選択したあと，［メインメニュー］－［表示］－［応答入力］を選択する。
   - ［応答待ちイベント］ページ，［イベント検索］ページ，または［関連イベント一覧］画面で応答待ちイベントを選択したあと，ポップアップメニューの［応答入力］を選択する。
   - ［イベント詳細］画面の［応答入力］ボタンをクリックする。
2. **［応答入力］画面の［応答入力］欄に，応答内容を入力する。**
   メッセージの内容を確認し，応答内容を入力します。
   - 入力できるバイト数は 512 バイトまでです。
   - 入力できる文字は，ASCII コード 0x20-0x7E の範囲の文字です。
3. **［応答］ボタンをクリックする。**
   応答をしてよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。［はい］ボタンをクリックすると応答します。［いいえ］ボタンをクリックすると，応答しないで［応答入力］画面に戻ります。
   応答に成功すると，［応答待ちイベント］ページから応答待ちイベントが削除され，応答待ちイベントの対処状況が「対処済」に変わります。

9.4.3　応答待ちイベントの滞留を手動で解除する

応答が不要となった場合や，応答に成功したのに滞留の解除に失敗した場合に，応答待ちイベントの滞留を手動で解除してください。なお，この操作には JP1_Console_Operator 権限以上の操作権限が必要です。

応答待ちイベントの滞留を解除する手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面の［応答待ちイベント］ページを表示する。

2. 滞留を解除したい応答待ちイベントの発行元プロセスの状態を確認する。
   滞留を解除したい応答待ちイベントを選択して，［応答入力］画面を表示します。発行元プロセスの状態が「NO LONGER MANAGED BY BJEX」または「ALREADY RESPONDED」になっていることを確認します。

3. 応答待ちイベントの対処状況を「対処済」にする。
   滞留を解除して問題なければ，応答待ちイベントの対処状況を「対処済」にします。応答待ちイベントを選択し，［表示］－［対処済］を選択します。

4. 滞留を解除したい応答待ちイベントを選択し，［表示］－［滞留解除］を選択する。または，ポップアップメニューの［滞留解除］を選択する。
   複数の応答待ちイベントを選択できます。［滞留解除］を選択すると，滞留が解除されます。
   イベント一覧の表示を更新すると，応答待ちイベントが［応答待ちイベント］ページから削除されます。

誤って滞留を解除した場合，再度滞留させることはできません。誤って滞留を解除した応答待ちイベントに応答したい場合は，［イベント検索］ページで応答待ちイベントを検索して応答してください。

9.4.4　応答待ちイベントの滞留状態の監視を復帰させる

応答待ちイベントの滞留数が 2,000 件を超えたあとに，滞留状態の監視を復帰させると，再び滞留数が 2,000 件を超えた場合に JP1 イベントで通知します。なお，この操作には JP1_Console_Admin 権限が必要です。

滞留状態の監視を復帰させる前に，マネージャーの統合トレースログであふれた応答待ちイベントを確認し，応答してください。滞留が解除された応答待ちイベントに応答する方法については，「9.2.3(2)　応答待ちイベントが上限の 2,000 件を超えた場合の通知」を参照してください。

応答待ちイベントの滞留状態の監視を復帰させる手順を次に示します。

1. ［イベントコンソール］画面で，［オプション］－［機能状態通知復帰］－［滞留状態監視］を選択する。
   滞留状態の監視が復帰します。復帰したあとに［イベントコンソール］画面を更新すると，［応答待ちイベント］ページの［滞留状態］に表示されている KAVB0551-E のメッセージが消えます。

9.5 BJEX または JP1/AS 連携時のコマンド

BJEX または JP1/AS と連携する場合に使用するコマンドのオプションについて説明します。そのほかのオプションや，コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「1. コマンド」を参照してください。なお，参照先のマニュアルでは，BJEX 連携用のオプションについては説明していません。

9.5.1 jcoimdef

jcoimdef コマンドは，JP1/IM - Manager のシステム環境を設定，または設定値を参照するためのコマンドです。このコマンドを実行すると設定内容が標準出力に出力されます。

BJEX または JP1/AS と連携する場合に指定するオプションを次に示します。

-resevent ON|OFF

-resevent ON を指定すると，応答待ちイベント管理機能が有効になります。-resevent OFF を指定すると，応答待ちイベント管理機能が無効になります。

JP1/IM - Manager を起動させたまま，jcoimdef コマンドの-resevent オプションで，応答待ちイベント管理機能を有効または無効に設定変更した場合は，JP1/IM - Manager の再起動が必要です。また，接続中の JP1/IM - View も再起動が必要です。

jcoimdef コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

9.5.2 jim_log.bat（Windows 限定）

jim_log.bat は，JP1/IM - Manager または JP1/IM - View で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - Manager，JP1/IM - View，および JP1/Base の保守資料，OS のシステム情報，統合トレースログなどを採取します。

BJEX または JP1/AS と連携する場合に指定するオプションを次に示します。

-a

応答待ちイベント滞留ファイルを採取しない場合に指定します。

なお，jim_log.bat で採取した応答待ちイベント滞留ファイルは，次に示すフォルダに一次資料として格納されます。

物理ホストの一次資料の内部フォルダ

資料格納フォルダ¥jp1_default¥imm_1st¥cons¥log¥response

論理ホストの一次資料の内部フォルダ

資料格納フォルダ¥論理ホスト名¥imm_1st¥cons¥log¥response

jim_log.bat の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.bat（Windows 限定)」(1. コマンド）を参照してください。

9.5.3 jim_log.sh（UNIX 限定）

jim_log.sh は，JP1/IM - Manager で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM - Manager および JP1/Base の保守資料，OS のシステム情報，統合トレースログなどを採取します。

BJEX または JP1/AS と連携する場合に指定するオプションを次に示します。

-a

応答待ちイベント滞留ファイルを採取しない場合に指定します。

なお，jim_log.sh で採取した応答待ちイベント滞留ファイルは，次に示すディレクトリに一次資料として格納されます。

物理ホストの一次資料の内部ディレクトリ

./var/opt/jp1cons/log/response

論理ホストの一次資料の内部ディレクトリ

./**共有ディスク**/jp1cons/log/response

jim_log.sh の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.sh（UNIX 限定)」(1. コマンド）を参照してください。

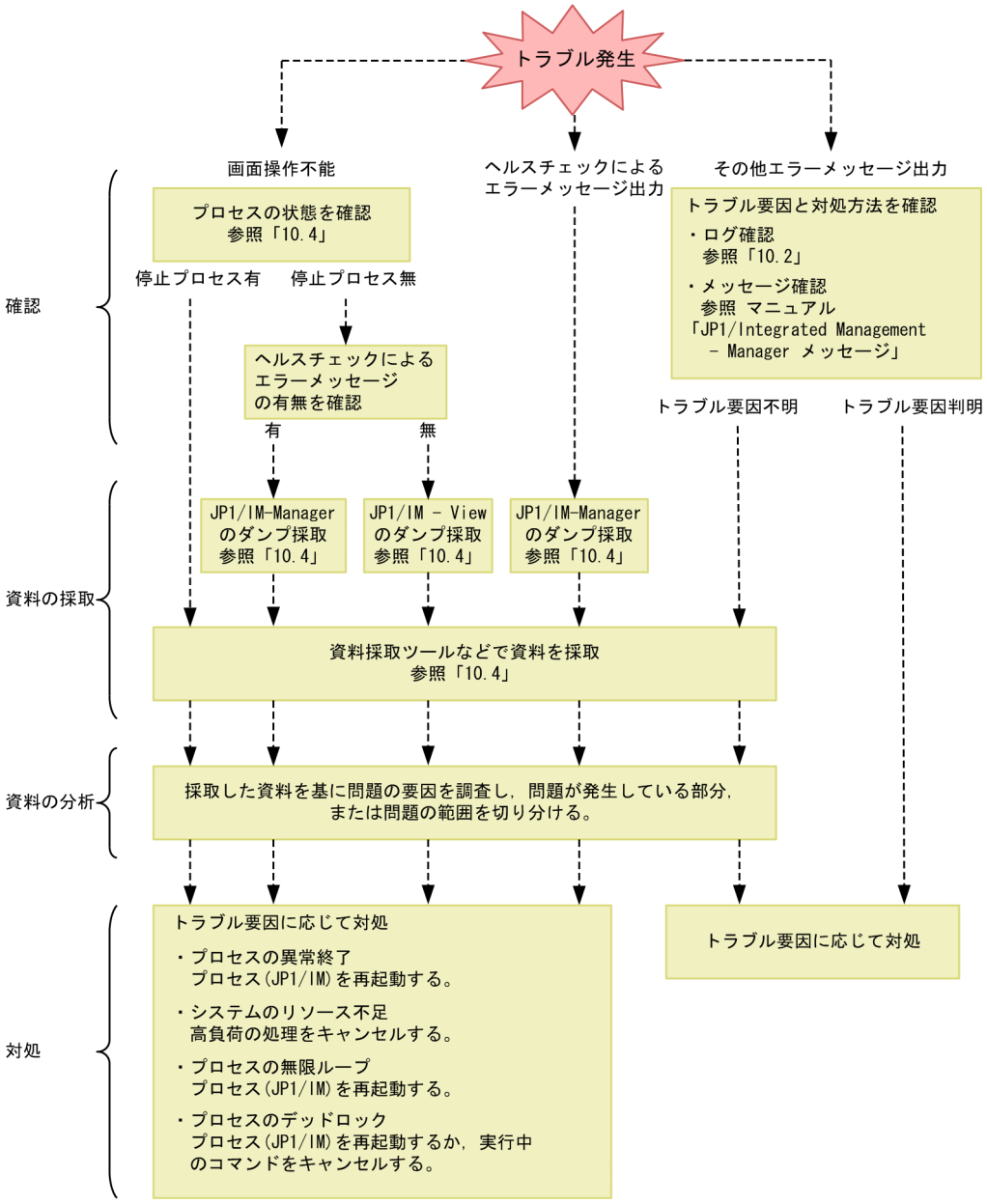
10 トラブルシューティング

この章では，JP1/IM でトラブルが発生した場合の対処方法や，トラブルの原因になりやすい項目について説明します。

10.1　対処の手順

JP1/IM でトラブルが起きた場合の対処の手順を次の図に示します。

図 10–1　トラブル発生時の対処手順



10.2　ログ情報の種類

JP1/IM を運用しているときに出力されるログ情報は 2 種類あります。

- 共通メッセージログ
- 統合トレースログ

この節では，2 種類のログ情報について説明します。

10.2.1　共通メッセージログ

共通メッセージログとは，システム側のトラブルを通知する，システム管理者向けのログ情報のことです。共通メッセージログは，必要最小限のトラブル情報を通知します。

共通メッセージログは，UNIX の場合は syslog ファイル，Windows の場合は Windows イベントログに出力されます。

UNIX の場合は，次のファイルに出力されます。

- /var/adm/syslog/syslog.log（HP-UX の場合）
- /var/adm/messages（Solaris の場合）
- /var/adm/syslog/以下のファイル（AIX の場合）
- /var/log/messages（Linux の場合）

注意事項

UNIX の場合は，syslog ファイルにメッセージが出力されるときに，メッセージが欠落することがあります。

10.2.2　統合トレースログ

統合トレースログとは，各プログラムが出力するトレース情報を，統合トレース機能（HNTRLib2）を通じて，一つの出力先ファイルにまとめて採取するログ情報のことです。共通メッセージログより詳しい内容のメッセージが出力されます。

統合トレースログのデフォルトの出力先は次のとおりです。

Windows の場合

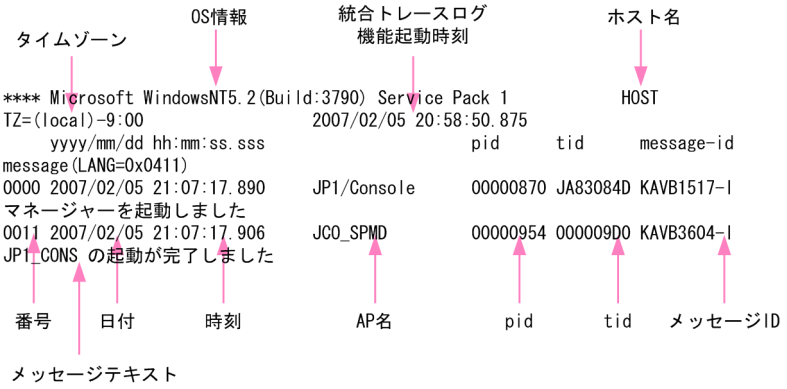
システムドライブ¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hntr2{1|2|3|4}.log

UNIX の場合

/var/opt/hitachi/HNTRLib2/spool/hntr2{1|2|3|4}.log

統合トレースログファイルは，任意のテキストエディターで参照できます。統合トレースログの出力例を次に示します。

図 10-2　統合トレースログファイルの出力例



統合トレースログファイルに出力されるヘッダー情報と出力項目の説明を次に示します。

表 10-1　統合トレースログファイルのヘッダー情報

ヘッダー情報	説明
OS 情報	統合トレース機能が起動している OS の情報です。
ホスト名	統合トレース機能が起動しているホスト名です。
タイムゾーン	Windows の場合 OS のタイムゾーンです。 UNIX の場合 統合トレースプロセスの環境変数 TZ です。 環境変数 TZ が設定されていない場合は Unknown となります。
統合トレースログ機能起動時刻	統合トレース機能を起動した時刻です。

表 10-2　統合トレースログファイルの出力項目

出力項目	説明
番号（4 桁）	トレースレコードの通番 番号はログを出力したプロセスごとに採番されます。
日付（10 バイト）	トレースの取得日付：yyyy/mm/dd（年/月/日）
時刻（12 バイト）	トレースの取得時刻（ローカル時刻）：hh:mm:ss.sss（時:分:秒.ミリ秒）
AP 名（16 バイト以内）	アプリケーションを識別するための名称（アプリケーション識別名）。 JP1/IM - Manager で出力される AP 名は次のとおりです。 • JP1/IM-Manager サービス

出力項目	説明
	JP1/IM-Manager • イベント基盤サービス evflow • アクション実行サービス jcamain • 相関イベント発行サービス evgen • セントラルスコープサービス jcsmain • IM 構成管理サービス jcfmain • プロセス管理 JCO_SPMD • jcochstat コマンド jcochngstat • そのほかのコマンド **コマンド名** JP1/IM - View で出力される AP 名は次のとおりです。 • セントラルコンソール・ビューアー JP1/IM-View • セントラルスコープ・ビューアー JP1/IM-View • IM 構成管理・ビューアー JP1/IM-View • ツリー編集画面 JP1/IM-Edit
pid	プロセス ID。OS が付けるプロセス ID。
tid	スレッド ID。スレッドを識別するための ID。
メッセージ ID	メッセージの出力形式で説明したメッセージ ID。この製品で使用するメッセージ ID。
メッセージテキスト	統合トレースログに出力されるメッセージのテキスト。この製品から出力されるメッセージテキスト。

統合トレースログに出力されるログの時刻は，出力したプロセスのタイムゾーンでフォーマットされます。

このため，環境変数 TZ を変更したユーザーなどがサービスを起動したり，コマンドを実行したりすると，OS に設定されているタイムゾーンと異なる時刻が出力されることがあります。

10.2.3 ログファイルおよびディレクトリー覧

JP1/IM が出力するログ情報の種類とデフォルトのファイル名およびディレクトリ名について説明します。

なお，ここで説明するファイルは，製品保守の必要上出力しているものです。これらのファイルについては，ユーザーが参照または変更する必要はありません。ただし，システム障害が発生したときなどには，資料採取のためにこれらのファイルをご利用元で一時保管していただくことがあります。

(1) Windows の場合

Windows 版の JP1/IM が出力するデフォルトのログファイルおよびフォルダを次の表に示します。

「ログの種類」には，JP1/IM が出力するログの種類を記載しています。

「デフォルトのファイル名・フォルダ名」には，JP1/IM - Manager，JP1/IM - View，または JP1/Base をデフォルトでインストールした場合のログファイル名を絶対パスで記載しています。また，クラスタ運用の場合の「デフォルトのファイル名・フォルダ名」には，共有フォルダのログファイル名を絶対パスで記載しています。

「最大ディスク使用量」には，ログファイルが最大でどの程度ディスクを使用するのかを記載しています。ログファイルが複数ある場合は，その合計量を記載しています。

「ファイルの切り替え時期」には，JP1/IM が出力先のログファイルを切り替えるタイミングを記載しています。ファイルがこの欄に示すサイズに達したとき，またはこの欄に示す事象が起きたときに，出力先が切り替わります。なお，ログファイルが複数あり，最大ディスク使用量に達した場合は，更新日付の古いファイルから上書きされます。

表 10-3 JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）のログファイル・フォルダ一覧 (Windows)

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
プロセス管理ログ	Console パス¥log¥JCO_SPMD{1|2|3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	Console パス¥log¥JCO_SPMD_COMMAND{1|2|3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥JCO_SPMD{1|2|3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥JCO_SPMD_COMMAND{1|2|3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
スタックトレースログ	Console パス¥log¥javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト
論理ホスト設定プログラムログ	Console パス¥log¥jp1hasetup.{log|log.old}	2,000 キロバイト	1,000 キロバイト
セットアップ時のログ	Console パス¥log¥command¥comdef[_old].log	512 キロバイト	256 キロバイト
イベントコンソールログ	Console パス¥log¥console¥EVCONS{1|2|3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	Console パス¥log¥console¥jp1cons{1|2|3|4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト※1
	Console パス¥log¥console¥evtcon_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
	Console パス¥log¥console¥JCOAPI{1|2|3}.log	96 キロバイト	32 キロバイト
	Console パス¥log¥console¥jp1consM{1|2・・・|20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト※1
	Console パス¥log¥console¥jp1filterDef{1|2|3|4|5}.log	100 メガバイト	20 メガバイト
	Console パス¥log¥console¥jp1bizGroupDef{1|2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス¥log¥console¥jp1cmdButtonDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥EVCONS{1|2|3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥jp1cons{1|2|3|4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト※1
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥evtcon_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥JCOAPI{1|2|3}.log	96 キロバイト	32 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥jp1consM{1|2・・・|20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト※1
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥jp1filterDef{1|2|3|4|5}.log	100 メガバイト	20 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥jp1bizGroupDef{1|2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥jp1cmdButtonDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
自動アクショントレースログ	Console パス¥log¥action¥JCAMAIN{1|2|3|4|5}.log	25,600 キロバイト※2	5,120 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥JCAMAIN{1|2|3|4|5}.log	25,600 キロバイト※2	5,120 キロバイト
製品情報のログ	Console パス¥log¥hliclib¥hliclibtrc{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	Console パス¥log¥hliclib¥hlicliberr{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	Console パス¥log¥hliclib¥hliclibmgrtrc{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	Console パス¥log¥hliclib¥hliclibmgrerr{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥hliclib¥hliclibtrc{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥hliclib¥hlicliberr{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥hliclib¥hliclibmgrtrc{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥hliclib¥hliclibmgrerr{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
アクション情報ファイル	Console パス¥log¥action¥actinf.log	626 キロバイト※3	切り替えなし
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥actinf.log	626 キロバイト※3	切り替えなし
アクションホスト名格納ファイル	Console パス¥log¥action¥acttxt{1|2}.log	48.9 メガバイト※4	アクション情報ファイルのラップアラウンド時
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥acttxt{1|2}.log	48.9 メガバイト※4	アクション情報ファイルのラップアラウンド時
アクション再実行用ファイル	Console パス¥log¥action¥actreaction	300 メガバイト	系切り替え発生時
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥actreaction	300 メガバイト	系切り替え発生時
jcochafmode，jcochstat，jcoevtreport コマンドトレースログ※5	Console パス¥log¥command¥CMD{1|2|3}.log	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト
	Console パス¥log¥command¥jp1cons_cmd{1|2}.log	12,288 キロバイト	6,144 キロバイト
	Console パス¥log¥command¥jp1consM_cmd{1|2}.log	12,288 キロバイト	6,144 キロバイト
プラグインのログ	Console パス¥log¥command¥jcoplugin{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
通知状態格納ファイル	Console パス¥log¥notice¥notice_stat.dat	72 バイト	切り替えなし
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥notice¥notice_stat.dat	72 バイト	切り替えなし
アクション定義バックアップファイル	Console パス¥log¥action¥actdefbk.conf	2,048 キロバイト	切り替えなし

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥actdefbk.conf	2,048 キロバイト	切り替えなし
イベント基盤トレースログ	Console パス¥log¥evflow¥EVFLOW{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	100 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス¥log¥evflow¥jp1evflowM{1|2・・・|20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス¥log¥evflow¥jp1actDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス¥log¥evflow¥jp1chsevDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス¥log¥evflow¥jp1hostmapDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス¥log¥evflow¥evflow_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥EVFLOW{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	100 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥jp1evflowM{1|2・・・|20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥jp1actDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥jp1chsevDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥jp1hostmapDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥evflow_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
マッチング情報ファイル	Console パス¥log¥evflow¥evflowinf.log	12 バイト	切り替えなし
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥evflowinf.log	12 バイト	切り替えなし
イベント基盤エラーログ	Console パス¥log¥evflow¥jp1evflow{1|2|3|4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥jp1evflow{1|2|3|4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト
イベント基盤スタックトレース	Console パス¥log¥evflow¥javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
自動アクションエラーログ	Console パス¥log¥action¥jp1act{1|2|3}.log	15,360 キロバイト	5,120 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥jp1act{1|2|3}.log	15,360 キロバイト	5,120 キロバイト
相関イベント発行履歴ファイル	Console パス¥operation¥evgen¥egs_discrim{1|2|3}.log※6	30 メガバイト※6	10 メガバイト※6
	共有フォルダ¥jp1cons¥operation¥evgen¥egs_discrim{1|2|3}.log※6	30 メガバイト※6	10 メガバイト※6
相関イベント発行トレースログ	Console パス¥log¥evgen¥EVGEN{1|2|3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス¥log¥evgen¥evgen_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evgen¥EVGEN{1|2|3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evgen¥evgen_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
相関イベント発行個別ログ	Console パス¥log¥evgen¥jp1egs{1|2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス¥log¥evgen¥jp1egsM{1|2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evgen¥jp1egs{1|2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evgen¥jp1egsM{1|2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
相関イベント発行個別ログ(コマンド用)	Console パス¥log¥evgen¥jp1egs_cmd{1|2|3|4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
	Console パス¥log¥evgen¥jp1egsM_cmd{1|2|3|4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
相関イベント発行スタックトレースログ	Console パス¥log¥evgen¥javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または256 キロバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evgen¥javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または256 キロバイト
相関イベントの発行処理引き継ぎ定義ファイル	Console パス¥log¥evgen¥egs_discrim_info{1|2|3|4}.dat	312 メガバイト※7	停止時
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evgen¥egs_discrim_info{1|2|3|4}.dat	312 メガバイト※8	停止時
相関イベント発行定義の適用ログ	Console パス¥log¥evgen¥jp1egsDefine{1|2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evgen¥jp1egsDefine{1|2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
応答待ちイベント滞留ファイル※8	Console パス¥log¥response¥resevent.dat	40 メガバイト	切り替えなし
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥response¥resevent.dat	40 メガバイト	切り替えなし

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
応答待ちイベント滞留バックアップファイル	Console パス¥log¥response¥resevent.dat.dump	40 メガバイト	切り替えなし
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥response¥resevent.dat.dump	40 メガバイト	切り替えなし
コマンド実行履歴保存フォルダ	Base パス¥log¥COMMAND¥	マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください	
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥		
リモートコマンドログ	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmd_result{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmdapi{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmdapi_trace{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmdcom{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmdcom_trace{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmdexe{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmdexe_trace{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmdrouter{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥jcocmdrouter_trace{1|2|3}.log		
	Base パス¥log¥JCOCMD¥JCOCMDCMD{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmd_result{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmdapi{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmdapi_trace{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmdcom{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmdcom_trace{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmdexe{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmdexe_trace{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmdrouter{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥jcocmdrouter_trace{1|2|3}.log		

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥JCOCMD¥JCOCMDCMD{1|2|3}.log		
構成管理ログ	Base パス¥log¥route¥JBSRT{1|2|3}.log		
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥route¥JBSRT{1|2|3}.log		
トレースログファイル	Base パス¥sys¥tmp¥event¥logtrap¥jelallog¥jelallog{1|2|3|4|5}.log		
	Base パス¥sys¥tmp¥event¥logtrap¥jelalelt¥jelalelt{1|2|3|4|5}.log		
統合監視 DB の API ログ	Console パス¥log¥evflow¥EVFLOW_DBAPI{1|2・・・|16}.log	200 メガバイト	12.5 メガバイト
	Console パス¥log¥console¥EVCONS_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス¥log¥jcdmain¥JCDMAIN_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	2 メガバイト	1 メガバイト
	Console パス¥log¥command¥CMD_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥EVFLOW_DBAPI{1|2・・・|16}.log	200 メガバイト	12.5 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥EVCONS_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥jcdmain¥JCDMAIN_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	2 メガバイト	1 メガバイト
IM 構成管理 DB の API ログ	Console パス¥log¥evflow¥EVFLOW_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス¥log¥console¥EVCONS_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス¥log¥jcdmain¥JCDMAIN_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	Console パス¥log¥command¥CMD_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥evflow¥EVFLOW_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥console¥EVCONS_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥jcdmain¥JCDMAIN_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
jcodbsetup コマンドのログ	Console パス¥log¥imdb¥jcodbsetup{1|2}.log	512 キロバイト	256 キロバイト
jcodbunsetup コマンドのログ	Console パス¥log¥imdb¥jcodbunsetup{1|2}.log	512 キロバイト	256 キロバイト

注　プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは，JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお，プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため，内容は公開していません。

注※1　ファイルサイズが，この値より数十キロバイト程度大きくなる場合があります。

注※2　マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル（action.conf.update）」（2. 定義ファイル）によって，64 キロバイト～100 メガバイトの間で設定できます。

注※3　マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル（action.conf.update）」（2. 定義ファイル）によって，1～4,096 キロバイトの間で設定できます。

注※4　アクション情報ファイルの容量がデフォルト（626 キロバイト）の場合の値です。このファイルの最大ディスク占有量は次の見積もり式で算出できます。また，アクションを再実行した場合，一回の再実行ごとに 5 キロバイトずつ増加します。

((アクション情報ファイルの容量/64 バイト）-1）×5 キロバイト

注※5　クラスタ運用の場合も，物理ホスト上のjcochstat，jcochafmode コマンドトレースログに出力されます。

注※6　マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「相関イベント発行環境定義ファイル」（2. 定義ファイル）によって，ファイル面数，ファイルサイズを変更できます。

注※7　このファイルは相関イベントの発行処理中のデータを引き継ぐときのメモリー情報を書き出したものであるため，相関イベント発行条件や相関元イベントの情報などによってファイルサイズが異なってきます。見積もりの詳細については，JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

注※8　応答待ちイベント管理機能を有効にして JP1/IM - Manager を起動した時点で作成されます。

表 10-4　JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）のログファイル・フォルダ一覧（Windows）

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
セントラルスコープトレースログ	Scope パス¥log¥jcsmain{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	Scope パス¥log¥jcsmain_trace{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsmain{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsmain_trace{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
通信用トレースログ	Scope パス¥log¥jcsmain_trace_com{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsmain_trace_com{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	Scope パス¥log¥jcsmain_trace_ping{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsmain_trace_ping{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
論理ホスト設定プログラムログ	Scope パス¥log¥jp1hasetup.{log|log.old}	2,000 キロバイト	1,000 キロバイト
DB 操作 API トレースログ	Scope パス¥log¥jcsmain_trace_db{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsmain_trace_db{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcshostsexport コマンドログ	Scope パス¥log¥jcshostsexport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcshostsexport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcshostsimport コマンドログ	Scope パス¥log¥jcshostsimport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcshostsimport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbsetup コマンドログ	Scope パス¥log¥jcsdbsetup{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsdbsetup{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcschstat コマンドログ	Scope パス¥log¥jcschstat{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcschstat{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbexport コマンドログ	Scope パス¥log¥jcsdbexport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsdbexport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbimport コマンドログ	Scope パス¥log¥jcsdimport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsdbimport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jcsdbconvert コマンドログ	Scope パス¥log¥jcsdbconvert{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jcsdbconvert{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jp1csverup コマンドログ	Scope パス¥log¥jp1csverup_front{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
jp1cshaverup コマンドログ	共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥jp1cshaverup_front{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト

表 10–5　JP1/IM - Manager（IM 構成管理）のログファイル・フォルダー一覧（Windows）

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
IM 構成管理トレースログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogtrap{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogtrap_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogtrap_trace_auth{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfmain{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfmain_trace{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfmain_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogtrap{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogtrap_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogtrap_trace_auth{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_trace{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
通信用トレースログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfmain_trace_com{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfmain_ping{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_trace_com{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_ping{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
認証用トレースログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfmain_trace_auth{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_trace_auth{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
論理ホスト設定プログラムログ	Manager パス¥log¥imcf¥jp1hasetup.{log|log.old}	2,000 キロバイト	1,000 キロバイト
DB 操作 API トレースログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfmain_trace_db{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfmain_trace_db{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
コマンド共通ログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfcommand{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfcommand{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfallogstart コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogstart{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogstart_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogstart{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogstart_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfallogstat コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogstat{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogstat_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogstat{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogstat_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfallogstop コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogstop{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogstop_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogstop{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogstop_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfallogreload コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogreload{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogreload_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogreload{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogreload_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfallogdef コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogdef{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfallogdef_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogdef{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfallogdef_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfaleltstart コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfaleltstart{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfaleltstart_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltstart{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltstart_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfaleltstat コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfaleltstat{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfaleltstat_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltstat{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltstat_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfaleltstop コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfaleltstop{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	Manager パス¥log¥imcf¥jcfaleltstop_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltstop{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltstop_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfaleltreloadコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfaleltreload{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	Managerパス¥log¥imcf¥jcfaleltreload_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltreload{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltreload_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfaleltdefコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfaleltdef{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	Managerパス¥log¥imcf¥jcfaleltdef_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltdef{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfaleltdef_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmesxコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfcolvmesx_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmscvmmコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfcolvmscvmm_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmvirtageコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfcolvmvirtage_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmvcコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfcolvmvc_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmkvmコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfcolvmkvm_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmhcsmコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfcolvmhcsm_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfexportコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfexport_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfexport_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfimportコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfimport_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有フォルダ¥JP1IMM¥log¥imcf¥jcfimport_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfmkhostsdataコマンドログ	Managerパス¥log¥imcf¥jcfmkhostsdata_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
スタックトレースログ	Managerパス¥log¥imcf¥javalog{1|2|3|4}.log	1メガバイト	起動時，または256キロバイト

注　プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは，JP1/IMの各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお，プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため，内容は公開していません。

表10-6　JP1/IM - Viewのログファイル・フォルダ一覧

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
JP1/IM - Viewログ※1	Viewパス¥log¥VIEW{1|2|3}.log	30,720キロバイト	10,240キロバイト
	Viewパス¥log¥jp1conv{1|2|3|4}.log	20,480キロバイト	5,120キロバイト※2
	Viewパス¥log¥jp1convM{1|2・・・|20}.log	102,400キロバイト	5,120キロバイト※2
	Viewパス¥log¥jp1csov[_old].log	6,144キロバイト	3,072キロバイト※2
	Viewパス¥log¥jp1csovM[_old].log	6,144キロバイト	3,072キロバイト※2
	Viewパス¥log¥jp1cimv[_old].log※3	20,480キロバイト	10,240キロバイト※2
	Viewパス¥log¥jp1cimvM[_old].log※3	20,480キロバイト	10,240キロバイト※2
	Viewパス¥log¥imcm¥jp1cmJP1_IM-CM_VIEW{1|2|3}.log※3	3,072キロバイト	1,024キロバイト※2
	Viewパス¥log¥imcm¥jp1cmJP1_IM-CM_VIEW_dbg{1|2|3}.log※3	3,072キロバイト	1,024キロバイト※2
	Viewパス¥log¥imrm¥jp1rmJP1-IM-RM View{1|2|3}.log※4	3,072キロバイト	1,024キロバイト
	Viewパス¥log¥imrm¥jp1rmJP1-IM-RM View_dbg{1|2|3}.log※4	3,072キロバイト	1,024キロバイト
	Viewパス¥log¥jrmview¥view{1|2|3}.log※4	3,072キロバイト	1,024キロバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
スタックトレースログ※1	View パス¥log¥javalog0{1|2}.log	512 キロバイト	起動時，または 256 キロバイト
統合トレースログ	システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hntr2{1|2|3|4}.log	1,024 キロバイト	256 キロバイト
製品情報のログ※1	View パス¥log¥hliclib¥hliclibtrc{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	View パス¥log¥hliclib¥hlicliberr{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	View パス¥log¥hliclib¥hliclibmgrtrc{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト
	View パス¥log¥hliclib¥hliclibmgrerr{1|2|3|4|5}.log	5 メガバイト	1 メガバイト

注　Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，または Windows Vista の場合は「View パス¥log¥」を「システムドライブ:¥ProgramData¥Hitachi¥jp1¥jp1_default¥JP1CoView¥log¥」に置き換えてください。

注※1　プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは，JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお，プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため，内容は公開していません。

注※2　ファイルサイズが，この値より数十キロバイト程度大きくなる場合があります。

注※3　JP1/IM - Central Information Master 連携時にだけ出力されます。

注※4　JP1/IM - Rule Operation 連携時にだけ出力されます。

表 10–7　JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーのログファイル・フォルダ一覧

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
IM 構成管理トレースログ※	View パス¥log¥jcfview¥VIEW{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
スタックトレースログ※	View パス¥log¥jcfjavalog{1|2}.log	512 キロバイト	起動時，または 256 キロバイト
統合トレースログ	システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hntr2{1|2|3|4}.log	1,024 キロバイト	256 キロバイト

注　Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，または Windows Vista の場合は「View パス¥log¥」を「システムドライブ:¥ProgramData¥Hitachi¥jp1¥jp1_default¥JP1CoView¥log¥」に置き換えてください。

注※　プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは，JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお，プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため，内容は公開していません。

(2)　UNIX の場合

UNIX 版の JP1/IM が出力するデフォルトのログファイルおよびディレクトリを次の表に示します。

「ログの種類」には，JP1/IM が出力するログの種類を記載しています。

「デフォルトのファイル名・ディレクトリ名」には，JP1/IM - Manager または JP1/Base をデフォルトでインストールした場合のログファイル名を絶対パスで記載しています。また，クラスタ運用の場合の「デフォルトのファイル名・ディレクトリ名」には，共有ディレクトリのログファイル名を絶対パスで記載しています。

「最大ディスク使用量」には，ログファイルが最大でどの程度ディスクを使用するのかを記載しています。ログファイルが複数ある場合は，その合計量を記載しています。

「ファイルの切り替え時期」には，JP1/IM が出力先のログファイルを切り替えるタイミングを記載しています。ファイルがこの欄に示すサイズに達したとき，またはこの欄に示す事象が起きたときに，出力先が切り替わります。なお，ログファイルが複数あり，最大ディスク使用量に達した場合は，更新日付の古いファイルから上書きされます。

表 10–8　JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Console）のログファイル・ディレクトリー覧（UNIX）

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
プロセス管理ログ※1	/var/opt/jp1cons/log/JCO_SPMD{1|2|3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	/var/opt/jp1cons/log/JCO_SPMD_COMMAND{1|2|3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/JCO_SPMD{1|2|3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/JCO_SPMD_COMMAND{1|2|3}.log	384 キロバイト	128 キロバイト
スタックトレースログ※1	/var/opt/jp1cons/log/javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト
JP1/IM 起動時ログ※1	/var/opt/jp1cons/log/jco_start.log[.old]	1 キロバイト	起動時
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/jco_start_論理ホスト名.log[.old]	1 キロバイト	起動時
JP1/IM 強制終了時のログ※1，※2	共有ディレクトリ/jp1cons/log/jco_killall.cluster{なし|1|2|3|4}	2 キロバイト	jco_killall.cluster コマンド実行時
セットアップ時のログ	/var/opt/jp1cons/log/JCO_SETUP/jco_setup.log	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1cons/log/JCO_SETUP/jco_inst.log※1	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1cons/log/jco_setup/論理ホスト名/jco_setup.log	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1cons/log/jco_setup/論理ホスト名/reg.txt※1	100 キロバイト	インストール時

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	/var/opt/jp1cons/log/jco_setup/論理ホスト名/reg_def.txt※1	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1cons/log/command/comdef[_old].log※1	512 キロバイト	256 キロバイト
イベントコンソールログ※1	/var/opt/jp1cons/log/console/EVCONS{1|2|3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト
	/var/opt/jp1cons/log/console/jp1cons{1|2|3|4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト※3
	/var/opt/jp1cons/log/console/JCOAPI{1|2|3}.log	96 キロバイト	32 キロバイト
	/var/opt/jp1cons/log/console/jp1consM{1|2・・・|20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト※3
	/var/opt/jp1cons/log/console/jp1filterDef{1|2|3|4|5}.log	100 メガバイト	20 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/console/jp1bizGroupDef{1|2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/console/evtcon_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
	/var/opt/jp1cons/log/console/jp1cmdButtonDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/EVCONS{1|2|3}.log	30,720 キロバイト	10,240 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/jp1cons{1|2|3|4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト※3
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/JCOAPI{1|2|3}.log	96 キロバイト	32 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/jp1consM{1|2・・・|20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト※3
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/jp1filterDef{1|2|3|4|5}.log	100 メガバイト	20 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/jp1bizGroupDef{1|2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/evtcon_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/jp1cmdButtonDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
自動アクショントレースログ※1	/var/opt/jp1cons/log/action/JCAMAIN{1|2|3|4|5}.log※4	25,600 キロバイト	5,120 キロバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/JCAMAIN{1|2|3|4|5}.log※4	25,600 キロバイト	5,120 キロバイト
アクション情報ファイル※1	/var/opt/jp1cons/log/action/actinf.log	626 キロバイト※5	切り替えなし
		Linux (IPF)の場合 1,094 キロバイト※5	
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/actinf.log	626 キロバイト※5	切り替えなし
		Linux (IPF)の場合 1,094 キロバイト※5	
アクションホスト名格納ファイル※1	/var/opt/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log	48.9 メガバイト※6	アクション情報ファイルのラップアラウンド時
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log	48.9 メガバイト※6	アクション情報ファイルのラップアラウンド時
アクション再実行用ファイル※1	/var/opt/jp1cons/log/action/actreaction	300 メガバイト	系切り替え発生時
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/actreaction	300 メガバイト	系切り替え発生時
jcochafmode，jcochstat，jcoevtreport コマンドトレースログ※1，※7	/var/opt/jp1cons/log/command/CMD{1|2|3}.log	3,072 キロバイト	1,024 キロバイト
	/var/opt/jp1cons/log/command/jp1cons_cmd{1|2}.log	12,288 キロバイト	6,144 キロバイト
	/var/opt/jp1cons/log/command/jp1consM_cmd{1|2}.log	12,288 キロバイト	6,144 キロバイト
プラグインのログ※1	/var/opt/jp1cons/log/command/jcoplugin{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
通知状態格納ファイル※1	/var/opt/jp1cons/log/notice/notice_stat.dat	72 バイト	切り替えなし
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/notice/notice_stat.dat	72 バイト	切り替えなし
アクション定義バックアップファイル※1	/var/opt/jp1cons/log/action/actdefbk.conf	2,048 キロバイト	切り替えなし
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/actdefbk.conf	2,048 キロバイト	切り替えなし

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
イベント基盤トレースログ※1	/var/opt/jp1cons/log/evflow/EVFLOW{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	100 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/evflow/jp1evflowM{1|2・・・|20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/evflow/jp1actDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/evflow/jp1chsevDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/evflow/jp1hostmapDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/evflow/evflow_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/EVFLOW{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	100 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/jp1evflowM{1|2・・・|20}.log	100 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/jp1actDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/jp1chsevDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/jp1hostmapDef{1|2|3|4|5}.log	25 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/evflow_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
マッチング情報ファイル※1	/var/opt/jp1cons/log/evflow/evflowinf.log	12 バイト	切り替えなし
		Linux (IPF)の場合 24 バイト	切り替えなし
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/evflowinf.log	12 バイト	切り替えなし
		Linux (IPF)の場合 24 バイト	切り替えなし
イベント基盤エラーログ※1	/var/opt/jp1cons/log/evflow/jp1evflow{1|2|3|4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/jp1evflow{1|2|3|4}.log	20,480 キロバイト	5,120 キロバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
自動アクションエラーログ※1	/var/opt/jp1cons/log/action/jp1act{1|2|3}.log	15,360 キロバイト	5,120 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/jp1act{1|2|3}.log	15,360 キロバイト	5,120 キロバイト
相関イベント発行履歴ファイル※1	/var/opt/jp1cons/operation/evgen/egs_discrim{1|2|3}.log※9	30 メガバイト※9	10 メガバイト※9
	共有ディレクトリ/jp1cons/operation/evgen/egs_discrim{1|2|3}.log※9	30 メガバイト※9	10 メガバイト※9
相関イベント発行トレースログ※1	/var/opt/jp1cons/log/evgen/EVGEN{1|2|3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/evgen/evgen_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evgen/EVGEN{1|2|3}.log	15 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evgen/evgen_exe{1|2|3}.log	256 キロバイト×3	256 キロバイト
相関イベント発行個別ログ(相関イベント発行サービス用) ※1	/var/opt/jp1cons/log/evgen/jp1egs{1|2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/evgen/jp1egsM{1|2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evgen/jp1egs{1|2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evgen/jp1egsM{1|2}.log	20 メガバイト	10 メガバイト
相関イベント発行個別ログ(コマンド用) ※1	/var/opt/jp1cons/log/evgen/jp1egs_cmd{1|2|3|4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/evgen/jp1egsM_cmd{1|2|3|4}.log	20 メガバイト	5 メガバイト
相関イベント発行スタックトレースログ※1, ※8	/var/opt/jp1cons/log/evgen/javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evgen/javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト
相関イベントの発行処理引き継ぎ定義ファイル※1	/var/opt/jp1cons/log/evgen/egs_discrim_info{1|2|3|4}.dat	312 メガバイト※10	停止時
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evgen/egs_discrim_info{1|2|3|4}.dat	312 メガバイト※10	停止時
相関イベント発行定義の適用ログ※1	/var/opt/jp1cons/log/evgen/jp1egsDefine{1|2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evgen/jp1egsDefine{1|2}.log	10 メガバイト	5 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
応答待ちイベント滞留ファイル※1, ※11	/var/opt/jp1cons/log/response/resevent.dat	40 メガバイト	切り替えなし
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/response/resevent.dat	40 メガバイト	切り替えなし
応答待ちイベント滞留バックアップファイル※1, ※11	/var/opt/jp1cons/log/response/resevent.dat.dump	40 メガバイト	切り替えなし
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/response/resevent.dat.dump	40 メガバイト	切り替えなし
統合監視 DB の API ログ※1	/var/opt/jp1cons/log/evflow/EVFLOW_DBAPI{1|2・・・|16}.log	200 メガバイト	12.5 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/console/EVCONS_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/jcdmain/JCDMAIN_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	2 メガバイト	1 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/command/CMD_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/EVFLOW_DBAPI{1|2・・・|16}.log	200 メガバイト	12.5 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/EVCONS_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	50 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/jcdmain/JCDMAIN_DBAPI{1|2|3|4|5}.log	2 メガバイト	1 メガバイト
IM 構成管理 DB の API ログ※1	/var/opt/jp1cons/log/evflow/EVFLOW_CFDBAPI{1|2|3|4|5}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/console/EVCONS_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/jcdmain/JCDMAIN_CFDBAPI{1|2|3|4|5}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	/var/opt/jp1cons/log/command/CMD_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/evflow/EVFLOW_CFDBAPI{1|2|3|4|5}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/console/EVCONS_CFDBAPI{1|2|3}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/jcdmain/JCDMAIN_CFDBAPI{1|2|3|4|5}.log	30 メガバイト	10 メガバイト
jcodbsetup コマンドのログ※1	/var/opt/jp1cons/log/imdb/jcodbsetup{1|2}.log	512 キロバイト	256 キロバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
jcodbunsetup コマンドのログ※1	/var/opt/jp1cons/log/imdb/jcodbunsetup{1|2}.log	512 キロバイト	256 キロバイト
コマンド実行履歴保存ディレクトリ※1	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/	マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください	
	共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND		
リモートコマンドログ※1	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmd_result{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdapi{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdapi_trace{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdcmc{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdcmc_trace{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdcom{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdcom_trace{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdexe{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdexe_trace{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdrouter{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdrouter_trace{1|2|3}.log		
	/var/opt/jp1base/log/JCOCMD/JCOCMDCMD{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmd_result{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdapi{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdapi_trace{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdcmc{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdcmc_trace{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdcom{1|2|3}.log		

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdcom_trace{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdexe{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdexe_trace{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdrouter{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/jcocmdrouter_trace{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/JCOCMD/JCOCMDCMD{1|2|3}.log		
構成管理ログ※1	/var/opt/jp1base/log/route/JBSRT{1|2|3}.log		
	共有ディレクトリ/jp1base/log/route/JBSRT{1|2|3}.log		
トレースログファイル※1	/var/opt/jp1base/sys/tmp/event/logtrap/jeallog/jeallog{1|2|3|4|5}.log		

注※1　プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは，JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお，プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため，内容は公開していません。

注※2　クラスタ環境でだけ作成されます。

注※3　ファイルサイズが，この値より数十キロバイト程度大きくなる場合があります。

注※4　マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル（action.conf.update)」（2. 定義ファイル）によって，64 キロバイト～100 メガバイトの間で設定できます。

注※5　マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル（action.conf.update)」（2. 定義ファイル）によって，1～4,096 キロバイト（Linux (IPF)の場合は 1～7,168 キロバイト）の間で設定できます。

注※6　アクション情報ファイルの容量がデフォルト（626 キロバイト）の場合の値です。このファイルの最大ディスク占有量は次の見積もり式で算出できます。また，アクションを再実行した場合，一回の再実行ごとに 5 キロバイトずつ増加します。

((アクション情報ファイルの容量/64 バイト）-1）×5 キロバイト

注※7　クラスタ運用の場合も，物理ホスト上のjcochstat，jcochafmode コマンドトレースログに出力されます。

注※8　HP-UX（IPF)，Solaris では出力されません。

注※9　マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「相関イベント発行環境定義ファイル」（2. 定義ファイル）によって，ファイル面数，ファイルサイズを変更できます。

注※10　このファイルは相関イベントの発行処理中のデータを引き継ぐときのメモリー情報を書き出したものであるため，相関イベント発行条件や相関元イベントの情報などによってファイルサイズが異なってきます。見積もりの詳細については，JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

注※11　応答待ちイベント管理機能を有効にして JP1/IM - Manager を起動した時点で作成されます。

表 10–9　JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）のログファイル・ディレクトリ一覧（UNIX）

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
セントラルスコープログ※	/var/opt/jp1scope/log/jcsmain{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	/var/opt/jp1scope/log/jcsmain_trace{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcsmain{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcsmain_trace{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
通信用トレースログ	/var/opt/jp1scope/log/jcsmain_trace_com{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcsmain_trace_com{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	/var/opt/jp1scope/log/jcsmain_trace_ping{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcsmain_trace_ping{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
DB 操作 API トレースログ	/var/opt/jp1scope/log/jcsmain_trace_db{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcsmain_trace_db{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
jcshostsexport コマンドログ	/var/opt/jp1scope/log/jcshostsexport{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcshostsexport{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
jcshostsimport コマンドログ	/var/opt/jp1scope/log/jcshostsimport{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcshostsimport{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
jcsdbsetup コマンドログ	/var/opt/jp1scope/log/jcsdbsetup{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcsdbsetup{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
jcschstat コマンドログ	/var/opt/jp1scope/log/jcschstat{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcschstat{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
jcsdbimport コマンドログ	/var/opt/jp1scope/log/jcsdbimport{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcsdbimport{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト
jcsdbexport コマンドログ	/var/opt/jp1scope/log/jcsdbexport{1|2|3}.log	6メガバイト	2メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有ディレクトリ/jp1scope/log/jcsdbexport{1|2|3}.log	6 メガバイト	2 メガバイト
セットアップ時のログ	/var/opt/jp1scope/log/JCS_SETUP/jcs_setup.log	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1scope/log/jcs_setup/論理ホスト名/jcs_setup.log	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1scope/log/jcs_setup/論理ホスト名/reg.txt	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1scope/log/jcs_setup/論理ホスト名/reg_def.txt	100 キロバイト	インストール時

注※　プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは，JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお，プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため，内容は公開していません。

表 10–10　JP1/IM - Manager（IM 構成管理）のログファイル・ディレクトリ一覧（UNIX）

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
IM 構成管理トレースログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogtrap{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogtrap_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogtrap_trace_auth{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogtrap{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogtrap_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogtrap_trace_auth{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfmain{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfmain_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
通信用トレースログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_com{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain_ping{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_com{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfmain_ping{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
認証用トレースログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_auth{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_auth{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
DB 操作 API トレースログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_db{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfmain_trace_db{1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}.log	20 メガバイト	2 メガバイト
コマンド共通ログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfcommand{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfcommand{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfallogstart コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogstart{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogstart_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogstart{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogstart_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfallogstat コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogstat{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogstat_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogstat{1|2|3}.log	9 メガバイト	3 メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogstat_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfallogstop コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogstop{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogstop_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogstop{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogstop_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfallogreload コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogreload{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogreload_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogreload{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogreload_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfallogdef コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogdef{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfallogdef_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogdef{1|2|3}.log	9メガバイト	3メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfallogdef_VM_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmesx コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfcolvmesx_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmvirtage コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfcolvmvirtage_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmvc コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfcolvmvc_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmkvm コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfcolvmkvm_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト
jcfcolvmhcsm コマンドログ	Manager パス¥log¥imcf¥jcfcolvmhcsm_trace{1|2|3}.log	3メガバイト	1メガバイト

ログの種類	デフォルトのファイル名・ディレクトリ名	最大ディスク使用量	ファイルの切り替え時期
jcfexport コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfexport_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfexport_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfimport コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfimport_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
	共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/jcfimport_VM_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
jcfmkhostsdata コマンドログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/jcfmkhostsdata_trace{1|2|3}.log	3 メガバイト	1 メガバイト
スタックトレースログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/javalog0{1|2|3|4}.log	1 メガバイト	起動時，または 256 キロバイト
セットアップ時のログ	/var/opt/jp1imm/log/imcf/JCF_SETUP/jcf_setup.log	100 キロバイト	インストール時
	/var/opt/jp1imm/log/imcf/JCF_SETUP/論理ホスト名/jcf_setup.log	100 キロバイト	インストール時

注　プロセス別トレースログです。プロセス別トレースログとは，JP1/IM の各機能が出力するログ情報のことです。各機能によって異なるログファイルに出力されます。なお，プロセス別トレースログには製品情報が含まれているため，内容は公開していません。

10.3　トラブル発生時に採取が必要な資料

トラブルが発生したときに採取が必要な資料を示します。

なお，JP1 では採取が必要な資料を一括採取するための**資料採取ツール**を用意しています。資料採取ツールで採取できる資料は，OS のシステム情報や JP1 の情報です。次からは Windows，UNIX のそれぞれの場合について説明します。

10.3.1　Windows の場合

(1)　OS のシステム情報

OS に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。

なお，資料採取ツール（jim_log.bat コマンド，jcoview_log.bat コマンド）では採取できる資料に違いがあります。次の表に示す資料は，jim_log.bat コマンドを実行するとすべて採取されます。jcoview_log.bat コマンドを実行するときに採取できる資料については右端の列に示します。

表 10–11　OS のシステム情報（Windows）

情報の種類	採取資料	ファイル名※1	View
資料採取日時	• date /t の実行結果 • time /t の実行結果	date.log	○
日立総合インストーラのログファイル	Windows のインストール先フォルダ¥Temp¥HCDINST¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	○
JP1/IM - Manager のインストール/アンインストールログファイル	Windows のインストール先フォルダ¥Temp¥HITACHI_JP1_INST_LOG¥jp1imm_inst{1|2|3|4|5}.log	jp1imm_inst{1|2|3|4|5}.log	△
JP1/IM - View インストール/アンインストールログファイル	Windows のインストール先フォルダ¥Temp¥HITACHI_JP1_INST_LOG¥jp1coview_inst{1|2|3|4|5}.log	jp1coview_inst{1|2|3|4|5}.log	○
JP1/Base インストール/アンインストールログファイル	Windows のインストール先フォルダ¥Temp¥HITACHI_JP1_INST_LOG¥jp1base_inst{1|2|3|4|5}.log	jp1base_inst{1|2|3|4|5}.log	△
製品情報ログファイル	Windows のインストール先フォルダ¥Temp¥jp1common¥以下のファイル	左記ファイルのコピー	○
マシンに設定されているホスト名の設定	システムルートフォルダ¥system32¥drivers¥etc¥hosts	hosts	○
マシンに設定されているサービスポートの設定	システムルートフォルダ¥system32¥drivers¥etc¥services	services	○

情報の種類	採取資料	ファイル名※1	View
NIC の実装状況	ipconfig /all の実行結果	ipconfig.log	○
起動サービス一覧	net start の実行結果	netstart.log	○
ネットワーク統計情報	netstat -na の実行結果	netstat.log	○
マシンの環境変数	set の実行結果	set.log	○
マシンのシステム情報	msinfo32 /report ファイル名の実行結果	msinfo32.log	○
レジストリ情報	レジストリHKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI または レジストリHKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI の内容をregedit コマンドで採取した結果	hitachi_reg.txt	○
製品情報ファイル	システムドライブ:Program Files¥jp1common¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	○
JP1/IM - Manager のインストール情報	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{BB5D25EC-537C-4794-BD7A-C7E22CC4AD30}¥setup.ini	imm_setup.ini	△
JP1/IM - Manager のインストールログファイル	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{BB5D25EC-537C-4794-BD7A-C7E22CC4AD30}¥setup.ilg	imm_setup.ilg	△
JP1/Base のインストール情報	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{F8C71F7C-E5DE-11D3-A21E-006097C00EBC}¥setup.ini	base_setup.ini	△
JP1/Base のインストールログファイル	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{F8C71F7C-E5DE-11D3-A21E-006097C00EBC}¥setup.ilg	base_setup.ilg	△
JP1/IM - View のインストール情報	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{6C01AA81-B45B-4AA6-ACE9-AC9A86B19F1F}¥setup.ini	imv_setup.ini	○
JP1/IM - View のインストールログファイル	システムドライブ:Program Files¥InstallShield Installation Information¥{6C01AA81-B45B-4AA6-ACE9-AC9A86B19F1F}¥setup.ilg	imv_setup.ilg	○

情報の種類	採取資料	ファイル名※1	View
JP1/Base のアクセス権限情報(インストールフォルダ)	cacls Base パス の実行結果	cacls_jp1base.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Base の実行結果※2	cacls_jp1base.log	−
JP1/Base のアクセス権限情報(ログフォルダ)	cacls Base パス¥log の実行結果	cacls_jp1base_log.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Base¥log の実行結果※2	cacls_jp1base_log.log	−
JP1/Base のアクセス権限情報(コマンド実行履歴フォルダ)	cacls Base パス¥log¥COMMAND の実行結果	cacls_jp1base_log_COMMAND.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Base¥log¥COMMAND の実行結果※2	cacls_jp1base_log_COMMAND.log	−
JP1/Base のアクセス権限情報(イベント DB フォルダ)	cacls Base パス¥sys の実行結果	cacls_jp1base_sys.log	△
JP1/Base のアクセス権限情報(イベント DB フォルダ)	cacls Base パス¥sys¥event の実行結果	cacls_jp1base_sys_event.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Base¥event の実行結果※2	cacls_jp1base_event.log	−
JP1/Base のアクセス権限情報(イベント DB フォルダ)	cacls Base パス¥sys¥event¥servers の実行結果	cacls_jp1base_sys_event_servers.log	△
JP1/Base のアクセス権限情報(イベント DB フォルダ)	cacls Base パス¥sys¥event¥servers¥default の実行結果	cacls_jp1base_sys_event_servers_default.log	△
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)のアクセス権限情報(インストールフォルダ)	cacls Console パス の実行結果	cacls_jp1cons.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Cons の実行結果※2	cacls_jp1cons.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)のアクセス権限情報(ログフォルダ)	cacls Console パス¥log の実行結果	cacls_jp1cons_log.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Cons¥log の実行結果※2	cacls_jp1cons_log.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)のアクセス権限情報(相関履歴フォルダ)	cacls Console パス¥operation の実行結果	cacls_jp1cons_operation.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Cons¥operation の実行結果※2	cacls_jp1cons_operation.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM -	cacls Console パス¥operation¥evgen の実行結果	cacls_jp1cons_operation_evgen.log	△

情報の種類	採取資料	ファイル名※1	View
Central Console)のアクセス権限情報(相関イベント発行履歴フォルダ)	cacls 共有フォルダ¥JP1Cons¥operation¥evgen の実行結果※2	cacls_jp1cons_operation_evgen.log	−
JP1/IM - View のアクセス権限情報(インストールフォルダ)	cacls View パス の実行結果	cacls_jp1coview.log	○
JP1/IM - View のアクセス権限情報(ログフォルダ)	Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista 以外の場合 cacls View パス¥log の実行結果	cacls_jp1coview_log.log	○
	Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista の場合 cacls システムドライブ:¥ProgramData¥Hitachi¥jp1¥jp1_default¥JP1CoView¥log の実行結果	cacls_programdata_jp1coview_log.log	○
JP1/IM - Manager のアクセス権限情報(インストールフォルダ)	cacls Manager パス の実行結果	cacls_jp1imm.log	△
JP1/IM - Manager のアクセス権限情報(ログフォルダ)	cacls Manager パス¥log の実行結果	cacls_jp1imm_log.log	△
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(インストールフォルダ)	cacls Scope パス の実行結果	cacls_jp1scope.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope の実行結果※2	cacls_jp1scope.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(ログフォルダ)	cacls Scope パス¥log の実行結果	cacls_jp1scope_log.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope¥log の実行結果※2	cacls_jp1scope_log.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(DB フォルダ)	cacls Scope パス¥database の実行結果	cacls_jp1scope_database.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope¥database の実行結果※2	cacls_jp1scope_database.log	−

情報の種類	採取資料	ファイル名※1	View
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(DB フォルダ)	cacls Scope パス¥database¥event の実行結果	cacls_jp1scope_database_event.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope¥database¥event の実行結果※2	cacls_jp1scope_database_event.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(DB フォルダ)	cacls Scope パス¥database¥jcsdb の実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdb.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope¥database¥jcsdb の実行結果※2	cacls_jp1scope_database_jcsdb.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(DB フォルダ)	cacls Scope パス¥database¥jcsdb¥event の実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdb_event.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope¥database¥jcsdb¥event の実行結果※2	cacls_jp1scope_database_jcsdb_event.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(DB フォルダ)	cacls Scope パス¥database¥jcsdb¥pw の実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdb_pw.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope¥database¥jcsdb¥pw の実行結果※2	cacls_jp1scope_database_jcsdb_pw.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(DB フォルダ)	cacls Scope パス¥database¥jcsdb¥tree の実行結果	cacls_jp1scope_database_jcsdb_tree.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope¥database¥jcsdb¥tree の実行結果※2	cacls_jp1scope_database_jcsdb_tree.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のアクセス権限情報(DB フォルダ)	cacls Scope パス¥database¥jcshosts の実行結果	cacls_jp1scope_database_jcshosts.log	△
	cacls 共有フォルダ¥JP1Scope¥database¥jcshosts の実行結果※2	cacls_jp1scope_database_jcshosts.log	−
JP1/Base のファイル一覧	dir Base パス /s の実行結果	dir_jp1base.log	△
	dir 共有フォルダ¥JP1Base /s の実行結果※2	dir_論理ホスト名_jp1base.log	−
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)のファイル一覧	dir Console パス /s の実行結果	dir_jp1cons.log	△
	dir 共有フォルダ¥JP1Cons /s の実行結果※2	dir_論理ホスト名_jp1cons.log	−
JP1/IM - View のファイル一覧	dir View パス /s の実行結果	dir_jp1coview.log	○
	Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，	dir_programdata_jp1coview.log	○

情報の種類	採取資料	ファイル名※1	View
	Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista 限定 dir システムドライブ:¥ProgramData¥Hitachi¥jp1¥jp1_default¥JP1CoView /s の実行結果		
JP1/IM - Manager のファイル一覧	dir Manager パス /s の実行結果	dir_jp1imm.log	△
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のファイル一覧	dir Scope パス /s の実行結果	dir_jp1scope.log	△
	dir 共有フォルダ¥JP1Scope /s の実行結果※2	dir_論理ホスト名_jp1scope.log	－
ネットワークアドレス解決のためのホスト名	jbsgethostbyname の実行結果	• jbsgethostbyname.log(標準出力) • jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力)	△
	jbsgethostbyname 論理ホスト名 の実行結果※2	• jbsgethostbyname.log(標準出力) • jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力)	－
ヘルスチェック	jbshcstatus -debbug -a の実行結果	• jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エラー出力)	△
	jbshcstatus -debbug -a -h 論理ホスト名 の実行結果※2	• jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エラー出力)	－
イベントサービスのプロセス稼働状態	jevstat の実行結果	• jevstat.log(標準出力) • jevstat_err.log(標準エラー出力)	△
イベントサービス以外のプロセス稼働状態	jbs_spmd_status の実行結果	• jbs_spmd_status.log(標準出力) • jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力)	△
	jbs_spmd_status -h 論理ホスト名 の実行結果※2	• jbs_spmd_status.log(標準出力) • jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力)	－
自動アクションの実行結果	jcashowa の実行結果	• jcashowa.log(標準出力) • jcashowa_err.log(標準エラー出力)	△
	jcashowa -h 論理ホスト名 の実行結果※2	• jcashowa.log(標準出力) • jcashowa_err.log(標準エラー出力)	－
自動アクションの動作状況	jcastatus の実行結果	• jcastatus.log(標準出力) • jcastatus_err.log(標準エラー出力)	△
	jcastatus -h 論理ホスト名 の実行結果※2	• jcastatus.log(標準出力) • jcastatus_err.log(標準エラー出力)	－
自動アクション定義ファイルの内容	jcastatus -d の実行結果	• jcastatus_d.log(標準出力) • jcastatus_d_err.log(標準エラー出力)	△

情報の種類	採取資料	ファイル名※1	View
	jcastatus -d -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• jcastatus_d.log(標準出力) • jcastatus_d_err.log(標準エラー出力)	−
相関イベント発行サービスの動作状況	jcoegsstatus の実行結果	• jcoegsstatus.log(標準出力) • jcoegsstatus_err.log(標準エラー出力)	△
	jcoegsstatus -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• jcoegsstatus.log(標準出力) • jcoegsstatus_err.log(標準エラー出力)	−
プロセス稼働状態	jco_spmd_status の実行結果	• jco_spmd_status.log(標準出力) • jco_spmd_status_err.log(標準エラー出力)	△
	jco_spmd_status -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• jco_spmd_status.log(標準出力) • jco_spmd_status_err.log(標準エラー出力)	−
資料採取コマンドの実行結果	jim_log.bat コマンドの実行結果	jim_log_result.log	○
Windows イベントログ	• アプリケーション：**システムルートフォルダ**¥system32¥config¥AppEvent.Evt • システム：**システムルートフォルダ**¥system32¥config¥SysEvent.Evt	• AppEvent(Backup).evt • AppEvent(Backup).txt • SysEvent(Backup).evt • SysEvent(Backup).txt	○
クラッシュダンプ※3	**ユーザー指定フォルダ**¥user.dmp	user.dmp	○※4
ワトソン(Dr. Watson)ログ※3	**ユーザー指定フォルダ**¥drwtsn32.log	drwtsn32.log	○

(凡例)

○：jcoview_log.bat コマンドで採取する

△：JP1/IM - View と同一ホストに JP1/Base，JP1/IM - Manager がインストールされている場合だけ，jcoview_log.bat コマンドで採取する

−：jcoview_log.bat コマンドで採取しない

注※1　資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。格納先については，次を参照してください。

- マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.bat（Windows 限定)」(1. コマンド)
- マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoview_log.bat（Windows 限定)」(1. コマンド)

注※2　論理ホスト（クラスタ）環境の資料を採取する際に採取できます。

注※3　あらかじめ出力設定をしておく必要があります（参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.19.2(1) 障害発生時の資料採取の準備」)。

注※4　Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista 版の JP1/IM - View，JP1/IM - Manager では，クラッシュダンプは採取しません。

(2) JP1 の情報

JP1 に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。また，ネットワーク接続でのトラブルの場合，接続先マシン上のファイルの採取も必要です。

なお，資料採取ツール（jim_log.bat コマンド，jcoview_log.bat コマンド）では採取できる資料に違いがあります。次の表に示す資料は，jim_log.bat コマンドを実行するとすべて採取されます。jcoview_log.bat コマンドを実行するときに採取できる資料については右端の列に示します。

表 10–12 JP1 の情報（Windows）

情報の種類		採取資料	ファイル名※1	View
JP1/IM，JP1/Base 共通	統合トレースログ	システムドライブ:Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool	デフォルトで次のファイル hntr2[1|2|3|4].log	○
JP1/IM - Manager(コンポーネント共通)	パッチ情報	Manager パス¥PATCHLOG.TXT	Patchlog_jp1imm.txt	－
	設定および定義ファイル	Manager パス¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
	ログファイル	Manager パス¥log¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)	設定および定義ファイル	Console パス¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Cons¥conf¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
	共通定義情報	Console パス¥default¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
	ログファイル	Console パス¥log¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Cons¥log¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
	応答待ちイベント滞留ファイル※3	Console パス¥log¥response¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥jp1cons¥log¥response¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
	相関イベント発行履歴ファイル	Console パス¥operation¥evgen¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Cons¥operation¥evgen¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)	設定および定義ファイル	Scope パス¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－

情報の種類		採取資料	ファイル名※1	View
		共有フォルダ¥JP1Scope¥conf¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
	共通定義情報	Scope パス¥default¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
	ログファイル	Scope パス¥log¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Scope¥log¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
	DB 情報	Scope パス¥database¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Scope¥database¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
JP1/IM - Manager(IM 構成管理)	設定および定義ファイル	Manager パス¥conf¥imcf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥jp1imm¥conf¥imcf¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
	共通定義情報	Manager パス¥system¥default¥new¥imcf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
	ログファイル	Manager パス¥log¥imcf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥jp1imm¥log¥imcf¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
JP1/IM - View	パッチ情報	View パス¥Patchlog.txt	Patchlog_jp1coview.txt	○
	設定および定義ファイル	View パス¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	○
		Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista 限定 システムドライブ:¥ProgramData¥Hitachi¥jp1¥jp1_default¥JP1CoView¥conf¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	○
	共通定義情報	View パス¥default¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	○
	ログファイル	Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista 以外の場合 View パス¥log¥以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	○

情報の種類		採取資料	ファイル名※1	View
		Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista の場合 **システムドライブ:¥ProgramData¥Hitachi¥jp1¥jp1_default¥JP1CoView¥log¥**以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	○
JP1/Base	パッチ情報	**Base パス¥PatchLog.txt**	Patchlog_jp1base.txt	－
	設定および定義ファイル	**Base パス¥conf¥**以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Base¥conf¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
	共通定義情報	**Base パス¥default¥**以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
	ログファイル	**Base パス¥log¥**以下のファイル	左記フォルダ配下の COMMAND 以外の全ファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Base¥log¥以下のファイル※2	左記フォルダ配下の COMMAND 以外の全ファイル	－
	プラグインサービスの設定ファイル	**Base パス¥plugin¥conf¥**以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
	ログおよびテンポラリファイル	**Base パス¥sys¥tmp¥**以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Base¥event※2	左記フォルダ配下の IMEvent*.*以外の全ファイル	－
	コマンド実行履歴ファイル	**Base パス¥log¥COMMAND¥**以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Base¥log¥COMMAND¥以下のファイル※2	左記ファイルのコピーファイル	－
	イベント DB	**Base パス¥sys¥event¥servers¥default¥**以下のファイル	左記ファイルのコピーファイル	－
		共有フォルダ¥JP1Base¥event※2	IMEvent*.*	－

（凡例）

○：jcoview_log.bat コマンドで採取する

－：jcoview_log.bat コマンドで採取しない

注※1　資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。格納先については，次を参照してください。

- マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.bat（Windows 限定)」(1. コマンド)

- マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoview_log.bat（Windows 限定）」（1. コマンド）

注※2　論理ホスト（クラスタ）環境の資料を採取する際に採取できます。

注※3　応答待ちイベント滞留ファイルは，応答待ちイベント管理機能を有効にすると作成されます。jim_log.bat コマンドのオプションによって採取しないこともできます。詳細については，「9.5.2　jim_log.bat（Windows 限定）」を参照してください。

(3)　オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- 発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，セントラルコンソールの構成）
- 再現性
- JP1/IM - View からログインしている場合のログインユーザー名

(4)　画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

- エラーダイアログボックスのハードコピー（および詳細ボタンがある場合はその内容）

(5)　WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報

WWW ページ版の JP1/IM - View の使用時にトラブルが発生した場合は，次の資料の採取が必要です。

ビューアー側

- Java のスタックトレースログ

  Java のスタックトレースログを取得するには，［Java コンソール］画面が表示されるよう，設定しておく必要があります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.16.4　［Java コンソール］画面の表示設定」を参照してください。

- Java™ Plug-in の Java トレースファイル

  Java トレースファイルは，次の場所にあります。

  Java™ Plug-in 1.4.2：

  システムドライブ:¥Documents and Settings¥ログインユーザー名¥Application Data¥Sun¥Java¥Deployment¥log¥

マネージャー側

- HTTP サーバのエラーログ
- HTTP サーバのアクセスログ

(6) ユーザーダンプ（Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，または Windows Vista 限定）

Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，または Windows Vista で JP1/IM - View のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は，ユーザーダンプを採取してください。

(7) 問題レポート（Windows Server 2008※，または Windows Vista 限定）

Windows Server 2008※，または Windows Vista で JP1/IM - View のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は，問題レポートを採取してください。

注※

Windows Server 2008 R2 (x64)以降の場合は除きます。

10.3.2 UNIX の場合

(1) OS のシステム情報

OS に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。

表 10-13 OS のシステム情報（UNIX）

情報の種類	採取資料	ファイル名※1
インストール済み日立製品情報	/etc/.hitachi/pplistd/pplistd	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • pplistd
Hitachi PP Installer のインストールログファイル	/etc/.hitachi/.install.log*	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • .install.log*
Hitachi PP Installer のアンインストールログファイル	/etc/.hitachi/.uninstall.log*	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • .uninstall.log*
共通定義情報	/opt/jp1/hcclibcnf/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central	seraph による解析結果 /var/opt/jp1cons	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • core_モジュール名.log

情報の種類	採取資料	ファイル名※1
Console)のcoreの解析情報(バックトレース)	seraphによる解析結果 共有ディレクトリ/jp1cons/log※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • core_モジュール名.log
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)のcoreの解析情報(バックトレース)	seraphによる解析結果 /var/opt/jp1scope	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • core_モジュール名.log
	seraphによる解析結果 共有ディレクトリ/jp1scope/log※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • core_モジュール名.log
JP1/Baseインストールログファイル	/tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG/jp1base_inst{1|2|3|4|5}.log	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jp1base_inst{1|2|3|4|5}.log
JP1/IM - Managerインストールログファイル	/tmp/HITACHI_JP1_INST_LOG/jp1imm_inst{1|2|3|4|5}.log	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jp1imm_inst{1|2|3|4|5}.log
ファイル一覧	• ls -lRa /opt/jp1immの実行結果 • ls -lRa /var/opt/jp1immの実行結果 • ls -lRa /opt/jp1consの実行結果 • ls -lRa /etc/opt/jp1consの実行結果 • ls -lRa /var/opt/jp1consの実行結果 • ls -lRa /opt/jp1scopeの実行結果 • ls -lRa /etc/opt/jp1scopeの実行結果 • ls -lRa /var/opt/jp1scopeの実行結果 • ls -lRa /opt/jp1baseの実行結果 • ls -lRa /etc/opt/jp1baseの実行結果 • ls -lRa /var/opt/jp1baseの実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • inst_dir.log
	• ls -lRa 共有ディレクトリ/jp1consの実行結果※2 • ls -lRa 共有ディレクトリ/jp1scopeの実行結果※2 • ls -lRa 共有ディレクトリ/jp1baseの実行結果※2 • ls -lRa 共有ディレクトリ/eventの実行結果※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • share_dir.log
資料採取日時	dateの実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • 論理ホスト名_imm_2nd.tar.{Z|gz} • date.log
ディスク情報	df -kの実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • df.log

情報の種類	採取資料	ファイル名※1
マシンの環境変数	env の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • env.log
マシンに設定されているホスト名の設定	• /etc/hosts（HP-UX） • /etc/inet/hosts（Solaris） • /etc/hosts（AIX） • /etc/hosts（Linux）	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • hosts
I/O システム情報（HP-UX 限定）	ioscan の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.Z • ioscan.log
プロセス間通信の共有メモリーステータス	ipcs -ma の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • ipcs.log
ネットワークアドレス解決のためのホスト名	jbsgethostbyname の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jbsgethostbyname.log(標準出力) • jbsgethostbyname_err.log(標準エラー出力)
	jbsgethostbyname **論理ホスト名**の実行結果※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • jbsgethostbyname_**論理ホスト名**.log
ヘルスチェック	jbshcstatus -debbug -a の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エラー出力)
	jbshcstatus -debbug -a -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • jbshcstatus.log(標準出力) • jbshcstatus_err.log(標準エラー出力)
イベントサービスのプロセス稼働状態	jevstat の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jevstat.log(標準出力) • jevstat_err.log(標準エラー出力)
イベントサービス以外のプロセス稼働状態	jbs_spmd_status の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jbs_spmd_status.log(標準出力) • jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
	jbs_spmd_status -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • jbs_spmd_status.log(標準出力) • jbs_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
自動アクションの実行結果	jcashowa の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jcashowa.log(標準出力) • jcashowa_err.log(標準エラー出力)

情報の種類	採取資料	ファイル名※1
	jcashowa -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • jcashowa.log(標準出力) • jcashowa_err.log(標準エラー出力)
自動アクション機能の動作状態	jcastatus の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jcastatus.log(標準出力) • jcastatus_err.log(標準エラー出力)
	jcastatus -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • jcastatus.log(標準出力) • jcastatus_err.log(標準エラー出力)
自動アクション定義ファイルの内容	jcastatus -d の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jcastatus_d.log(標準出力) • jcastatus_d_err.log(標準エラー出力)
	jcastatus -d -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • jcastatus_d.log(標準出力) • jcastatus_d_err.log(標準エラー出力)
相関イベント発行サービスの動作状況	jcoegsstatus の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jcoegsstatus.log(標準出力) • jcoegsstatus_err.log(標準エラー出力)
	jcoegsstatus -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • jcoegsstatus.log(標準出力) • jcoegsstatus_err.log(標準エラー出力)
プロセス稼働状態	jco_spmd_status の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jco_spmd_status.log(標準出力) • jco_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
	jco_spmd_status -h **論理ホスト名** の実行結果※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.Z{Z|gz} • jco_spmd_status.log(標準出力) • jco_spmd_status_err.log(標準エラー出力)
資料採取コマンドの実行結果	jim_log.sh コマンドの実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • jim_log_result.log
NIC の実装状況	netstat -i の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • netstat_i.log
ネットワーク統計情報	netstat -na の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • netstat_na.log

情報の種類	採取資料	ファイル名※1
マシンに設定されているユーザーの一覧	/etc/passwd	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • passwd
プロセス一覧	ps -elfa の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • ps.log
マシンに設定されているサービスポートの設定	• /etc/services（HP-UX） • /etc/inet/services（Solaris） • /etc/services（AIX） • /etc/services（Linux）	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • services
メモリー情報	• swapinfo -t の実行結果（HP-UX） • swap -l の実行結果（Solaris） • lsps -s の実行結果（AIX） • cat /proc/meminfo（Linux）	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • swapinfo.log
システム診断情報	• dmesg の実行結果（HP-UX） • dmesg の実行結果（Solaris） • alog -o -t boot の実行結果（AIX） • dmesg の実行結果（Linux）	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • sys_info.log
シスログ(syslog)	• /var/adm/syslog/syslog.log（HP-UX） • /var/adm/messages（Solaris） • /var/adm/messages（AIX） • /var/log/messages（Linux）	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • syslog.log
jcogencore コマンドで出力したJP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)のcore の解析情報(バックトレース)	seraph による解析結果 /var/opt/jp1cons	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • trace_モジュール名.log
	seraph による解析結果 共有ディレクトリ/jp1cons/log (jcogencore で出力したcore)※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • trace_モジュール名.log
OS のバージョン情報	uname -a の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • uname_a.log
カーネルパラメーター情報	HP-UX の場合 • sysdef の実行結果 • kmtune の実行結果 • ulimit -a の実行結果 Solaris の場合 • sysdef -i の実行結果 • ulimit -a の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} HP-UX の場合 • ssysdef.log • kmtune.log • ulimit.log Solaris の場合 • sysdef.log

情報の種類	採取資料	ファイル名※1
	AIX の場合 • lsattr -E -l sys0 の実行結果 • ulimit -a の実行結果 • /etc/security/limits の実行結果 Linux の場合 • sysctl -a の実行結果 • ulimit -a の実行結果	• ulimit.log AIX の場合 • isattr.log • ulimit.log • limits Linux の場合 • sysctl.log • ulimit.log
ページサイズ情報	• dmesg の実行結果（HP-UX） • pagesize の実行結果（Solaris） • pagesize の実行結果（AIX） • 採取しない（Linux）	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • pagesize.log
OS のパッチ適用状況	HP-UX の場合 • swlist -l product の実行結果 • swlist -l の実行結果 • swlist -l fileset -a patch_state *.*,c=patch の実行結果 Solaris 10 の場合 • showrev -a の実行結果 Solaris 11 の場合 • pkg info entire の実行結果 • pkg list の実行結果 AIX の場合 • instfix -a -icv の実行結果 • lslpp -l -a の実行結果 Linux の場合 • rpm -qa の実行結果	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} HP-UX の場合 • swlist_pro.log • swlist.log • swlist_pat.log Solaris 10 の場合 • showrev.log Solaris 11 の場合 • pkg.log AIX の場合 • instfix.log • lslpp.log Linux の場合 • rpm.log

注※1　資料採取ツールを実行したあとの圧縮ファイルおよび解凍後のファイル名です（圧縮ファイル，解凍後のファイルの順に記載しています）。

圧縮ファイルは Windows，HP-UX，Solaris および AIX の場合は.tar.Z 形式，Linux の場合は.tar.gz 形式で作成されます。

圧縮ファイルの内部ディレクトリ構成については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.sh（UNIX 限定）」（1. コマンド）を参照してください。

注※2　論理ホスト（クラスタ）環境の資料を採取する際に採取できます。

(2) JP1 の情報

JP1 に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。また，ネットワーク接続でのトラブルの場合，接続先マシン上のファイルの採取も必要です。

表 10–14　JP1 の情報（UNIX）

情報の種類		採取資料	ファイル名※1
JP1/IM，JP1/Base 共通	統合トレースログ	/var/opt/hitachi/HNTRLib2/spool/以下の全ファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • デフォルトで以下のファイル hntr2[1|2|3|4].log
JP1/IM - Manager(コンポーネント共通)	パッチ適用履歴	/opt/jp1imm/patch_history	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • patch_history
	パッチログ情報	/opt/jp1imm/update.log	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • update.log
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Console)	自動起動および自動終了スクリプト	/etc/opt/jp1cons/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.Z • 左記ファイルのコピーファイル
	設定および定義ファイル	/etc/opt/jp1cons/conf/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1cons/conf/以下のファイル※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	共通定義情報	/etc/opt/jp1cons/default/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	ログファイル	/var/opt/jp1cons/log/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1cons/log/以下のファイル※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	応答待ちイベント滞留ファイル※3	/var/opt/jp1cons/log/response/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1cons/log/response/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	jcogencore コマンドで出力した core の解析情報(Car ファイル)	car コマンドの結果 /var/opt/jp1cons/log (jcogencore で出力したcore)	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • car_モジュール名.tar.Z
		car コマンドの結果 共有ディレクトリ/jp1cons/log (jcogencore で出力したcore)※2	• 論理ホスト名_imm_2nd.tar.{Z|gz} • car_モジュール名.tar.Z
	core の解析情報(Car ファイル)	car コマンドの結果 /var/opt/jp1cons/log	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • core_モジュール名_car.tar.Z
		car コマンドの結果 共有ディレクトリ/jp1cons/log※2	• 論理ホスト名_imm_2nd.tar.{Z|gz} • core_モジュール名_car.tar.Z

情報の種類		採取資料	ファイル名※1
	相関イベント発行履歴ファイル	/var/opt/jp1cons/operation/evgen/以下のファイル	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1cons/operation/evgen※2	• **論理ホスト名**_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
JP1/IM - Manager(JP1/IM - Central Scope)	設定および定義ファイル	/etc/opt/jp1scope/conf/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1scope/conf/以下のファイル※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	共通定義情報	/etc/opt/jp1scope/default/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	ログファイル	/var/opt/jp1scope/log/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1scope/log/以下のファイル※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	core の解析情報(Car ファイル)	car コマンドの結果 /var/opt/jp1scope/log	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • core_**モジュール名**_car.tar.Z
		car コマンドの結果 **共有ディレクトリ**/jp1scope/log※2	• **論理ホスト名**_imm_2nd.tar.{Z|gz} • core_**モジュール名**_car.tar.Z
	DB 情報	/var/opt/jp1scope/database/以下のファイル	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1scope/database/以下のファイル※2	• **論理ホスト名**_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
JP1/IM - Manager(IM 構成管理)	設定および定義ファイル	/etc/opt/jp1imm/conf/imcf/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1imm/conf/imcf/以下のファイル※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	共通定義情報	/etc/opt/jp1imm/default/imcf/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	ログファイル	/var/opt/jp1imm/log/imcf/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1imm/log/imcf/以下のファイル※2	• **論理ホスト名**_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	core の解析情報(Car ファイル)	car コマンドの結果 /var/opt/jp1imm/log	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz}

情報の種類		採取資料	ファイル名※1
			• ./var/opt/jp1imm/log/_jp1_default/core/core_モジュール名_car.tar.Z
		car コマンドの結果 共有ディレクトリ/jp1imm/log※2	• 論理ホスト名_imm_2nd.tar.{Z|gz} • ./var/opt/jp1imm/log/_論理ホスト名/core/core_モジュール名_car.tar.Z
JP1/Base	自動起動および自動終了スクリプト	/etc/opt/jp1base/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	設定および定義ファイル	/etc/opt/jp1base/conf/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1base/conf/以下のファイル※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	共通定義情報	/etc/opt/jp1base/default/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	プラグインサービスの設定ファイル	/opt/jp1base/conf/plugin/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	パッチ適用履歴	/opt/jp1base/PatchInfo	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • PatchInfo
	パッチログ情報	/opt/jp1base/PatchLog	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • PatchLog
	ログファイル	/var/opt/jp1base/log	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ディレクトリ配下のCOMMAND 以外の全ファイル
		共有ディレクトリ/jp1base/log※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ディレクトリ配下のCOMMAND 以外の全ファイル
	ログおよびテンポラリファイル	/var/opt/jp1base/sys/tmp/以下のファイル	• jp1_default_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/event※2	• 論理ホスト名_imm_1st.tar.{Z|gz} • 左記ディレクトリ配下のIMEvent*以外の全ファイル
	SES 設定ファイル	• /tmp/.JP1_SES* • /usr/tmp/jp1_ses • /usr/lib/jp1_ses/log • /usr/lib/jp1_ses/sys • /usr/bin/jp1_ses/jp*	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル

情報の種類		採取資料	ファイル名※1
		• /var/opt/jp1_ses	
	コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/以下のファイル	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/jp1base /log/COMMAND/以下のファイル※2	• 論理ホスト名_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
	イベント DB	/var/opt/jp1base/sys/event/servers/default/以下のファイル	• jp1_default_imm_2nd.tar.{Z|gz} • 左記ファイルのコピーファイル
		共有ディレクトリ/event※2	• 論理ホスト名_imm_2nd.tar.{Z|gz} • IMEvent*.*

注※1　資料採取ツールを実行したあとの圧縮ファイルおよび解凍後のファイル名です（圧縮ファイル，解凍後のファイルの順に記載しています）。

圧縮ファイルは HP-UX，Solaris および AIX の場合は.tar.Z 形式，Linux の場合は.tar.gz 形式で作成されます。

圧縮ファイルの内部ディレクトリ構成については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jim_log.sh（UNIX 限定）」（1. コマンド）を参照してください。

注※2　論理ホスト（クラスタ）環境の資料を採取する際に採取できます。

注※3　応答待ちイベント滞留ファイルは，応答待ちイベント管理機能を有効にすると作成されます。jim_log.sh コマンドのオプションによって採取しないこともできます。詳細については，「9.5.3　jim_log.sh（UNIX 限定）」を参照してください。

(3)　オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- 発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，セントラルコンソールの構成）
- 再現性
- JP1/IM - View からログインしている場合のログインユーザー名

(4)　画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

- エラーダイアログボックスのハードコピー

(5)　WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報

WWW ページ版の JP1/IM - View の使用時にトラブルが発生した場合は，次の資料の採取が必要です。

ビューアー側

- Java のスタックトレースログ

  Java のスタックトレースログを取得するには，［Java コンソール］画面が表示されるよう，設定しておく必要があります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「4.16.4　［Java コンソール］画面の表示設定」を参照してください。

- Java™ Plug-in の Java トレースファイル

  Java トレースファイルは，次の場所にあります。

  システムドライブ:¥Documents and Settings¥ログインユーザー名¥Application Data¥Sun¥Java¥Deployment¥log¥

マネージャー側

- HTTP サーバのエラーログ
- HTTP サーバのアクセスログ

10.4　資料の採取方法

トラブルが発生したときに資料を採取する方法を次に示します。

10.4.1　Windows の場合

(1)　プロセスの状態を確認する

Windows のタスクマネージャを使用して，プロセスの動作状態を確認してください。正常に動作している場合に表示されるプロセスを次に示します。

(a)　JP1/IM - Manager

JP1/IM - Manager のプロセスを次に示します。なお，表内の括弧（　）内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 10–15　JP1/IM - Manager のプロセス（Windows）

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jco_spmd.exe (1)	JP1/IM - Manager のプロセス管理	jcamain.exe (1)	アクション実行サービス (プロセス管理表示名：jcamain)
		evtcon.exe (1)	イベントコンソールサービス (プロセス管理表示名：evtcon)
		evflow.exe (1)	イベント基盤サービス (プロセス管理表示名：evflow)
		jcsmain.exe (1)	セントラルスコープサービス※2 (プロセス管理表示名：jcsmain)
		jcfmain.exe (1)	IM 構成管理サービス※2 (プロセス管理表示名：jcfmain)
		evgen.exe (2)※1※3	相関イベント発行サービス※2 (プロセス管理表示名：evgen)
jco_service.exe (1)	JP1/IM - Manager の Windows サービス制御	－	－
jcfmain.exe (1)	JP1/IM - Manager の IM 構成管理	－	IM 構成管理サービス
		jcfallogtrap.exe (0～157)※4	ログ収集プロセス
pdservice.exe	IM データベース	－	Windows のサービス制御
		pdprcd.exe	プロセスサーバプロセス。

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
pdprcd.exe (1)	IM データベース	－	プロセスサーバプロセス。
		pdrsvre.exe (3)	後処理プロセス。プロセス異常終了時の後始末処理。
		pdmlgd.exe (1)	メッセージログサーバプロセス。メッセージ出力を制御する。
		pdrdmd.exe (1)	システムマネージャプロセス。ユニット起動・停止の制御および接続ユーザーを管理する。
		pdstsd.exe (1)	ステータスサーバプロセス。ユニット用ステータスファイルの入出力を制御する。
		pdscdd.exe (1)	スケジューラープロセス。シングルサーバプロセスへのトランザクションの割り付けを行う。
		pdtrnd.exe (1)	トランザクションサーバプロセス。トランザクションを制御する。
		pdtrnrvd.exe (1～128)※5	トランザクション回復プロセス。トランザクションの決着・回復を制御する。
		pdlogd.exe (1)	ログサーバプロセス。システムログ取得およびログ関連プロセスを制御する。
		pd_buf_dfw.exe (1)	デファードライトプロセス。DB 格納ディスクへのバックグラウンドライトを制御する。
		pdlogswd.exe (1)	ログスワッパプロセス。システムログ関連ファイルの割り当て，解放，I/O の管理，およびシンクポイントダンプを取得する。
		pdsds.exe (10～128)※6	シングルサーバプロセス。SQL を処理する。
pdsha.exe (1)	IM データベース	－	クラスタ用の組み込み HiRDB のサービス

(凡例)

－：なし

注※1　最大で 2，通常は 1 です。内訳は次のとおりです。

- 相関イベント発行サービスのプロセス本体
- イベントサービスと接続する際に一時的に生成されるプロセス。次の場合に生成される。
  ・相関イベント発行サービス起動時
  ・イベント取得フィルター更新時

注※2　デフォルトでは動作しません。

注※3　統合監視 DB を使用しない場合のサービスです。
注※4　開始時は 0 個，リモート監視の監視ファイル数に応じて，最大 157 個起動します。
注※5　開始時は 1 個，pdsds.exe プロセスが異常終了するたびに一時的に増加します。
注※6　開始時は 10 個，IM データベースへのアクセス要求数に応じて，最大 32 個起動します。

クラスタシステムで運用する場合，物理ホストおよび論理ホストごとに，上記のプロセスを実行します。同時に実行するプロセス数は，実行している物理ホストおよび論理ホストの数に，上記のプロセス数を掛けた数になります。

表中で，親プロセスがjco_spmd.exe であるプロセスはプロセス管理が制御していて，jco_spmd_status コマンドでプロセスの状態を確認できます。

正常に動作している場合の表示例を次に示します。

- 表示例

  ```
  c:¥>jco_spmd_status
  KAVB3690-I JP1_CONS の状態通知処理を開始します
  稼働中のプロセスを表示します
  プロセス名称 プロセスID
  evflow 3672
  jcamain 4088
  evtcon 4236
  jcsmain※1 4668
  jcfmain※2 4950
  evgen※3 5624
  KAVB3691-I プロセスは全て起動しています
  ```

  注※1　jcsmain は，セントラルスコープの機能を有効にした場合だけ表示されます。
  注※2　jcfmain は，IM 構成管理の機能を有効にした場合だけ表示されます。
  注※3　evgen は相関イベント発行サービスを有効にした場合だけ表示されます。

(b)　JP1/IM - View

JP1/IM - View のプロセスを次に示します。なお，表内の括弧（　）内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 10-16　JP1/IM - View のプロセス

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jcoview.exe (3+3※1+3※2)	JP1/IM - View のプロセス管理	jcoview_evt.exe (3+3※1)	スレッドダンプ出力イベントの送信
		java.exe	JP1/IM - View の画面制御

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
		(3+3※1+3※2)	
jcfview.exe (3)	JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーのプロセス管理	jcfview_evt.exe (3)	スレッドダンプ出力イベントの送信
		java.exe (3+3※1+3※2)	JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーの画面制御

注※1　JP1/IM - View（JP1/IM - Central Information Master 連携部分）が起動している場合に加算されます。

注※2　JP1/IM - View（JP1/IM - Rule Operation 連携部分）が起動している場合に加算されます。

(c)　JP1/IM - IM 構成管理・ビューアー

JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーのプロセスを次に示します。なお，表内の括弧（　）内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 10–17　JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーのプロセス

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jcfview.exe (3)	JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーの画面制御	jcfview_evt.exe (3)	スレッドダンプ出力イベントの送信
		java.exe (3)	JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーの画面制御

一つのマシンからログインして起動できる JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーの数は三つまでです。JP1/IM - IM 構成管理・ビューアーを一つ起動するごとに，一つのプロセスが起動します。

(2)　JP1/IM 用スレッドダンプを出力する

(a)　JP1/IM - View

次の手順に従いダンプファイルを出力してください。

1. タスク マネージャを開く。
2. [アプリケーション] ページ上で JP1/IM - View を選択し，ポップアップメニューから［手前に表示］を選択する。

   これによって操作不能になった JP1/IM - View かどうかを特定します。操作不能な JP1/IM - View を特定できた場合，次に進みます。
3. ポップアップメニューから［プロセスを表示］を選択する。

   ［プロセス］ページに切り替わります。JP1/IM - View の java.exe が選択された状態で表示されるため，これによってプロセス ID（PID）※を特定します。

   注※　PID 項目がない場合はメニューの［表示］－［列の選択］を選択し，［列の選択］画面で［PID(プロセス ID)］チェックボックスをチェックしてください。

4. 特定できたプロセス ID を引数にして，jcothreaddmp コマンドを実行する。

jcothreaddmp コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcothreaddmp（Windows 限定)」(1. コマンド）を参照してください。

(b) JP1/IM - Manager

ヘルスチェック機能によって，JP1/IM - Manager のイベントコンソールサービス，および相関イベント発行サービスの異常を検知した場合に，JP1/IM - Manager 用のダンプファイルを出力してください。次のようにjcogencore コマンドを実行します。

```
jcogencore
```

jcogencore コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcogencore」(1. コマンド）を参照してください。

(3) WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報を採取する

WWW ページ版の JP1/IM - View の使用時にトラブルが発生した場合は，この節で上げているほかの資料に加えて，次の資料を採取してください。

ビューアー側

- Java のスタックトレースログ

  採取手順を次に示します。

  1. ［Java コンソール］画面を選択し，「v」を入力する。

     Java のスタックトレースログが［Java コンソール］画面上に出力されます。
  2. コピーしてテキストファイルなどに手動で貼り付ける。
  3. テキストファイルを保存する。

- Java™ Plug-in の Java トレースファイル

  Java トレースファイルは，次の場所にあります。

  システムドライブ:¥Documents and Settings¥ログインユーザー名¥Application Data¥Sun¥Java¥Deployment¥log¥

  注意事項

  Java™ Plug-in の Java トレースファイルは，Java™ Plug-in の再起動時に消去されてしまいます。トラブルが発生したら，再起動する前にこのトレースファイルの内容を別ファイルに保存してください。

マネージャー側

- HTTP サーバのエラーログ
- HTTP サーバのアクセスログ

(4) 資料採取ツールを実行する

資料採取ツール（jim_log.bat またはjcoview_log.bat）を実行します。

JP1/IM - Manager で提供しているjim_log.bat を実行すれば，同ホスト上の JP1/IM - Manager，JP1/IM - View の障害調査に必要な資料を採取できます。

また，JP1/IM - View で提供しているjcoview_log.bat を実行すれば，JP1/IM - View の障害調査に必要な資料を採取できます。

運用に合わせて使い分けてください。

なお，資料採取ツールで採取する資料の総容量は膨大になるため，実行する前に容量を見積もり，ご使用のマシンの空き容量を確認する必要があります。jim_log.bat で採取する資料サイズについては，JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

jcoview_log.bat で採取する資料サイズについては，JP1/IM - View のリリースノートを参照してください。

次に，ツールの実行例を示します。

```
C:¥>"C:¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMM¥tools¥jim_log.bat" -f 資料格納フォルダ
```

資料格納フォルダは絶対パスで指定してください。また，資料格納フォルダが空白を含むフォルダの場合，"で囲んで指定してください。

ツールを実行すると，資料格納フォルダに指定したフォルダ下にjp1_default フォルダができ，そこに採取した資料がコピーされます。なお，採取した資料は，圧縮ツールを使用して圧縮してください。

(5) オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し，記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- 発生時刻
- 再現性
- JP1/IM - View からログインしている場合は，ログインユーザー名
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，セントラルコンソールの構成）

(6) 画面上のエラー情報を採取する

画面にエラーが表示された場合は，その情報も採取します。次に示すハードコピーを採取してください。

- エラーダイアログボックスのハードコピー
  詳細ボタンがある場合はその内容をコピーしてください。

(7) ユーザーダンプを採取する（Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，または Windows Vista 限定）

Windows 8.1，Windows 8，Windows Server 2012，Windows 7，Windows Server 2008，または Windows Vista で JP1/IM - View のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合，エラーダイアログボックスが表示されている状態で，次の手順でユーザーダンプを採取してください。

1. タスクマネージャを起動する。
   タスクマネージャは次のどちらかの手順で起動できます。
   - タスクバーの空いている場所で右クリックをして「タスクマネージャ」を選択する。
   - ［Ctrl］＋［Shift］＋［Esc］キーを押してタスクマネージャを起動する。
2. ［プロセス］タブをクリックする。
3. アプリケーションエラーで停止した JP1/IM - View のプロセス名を右クリックし，「ダンプファイルの生成」を選択する。
4. ユーザーダンプの出力先パスを示すダイアログボックスが表示されるので，そこから採取する。

注意事項

エラーダイアログボックスを消してしまうと正常なダンプは取得されないため，ユーザーダンプを採取できなくなってしまいます。誤って採取前にエラーダイアログボックスを（［OK］ボタンなどをクリックして）消してしまった場合は，現象を再現させてからユーザーダンプを採取してください。

(8) 問題レポートを採取する（Windows Server 2008※，または Windows Vista 限定）

Windows Server 2008※，または Windows Vista で JP1/IM - View のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合，次の手順で問題レポートを採取してください。

注※

Windows Server 2008 R2 (x64)以降の場合は除きます。

1. [ファイル名を指定して実行] のテキストボックスに「wercon」と入力し，[OK] ボタンをクリックする。
   [問題のレポートと解決策] ダイアログボックスが開きます。
2. 左側の領域で，[問題の履歴の表示] をクリックする。
3. 該当する問題をダブルクリックする。
   問題レポートの詳細が表示されます。
4. 「クリップボードにコピー」を選択する。
5. コピーした内容を，テキストファイルにコピーして保存する。
   保存した問題レポートを，障害調査用の資料として利用してください。

10.4.2 UNIX の場合

(1) プロセスの状態を確認する

ps コマンドを使用したときに表示されるプロセス名を次に示します。なお，UNIX の場合，資料採取ツール（jim_log.sh）を実行することでほかの資料とともにps コマンドの実行結果を採取できます。

(a) JP1/IM - Manager

JP1/IM - Manager のプロセスを次に示します。なお，表内の括弧（ ）内の数値は同時に実行するプロセス数です。

表 10-18 JP1/IM - Manager のプロセス（UNIX）

親プロセス名	機能	子プロセス名	機能
jco_spmd (1)※1	プロセス管理	jcamain (1)	アクション実行サービス (プロセス管理表示名：jcamain)
		evtcon※1 (1)	イベントコンソールサービス (プロセス管理表示名：evtcon)
		evflow (1)	イベント基盤サービス (プロセス管理表示名：evflow)
		jcsmain (1)	セントラルスコープサービス※3 (プロセス管理表示名：jcsmain)
		jcfmain (1)	IM 構成管理サービス※3 (プロセス管理表示名：jcfmain)
		evgen (2)※2※4	相関イベント発行サービス※3 (プロセス管理表示名：evgen)

注※1　これらのプロセスは，一時的にプロセス数が増加することがあります。

注※2　最大で 2，通常は 1 です。内訳は次のとおりです。

- 相関イベント発行サービスのプロセス本体
- イベントサービスと接続する際に一時的に生成されるプロセス。次の場合に生成される。
  ・相関イベント発行サービス起動時
  ・イベント取得フィルター更新時

注※3　デフォルトでは動作しません。

注※4　統合監視 DB を使用しない場合のサービスです。

クラスタシステムで運用する場合，物理ホストおよび論理ホストごとに，上記のプロセスを実行します。同時に実行するプロセス数は，実行している物理ホストおよび論理ホストの数に，上記のプロセス数を掛けた数になります。なお，クラスタシステムで動作しているプロセスは，ps コマンド実行時には次のように表示されます（evtcon，evgen は後ろに論理ホスト名がつきません）。

jco_spmd 論理ホスト名

evflow 論理ホスト名

jcamain 論理ホスト名

evtcon

evgen

jcsmain 論理ホスト名

jcfmain 論理ホスト名

表中で，親プロセスがjco_spmd であるプロセスはプロセス管理が制御していて，jco_spmd_status コマンドでプロセスの状態を確認できます。

正常に動作している場合の表示例を次に示します。

- 表示例

```
# jco_spmd_status
KAVB3690-I JP1_CONS の状態通知処理を開始します
稼働中のプロセスを表示します
プロセス名称 プロセスID
evflow 3672
jcamain 4088
evtcon 4236
jcsmain※1 4846
jcfmain※2 4950
evgen※3 5624
```

KAVB3691-I プロセスは全て起動しています

注※1　jcsmain は，セントラルスコープの機能を有効にした場合だけ表示されます。

注※2　jcfmain は，IM 構成管理の機能を有効にした場合だけ表示されます。

注※3　evgen は相関イベント発行サービスを有効にした場合だけ表示されます。

(2)　JP1/IM 用ダンプファイルを出力する

(a)　JP1/IM - Manager

ヘルスチェック機能によって，JP1/IM - Manager の異常を検知した場合にだけ JP1/IM - Manager 用のダンプファイルを出力してください。次のようにjcogencore コマンドを実行します。

```
jcogencore
```

jcogencore コマンドを実行すると，どのプロセスのダンプファイルを出力するかの問い合わせメッセージが表示されます。この場合，ヘルスチェック機能によって通知されたメッセージ情報に含まれるプロセスのダンプファイルを出力するよう選択してください。なお，すでにダンプファイルが存在する場合，上書きするかの問い合わせメッセージが表示されます。ダンプファイルを上書きしない場合は，n を選択し，コマンドを終了してください。そのあと，ダンプファイルを退避し，再度jcogencore コマンドを実行してください。

jcogencore コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcogencore」（1. コマンド）を参照してください。

(3)　WWW ページ版の JP1/IM - View に関連する情報を採取する

WWW ページ版の JP1/IM - View の使用時にトラブルが発生した場合は，この節で上げているほかの資料に加えて，次の資料を採取してください。

ビューアー側

- Java のスタックトレースログ

  採取手順を次に示します。

  1. ［Java コンソール］画面を選択し，「v」を入力する。

     Java のスタックトレースログが［Java コンソール］画面上に出力されます。
  2. コピーしてテキストファイルなどに手動で貼り付ける。
  3. テキストファイルを保存する。

- Java^{TM} Plug-in の Java トレースファイル

  Java トレースファイルは，次の場所にあります。

  システムドライブ:¥Documents and Settings¥ログインユーザー名¥Application Data¥Sun¥Java¥Deployment¥log¥

注意事項

Java™ Plug-in の Java トレースファイルは，Java™ Plug-in の再起動時に消去されてしまいます。トラブルが発生したら，再起動する前にこのトレースファイルの内容を別ファイルに保存してください。

マネージャー側

- HTTP サーバのエラーログ
- HTTP サーバのアクセスログ

(4) 資料採取ツールを実行する

資料採取ツール（jim_log.sh）を実行します。

JP1/IM - Manager で提供しているjim_log.sh を実行すれば，同ホスト上の JP1/IM - Manager，JP1/Base の障害調査に必要な資料を採取できます。

なお，資料採取ツールで採取する資料の総容量は膨大になるため，実行する前に容量を見積もり，ご使用のマシンの空き容量を確認する必要があります。資料サイズの見積もりについては，JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

次に，ツールの実行例を示します。

```
# /opt/jp1imm/tools/jim_log.sh -f 資料格納ディレクトリ
```

ツールを実行すると，採取資料が tar 形式でまとめられ，圧縮した形で出力されます。

(5) オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し，記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- 発生時刻
- 再現性
- JP1/IM - View からログインしている場合は，ログインユーザー名
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，セントラルコンソールの構成）

(6) 画面上のエラー情報を採取する

画面にエラーが表示された場合は，その情報も採取します。次に示すハードコピーを採取してください。

- エラーダイアログボックスのハードコピー
  詳細ボタンがある場合はその内容をコピーしてください。

10.5.1　主なトラブルと対処方法

一般的に想定されるトラブルについて，対処方法を説明します。

(1)　JP1/IM - View からログインできない場合の対処方法

メッセージの種類によって対処方法が異なります。

「KAVB1200-E　接続中に通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/IM - Manager が起動されていません。
- 接続先ホスト名が誤っています。

対処

要因に従って対処してください。

- JP1/IM - Manager を起動してください。
- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。

「KAVB0104-E　ユーザー認証に失敗しました」メッセージが出力される。

要因

接続先に対するユーザー名またはパスワードが誤っています。

対処

接続先に対するユーザー名またはパスワードが正しいかどうかを確認してください。

「KAVB0109-E　接続ホストと認証サーバの間で，通信エラーが発生しました」または「KAVB0111-E　認証サーバに接続できません」メッセージが出力される。

要因

接続先ホスト上で設定されている認証サーバが起動されていません。

対処

次のことを確認し，問題点を対処してください。

- 認証サーバが起動しているか。
- 接続ホストと認証サーバ間の通信ができるか。
- 認証サーバの設定が間違っていないか。

「KNAN20100-E　指定された接続先ホスト名のアドレスの解決に失敗しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- 接続先ホスト名が誤っています。
- 接続先ホストが起動されていません。
- 接続先ホストとの通信で障害が発生しています。

対処

要因に従って対処してください。

- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- 接続先ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続先ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

「KNAN20101-E　接続中に通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- 接続先ホスト名が誤っています。
- 接続先ホストが起動されていません。
- 接続先ホストとの通信で障害が発生しています。

対処

要因に従って対処してください。

- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- 接続先ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続先ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

「KNAN20102-E　接続中に通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- 接続先ホスト名が誤っています。
- ポート番号が誤っています。
- 接続先ホストが起動されていません。
- 接続先ホストとの通信で障害が発生しています。

対処

要因に従って対処してください。

- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- ポート番号は使用できる番号どうかを確認してください。

- 接続先ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続先ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

「KNAN20103-E　データ送信中に，通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

接続ホストと認証サーバの間で，通信エラーが発生しました。

対処

次の内容を確認してから，再実行してください。

- 接続ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- 接続ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

「KNAN20104-E　データ受信中に，通信エラーが発生しました」メッセージが出力される。

要因

ホスト接続中に，通信エラーが発生しました。

対処

次を確認してから，再実行してください。

- 接続先ホスト名が正しいかどうかを確認してください。
- ポート番号が正しいかどうかを確認してください。
- 接続先ホストが起動しているかどうかを確認してください。
- 接続先ホストとの通信に問題はないかどうかを確認してください。

(2)　イベントサービスへの接続に失敗する場合の対処方法

要因 1

マネージャー上のイベントサービスが起動していないおそれがあります。

対処 1

`jbs_spmd_status` コマンドでマネージャー上のイベントサービスが起動しているかどうかを確認してください。

起動していない場合は，イベントサービスを起動してください。

要因 2

API 設定ファイル（api）の`server` パラメーターの設定に誤りがあるおそれがあります。

対処 2

API 設定ファイル（api）の`server` パラメーターの設定は，イベントサーバ設定ファイル（conf）の`ports` パラメーターの設定と一致させてください。

なお，API 設定ファイル（api）のserver パラメーターのアドレスやイベント設定ファイル（conf）のports パラメーターのアドレスにホスト名を指定している場合，IP アドレスの解決は OS の処理に依存するため，意図する IP アドレスで動作しないおそれがあります。

API 設定ファイル（api），およびイベントサーバ設定ファイル（conf）については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の API 設定ファイル（api），およびイベントサーバ設定ファイル（conf）の説明をしている章を参照してください。

要因 3

IPv6 ホストで JP1/IM - Manager を起動しているおそれがあります。

対処 3

JP1/IM - Manager は，IPv6 ホストをサポートしていません。監視対象ホストが IPv6 ホストの場合は，JP1/IM - Manager を IPv4・IPv6 ホストにインストールしてください。また，各エラーメッセージに従って対処してください。

(3) ［イベントコンソール］画面で定義メニューが表示されない場合の対処方法

［イベントコンソール］画面の「オプション」のメニューで定義関連が非活性となる。

要因

JP1 資源グループの設定が誤っています。

対処

JP1 資源グループの設定で，ログインする JP1 ユーザーの JP1 資源グループにグループ名「JP1_Console」，権限レベルに「JP1_Console_Admin」または「JP1_Console_Operator」が設定されているか確認してください。

(4) トラップした JP1 イベントのメッセージが文字化けしてしまう場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- 監視するログファイルの文字コードと，［設定ファイル］ページで設定した文字コードが一致していない。
- 設定した文字コードがエージェントホストでサポートされていない。

それぞれの対処を次に示します。

監視するログファイルの文字コードと，［設定ファイル］ページで設定した文字コードが一致していない。

監視するログファイルの文字コードを設定し直し，再度実行してください。

なお，このトラブルは，リモート監視の場合も同様です。

設定した文字コードがエージェントホストでサポートされていない。

JP1/IM - Manager がサポートしている文字コードでも，エージェントホストにインストールされている JP1/Base のバージョンによっては，設定できない文字コードがあります。エージェントホストにイ

ンストールされている JP1/Base のバージョンを確認し，サポートされている文字コードを設定してください。そのあと，再度実行してください。

(5) コマンド実行ができない場合の対処方法

[コマンド実行] 画面で「KAVB0415-E　実行ホスト名に指定された業務グループ，または監視グループが定義されていないため，コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定した業務グループ，または監視グループが定義されていません。

対処

業務グループまたは監視グループを見直してから，コマンドを再実行してください。なお，このメッセージは JP1/Base の jcocmdshow コマンドでは確認できません。

それでも実行できない場合は，システム管理者に連絡し，業務グループの設定を確認してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0416-E　実行ホスト名に指定されたホストが管理対象でないため，コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定したホストは管理対象ではありません。

対処

ホストを見直してから，コマンドを再実行してください。なお，このメッセージは JP1/Base の jcocmdshow コマンドでは確認できません。

それでも実行できない場合は，システム管理者に連絡し，業務グループの設定を確認してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0417-E　実行ホスト名に指定された業務グループに対してコマンドを実行する権限がないため，コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定した業務グループに対してコマンドを実行する権限がありません。

対処

業務グループ，または監視グループを見直してから，コマンドを再実行してください。なお，このメッセージは JP1/Base の jcocmdshow コマンドでは確認できません。

それでも実行できない場合は，システム管理者に連絡し，業務グループの設定を確認してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0418-E　実行ホスト名に指定されたホストに対してコマンドを実行する権限がないため，コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定したホストに対してコマンドを実行する権限がありません。

対処

ホストを見直してから，コマンドを再実行してください。なお，このメッセージは JP1/Base の jcocmdshow コマンドでは確認できません。

それでも実行できない場合は，システム管理者に連絡し，業務グループの設定を確認してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0419-E　実行ホスト名に指定されたホスト名と同じ名称のホストグループが定義されているため，コマンドが実行できません。(実行ホスト名:実行ホスト名)」メッセージが出力される。

要因

実行先ホスト名に実行ホストと同じ名称のホストグループ名が指定されています。

対処

実行ホスト名に指定したホスト名と同じ名称のホストグループがないか確認してください。ある場合は，ホスト名かホストグループのどちらかの名称を変更してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0422-E　業務グループ，または監視グループにホストが定義されていません。(グループ名:グループ名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に指定した業務グループ，または監視グループには，ホストが一つも定義されていません。

対処

指定した業務グループ，または監視グループにホストを定義してください。また，業務グループ，または監視グループのパスの表記を見直してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB0423-E　業務グループ，または監視グループが定義されていません。(グループ名:グループ名)」メッセージが出力される。

要因

実行ホスト名に，定義されていない業務グループ，または監視グループが指定されています。

対処

指定した業務グループ，または監視グループを定義してください。また，業務グループ，または監視グループのパスの表記を見直してください。

[コマンド実行] 画面で「KAVB2027-E　ユーザー名のユーザ偽装に失敗したため，コマンド実行できません」メッセージが出力される。

要因

ユーザーマッピングの設定が誤っています。

対処

ユーザーマッピングの設定を確認してください。設定されていない場合はユーザーマッピングを設定してください。この設定は Windows の場合必須です。

なお，マッピング元のサーバ名として指定するホストが DNS を使用している場合，ドメイン名を含めて記述する必要があります。ホスト名が正しくて，偽装に失敗する場合は DNS を使用していないか確認してください。

ユーザーマッピングの設定については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザーマッピングに関する章を参照してください。

［コマンド実行］画面で「KAVB2031-E　ホスト（ホスト名）が管理対象でないため，コマンドが実行できません」メッセージが出力される。

要因

構成定義ファイルの定義に誤りがあります。または，実行ホスト名が解決できません。

対処

- 構成定義ファイルの定義で構成情報が定義されているか確認してください。
- 実行ホスト名を解決できるようにしてください。
- Windows で物理ホストと論理ホストの両方を起動する環境でこのメッセージが出力される場合は，ネットワークの設定が不足しています。詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のクラスタ運用に関する注意事項（Windows 限定の注意事項）の中の，同一ホスト上で物理ホスト環境と論理ホスト環境を構築する場合の項を参照してください。

［コマンド実行］画面で「KAVB8452-E　ログイン中に業務グループによる参照・操作制限機能が有効から無効に変更されたため，実行できません」メッセージが出力される。

要因

JP1/IM - View が接続している状態で，業務グループによる参照・操作制限を有効から無効に変更しています。

対処

JP1/IM - View を再起動したあと，再ログインしてからコマンドを再実行してください。

DOS プロンプトでの実行結果と［コマンド実行］画面や自動アクションでの実行結果が異なる。

要因

実行する OS ユーザーの環境が不正です。

対処

`jcocmddef` コマンドの`-loaduserprofile` オプションを有効にしてください。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「7.4.4(3)(c)　コマンドを実行するときの環境」，およびマニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章を参照してください。

［コマンド実行内容プレビュー］画面からコマンドを実行すると，KAVB0002-E のメッセージが表示され，コマンドが中断される。

要因

実行ホスト名または実行コマンドが指定されていません。

対処

実行ホスト名または実行コマンドを指定し，再度コマンドを実行してください。

[コマンド実行内容プレビュー]画面からコマンドを実行すると，KAVB1037-E のメッセージが表示され，コマンドが中断される。

要因

実行ホスト名，実行コマンド，または環境変数ファイルに指定した値が上限値を超えています。

対処

上限値を超えている項目の値を見直し，再度コマンドを実行してください。

[コマンド実行]画面が起動できなく，KAVB1046-E のメッセージが表示される。

要因

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルの読み込み時に，I/O エラーが発生しました。

対処

必要な権限がイベント引き継ぎ情報変換設定ファイルに設定されているか確認し，再度コマンドを実行してください。

それでも実行できない場合は，システム管理者に連絡してください。

(6) イベント情報を引き継げない場合の対処方法

属性値が引き継がれない。また，[コマンド実行内容プレビュー]画面に警告情報が表示される。

要因

変数に対応する属性が，イベントに存在しません。

または，変数に対応する属性値がありません。

対処

指定したイベントおよび変数を指定したコマンドの実行内容を確認し，再度コマンドを実行してください。

[コマンド実行]画面に引き継ぎ対象のイベントが表示されない。

要因

引き継ぎできないメニューまたはボタンをクリックしました。

対処

引き継げるイベントを一つ選択し，引き継ぎできるメニューまたはボタンをクリックしてください。

イベント引き継ぎ情報の特殊文字が変換されない。また，KAVB1040-W，KAVB1041-W，KAVB1042-W，KAVB1043-W，または KAVB1044-W のメッセージが表示される。

要因

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルが不正です。

対処

イベント引き継ぎ情報変換設定ファイルを見直し，[コマンド実行]画面を再起動してください。

［コマンド実行内容プレビュー］画面で，切り捨て前の文字がすべて表示されない。また，KAVB1036-W のメッセージが表示される。

要因

変数を置き換えたあとの切り捨て前の値の文字数が，［コマンド実行内容プレビュー］画面のテキストエリアに表示できる上限値を超えています。

対処

変数を指定しているコマンド実行内容を見直し，再度実行してしてください。

(7) ［コマンド］ボタンからコマンドを実行できない場合の対処方法

KAVB1035-E のメッセージが表示され，コマンドが中断される。

要因

実行するコマンドはイベントを引き継ぐ設定になっていますが，引き継ぎ対象のイベントが指定されていません。

対処

引き継ぐイベントを指定し，再度実行してください。

KAVB0002-E のメッセージが表示され，コマンドが中断される。

要因

イベント情報を引き継いだあとに，実行ホスト名または実行コマンドの値が空文字になっています。

対処

実行するコマンドに設定している項目の変数名，および引き継ぐイベントが正しいか確認し，再度実行してください。

KAVB1037-E のメッセージが表示され，コマンドが中断される。

要因

イベント情報を引き継いだあとに，実行ホスト名，実行コマンド，または環境変数ファイルに指定した値が上限値を超えています。

対処

上限値を超えた項目の値を見直し，再度実行してください。

(8) クライアントアプリケーションを起動できない場合の対処方法

KAVB1034-E のメッセージが［コマンド実行］画面に表示され，コマンドが中断される。

次の要因が考えられます。

- コマンドの実行ファイルパスが見つからない。
- コマンドの実行権限がない。
- コマンドプロセスの起動時に，入出力エラーが発生した。

それぞれの対処を次に示します。

コマンドの実行ファイルパスが見つからない。

コマンドラインを見直し，コマンドプロンプトで実行できることを確認してください。そのあと，再度実行してください。

コマンドの実行権限がない。

実行するコマンドに実行権限があるか確認し，コマンドプロンプトで実行できることを確認してください。そのあと，再度実行してください。

コマンドプロセスの起動時に，入出力エラーが発生した。

実行するコマンドがコマンドプロンプトで実行できることを確認し，再度実行してください。

(9) コマンド実行履歴ファイルが壊れている場合の対処方法

電源断によるマシン停止などによってコマンド実行履歴ファイルへの書き込みが中断された場合，自動アクションまたはコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れる場合があります。

その場合，次に示すメッセージが出力されます。

- JP1/IM - View の［アクション結果詳細］画面，または`jcashowa` コマンドで自動アクションの実行結果を表示したときに，実行結果に「KAVB5151-W コマンド実行履歴からデータの取得に失敗しました」が表示される。

  自動アクションのコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
- `jcocmdlog` コマンドを実行したときに，「KAVB2523-E コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルがオープンできません」が出力される。

  コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
- `jcocmdlog` コマンドを実行したときに，「KAVB2525-E 自動アクションのコマンド実行履歴ファイルがオープンできません」が出力される。

  自動アクションのコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
- `jcocmdlog` コマンドを実行したときに，「KAVB2527-E コマンド実行履歴ファイルの読込に失敗しました」が出力される。
  - オプションに`-act` を指定している場合，自動アクションのコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
  - オプションに`-window` を指定している場合，コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
  - `-act` と`-window` のオプションを指定していない場合，自動アクションまたはコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。
- 統合トレースログに「KAVB2064-E コマンド実行履歴ファイルの書き込みに失敗しました」が出力される。

  自動アクションまたはコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルが壊れているおそれがあります。

これらのメッセージが出力される場合，次の手順でコマンド実行履歴ファイルの状態を確認してください。

1. 壊れたおそれのあるファイルを(a)に示す手順で確認する。
2. 確認の結果，壊れていない場合には各メッセージの対処方法に従って，対処する。
3. 壊れている場合は，(b)の手順で回復する。
4. (b)の手順でも回復しない場合は，(c)の手順に従ってコマンド実行履歴ファイルを削除する。

(a) コマンド実行履歴ファイルの確認手順

自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを確認する場合

- Windows の場合
  コマンドプロンプトから次のコマンドを実行してください。
  cd Base パス¥log¥COMMAND
  (論理ホストの場合：cd 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND)
  Jischk -l3 Base パス¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8
- UNIX の場合
  次のコマンドを実行してください。
  cd /var/opt/jp1base/log/COMMAND
  (論理ホストの場合：cd 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND)
  /opt/jp1base/bin/Jischk -l3 actisamlogv8

コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを確認する場合

- Windows の場合
  コマンドプロンプトから次のコマンドを実行してください。
  cd Base パス¥log¥COMMAND
  (論理ホストの場合：cd 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND)
  Jischk -l3 Base パス¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8
- UNIX の場合
  次のコマンドを実行してください。
  cd /var/opt/jp1base/log/COMMAND
  (論理ホストの場合：cd 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND)
  /opt/jp1base/bin/Jischk -l3 cmdisamlogv8

Jischk コマンドでファイルの不正が検出されない場合，コマンド実行履歴ファイルは壊れていません。
Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合には，(b)に示す手順でコマンド実行履歴ファイルを回復してください。

Jischk コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(b) コマンド実行履歴ファイルの回復手順

自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを回復する場合

- Windows の場合

  次の操作は Administrators 権限で実行してください。また，回復する際には，ACTISAMLOGV8.DRF の約 3 倍の空き容量が必要です。

  1. JP1/IM - Manager を停止する。
  2. JP1/Base を停止する。
  3. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行し，コマンド実行履歴ファイルを回復する。

     なお，Jiscond コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

     cd Base パス¥log¥COMMAND

     （論理ホストの場合：cd 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND）

     Jiscond ACTISAMLOGV8
  4. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して，コマンド実行履歴ファイルが正常に回復したことを確認する。

     Jischk -l3 ACTISAMLOGV8

     Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合，コマンド実行履歴ファイルは回復できない状態です。正常に回復できなかった場合，(c)に示す手順で自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを削除してください。
  5. JP1/Base を起動する。
  6. JP1/IM - Manager を起動する。

- UNIX の場合

  次の操作はスーパーユーザー権限で実行してください。また，回復する際には，actisamlogv8.DAT の約 3 倍の空き容量が必要です。

  1. JP1/IM - Manager を停止する。
  2. JP1/Base を停止する。
  3. 次のコマンドを実行し，コマンド実行履歴ファイルを回復する。

     なお，Jiscond コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

     cd /var/opt/jp1base/log/COMMAND

     （論理ホストの場合：cd 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND）

     /opt/jp1base/bin/Jiscond actisamlogv8
  4. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して，コマンド実行履歴ファイルが正常に回復したことを確認する。

     /opt/jp1base/bin/Jischk -l3 actisamlogv8

Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合，コマンド実行履歴ファイルは回復できない状態です。正常に回復できなかった場合，(c)に示す手順で自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを削除してください。

5. JP1/Base を起動する。
6. JP1/IM - Manager を起動する。

コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを回復する場合

- Windows の場合

  次の操作は Administrators 権限で実行してください。また，回復する際には，CMDISAMLOGV8.DRF の約 3 倍の空き容量が必要です。

  1. JP1/IM - Manager を停止する。
  2. JP1/Base を停止する。
  3. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行し，コマンド実行履歴ファイルを回復する。

     Jiscond コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

     cd Base パス¥log¥COMMAND

     (論理ホストの場合：cd 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND)

     Jiscond CMDISAMLOGV8
  4. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して，コマンド実行履歴ファイルが正常に回復したことを確認する。

     Jischk -l3 CMDISAMLOGV8

     Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合，コマンド実行履歴ファイルは回復できない状態です。正常に回復できなかった場合，(c)に示す手順でコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを削除してください。
  5. JP1/Base を起動する。
  6. JP1/IM - Manager を起動する。

- UNIX の場合

  次の操作はスーパーユーザー権限で実行してください。また，回復する際には，cmdisamlogv8.DAT の約 3 倍の空き容量が必要です。

  1. JP1/IM - Manager を停止する。
  2. JP1/Base を停止する。
  3. 次のコマンドを実行する。

     cd /var/opt/jp1base/log/COMMAND

     (論理ホストの場合：cd 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND)

     /opt/jp1base/bin/Jiscond cmdisamlogv8

4. コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して，コマンド実行履歴ファイルが正常に回復したことを確認する。

   ```
   /opt/jp1base/bin/Jischk -l3 cmdisamlogv8
   ```

   Jischk コマンドでファイルの不正が検出された場合，コマンド実行履歴ファイルは回復できない状態です。正常に回復できなかった場合，(c)に示す手順でコマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを削除してください。

5. JP1/Base を起動する。
6. JP1/IM - Manager を起動する。

(c) コマンド実行履歴ファイルの削除手順

自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを削除する場合

自動アクションのコマンド実行履歴ファイルを削除すると，過去の自動アクションによる履歴はすべて失われます。削除することに問題がある場合は，ファイルをバックアップしてください。詳細については，「1.2.2 データベースのバックアップおよびリカバリー」を参照してください。

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. JP1/Base を停止する。
3. コマンド実行履歴ファイルを削除する。

   正常に回復できなかった次のファイルを削除してください。なお，コマンド実行履歴ファイルについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

   Windows の場合

   表 10-19 削除対象ファイル格納場所（Windows）

ファイル名	ファイル名
自動アクションのコマンド実行履歴ファイル	• Base パス¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.DRF • Base パス¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.K01 • Base パス¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.KDF
	• 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.DRF • 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.K01 • 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥ACTISAMLOGV8.KDF
アクション情報ファイル	Console パス¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス¥log¥action¥acttxt{1|2}.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥acttxt{1|2}.log

   UNIX の場合

表 10–20　削除対象ファイル格納場所（UNIX）

ファイル名	ファイル名
自動アクションのコマンド実行履歴ファイル	• /var/opt/jp1base/log/COMMAND/actisamlogv8.DAT • /var/opt/jp1base/log/COMMAND/actisamlogv8.K01 • /var/opt/jp1base/log/COMMAND/actisamlogv8.DEF
	• 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/actisamlogv8.DAT • 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/actisamlogv8.K01 • 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/actisamlogv8.DEF
アクション情報ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log

4. JP1/Base を起動する。

5. JP1/IM - Manager を起動する。

コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを削除する場合

コマンド実行のコマンド実行履歴ファイルを削除すると，過去のコマンド実行による履歴はすべて失われます。削除することに問題がある場合は，ファイルをバックアップしてください。詳細については，「1.2.2 データベースのバックアップおよびリカバリー」を参照してください。

1. JP1/IM - Manager を停止する。

2. JP1/Base を停止する。

3. コマンド実行履歴ファイルを削除する。

   正常に回復できなかった次のファイルを削除してください。なお，コマンド実行履歴ファイルについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

   Windows の場合

表 10–21　削除対象ファイル格納場所（Windows）

ファイル名	ファイル名
コマンド実行のコマンド実行履歴ファイル	• Base パス¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.DRF • Base パス¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.K01 • Base パス¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.KDF
	• 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.DRF • 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.K01 • 共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥CMDISAMLOGV8.KDF

UNIX の場合

表 10–22　削除対象ファイル格納場所（UNIX）

ファイル名	ファイル名
コマンド実行のコマンド実行履歴ファイル	• /var/opt/jp1base/log/COMMAND/cmdisamlogv8.DAT • /var/opt/jp1base/log/COMMAND/cmdisamlogv8.K01 • /var/opt/jp1base/log/COMMAND/cmdisamlogv8.DEF
	• 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/cmdisamlogv8.DAT • 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/cmdisamlogv8.K01 • 共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/cmdisamlogv8.DEF

4. JP1/Base を起動する。

5. JP1/IM - Manager を起動する。

(10)　自動アクションの実行状態が「状態不明」と表示される場合の対処方法

自動アクションの実行結果を保存したファイル（アクション情報ファイル，アクションホスト名格納ファイル，コマンド実行履歴ファイル）に不整合が発生しているおそれがあります。

この場合，実行結果を保存したファイルを削除する必要があります。なお，ファイルを削除すると，過去の自動アクションの実行結果は参照できなくなります。削除することに問題がある場合は，ファイルをバックアップしてください。詳細については，「1.2.2　データベースのバックアップおよびリカバリー」を参照してください。

削除手順を次に示します。

1. JP1/IM - Manager を停止し，JP1/Base を停止する。

   クラスタ構成の場合は，クラスタソフトの操作で論理ホストを停止してください。また，停止確認後に共有ディスクを共有ディレクトリにマウントしてください。

2. アクション情報ファイル，アクションホスト名格納ファイル，およびコマンド実行履歴ファイルを削除する。

   削除ファイルの格納場所は次の表のとおりです。

   Windows の場合

   表 10–23　削除対象ファイル格納場所（Windows）

ファイル名	格納場所
アクション情報ファイル	Console パス¥log¥action¥actinf.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	Console パス¥log¥action¥acttxt{1|2}.log
	共有フォルダ¥jp1cons¥log¥action¥acttxt{1|2}.log

ファイル名	格納場所
コマンド実行履歴ファイル	Base パス¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル

UNIX の場合

表 10–24　削除対象ファイル格納場所（UNIX）

ファイル名	格納場所
アクション情報ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/actinf.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/actinf.log
アクションホスト名格納ファイル	/var/opt/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log
	共有ディレクトリ/jp1cons/log/action/acttxt{1|2}.log
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル
	共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル

3. JP1/Base を起動し，JP1/IM - Manager を起動する。

クラスタ構成の場合は，共有ディスクをアンマウントしてから，クラスタソフトの操作で論理ホストを起動してください。

(11)　自動アクションが遅延する場合の対処方法

自動アクションの状態が「実行中」のままになっている。

まず，jcocmdshow コマンド※で，コマンドの状態を確認してください。その結果によって，対処方法が異なります。確認して得られた結果ごとに，考えられる要因とその対処方法について次に説明します。

「コマンド実行経過時間（ETIME）」が長いコマンドがある場合。

要因

終了しないコマンドまたは時間がかかるコマンドが実行されています。

対処

jcocmddel コマンド※で，終了しないコマンドを削除してください。詳細については，「7.1.4　コマンドの実行状態を確認または削除する」およびマニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「7.4.4(6)　トラブルシューティング用コマンド」を参照してください。

「KAVB2239-E　接続先ホストへのネットワーク接続を確立できませんでした」メッセージが表示される場合。

要因

実行先ホストの JP1/Base がコマンド実行中に停止しました。

対処

実行先ホストの JP1/Base を再起動してください。

なお，JP1/Base を監視する方法として，JP1/Base のヘルスチェック機能があります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「7.4.8　JP1/Base のヘルスチェック機能」を参照してください。

「コマンド実行状態（STATUS)」が「Q」となっているコマンドが大量にある場合。

要因

自動アクション実行数が多過ぎます。

対処

実行中の自動アクションを確認して，次を見直してください。

- 不要な自動アクションが設定されていないか
- 自動アクションを設定する JP1 イベントを絞り込めないか

不要な自動アクションがない場合は，jcocmddef コマンド※で，コマンド同時実行数を増やしてください。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「12.7.6　コマンド実行環境の検討」を参照してください。

注※

jcocmdshow コマンド，jcocmddel コマンドおよびjcocmddef コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章を参照してください。

(12)　監視オブジェクト DB が破損している場合の対処方法

「KAVB7247-E JP1/IM - CS は JP1/IM - View からの操作要求が実行できませんでした(要因:データベースのレコード不正)」，「KAVB7248-E JP1/IM - CS は JP1/IM - View からの操作要求が実行できませんでした(要因:データベースの操作不能)」などのメッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB に論理矛盾が発生している。

対処

次の処置を実行してください。

1. JP1/IM - Manager を停止する。
2. 障害調査用に，Scope パス¥database フォルダのバックアップをとる。
3. jcsdbsetup -f コマンドを実行する。
4. Scope パス¥database¥jcshosts フォルダ内のすべてのファイルを削除する。
5. jcshostsimport -r jcshosts コマンドを実行する。
6. JP1/IM - Manager を起動する。

(13) 監視オブジェクト DB のロックが解除されない場合の対処方法

監視オブジェクト DB がロックされたままになっている。

要因

次の要因が考えられます。

- JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB でロック取得に失敗している。

対処

次の処置を実行してください。

1. jcsmain プロセスが起動していないことを，jco_spmd_status コマンドで確認する。
2. Jismlcktr コマンドを実行する。
3. Scope パス¥database 以下のファイルをロックしているプロセスを確認する。
4. 手順 3 で確認したプロセス ID に対して，Jislckfree -p PID コマンドを実行する。

Jismlcktr，Jislckfree コマンドは JP1/Base が提供しています。詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドの章を参照してください。

(14) アクション結果の詳細情報（メッセージ）に KAVB5150-W が表示される場合の対処方法

［アクション結果詳細］画面を表示すると，メッセージ欄に「KAVB5150-W コマンド実行履歴に該当データがありません」と表示される。

要因

コマンド実行履歴ファイル（ISAM）がラップしたおそれがあります。コマンド実行履歴ファイルがラップすると，自動アクションの実行結果が表示されません。

対処

この現象が頻繁に起こる場合には，コマンド実行履歴ファイルのレコード数の上限値を大きくすることを検討してください。レコード数の上限値を大きくすると，ディスク容量も圧迫しますので，その点も考慮に入れてください。

次に手順を示します。

レコード数の上限値を変更する

レコード数の上限値を変更した場合，設定を有効にするためにコマンド実行履歴ファイルを削除する必要があります。コマンド実行履歴ファイルを削除すると，過去の自動アクション，コマンド実行による履歴はすべて失われます。削除することに問題がある場合は，ファイルをバックアップしてください。詳細については，「1.2.2　データベースのバックアップおよびリカバリー」を参照してください。

1. jcocmddef コマンドで，コマンド実行履歴ファイルのレコード数を変更する。
2. JP1/IM - Manager，JP1/Base を停止する。

クラスタ構成の場合は，クラスタソフトの操作で論理ホストを停止してください。

また，停止確認後に共有ディスクを共用ディレクトリにマウントしてください。

3. コマンド実行履歴ファイルを削除する。

コマンド実行履歴保存ディレクトリ以下の全ファイルが該当します。コマンド実行履歴保存ディレクトリは，デフォルトでは下記のとおりです。

Windows の場合

表 10–25　コマンド実行履歴ファイル格納場所（Windows）

ファイル名	格納場所
コマンド実行履歴ファイル	Base パス¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル
	共有フォルダ¥jp1base¥log¥COMMAND¥以下の全ファイル

UNIX の場合

表 10–26　コマンド実行履歴ファイル格納場所（UNIX）

ファイル名	格納場所
コマンド実行履歴ファイル	/var/opt/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル
	共有ディレクトリ/jp1base/log/COMMAND/以下の全ファイル

なお，コマンド実行履歴ファイルについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

4. JP1/Base，JP1/IM - Manager を起動する。

クラスタ構成の場合は，共有ディスクをアンマウントしてから，クラスタソフトの操作で論理ホストを起動してください。

jcocmddef コマンドについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のコマンドを説明している章を参照してください。

(15)　JP1/IM - Manager，JP1/IM - View のどちらかのバージョンが古い場合の対処方法

メッセージの種類によって対処方法が異なります。

「KAVB6060-E 接続先サーバには対応していません」が表示される。

要因

JP1/IM - View よりも JP1/IM - Manager が古いバージョン，または監視オブジェクト DB が古いバージョンです。

対処

JP1/IM - View よりも JP1/IM - Manager が古いバージョンの場合

次の手順に従って，JP1/IM - Manager をバージョンアップしてください。

1. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［ツリーを保存］の操作をし，編集した監視ツリーをcsv ファイルに保存する。
2. JP1/IM - Manager を JP1/IM - View と同じバージョンにバージョンアップする。
3. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［ツリーを開く］の操作をし，保存しておいたcsv ファイルを読み込む。
4. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［サーバのツリーを更新］の操作をし，サーバのツリーを更新する。

JP1/IM - View と JP1/IM - Manager が同じバージョンで，監視オブジェクト DB が古いバージョンの場合

次の手順に従って，監視オブジェクト DB をバージョンアップしてください。

1. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［ツリーの保存］の操作をし，編集した監視ツリーをcsv ファイルに保存する。
2. 監視オブジェクト DB をバージョンアップする。
3. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［サーバのツリーを開く］の操作をし，保存しておいたcsvファイルを読み込む。
4. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［サーバのツリーを更新］の操作をし，サーバのツリーを更新する。

監視オブジェクト DB のバージョンアップについては次を参照してください。

- 物理ホストの場合

  Windows：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.19.3(2)　セントラルスコープのバージョンアップコマンドの実行」

  UNIX：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.18.5(2) セントラルスコープのバージョンアップコマンドの実行」

- 論理ホストの場合

  Windows：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.2.3 論理ホストのインストール・セットアップ（バージョンアップインストール・セットアップの場合)」

  UNIX：マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「6.3.3　論理ホストのインストール・セットアップ（バージョンアップインストール・セットアップの場合)」

JP1/IM - View よりも JP1/IM - Manager が新しいバージョンで，監視オブジェクト DB が古いバージョンの場合

次の手順に従って，JP1/IM - View をバージョンアップしてください。

1. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［ツリーの保存］の操作をし，編集した監視ツリーをcsv ファイルに保存する。
2. JP1/IM - Manager をアンインストールする。
3. JP1/IM - Manager のインストールディレクトリを削除する。

4. JP1/IM - View と同じバージョンの JP1/IM - Manager をインストールする。
5. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［サーバのツリーを開く］の操作をし，保存しておいたcsv ファイルを読み込む。
6. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［サーバのツリーを更新］の操作をし，サーバのツリーを更新する。
7. 新しいバージョンの JP1/IM - Manager にバージョンアップする。
8. JP1/IM - View を JP1/IM - Manager と同じバージョンにバージョンアップする。

「KAVB6046-E ユーザー(ユーザー)には操作に必要な権限がありません」のメッセージが表示される。

要因

JP1/IM - Manager よりも JP1/IM - View が古いバージョン，または JP1/IM - View の編集データが古いバージョンです。

対処

次の手順に従って，JP1/IM - View をバージョンアップしてください。

1. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［ツリーを保存］の操作をし，編集した監視ツリーを csv ファイルに保存する。
2. JP1/IM - Manager をアンインストールする。
3. JP1/IM - Manager のインストールディレクトリを削除する。
4. JP1/IM - View と同じバージョンの JP1/IM - Manager をインストールする。
5. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［ツリーを開く］の操作をし，保存しておいたcsv ファイルを読み込む。
6. [監視ツリー(編集中)]画面で［ファイル］－［サーバのツリーを更新］の操作をし，サーバのツリーを更新する。
7. 新しいバージョンの JP1/IM - Manager にバージョンアップする。
8. JP1/IM - View を JP1/IM - Manager と同じバージョンにバージョンアップする。

(16) 相関イベントの発行処理の対象となる JP1 イベントが多発した場合の対処方法

システムのメンテナンスなどで，相関イベントの発行処理の対象となる JP1 イベントが多発した場合，相関イベントの発行処理が過負荷状態になるおそれがあります。

回避方法は次の二つがあります。

- 相関イベントの発行処理を休止する。
- JP1/IM - Manager を停止する。

なお，相関イベントの発行処理を休止しても状況回避できない場合だけ，JP1/IM - Manager を停止してください。

相関イベントの発行処理を休止する。

相関イベントの発行処理をいったん休止して，状況が回復したあとで相関イベントの発行処理を再開してください。

手順を次に示します。

1. jcoegsstop コマンドを実行して，相関イベントの発行処理を休止する。

   jcoegsstop コマンドを実行すると，相関イベント発行サービスが機能停止状態になります。この間に発生した JP1 イベントは処理の対象外になります。

   サービスを停止させずに処理だけを停止するため，クラスタ運用している場合にフェールオーバーさせないで運用を継続できます。

2. 相関イベント発行処理を再開したい場合，jcoegsstart コマンドを実行する。

JP1/IM - Manager を停止する。

JP1/IM - Manager を停止する場合，起動オプションがcold であれば次に説明する手順を実施する必要はありません。warm の場合だけ実施してください。

手順を次に示します。

1. 相関イベント発行システムプロファイル（egs_system.conf）を編集して，起動オプションをcold に変更する。
2. JP1/IM - Manager を再起動する。
3. 相関イベント発行システムプロファイル（egs_system.conf）を編集して，起動オプションをwarm に戻す。
4. jco_spmd_reload コマンドを実行して，起動オプションの設定を有効にする。

(17) JP1/IM - View に相関イベントが表示されない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- 相関イベントの発行が有効になっていない。
- 相関イベント発行定義が定義されていない。
- 相関イベントがフィルタリングされている。
- 反映した相関イベント発行定義が破損している。

それぞれの対処を次に示します。

相関イベントの発行が有効になっていない。

相関イベント発行サービスはオプション機能であり，デフォルトでは起動しません。相関イベント発行サービスの起動設定をしていない場合，jcoimdef コマンドで起動設定をしたあと，JP1/IM - Manager を再起動すると相関イベント発行サービスが起動するようになります。

相関イベントの発行処理が稼働していることを確認するには，JP1/IM - Manager を再起動したあと，jcoegsstatus コマンドを実行して，相関イベント発行サービスが相関稼働状態（RUNNING）になっていることを確認してください。

相関イベント発行定義が定義されていない。

相関イベント発行サービスは，相関イベント発行定義に従って相関イベントを発行します。相関イベント発行定義はデフォルトでは定義されていないため，相関イベントは発行されません。

相関イベント発行定義ファイルを作成したあと，jcoegschange コマンドを実行して，相関イベント発行サービスに相関イベント発行定義を反映してください。反映した相関イベント発行定義はjcoegsstatus コマンドで確認できます。

相関イベントがフィルタリングされている。

相関イベントがイベント取得フィルター，ユーザーフィルター，重要イベントフィルターおよび表示フィルターのフィルタリング対象になっていないかどうか確認してください。

相関イベントは通常の JP1 イベントと同様に，イベント取得フィルター，ユーザーフィルター，重要イベントフィルターおよび表示フィルターの対象になります。また，重大度が定義されていないイベントは，イベント取得フィルターによってフィルタリングされます（デフォルト設定の場合）。

反映した相関イベント発行定義が破損している。

統合トレースログに次のメッセージが出力される場合，jcoegschange コマンドで相関イベント発行サービスに反映した相関イベント発行定義が壊れたおそれがあります。

- 「KAJV2246-E 相関イベント発行定義保存ファイルが壊れているため定義不正が検出されました。行番号:**行番号** 不正内容:**不正内容**」

このメッセージが出力された場合，jcoegschange コマンドを実行して，再度相関イベント発行定義を反映してください。

(18) JP1/IM - View でログインしたあと，JP1/IM - View の画面が表示されない場合の対処方法

JP1/IM - View でログインしたあと，JP1/IM - View の画面が表示されない。なお，タスクバーには，JP1/IM - View のタスクバーボタンが表示されている。

要因

次の操作をすると，JP1/IM - View でログインしたあとに画面が表示されません。

- 仮想画面構成※によって，JP1/IM - View が表示されていない画面領域を表示した状態で，JP1/IM - View を終了する。

注※

メモリー上にディスプレイ画面以上のデスクトップを持ち，分割したそれぞれの領域を仮想的に一つのデスクトップとして表示することで複数のデスクトップを画面を切り替えて使用できる構成のことをいいます。

仮想デスクトップともいいます。

対処

次のどれかの方法で対処してください。

対処 1

1. [Alt] ＋ [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. タスクバーから「重ねて表示」を選択し，すべての画面を重ねて表示する。
3. JP1/IM - View やそのほかの画面の表示位置およびサイズを変更する。

対処 2

1. [Alt] ＋ [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. タスクバーから「上下に並べて表示」を選択し，すべての画面を上下に並べて表示する。
3. JP1/IM - View やそのほかの画面の表示位置およびサイズを変更する。

対処 3

1. [Alt] ＋ [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. タスクバーから「左右に並べて表示」を選択し，すべての画面を左右に並べて表示する。
3. JP1/IM - View やそのほかの画面の表示位置およびサイズを変更する。

対処 4

1. [Alt] ＋ [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. JP1/IM - View のコンテキストメニューから「移動」を選択し，カーソルキーで位置を調整する。
3. 表示された画面またはその画面の枠の位置を決定したら，リターンキーを押す。

対処 5

1. [Alt] ＋ [Tab] キーを押して JP1/IM - View を選択する。
2. JP1/IM - View のコンテキストメニューから「最大化」を選択し，画面を最大化した状態でいったんログアウトする。
3. 再ログインしたあと，画面の表示位置およびサイズを変更する。

(19) コマンド実行，自動アクションで実行したバッチファイルが正常終了しない場合(Windows 限定)の対処方法

要因

次の条件を満たす場合，バッチファイルの処理が中断され，バッチファイルが正常に処理されません。

- コマンド実行先に指定したホストの OS が Windows2000 である。
- バッチファイルで FOR /F コマンドを使用している。
- FOR /F コマンドの実行後，標準エラー出力への出力をしている。

対処

次のどちらかの方法で対処してください。

- FOR /F コマンドを使用しない。
- FOR /F コマンド実行後に標準エラー出力への出力をしない。

(20) 追加共通除外条件を設定できない場合の対処方法

KAVB1155-E のメッセージが表示され，追加共通除外条件を登録できない。

要因

［共通除外条件で除外］メニューから［共通除外条件設定(拡張)］画面を表示しようとしたとき，または追加共通除外条件を登録しようとしたとき，すでに共通除外条件の定義件数が上限に達しています。

対処

不要な共通除外条件群を削除してください。

KAVB1163-E のメッセージが表示され，追加共通除外条件を登録できない。

要因

次の要因が考えられます。

- イベント取得フィルターが互換モードで動作している，または共通除外条件の動作モードが基本モードで動作しています。
- 定義ファイルに誤りがあります。
- イベント取得フィルターの切り替えに失敗しました。

対処

要因に従って対処してください

- JP1/IM - Manager の共通除外条件の動作モードが拡張になっていない場合は，JP1/IM - Manager の共通除外条件の動作モードを確認し，拡張モードにしてください。そのあと，JP1/IM - View を再起動してから，再度実行してください。
- JP1/IM - Manager を停止し，共通除外条件の動作モードをいったん基本モードに変更してから，再度拡張モードに変更して共通除外条件（拡張）定義を初期化してください。
- マネージャーの統合トレースログに KAVB4003-I のメッセージが出力されていることを確認してから，再度実行してください。KAVB4003-I のメッセージが出力されていなく統合監視 DB を使用している場合は，`jimdbstatus` コマンドを実行し，IM データベースサービスの状態を確認してください。IM データベースサービスが稼働中になったことを確認し，統合トレースログに KAVB4003-I のメッセージが出力されてから，再度実行してください。

なお，その他の要因の場合は，ファイルディスクリプタなどの OS のリソース不足がほかに発生していないかを確認してください。

- Windows の場合：Windows イベントログ
- UNIX の場合：シスログ（syslog）

発生していない場合は，資料採取ツールで資料を採取し，システム管理者に連絡してください。

KAVB1157-E のメッセージが表示され，追加共通除外条件を登録できない。

要因

［共通除外条件で除外］メニューから［共通除外条件設定(拡張)］画面を表示しようとした，または追加共通除外条件を登録しようとしたとき，すでに共通除外条件のフィルターサイズが上限に達しています。

対処

不要な共通除外条件群を削除，またはフィルターの上限サイズに収まるように条件群を定義してください。

KAVB0256-E のメッセージが表示され，追加共通除外条件を登録できない。

要因

追加共通除外条件を登録しようとしたとき，指定した共通除外条件群名がすでに存在しています。

対処

重複しない共通除外条件群名を指定し，再度実行してください。

KAVB1153-E のメッセージがログに出力され，［共通除外条件で除外］メニューから［共通除外条件設定(拡張)］画面を表示したときの［イベント条件］に共通除外条件自動入力定義ファイルで設定した属性の条件が自動的に表示されない。

要因

共通除外条件自動入力定義ファイルが存在しません。

対処

次を確認してください。

- 共通除外条件自動入力定義ファイルが存在するかどうか。
- 共通除外条件自動入力定義ファイルにアクセス権があるかどうか。

そのあと，JP1/IM - Manager を再起動，または`jco_spmd_reload` コマンドを実行し，共通除外条件自動入力定義ファイルを再度読み込んでください。

KAVB1154-W のメッセージがログに出力され，［共通除外条件で除外］メニューから［共通除外条件設定(拡張)］画面を表示したときの［イベント条件］に自動設定した条件が表示されない。

要因

共通除外条件自動入力定義ファイルの読み込みに失敗しています。

対処

OS のリソース不足が発生していないかどうかを確認してください。

- Windows の場合：Windows イベントログ
- UNIX の場合：syslog

OS のリソース不足が発生していない場合は，資料採取ツールで資料を採取し，システム管理者に連絡してください。

KAVB1158-W のメッセージがログに出力され，［共通除外条件で除外］メニューから［共通除外条件設定(拡張)］画面を表示したときの［イベント条件］に自動設定した条件が表示されない。

要因

共通除外条件自動入力定義ファイルに，定義が入力されていません。

対処

共通除外条件自動入力定義ファイルに属性名を指定し，JP1/IM - Manager を再起動，または jco_spmd_reload コマンドを実行し，共通除外条件自動入力定義ファイルを再度読み込んでください。

KAVB1159-W または KAVB1160-W のメッセージがログに出力され，［共通除外条件で除外］メニューから［共通除外条件設定(拡張)］画面を表示したときの［イベント条件］に自動設定した条件が表示されない。

要因

次の要因が考えられます。

- 共通除外条件自動入力定義ファイルに，無効な属性名が定義されています。
- 共通除外条件自動入力定義ファイルに，属性名が重複して定義されています。

対処

共通除外条件自動入力定義ファイルに正しい属性名を定義し，JP1/IM - Manager を再起動，または jco_spmd_reload コマンドを実行し，共通除外条件自動入力定義ファイルを再度読み込んでください。

KAVB1161-W のメッセージがログに出力され，［共通除外条件設定（拡張)］画面の［共通除外条件群名］がすべて表示されない。

要因

共通除外条件自動入力定義ファイルで定義した共通除外条件群名が 40 バイトを超えています。

対処

共通除外条件自動入力定義ファイルの共通除外条件群名を 40 バイト以下で定義し，JP1/IM - Manager を再起動，または jco_spmd_reload コマンドを実行し，共通除外条件自動入力定義ファイルを再度読み込んでください。

KAVB1162-W のメッセージがログに出力され，［共通除外条件設定(拡張)］画面の［共通除外条件群名］が正しく表示されない。

要因

共通除外条件自動入力定義ファイルの共通除外条件群名に指定できない文字が使用されています。

対処

共通除外条件自動入力定義ファイルの共通除外条件群名を見直し，JP1/IM - Manager を再起動，または jco_spmd_reload コマンドを実行し，共通除外条件自動入力定義ファイルを再度読み込んでください。

(21) JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）が受信した JP1 イベントの処理が遅延する場合の対処方法

要因

状態変更条件設定の個別条件設定で，属性値に指定した文字列（ホスト名または IP アドレス）の名前解決ができていないおそれがあります。

対処

名前解決に失敗したホスト名は，次のログファイルに出力されます。

Windows の場合

Scope パス¥log¥jcsmain_trace{1|2|3}.log※

UNIX の場合

/var/opt/jp1scope/log/jcsmain_trace{1|2|3}.log※

注※

JP1/Base のログファイルトラップ機能の監視対象にはしないでください。

名前解決に失敗した場合，上記ログファイル内に，次のメッセージが出力されます。

・・・fs_jcsHostsAccessPtr->getHostByName() is failed. (host = 名前解決に失敗したホスト名,jp1error = 2001)・・・

または，

・・・fs_jcsHostsAccessPtr->getHostByAddr() is failed. (host = 名前解決に失敗した IP アドレス,jp1error = 2001)・・・

これを確認の上，個別条件の条件として［ホスト名比較］を設定し，次に示すどれかの方法で属性値に指定したホスト名または IP アドレスの名前解決ができるようにしてください。

- 個別条件の属性値に指定したホスト名または IP アドレスをホスト情報 DB に登録する。
- 個別条件の属性値に指定したホスト名または IP アドレスを JP1/Base の jp1hosts 情報または jp1hosts2 情報に登録する。
- 個別条件の属性値に指定したホスト名または IP アドレスを hosts や DNS などに登録する。

(22) 応答待ちイベントが JP1/IM - View に表示されない場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- 応答待ちイベント管理機能が無効となっている。
  jcoimdef コマンドの-resevent オプションの指定がOFF となっているおそれがあります。
- 応答待ちイベントが発行されていない。
- 応答待ちイベントは発行されているが，JP1/IM - Manager でフィルタリングされている。

対処

応答待ちイベント管理機能を有効が無効となっている場合は，jcoimdef コマンドの-resevent オプションの指定をON にしてください。

また，次の手順で要因を切り分けて対処してください。

1. JP1/IM - Manager ホストのイベント DB に応答待ちイベントが登録されていることを確認する。

   管理者ユーザーなど，ユーザーフィルターが設定されていない JP1 ユーザーでイベント検索し，応答待ちイベントがイベント DB に登録されていることを確認します。

   登録されていない場合は，手順 2 の方法で調査します。

   登録されている場合は，JP1/IM - Manager のフィルター（イベント取得フィルター，またはユーザーフィルター）でフィルタリングされているため，フィルター条件を見直してください。

2. BJEX または JP1/AS ホストのログを確認し，BJEX のエラー，JP1/AS のエラー，または通信エラーが発生していないことを確認する。

   エラーメッセージが出力されている場合は，そのメッセージの対処方法に従って対処してください。BJEX または JP1/AS のセットアップ時の誤りや通信エラーが考えられます。

(23) 応答待ちイベントが JP1/IM - View に表示されるが，応答待ちイベントとして表示されない（種別の矢印アイコンが表示されない，応答入力できない）場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- 応答待ちイベント管理機能が無効となっている。

  jcoimdef コマンドの-resevent オプションの指定がOFF となっているおそれがあります。

- BJEX または JP1/AS の設定で，JP1/IM - Manager のホスト名の指定が間違っている。

  ホスト名ではなく IP アドレスが指定されているおそれがあります。

- BJEX または JP1/AS で設定した JP1/IM - Manager のホスト以外のホストに転送している応答待ちイベントである。

対処

要因に従って対処してください。

- 応答待ちイベント管理機能を有効にする。

  jcoimdef コマンドの-resevent オプションの指定をON にしてください。

- BJEX または JP1/AS の設定で，正しい JP1/IM - Manager のホスト名を指定する。
- 応答待ちイベントに応答する場合は，BJEX または JP1/AS で設定した JP1/IM - Manager ホストに対してログインする。

(24) ［イベントコンソール］画面に JP1 イベントが表示されない場合の対処方法

要因

フィルターの除外条件，有効な共通除外条件に，条件が何も設定されていない条件群があるため，すべての JP1 イベントが除外されています。

対処

次のフィルターの除外条件および有効な共通除外条件を見直してください。

- イベント取得フィルター
- ユーザーフィルター
- 重要イベントフィルター
- 表示フィルター

(25) ［イベントコンソール］画面に JP1 イベントが遅延して表示される場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- イベント条件（フィルター条件※，自動アクションの実行条件，相関イベント発行条件のイベント属性条件，重大度変更機能のイベント条件，事象発生元ホストのマッピング機能のイベント条件）で正規表現を使用している場合，JP1 イベント受信時のマッチング処理に時間が掛かっていることが考えられます。

  注※

  次のフィルターの通過条件，除外条件，または，有効な共通除外条件を指します。

  ・イベント取得フィルター

  ・ユーザーフィルター

  ・重要イベントフィルター
- 自動アクション環境定義でイベント発行元ホスト名の取得方法を「local」に設定している場合，自動アクションのマッチング処理で，イベント属性中の「発行元 IP アドレス」からホスト名の逆引きに時間が掛かっていることが考えられます。
- JP1/IM - Central Scope を使用している場合，［イベントコンソール］画面に JP1 イベントが遅延して表示される要因として，状態変更条件設定の個別条件設定で，属性値に指定した文字列（ホスト名または IP アドレス）の名前解決ができていない，または監視ノードの状態変更条件で，マッチング処理に時間が掛かっていることが考えられます。
- API 設定ファイル（api）の server パラメーターの設定に誤りがあり，ポートの不足によって JP1/IM - Manager のイベント受信で通信エラーが多発していることが考えられます。

対処

要因に従って対処してください。

- イベント条件（フィルター条件※，自動アクションの実行条件，相関イベント発行条件のイベント属性条件，重大度変更機能のイベント条件，または事象発生元ホストのマッピング機能のイベント条件）で正規表現を使用している場合は，正規表現を見直したあと，JP1/IM - Manager を再起動してください。また，JP1/IM - Central Scope を使用している場合，監視ノードの状態変更条件をイベント条件として使用しているときも，正規表現を見直したあと，JP1/IM - Manager を再起動してください。

  注※

  次のフィルターの通過条件，除外条件，または，有効な共通除外条件を指します。

  ・イベント取得フィルター

  ・ユーザーフィルター

  ・重要イベントフィルター

  すべての文字にマッチする「.*」など，再帰的にマッチングされる正規表現を多用している場合，マッチング処理に時間が掛かることがあります。詳細はマニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「付録 G.4　正規表現を使用する際のヒント」を参照してください。

- 自動アクション環境定義でイベント発行元ホスト名の取得方法を「local」に設定している場合，イベント属性中の「発行元 IP アドレス」からホスト名への解決をします。このホスト名の逆引きに時間が掛からないようにするために，OS の hosts ファイルの設定を見直す，またはイベント発行元ホスト名の取得方法を「remote」に設定してから，JP1/IM - Manager を再起動してください。イベント発行元ホスト名の取得方法の詳細は，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「自動アクション環境定義ファイル（action.conf.update）」（2.　定義ファイル）を参照してください。OS の hosts の設定については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「12.4.1　ホスト名と IP アドレス」を参照してください。

- JP1/IM - Central Scope を使用している場合は，今まで述べた対処のほかに，状態変更条件設定の個別条件設定で，属性値に指定した文字列（ホスト名または IP アドレス）が遅延なく名前解決できるかを確認してください。詳細は「10.5.1(21)　JP1/IM - Manager（JP1/IM - Central Scope）が受信した JP1 イベントの処理が遅延する場合の対処方法」を参照してください。

  また，監視オブジェクトの状態変更条件をメモリーに常駐させる機能を使用すると，監視オブジェクトの状態変更のマッチング処理が短縮されます。メモリー所要量を見積もった上，十分なメモリーが確保できる場合は，この機能の設定をお勧めします。監視オブジェクトの状態変更条件をメモリーに常駐させる機能の詳細は，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「4.2.3　状態変更条件」を参照してください。

- API 設定ファイル（api）のserver パラメーターの通信タイプがclose になっている場合，JP1/IM - Manager がイベントを 1 件受信するたびに一時ポートを一つ使用するため，一時ポートの不足が発生し，通信エラーやイベント受信の遅延が発生するおそれがあります。JP1/IM - Manager が接

続するイベントサーバについて，API 設定ファイル（api）のserver パラメーターの通信タイプを必ずkeep-alive にしてください。

(26) 対処状況が変更できない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- イベントコンソールとセントラルコンソール・ビューアーの接続が確立しない。または，イベントコンソールとjcochstat コマンドの接続が確立しない。
- 指定した JP1 イベントが変更できないイベントだった。
- イベントコンソールサービスとイベントサービスの接続が確立しない。
- イベントコンソールサービスとイベント基盤サービスの接続が確立しない。
- イベント基盤サービスと IM データベースサービスの接続が確立しない。

それぞれの対処を次に示します。

イベントコンソールとセントラルコンソール・ビューアーの接続が確立しない。または，イベントコンソールと jcochstat コマンドの接続が確立しない。

マネージャー上のイベントコンソールが起動していない，システム（ホスト，ネットワーク）が高負荷状態である，ネットワークの設定に誤りがあるというおそれがあります。

- 対処

  jco_spmd_status コマンドを実行してマネージャー上のイベントコンソールサービスが起動しているか確認し，再度対処状況を変更します。

  または，ping コマンドなどを使用してログインしているホストが正常に稼働しているか確認し，再度対処状況を変更します。

指定したイベントが変更できないイベントだった。

- 対処

  イベント DB 内通し番号の指定を見直し，再度対処状況を変更します。

イベントコンソールサービスとイベントサービスの接続が確立しない。

- 対処

  イベントサービスが起動しているか確認し，再度対処状況を変更します。

イベントコンソールサービスとイベント基盤サービスの接続が確立しない。

イベント基盤サービスが起動していない，システム（ホスト，ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

  jco_spmd_status コマンドを実行してマネージャー上のイベント基盤サービスが起動しているか確認し，再度対処状況を変更します。

イベント基盤サービスと IM データベースサービスの接続が確立しない。

IM データベースサービスが起動していない，システム（ホスト，ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

  IM データベースサービスを起動後，再度対処状況を変更します。

(27) イベント検索が実行できない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- イベントコンソールとビューアーの接続が確立しない。
- イベント基盤サービスとイベントコンソールサービスの接続が確立しない。
- イベント基盤サービスと統合監視 DB の接続が確立しない。
- イベントコンソールサービスとイベントサービスの接続が確立しない。
- サポートしていない条件で JP1 イベントを検索した。
- イベント検索実行時，指定した正規表現が間違っている。
- 除外条件を指定してイベント検索を実行した時，検索ホストの JP1/Base のバージョンが 08-11 以前だった。

それぞれの対処を次に示します。

イベントコンソールとビューアーの接続が確立しない。

マネージャー上のイベントコンソールが起動していない，システム(ホスト，ネットワーク)が高負荷状態になっている，ネットワークの設定に誤りがあるというおそれがあります。

- 対処

  jco_spmd_status コマンドを実行してマネージャー上のイベントコンソールサービスが起動しているか確認し，イベント検索を再実行します。

  または，ping コマンドを使用してログインしているホストが正常に稼働しているか確認し，イベント検索を再実行します。

イベント基盤サービスとイベントコンソールサービスの接続が確立しない。

イベント基盤サービスが起動していない，システム(ホスト，ネットワーク)が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

  jco_spmd_status コマンドを実行してマネージャー上のイベント基盤サービスが起動しているか確認し，イベント検索を再実行します。

イベント基盤サービスと統合監視 DB の接続が確立しない。

統合監視 DB が起動していない，システム（ホスト，ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

  統合監視 DB を起動後，イベント検索を再実行します。

イベントコンソールサービスとイベントサービスの接続が確立しない。

検索先ホストのイベントサービスが起動していない，システム（ホスト，ネットワーク）が高負荷状態になっている，ネットワークの設定に誤りがあるというおそれがあります。

- 対処

  jevstat コマンドを実行して検索先ホスト上のイベントサービスが起動しているか確認し，再度検索します。jevstat コマンドについては，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

  または，マネージャーホスト上でping コマンドなどを使用して検索先ホストが正常に稼働しているか確認し，再度検索します。

サポートしていない条件で JP1 イベントを検索した。

バージョン 06-00 以前の JP1/Base のイベントサービスに対して，サポートしていない条件（「を含む」，「を含まない」，「正規表現」の指定，または対処状況の複数指定）で JP1 イベントを検索しました。または，バージョン 06-51 以前の JP1/Base のイベントサービスに対して，サポートしていない条件（「正規表現」の指定）で JP1 イベントを検索しました。

- 対処

  「を含む」，「を含まない」，「正規表現」を選択していないか，対処状況を複数選択していないかを確認後，再度検索します。

イベント検索実行時，指定した正規表現が間違っている。

- 対処

  指定した正規表現を確認後，再度検索します。

除外条件を指定してイベント検索を実行した時，検索ホストの JP1/Base のバージョンが 08-11 以前だった。

- 対処

  イベント検索の実行先に指定したホストの，JP1/Base のバージョンを確認し，08-11 以前の場合は除外条件を使用しないでイベント検索をします。

(28) メモ情報が設定できない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- イベントコンソールとセントラルコンソール・ビューアーの接続が確立しない。
- イベントコンソールサービスとイベント基盤サービスの接続が確立しない。
- イベント基盤サービスと統合監視 DB の接続が確立しない。

それぞれの対処を次に示します。

イベントコンソールとセントラルコンソール・ビューアーの接続が確立しない。

マネージャー上のイベントコンソールが起動していない，システム（ホスト，ネットワーク）が高負荷状態である，ネットワークの設定が誤っているというおそれがあります。

- 対処

  イベントコンソールサービス，またはホストが正常に稼働しているか確認し，メモ情報を設定します。

  jco_spmd_status コマンドを実行してマネージャー上のイベントコンソールサービスが起動しているか確認し，再度メモ情報を設定します。

  または，ping コマンドなどを使用してログインしているホストが正常に稼働しているか確認し，再度メモ情報を設定します。

イベントコンソールサービスとイベント基盤サービスの接続が確立しない。

イベント基盤サービスが起動していない，システム（ホスト，ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

  jco_spmd_status コマンドを実行してマネージャー上のイベント基盤サービスが起動しているか確認し，再度メモ情報を設定します。

イベント基盤サービスと統合監視 DB の接続が確立しない。

統合監視 DB が起動していない，システム（ホスト，ネットワーク）が高負荷状態になっているというおそれがあります。

- 対処

  統合監視 DB を起動後，再度メモ情報を設定します。

(29) IM データベースが終了できない場合の対処方法

要因

接続中の JP1/IM - Manager プロセスが存在します。

対処

JP1/IM - Manager が起動しているかどうか確認します。起動している場合，JP1/IM - Manager を終了してから IM データベースを終了します。

(30) IM データベースに接続できない場合の対処方法

次の要因が考えられます。

- IM データベースを使用する設定になっていない。
- IM データベースが起動していない。
- ポート番号が正しく設定されていない。
- 非クラスタシステムの論理ホストをセットアップしたときに，jcfdbsetup またはjcodbsetup コマンドの-c オプションに「standby」を指定している。

それぞれの対処を次に示します。

IM データベースを使用する設定になっていない。

- 対処

  jcoimdef コマンドのオプションを指定せずに使用して，「S_DB」の設定値がON になっているか確認してください。jcoimdef コマンドについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」の「jcoimdef」（1. コマンド）を参照してください。

IM データベースが起動していない。

- 対処

  IM データベースが起動していることを確認してください。

ポート番号が正しく設定されていない。

- 対処

  指定したポート番号が次のポート番号と重複していないかどうか確認してください。

  ・ほかの論理ホストのセットアップで指定したポート番号

  ・services ファイルに記載されているポート番号

  ・ほかの製品の組み込み HiRDB で使用しているポート番号

  ・ほかの製品，OS などが使用する一時ポート番号

非クラスタシステムの論理ホストをセットアップしたときに，オプション-c に「standby」を指定している。

- 対処

  非クラスタシステムの論理ホストをセットアップする場合，jcfdbsetup またはjcodbsetup コマンドの-c オプションに「online」を指定してください。

(31) JP1/IM - Manager がアンインストールできない場合の対処方法

「KAVB9940-E　物理ホストの IM データベースサービスがアンセットアップされていません」メッセージまたは「KAVB9941-E　論理ホストの IM データベースサービスがアンセットアップされていません」メッセージが出力される。

要因

IM データベースがアンセットアップされていません。

対処

統合監視 DB と IM 構成管理 DB がアンセットアップされていることを確認してください。

(32) IM データベースをセットアップしたときに，ポート番号不正のエラーメッセージが出力される場合の対処方法

「KNAN11044-E　ポート番号が重複しています」メッセージが出力される。

要因

指定したポート番号が，ほかで使用しているポート番号と重複しています。

対処

指定したポート番号が次のポート番号と重複していないかどうか確認してください。

- ほかの論理ホストのセットアップで指定したポート番号
- services ファイルに記載されているポート番号
- ほかの製品の組み込み HiRDB で使用しているポート番号
- ほかの製品，OS などが使用する一時ポート番号

(33) IM データベースのセットアップに失敗する場合の対処方法

「KNAN11084-E　DB ファイルシステム領域の作成に失敗しました」メッセージが出力される。

次の要因が考えられます。

- IMDBDIR，SHAREDBDIR に指定したパスのファイルシステムがラージファイルに対応していない。
- カーネルパラメーターが適切に設定されていない。
- LOGICALHOSTNAME やONLINEHOSTNAME に正しいホスト名を指定していない。

それぞれの対処を次に示します。

IMDBDIR，SHAREDBDIR に指定したパスのファイルシステムがラージファイルに対応していない。

- 対処

  対象の OS でラージファイル設定を有効にしてください。

カーネルパラメーターが適切に設定されていない。

- 対処

  カーネルパラメーターが正しく設定されているか確認してください。カーネルパラメーターの詳細は，JP1/IM - Manager のリリースノートを参照してください。

LOGICALHOSTNAME や ONLINEHOSTNAME に正しいホスト名を指定していない。

- 対処

  次の項目を確認してください。

  ・LOGICALHOSTNAME やONLINEHOSTNAME に指定したホスト名が適切かどうか

  ・データベース関連のコマンドの-h オプションに指定したホスト名が適切かどうか

  ・hosts ファイルに指定したホスト名が記載されているかどうか，およびホスト名の重複がないかどうか

  ・指定したホスト名に対応する IP アドレスが適切かどうか，および IP アドレスの重複がないかどうか

(34) IM データベースのセットアップでセットアップ情報ファイルが不正と出力される場合の対処方法

次のメッセージが出力される。

- 「KNAN11030-E　セットアップ情報ファイルに必須項目が指定されていません。 (項目名:項目名)」
- 「KNAN11038-E　セットアップ情報ファイルに指定した項目が不正です。 (項目名:項目名)」
- 「KNAN11047-E　セットアップ情報ファイルに指定した項目名が不正です。 (項目名:項目名)」
- 「KNAN11048-E　セットアップ情報ファイルに指定した項目名が重複しています。 (項目名:項目名)」

次の要因が考えられます。

- 指定されていない必須項目と値がある。
- 項目名に正しい文字列が指定されていない。
- 値に正しい値が指定されていない。
- ”=”の前後に不要な空白文字が入っている。

それぞれの対処を次に示します。

指定されていない必須項目と値がある。

- 対処

  セットアップ情報ファイルおよびクラスタ情報ファイルを確認し，必須項目をすべて指定してください。

項目名に正しい文字列が指定されていない。

- 対処

  セットアップ情報ファイルおよびクラスタ情報ファイルを確認し，必須項目をすべて指定してください。

値に正しい値が指定されていない。

- 対処

  指定できる値であるかどうか確認し，修正してください。

”=”の前後に不要な空白文字が入っている。

- 対処

  ”=”の前後などに不要な空白文字がないかどうか確認し，ある場合それを削除してください。

(35) IM データベースを起動できない，またはデータベース関連のコマンドが実行できない場合の対処方法

データベース関連のコマンドを実行するときに，「KNAN11037-E　IM データベースサービスのデータ格納ディレクトリにアクセスできません」メッセージまたは「KNAN11143-E　IM データベースサービスの構成が不正です」メッセージが出力される。

次の要因が考えられます。

- UNIX の場合，IM データベースのインストールディレクトリやデータ格納ディレクトリがアンマウントされている。
- ホスト名が変更されている。
- IM データベースが，ほかの製品で使用しているポート番号と重複したものを使用している。

それぞれの対処を次に示します。

UNIX の場合，IM データベースのインストールディレクトリやデータ格納ディレクトリがアンマウントされている。

- 対処

  ディレクトリにアクセスできるかどうか確認し，アクセスできない場合はマウントしてください。

ホスト名が変更されている。

- 対処

  ホスト名を一度以前のホスト名に戻してから，IM データベースのホスト名を変更する手順に従って，ホスト名を変更してください。

IM データベースが，他製品で使用しているポート番号と重複したものを使用している。

- 対処

  指定したポート番号が次のポート番号と重複していないかどうか確認してください。

  ・ほかの論理ホストのセットアップで指定したポート番号

  ・services ファイルに記載されているポート番号

  ・ほかの製品の組み込み HiRDB で使用しているポート番号

  ・ほかの製品，OS などが使用する一時ポート番号

(36) IM 構成管理でシステムの階層構成の反映に失敗した場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- システムの階層構成を反映するホストの JP1/Base が起動していません。

  システムの階層構成を反映する場合，システムの階層構成に含まれているすべてのホストが起動している必要があります。

- システムの階層構成を反映するホストが，すでに別のシステムの階層構成に含まれています。
- 統合マネージャー，中継マネージャー，エージェント間で名前解決ができません。

対処

要因に従って対処してください。

- システムの階層構成の反映が失敗したホストの JP1/Base が起動しているか確認したあと，再実行してください。
- システムの階層構成の反映が失敗したホスト上で，jbsrt_get コマンドを実行し，別のシステムの階層構成に含まれていないか確認してください。別のシステムの階層構成に含まれていた場合，そのシステムの階層構成から削除したあとに，再実行してください。
- 各ホスト間で，ホスト名の名前解決ができているかどうか確認してください。名前解決されてない場合は，名前解決されるように設定を変更したあとに，再実行してください。

(37) IM 構成管理でログファイルトラップ動作定義ファイルの取得に失敗した場合の対処方法

要因

ログファイルトラップ動作定義ファイルは，エージェント内でユニークにする必要があります。同一の設定ファイルで複数のログファイルトラップを起動している，または異なるディレクトリであっても，同一の名称の動作定義ファイルでログファイルトラップを起動しているおそれがあります。

対処

次の手順で対処してください。

1. エージェント上で，ログファイルトラップを停止する。
2. ログファイルトラップ動作定義ファイル名をエージェント内でユニークな名称になるように設定し，再度ログファイルトラップ機能を起動する。
3. IM 構成管理・ビューアーの［プロファイル表示/編集］画面で，［操作］メニューから［プロファイルツリー再構築］を選択して，プロファイルツリーを再構築する。

(38) JP1/IM - View から起動中のログファイルトラップがすべて表示されない場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- ログファイルトラップ機能を起動したあとに，プロファイルツリーの再構築を実行していません。［プロファイル表示/編集］画面の起動後，プロファイルツリーの再構築後，またはプロファイルの一括収集後に，ログファイルトラップが起動または再起動されたおそれがあります。
- ログファイルトラップを起動するときに指定した動作定義ファイルが，JP1Base パス¥conf 配下にありません。

対処

要因に従って対処してください。

- 最新のプロファイルリストを収集する必要があります。IM 構成管理・ビューアーの［プロファイル表示/編集］画面で，［操作］メニューから［プロファイルツリー再構築］を選択して，プロファイルツリーを再構築してください。
- ログファイルトラップ動作定義ファイルを JP1Base パス¥conf 配下に配置して，ログファイルトラップ機能を再起動してください。

  ログファイルトラップを起動したあと，IM 構成管理・ビューアーの［プロファイル表示/編集］画面で，［操作］メニューから［プロファイルツリー再構築］を選択して，プロファイルツリーを再構築してください。

(39) プロファイルの設定ファイルと有効設定情報の内容が異なる場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- 設定ファイルを編集したあと，編集内容を反映していない，または反映に失敗しています。
- 設定ファイルの記述が一部間違っています。

  設定ファイルの記述が一部間違っていると，エージェントでは記述誤りの個所を読み飛ばして反映する場合があります。この場合，IM 構成管理・ビューアーから反映を実行したときにエラーダイアログが表示されます。

対処

要因に従って対処してください。

- IM 構成管理・ビューアーの［プロファイル表示/編集］画面から，設定ファイルの内容を確認したあと，プロファイルの反映を実行し，正常に反映が終了したことを確認してください。
- 設定ファイルの反映に失敗した場合，設定ファイルの記述どおりにサービスが稼働していないおそれがあります。記述誤りを修正し，反映を再実行してください。

(40) IM 構成管理・ビューアーで，［ホスト登録］，［エージェント構成編集］などのメニュー項目が非活性になっている場合の対処方法

要因

IM 構成管理・ビューアーにログインした JP1 ユーザーに IM 構成管理の権限（JP1_CF_Admin，JP1_CF_Manager，JP1_CF_User のどれか）が割り当てられていないため，実行できる操作が参照だけになっています。次の場合が考えられます。

- 認証サーバに設定されている JP1/Base がバージョン 8 以前です。

- 認証サーバに設定されている JP1/Base をバージョン 8 以前から上書きインストールしたあと，JP1 ユーザーに IM 構成管理の権限（JP1_CF_Admin，JP1_CF_Manager，JP1_CF_User のどれか）を割り当てていません。
- JP1 ユーザーに IM 構成管理の権限（JP1_CF_Admin，JP1_CF_Manager，JP1_CF_User のどれか）を割り当てていません。

対処

要因に従って対処してください。

- 認証サーバに設定されている JP1/Base をバージョン 9 以降にしてください。
- ログインする JP1 ユーザーの JP1 資源グループにグループ名「JP1_Console」，権限レベルに IM 構成管理の権限（JP1_CF_Admin，JP1_CF_Manager，JP1_CF_User のどれか）を割り当ててから，再度ログインしてください。

  なお，IM 構成管理の権限レベルによって，各メニューの操作できる範囲が異なります。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「付録 E.3 IM 構成管理で必要な操作権限」を参照してください。

(41) IM 構成管理で仮想化システム構成の収集に失敗した場合の対処方法

「KNAN22062-E ホスト(ホスト名)の通信種別はサポートしていないため，仮想化構成の収集に失敗しました」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- 収集先ホスト名が異なります。
- 収集先ホストの名前解決ができていません。
- 収集先ホストが起動されていません。
- 収集先ホストの vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM，KVM が起動されていない，またはセットアップされていません。
- 収集先ホストとの通信で障害が発生しています。

対処

要因に従って対処してください。

- 収集先ホスト名が正しいかどうか確認してください。
- 収集先ホストが起動しているかどうか確認してください。
- 収集先ホストの vCenter，JP1/SC/CM，SCVMM，HCSM，KVM が起動しているかどうか，およびセットアップが完了しているかどうか確認してください。
- 収集先ホストとの通信に問題はないかどうか確認してください。また，収集先ホストの VMM ホストが KVM の場合，SSH 接続が正しく設定されているか確認してください。

(42) IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップまたはリモート監視イベントログトラップの有効設定情報が参照できない場合の対処方法

「KNAN22422-E ログファイルトラップ情報の有効設定上の収集が出来ませんでした。(詳細情報: 該当するサービスもしくはプロセスが稼働していません)」または，「KNAN22422-E イベントログトラップ情報の有効設定上の収集が出来ませんでした。(詳細情報: 該当するサービスもしくはプロセスが稼働していません)」メッセージが出力される。

要因

次の要因が考えられます。

- リモート監視ログファイルトラップの稼働中にエラーが発生したため，リモート監視ログファイルトラップが停止した。
- リモート監視イベントログトラップの稼働中にエラーが発生したため，リモート監視イベントログトラップが停止した。

対処

リモート監視ログファイルトラップまたはリモート監視イベントログトラップの稼働中に発生したエラーの内容は，統合ログに出力されます。統合ログに出力されているエラーメッセージの対処を参照して，エラーの原因を取り除いてください。そのあと，リモート監視ログファイルトラップまたはリモート監視イベントログトラップを停止したあと，再度起動してください。

(43) IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップが稼働しているにもかかわらず JP1 イベントが受信されない場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルのフィルター（filter～end-filter）の指定に誤りがあります。
- リモート監視ログファイルトラップの監視間隔が長く，ログファイルの差分がまだ監視されていません。
- リモートの監視対象ホストまたは監視対象ログファイルが不正な状態ですが，［プロファイル表示/編集］画面の［有効設定情報］ページで［ログファイルトラップ情報］－［起動オプション動作］の［open リトライ指定[-r]］を有効に指定している，またはjcfallogstart コマンドに-r オプションを指定しているためエラーが発生していません。
- リモート監視ログファイルトラップの起動オプションでフィルターの指定が誤っているため，監視対象のログファイルデータが監視対象ホストから転送されていません。

対処

- リモート監視ログファイルトラップ動作定義ファイルのフィルター（filter～end-filter）の指定が正しいかどうか確認してください。

- jcfallogstart コマンドの-t オプションで指定しているファイル監視間隔以上の時間が経過しても JP1 イベントが受信されないかどうか確認してください。
- リモートの監視対象ホストが Windows の場合，リモートの監視対象ホストでログ監視をするための NetBIOS（NetBIOS over TCP/IP）の設定が正しいかどうかを確認してください。NetBIOS（NetBIOS over TCP/IP）の設定については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「1.18.2　NetBIOS（NetBIOS over TCP/IP）の設定」を参照してください。
- リモートの監視対象ホストが UNIX の場合，リモートの監視対象ホストでログ監視をするための SSH の設定が正しいかどうかを確認してください。SSH の設定については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.17.1　SSH の設定」を参照してください。
- 監視対象ログファイルが読み取りできる状態であることを確認してください。
- 対話操作が必要となる，stty，tty，tset，script コマンドなどが SSH 接続ユーザーのログインスクリプトに記載されている場合，ログファイルの読み込みに失敗することがあります。この場合，リモート監視用に SSH 接続ユーザーを新たに作成するか，これらのコマンドを実行しないように SSH 接続ユーザーのログインスクリプトを変更してください。
- リモート監視ログファイルトラップの起動オプションでフィルターの指定に誤りがないか確認してください。フィルターの指定に誤りがない場合，リモートの監視対象ホストで SSH 接続を使用しているユーザーが，次のコマンドを実行できるかどうかを確認してください。

  Linux の場合

  /bin/grep -E ’フィルターに指定した正規表現文字列’ 監視対象ログファイルパス

  Solaris の場合

  /usr/xpg4/bin/grep -E ’フィルターに指定した正規表現文字列’ 監視対象ログファイルパス

  Linux，Solaris 以外の場合

  /usr/bin/grep -E ’フィルターに指定した正規表現文字列’ 監視対象ログファイルパス

  また，監視対象ログファイルのデータが，フィルターの指定によって除外されていないかどうかを確認してください。
- 追加オプションに-r を指定している場合，次の点も確認してください。

  「10.5.1(50)　リモート監視の監視対象ログファイル名が誤っている場合の対処方法」を参照してパスが正しく指定されているか確認してください。

  ・ファイルのアクセス権が正しく設定されているか確認してください。

  ・-r を指定しないでログファイルトラップを稼働させエラーが発生するか確認することも有効です。
- 以上の対処をしても現象が解決しない場合，JP1/IM - Manager ホストおよび監視対象ホストで資料採取ツールを使って資料を採取してください。監視対象ホストで採取する資料を次に示します。

監視対象ホストの OS	採取する資料	方法
Windows	システム情報	1. スタートメニューから［ファイル名を指定して実行］を選択する。

監視対象ホストの OS	採取する資料	方法
		2. テキストボックスに「msinfo32」と入力し，［OK］ボタンをクリックする。 3. ［システム情報］画面で［ファイル］－［エクスポート］を選択して，システム情報をテキストファイルに保存する。
	監視対象ログファイル	複数ある場合は，すべてのログファイルを採取する。
	Windows イベントログのアプリケーションおよびシステム	1. イベントビューアーで対象のイベントログを選択する。 2. ［ログファイルの名前を付けて保存］を選択する。 3. 出力形式は，「evt」を指定する。
UNIX	監視対象ログファイル	複数ある場合は，すべてのログファイルを採取する。
	シスログ（syslog）	シスログを採取する。詳細については，「10.3.2　UNIX の場合」を参照してください。

(44)　IM 構成管理でリモート監視イベントログトラップが稼働しているにもかかわらず JP1 イベントが受信されない場合の対処方法

要因

- リモートの監視対象ホストと JP1/IM - Manager ホストで時刻設定に差異があります。
- リモートの監視対象ホストに，監視対象ホストの現在時刻より未来の時刻のイベントログが存在します。
- フィルターの指定が正しくありません。

対処

- リモートの監視対象ホスト，および JP1/IM - Manager の時刻を正しく現在の時刻に合わせてください。
- リモートの監視対象ホストに，監視対象ホストの現在時刻より未来の時刻のイベントログが存在しないか確認してください。
- 有効設定情報に表示されるフィルター情報の条件文に示す内容が取得できるフィルター設定にしてください。
- 以上の対処をしても現象が解決しない場合，JP1/IM - Manager ホストおよび監視対象ホストで資料採取ツールを使って資料を採取してください。監視対象ホストで採取する資料を次に示します。

採取する資料	方法
システム情報	1. スタートメニューから［ファイル名を指定して実行］を選択する。 2. テキストボックスに「msinfo32」と入力し，［OK］ボタンをクリックする。 3. ［システム情報］画面で［ファイル］－［エクスポート］を選択して，システム情報をテキストファイルに保存する。
Windows イベントログのアプリケーションおよびシステム	1. イベントビューアーで対象のイベントログを選択する。 2. ［ログファイルの名前を付けて保存］を選択する。 3. 出力形式は，「evt」を指定する。

(45) IM 構成管理・ビューアーで処理中ダイアログが表示され続ける場合の対処方法

要因

JP1/IM - Manager ホスト，または操作対象のエージェントが停止しています。

対処

JP1/IM - Manager ホスト，または操作対象のエージェントが停止していないかどうか確認してください。

停止している場合は，［処理中］ダイアログボックスの［×］（閉じる）ボタンをクリックし，IM 構成管理・ビューアーを強制終了してください。

停止していない場合は，IM 構成管理が処理中のため，処理が完了するまで待ってください。

(46) IM 構成管理・ビューアーで，［IM 構成］ページのツリー表示領域がグレー表示される場合の対処方法

IM 構成管理・ビューアーで，［IM 構成の取得］を実行した場合にツリー表示領域がグレー表示される。

要因

次の要因が考えられます。

- jbsrt_del コマンドが実行され，JP1/Base で保持している構成定義情報が存在しない。

対処

IM 構成管理・ビューアーで，［エージェント構成の反映］を実行してください。

IM 構成管理・ビューアーで，ログインまたは［IM 構成の検証］を実行した場合にツリー表示領域がグレー表示される。

要因

IM 構成管理 DB が保持する構成定義情報と，JP1/Base で保持している構成定義情報が不一致となっています。次の要因が考えられます。

- jcfimport コマンドでインポートした直後でエージェント構成が反映されていない。
- jbsrt_del コマンドが実行され，JP1/Base で保持している構成定義情報が存在しない。
- jbsrt_distrib コマンドが実行され，JP1/Base で保持している構成定義情報が変更されている。
- エージェント構成が反映されていない。
- 拠点マネージャーで拠点ごとに管理する場合に，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「3.2.4(3)　システムの階層構成を IM 構成管理が管理するシステムに反映する」の手順が実行されていない。

対処

要因に従って対処してください。

- エージェント構成が反映されていない場合は IM 構成管理・ビューアーで，［エージェント構成の反映］を実行してください。
- IM 構成管理・ビューアーで，［IM 構成の取得］を実行してください。実行した結果，意図した構成になっていない場合には，［エージェント構成の反映］を実行してください。

(47)　IM 構成管理のリモート監視ログファイルトラップで同じ JP1 イベントが重複して受信される場合の対処方法

要因

- ログ収集処理中にログが出力された場合，同一のログが 2 回トラップされる場合があります。

対処

- 対処の必要はありません。重複した JP1 イベントは無視してください。

(48)　IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップのプロファイルの起動に失敗した場合の対処方法

「KNAN26039-E 起動対象のリモートログファイルトラップの開始に失敗しました。(監視対象ホスト名: 監視対象ホスト名，監視名: 監視名，詳細情報: 詳細メッセージ)」メッセージが出力され，プロファイルの起動に失敗する。

マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager メッセージ」の「2.13　IM 構成管理に関するメッセージ（KNAN22000～KNAN26999)」の「KNAN26039-E」の対処を参照してください。

それでも解決できない場合は次の対処方法を確認してください。

詳細情報の種類によって対処方法が異なります。

監視対象ホストに接続できません。

要因

- 監視対象ホストに接続できていません。

対処

- 「10.5.1(51)　リモート監視の監視対象ホストと接続できない場合の対処方法」を参照してリモート監視対象との接続を確認してください。

監視対象のログファイルにアクセスできません。

要因

- ログファイルのパスが正しく指定されていません。

対処

- 「10.5.1(50)　リモート監視の監視対象ログファイル名が誤っている場合の対処方法」を参照してパスが正しく指定されているか確認してください。

(49)　IM 構成管理でリモート監視ログファイルトラップを始める前の注意事項

注意点

- ログファイルのファイルタイプが合っているか確認してください。
- ログファイルサイズが大き過ぎないか確認してください。
- ログファイルのヘッダーサイズが大き過ぎないか確認してください。
- JP1/Base LogTrap サービスが停止していないか確認してください。

(50)　リモート監視の監視対象ログファイル名が誤っている場合の対処方法

次の項目が正しく設定できているか確認してください。

マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」の「4.9.2　［設定ファイル］ページ」の「表 4-31　設定ファイルに追加して表示される項目（ログファイルトラップ情報を選択した場合）」の項目

間違いやすい例を次に示します。

- リモートの監視対象ホストが Windows の場合でパスが「**¥共有フォルダ名¥ファイル名**」になっていない。
- リモートの監視対象ホストが UNIX の場合でパスがフルパスになっていない。
- パスがフォルダを指定している。

(51)　リモート監視の監視対象ホストと接続できない場合の対処方法

次の項目が正しく設定できているか確認してください。

JP1/IM - Manager ホストが Windows の場合

マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の次に示す個所を参照してください。

- 「1.18.1　WMI の設定」
- 「1.18.2　NetBIOS（NetBIOS over TCP/IP）の設定」
- 「1.18.3　SSH の設定」

JP1/IM - Manager ホストが UNIX の場合

マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の「2.17.1　SSH の設定」

次の項目を確認してください。

- 監視対象ホストが起動していない。
- JP1/IM - Manager ホストから監視対象ホストが名前解決できない。

(52)　IM 構成管理でホスト情報の収集に失敗した場合の対処方法

メッセージの種類によって対処方法が異なります。

「KNAN22017-E　ホスト(ホスト名)と通信できなかったため，ホスト情報の収集に失敗しました」メッセージが出力され，ホスト情報の収集に失敗する。

要因

次の要因が考えられます。

- 収集先ホスト名が異なります。
- 収集先ホストの名前解決ができていません。
- 収集先ホストが起動されていません。
- 収集先ホストの JP1/Base が起動されていません。
- 収集先ホストとの通信で障害が発生しています。
- 収集先ホストの JP1/Base のバージョンが 07-00 より古いです。

対処

要因に従って対処してください。

- JP1/IM - Manager のホストで次のコマンドを実行し，IM 構成管理に登録したホストの名前解決ができるか，および IM 構成管理に登録したホストに通信できるか確認してください。なお，IPv6 環境で運用する場合，IPv6 アドレスがプライマリー IP アドレスとなっているか（次のコマンドの結果の一つとして表示される「Resolved Host List」に，最初に表示されているか），IPv6 アドレスで通信できるか確認してください。

  ・jp1ping IM 構成管理に登録したホスト名

  JP1/IM - Manager のホストで次のコマンドを実行し，IM 構成管理に登録したホストに対して，指定したポート番号で通信できるか確認してください。

・telnet エージェントホスト名または20306（IP アドレス）

なお，IPv6 環境で運用する場合，telnet のコマンドの接続先に IPv6 アドレスを指定してください。ホスト情報を収集するときに使用するポート番号は，デフォルトの場合，20306/tcp です。接続できない場合は，接続できないことを表すメッセージが表示されます。接続できた場合は，黒い画面が表示されます。

Windows Server 2008 以降の Windows ホストの場合，Telnet クライアントは既定ではインストールされていません。Telnet クライアントは Windows の機能の追加と削除からインストールできます。

- 収集先ホストの JP1/Base のバージョンが 07-00 以降であるか確認してください。IPv6 環境で運用する場合，収集先ホストの JP1/Base がバージョン 10 以降か確認してください。
- 次のコマンドで収集先ホストの JP1/Base が起動しているか確認してください。

  ・jbs_spmd_status（論理ホストの場合：jbs_spmd_status -h 論理ホスト名）

  ・jevstat（論理ホストの場合：jevstat 論理ホスト名）
- 収集先ホストで次のコマンドを実行し，JP1/IM - Manager のホストの名前解決ができるか，および JP1/IM - Manager のホストに通信できるか確認してください。なお，IPv6 環境で運用する場合，IPv6 アドレスがプライマリー IP アドレスとなっているか（次のコマンドの結果の一つとして表示される「Resolved Host List」に，最初に表示されているか），IPv6 アドレスで通信できるか確認してください。

  ・jp1ping JP1/IM - Manager のホスト名
- IPv6 環境で運用する場合，JP1/IM - Manager のホストで通信方式が ANY バインドアドレスを指定しているときは，バインドする IP アドレスのバージョンの設定が正しいか，次の手順で確認してください。

  1.jbsgetcnf コマンドを実行する。

  ```
  jbsgetcnf > config.txt
  ```

  2.config.txt をテキストエディターで開く。

  3.[JP1_DEFAULT¥JP1BASE¥JP1_ANY_BIND]の値が「ALL」になっているかを確認する。
- IPv6 環境で運用する場合，収集先ホストで通信方式が ANY バインドアドレスを指定しているときは，バインドする IP アドレスのバージョンの設定が正しいか，次の手順で確認してください。

  1.jbsgetcnf コマンドを実行する。

  ```
  jbsgetcnf > config.txt
  ```

  2.config.txt をテキストエディターで開く。

  3.[JP1_DEFAULT¥JP1BASE¥JP1_ANY_BIND]の値が「ALL」または「IPv6」になっているかを確認する。
- 収集先ホストのショート名と FQDN から解決される IP アドレスが同一であることを確認してください。

次のメッセージが出力され，ホスト情報の収集に失敗する。

- KNAN21400-W　ホスト(**ホスト名**)のホスト情報の収集に一部成功しました

JP1/Base からのホスト情報の収集に成功しました
リモートによるホスト情報の収集に失敗しました
詳細情報: **詳細情報**

- KNAN21402-E　ホスト(**ホスト名**)のホスト情報の収集に失敗しました
  JP1/Base からホスト情報収集に失敗しました
  詳細情報: **詳細情報**
  リモートによるホスト情報の収集に失敗しました
  詳細情報: **詳細情報**
- KNAN21403-E　ホスト(**ホスト名**)のリモートによるホスト情報の収集に失敗しました
  詳細情報: **詳細情報**

要因

リモートによるホスト情報の収集に失敗した場合，次の要因が考えられます。

- リモート通信設定が設定されていません。
- 監視対象ホストが存在しません。
- ログファイルの収集がタイムアウトしました。
- 認証に失敗しました。
- 秘密鍵が存在しません。
- リモート監視プロセスの作成に失敗しました。

対処

要因に従って対処してください。

- 監視対象ホストのリモート通信を設定してから再実行してください。
- リモート監視対象との接続を確認してください。確認方法については，「10.5.1(51)　リモート監視の監視対象ホストと接続できない場合の対処方法」を参照してください。
- 次の項目を確認してください。
  監視対象ホスト名のホストの OS が Windows の場合
  ・監視対象ホスト名のホストに通信できるか
  ・監視対象ホストにログインするユーザーのパスワードの有効期限が切れていないか
  ・監視対象ホスト名のリモート通信種別が正しく設定されているか
  ・WMI サービスが起動しているか
  確認して異常がない場合は，WMI 接続が正常に設定できているか確認してください。
  監視対象ホスト名のホストの OS が UNIX の場合
  ・監視対象ホスト名のホストに通信できるか
  ・監視対象ホスト名のリモート通信種別が正しく設定されているか
  ・監視対象ホスト名のホストで SSH サーバが起動しているか
  確認して異常がない場合は，SSH 接続が正常に設定できているか確認してください。

- 次の項目を確認してください。

  監視対象ホスト名のホストの OS が Windows の場合

  ・［システム共通設定］画面または［リモート監視設定］画面のユーザー名，パスワード，およびドメイン名が正しく設定されているか

  ・監視対象ホスト名のホストで DCOM が正しく設定されているか

  ・JP1/IM - Manager のホストで DCOM が正しく設定されているか

  確認して異常がない場合は，WMI 接続が正常に設定できているか確認してください。

  監視対象ホスト名のホストの OS が UNIX の場合

  ・SSH 認証の設定が正しいか

  確認して異常がない場合は，SSH 接続が正常に設定できているか確認してください。

- 秘密鍵があるか確認してください。
- ［システム共通設定］画面の［IM ホストアカウント］ページの設定を確認してください。

(53) IM 構成管理に登録するホスト名と発生元ホスト名が異なってしまう場合の対処方法

対処

バージョンによって対処をしてください。詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」の「12.3.12(2)(b) JP1 イベントの属性を変更する（JP1/IM - Manager の設定)」を参照してください。

- JP1/IM - Manager を新規インストールまたは上書きインストールした場合，次の手順を実行してください。

1. 共通定義設定用ファイル（JP1 イベントの属性変更）の内容を確認する。
2. `jbssetcnf` コマンドを実行する。
3. JP1/IM - Manager を再起動する。

- JP1/IM - Manager のバージョンが 10-00 より前の場合，IM 構成管理にショートネームと FQDN 形式の両方のホスト名を登録してください。

(54) 監視対象ホスト名と発生元ホスト名が異なっていてフィルターが正常に動作しない場合の対処方法

対処

対処方法については，「10.5.1(53) IM 構成管理に登録するホスト名と発生元ホスト名が異なってしまう場合の対処方法」を参照してください。

(55) Windows で OS 起動後またはネットワーク設定変更後，JP1/IM - Manager が起動しない，または，JP1/IM - View の操作ができなくなった場合の対処方法

要因

次の要因が考えられます。

- OS 起動後，ネットワークが使用できる前に，JP1/IM - Manager の起動処理が開始されました。

  OS 起動後，ネットワークが使用できるまでの時間は環境に依存します。チーミングを設定している環境では，ネットワークが使用できるまでに（2～3 分程度）時間が掛かる現象が確認されています。チーミングを設定している環境では，JP1/Base の起動管理機能で JP1/IM - Manager が自動的に起動されるなど，ネットワークが使用できるようになる前に，JP1/IM - Manager の起動処理が開始されることがあります。

- JP1/IM - Manager の起動中にネットワークの設定（チーミングの設定など）を変更しました。

対処

物理ホスト，すべての論理ホストの JP1/IM - Manager，JP1/IM - View，JP1/Base，および JP1/Base が前提のプログラムを終了します。「`jp1ping` 自ホスト名」を実行し，想定する IP アドレスで自ホスト名が解決できることを確認してから，JP1/Base，JP1/IM - Manager，JP1/IM - View，および JP1/Base が前提のプログラムを起動してください。

また，それぞれの回避方法を次に示します。

- OS 起動後，ネットワークが使用できるようになる前に，JP1/IM - Manager の起動処理が開始された場合

  OS 起動時に JP1/IM - Manager を自動的に起動する場合，JP1/Base の起動管理機能を使用してください。その場合は，JP1/IM - Manager のサービスが起動するタイミングを遅らせる設定にすることで，ネットワークが使用できるようになってから JP1/IM - Manager を起動するようにしてください。設定の詳細については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のサービスが起動するタイミングを設定する説明に関する章を参照してください。

- JP1/IM - Manager の起動中にネットワークの設定（チーミングの設定など）を変更した場合

  ネットワークの設定（チーミングの設定など）を変更する場合は，物理ホスト，およびすべての論理ホストの JP1/IM - Manager，JP1/IM - View，JP1/Base，および JP1/Base が前提のプログラムを終了してください。また，接続中の JP1/IM - View がある場合は，ログアウトしてください。

(56) JP1/SES 形式のイベントを受信して文字化けが発生した場合の対処方法

要因

JP1/SES 形式のイベント（バージョンが古い JP1 製品が出力したイベント，または JP1/Open Job Entry など JP1 イベント出力に対応していない製品が出力したイベント）は，文字コード情報を保持しません。

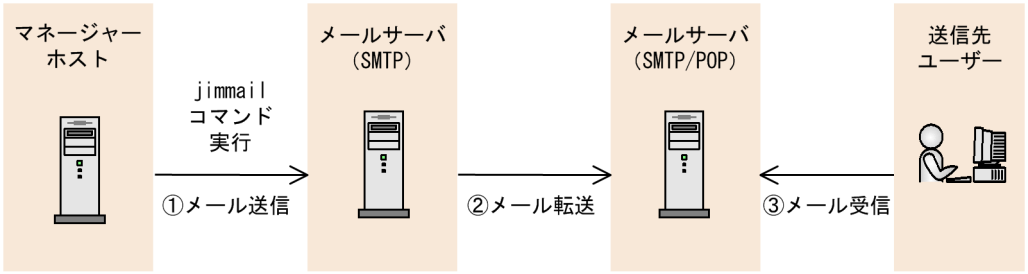
JP1/IM - Manager は，JP1/IM - Manager が動作する文字コードで JP1/SES 形式のイベントを解釈します。そのため，JP1/SES 形式のイベントの文字コードと JP1/IM - Manager が動作する文字コードが異なる場合，JP1/SES 形式のイベントが文字化けして表示されたり，異なる文字として扱われたりします。

対処

次のどちらかの方法で対処してください。

- JP1/SES 形式のイベントの文字コードと JP1/IM - Manager が動作している文字コードを統一してください。
- JP1/SES 形式のイベントと同じ文字コードで動作する JP1/Base でローカルアクションを使用して，JP1/SES 形式のイベント受信時に JP1 イベントを発行し，JP1/IM - Manager 側のホストで JP1 イベントを受信するようにしてください。ローカルアクションの詳細は，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のローカルアクションの説明に関する章を参照してください。

(57) JP1/IM - Manager のメール通知機能でメールが送信先に届かない場合の対処方法



JP1/IM - Manager

jimmail コマンドは正常終了したが，メールが送信先に届かない場合

要因 1

メールの送信先アドレスが誤っています。

対処 1

メールの送信先アドレスが誤っているおそれがあるため，jimmail コマンドの-to オプション，またはメール環境定義ファイルのDefaultTo の送信先メールアドレスが正しいか確認してください。

jimmail コマンドの-to オプションと，メール環境定義ファイルのDefaultTo の両方に送信先メールアドレスが指定されている場合，jimmail コマンドの-to オプションに指定した送信先メールアドレスが優先されます。

要因 2

メールサーバ（SMTP）とメールサーバ（SMTP/POP3）間でエラーが発生し，メールの転送に失敗しています。

対処 2

次の項目を確認して，再度jimmail コマンドを実行してください。

- メールサーバ（SMTP/POP3）が起動しているか。
- メールサーバ（SMTP）のログを見て，エラーが発生していないか。
- ファイアウォールで使用するポート番号の通過が可能か。
- メールサーバのホスト名解決が可能か。

要因 3

メールサーバ（SMTP/POP3）とメールクライアント間でメールの受信に失敗しました。

対処 3

メールサーバとメールクライアントの通信のため，JP1/IM - Manager ではエラーを確認できません。

メールサーバとメールクライアントのメッセージ，およびログを確認してください。

また，メールクライアントの設定（POP3 サーバ名，POP3 アカウント名，パスワード，ポート番号）が正しいか確認してください。

jimmail コマンドが異常終了した場合

要因

メールサーバ（SMTP）に接続できません。

対処

エラー内容によって，jimmail コマンドがエラーメッセージを出力します。出力されたメッセージの対処，および次の項目を確認して，再度jimmail コマンドを実行してください。

メッセージの詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager メッセージ」の「2. メッセージ一覧」を参照してください。

- メールサーバ（SMTP）が起動しているか。
- メールサーバ（SMTP）のログを見て，エラーが発生していないか。
- ファイアウォールで使用するポート番号の通過が可能か。
- メールサーバ（SMTP）のホスト名解決が可能か。
- メール環境定義ファイルの認証アカウントおよびパスワードが正しいか。

索引

J

K

U

W

あ

い

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

せ

そ

た

ち

つ

て

と

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

め

も

ゆ

よ

り

る

れ

ろ